

14. 4-1081



1200501209952

14.4

081

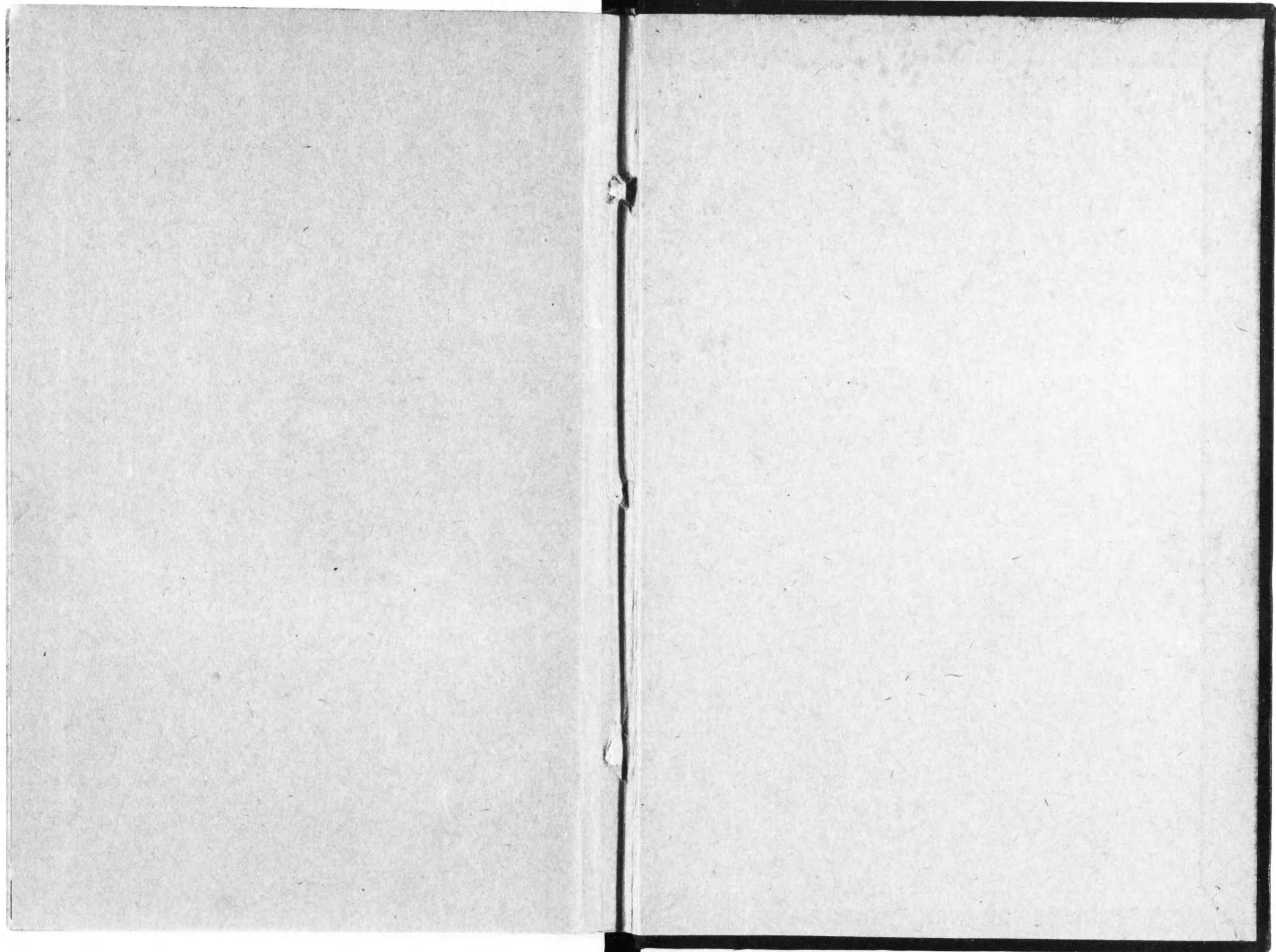
×

複写



始

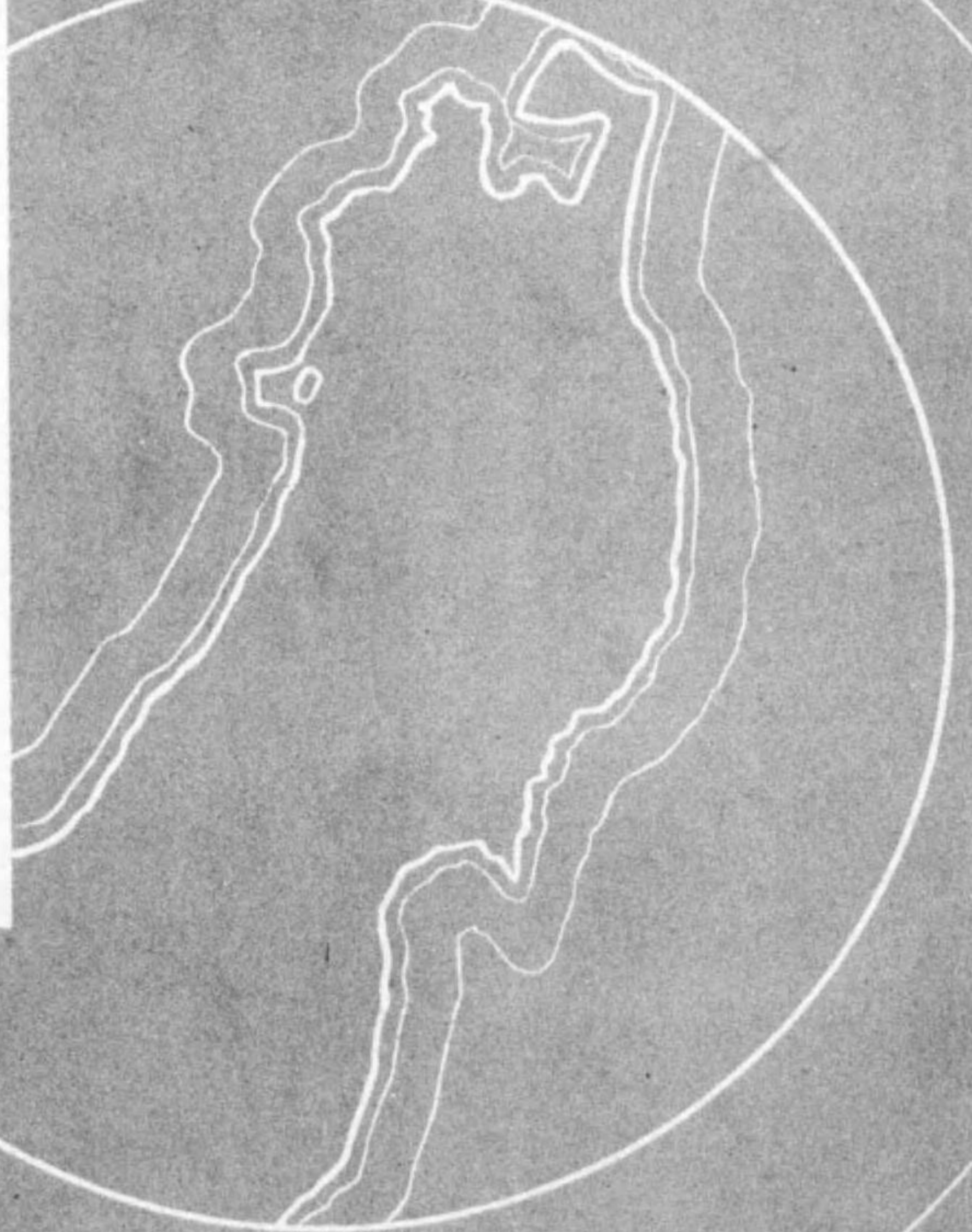




281

14.  
108

# 河北年鑑



河北新報社

# 昭 和 生 命

時代は昭和

保険も昭和



本社 東京市京橋

昭 和 生 命 保 險 相 互 會 社

支 部 仙 臺 市 南 町 三 一  
 秋 田 市 龜 ノ 丁 西 土 手 町 三 二  
 山 形 市 十 日 町 五 〇 一  
 福 島 市 新 町 四 八  
 新 潟 市 本 町 通 十 番 町 一、七 九 八

資本金壹億五千萬圓  
 積立金六千九百餘萬圓



株式會社

安 田 銀 行

本店 東京麴町區大手町一丁目  
 支店 全國百貳拾八個所

秋 田 市 本 町 支 店  
 秋 田 縣 橫 手 町 支 店  
 酒 田 市 上 中 町 支 店  
 鶴 岡 市 三 日 町 支 店  
 山 形 市 旅 籠 町 支 店  
 米 澤 市 立 町 支 店

福 島 市 本 町 支 店  
 郡 山 市 中 町 支 店  
 若 松 市 大 町 支 店  
 仙 臺 市 大 町 支 店  
 盛 岡 市 吳 服 町 支 店  
 青 森 市 大 町 支 店

# 貯金は 不動

株式会社  
不動貯金銀行  
仙台支店

資本金五百萬圓  
積立金貳百八拾壹萬壹千圓

仙臺市東二番丁



株式會社  
宮城縣農工銀行

頭取 早川 万一

支配役 佐藤 光郎

年賦償還貸付

定期償還貸付

各種組合貸付

十八人以上  
連帶無抵當貸付

# 貯金は不動産

株式会社 不動貯金銀行 仙台支店

年賦償還貸付

定期償還貸付

各種組合貸付

十八人以上  
連帯無抵當貸付

資本金五百萬圓  
積立金貳百八拾壹萬壹千圓

仙臺市東二番丁



株式會社 宮城縣農工銀行

頭取 早川万一

支配役 佐藤光郎

**パラマウント**  
中空高級ステープルファイバー

**パラマウント**  
絹紡機による優秀新製織物原糸

**パラマックス**  
スワッチの特色を充實せる生地

工場 福金 郡山 山久 郡山 伊丹 二丹  
 總務部 山郡  
 營業所 東大 阪

前付 五

火災保險  
 海上保險  
 運送保險  
 信用保險



**横濱火災海上保險株式會社**

横濱市中區本町五丁目四拾八番地

營業科目

創立 明治三十年十月  
 資本金 壹千貳百五拾萬圓  
 積立金 九百六拾參萬圓

社長 專務取締役

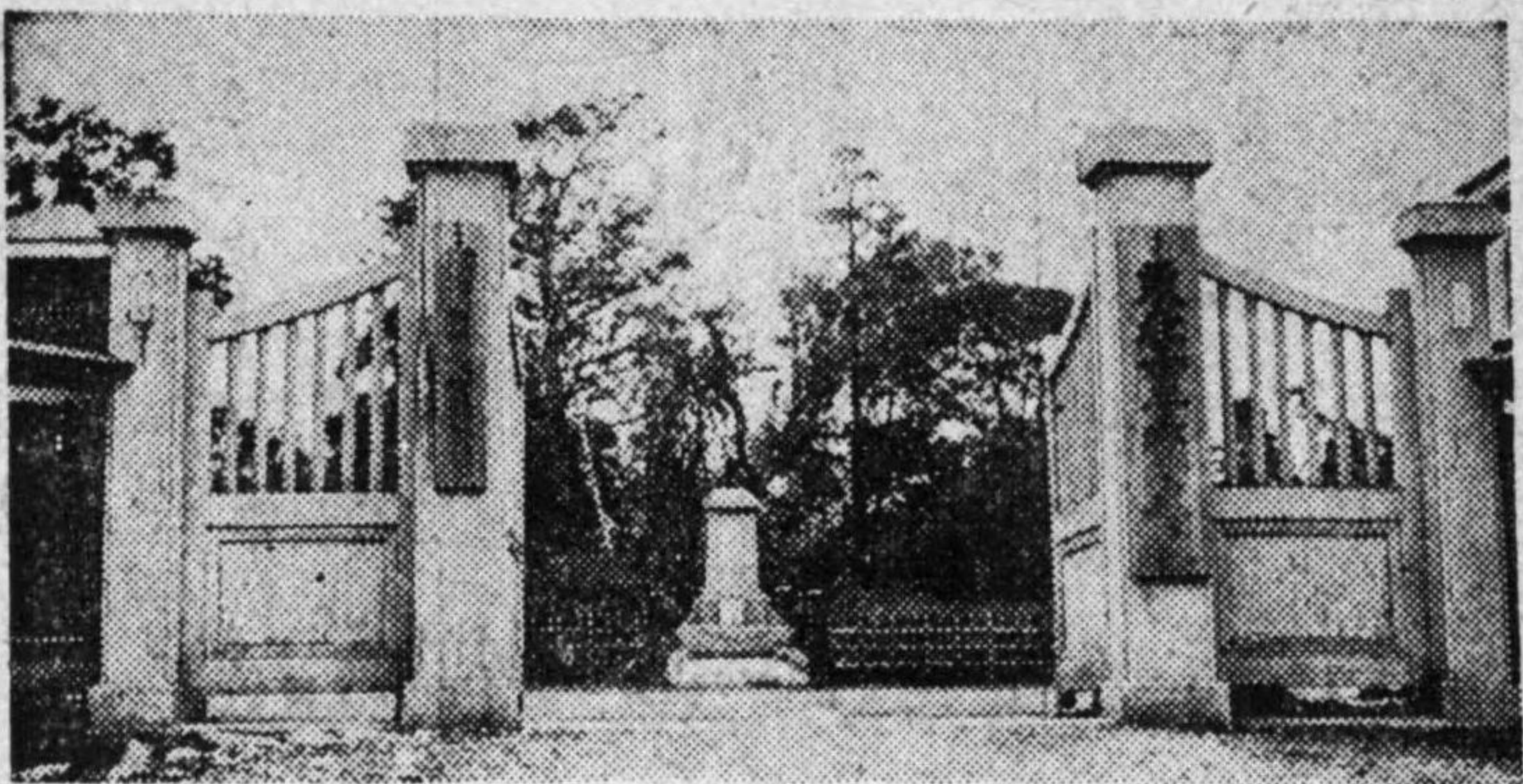
井坂 孝  
 吉井 桃磨 呂

創立以來 九千六百參拾萬圓  
 支拂保險金  
 總保險契約高 四拾億五千八拾萬圓

東京支店  
 神戸支店  
 大阪支店  
 京都支店  
 名古屋支店  
 金澤支店  
 仙台支店  
 福岡支店  
 京城支店

東京市日本橋區三丁目七  
 神戸市神戶區栄町通四丁目三  
 大阪市西區江戸堀北通丁目三八  
 京都市中區烏丸通蛸薬師角  
 名古屋市中區御幸本町六丁目四  
 金澤市上堤町  
 仙台市南町  
 福岡市大名町  
 京城府鐘路一丁目 一五三六

前付 四



創立 明治三十六年十月廿七日  
 創立以降三十三年 卒業生七千二百七十二名  
**特典 縫裁科、中等教員無試験檢定** (高師卒業生六專正)  
 中等教員免許狀受領者二百九十餘名 (自高等師範科第一回卒業生)  
 設立者 故十爵齋藤 實 創立者顧問 二島駒治 校長 勳六等三島よし

文部大臣認可

# 東北女子職業學校

昭和十二年慶生徒募集  
 人員約六百五十名  
 仙臺市清水小路  
 電話六八五番

各科募集人員	
◎本科	一〇〇名
◎一學年	若干名
◎二學年	五〇名
◎三學年	若干名
◎四學年	一〇〇名
◎師範	一〇〇名
◎商業本科	五〇名
◎商業專修科	五〇名
◎裁縫專修科	五〇名
◎專攻科	一〇〇名
◎高等師範科	一〇〇名

仙台名産

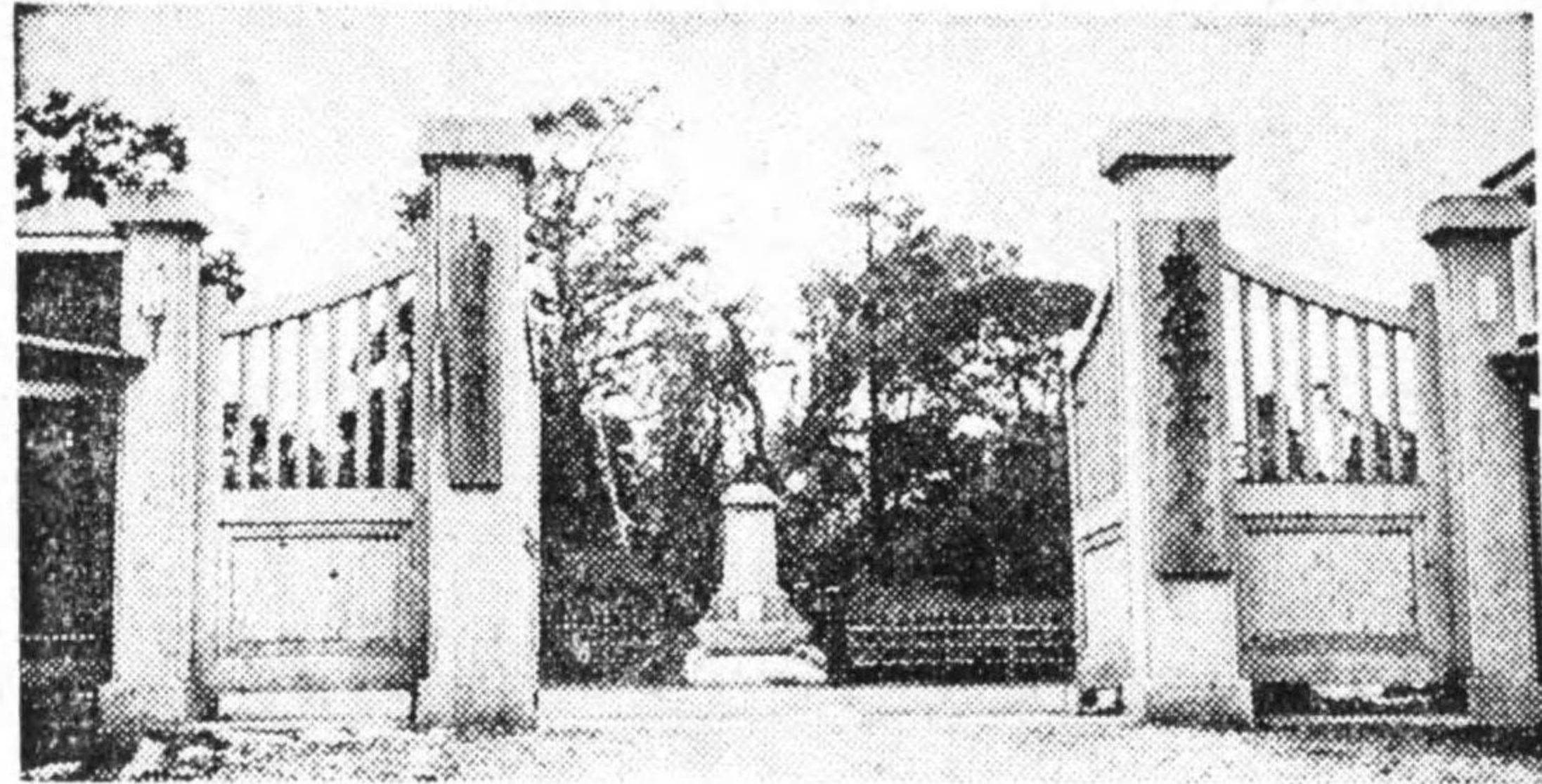
# 東華堆朱

- 堅牢ふる品質
- 優美ふる意匠
- 低廉ふる價格

記念品・御贈答品に好適

社會式株藝工朱堆華東  
 番二八六四話電 路越市台仙





# 東北女子職業學校

昭和十二年度生徒募集  
人員約六百五十名

仙臺市清水小路  
電話六八五番

文部大臣認可

創立 明治三十六年十月廿七日  
創立以降三十三年 卒業生七千二百七十二名  
特典 縫裁科、中等教員無試験檢定（高師卒業者六專正）  
中等教員免許狀受領者二百九十餘名（自高等師範科第一回卒業生）  
設立者 故十爵 齋藤 實 創立者顧問 三島駒治 校長 勳六等 三島よし

## 各科募集人員

◎本科	一學年	一〇〇名	◎商業	本科	五〇名
	二學年	若干名	◎商業	專修科	五〇名
	三學年	五〇名	◎裁縫	專修科	五〇名
	四學年	若干名	◎專攻	科	一〇〇名
◎師範	科	一二〇名	◎高等	師範科	八〇名

仙台名産

# 東華堆朱

- 堅牢ふる品質
- 優美ふる意匠
- 低廉ふる價格

記念品・御贈答品に好適

社會式株藝工朱堆華東  
番二八六四話電 路越市台仙



# 鹽釜魚市場

經營者

鹽釜水產市場株式會社

電話三〇五五九番

店名	店主名
⑦商店	芳賀奈七郎
⑧商店	横田善兵衛
⑨商店	高木英助
⑩商店	高橋勝藏
⑪商店	小松壽右衛門
⑫商店	遠藤金一
⑬商店	阿部龜治
⑭商店	佐藤久吉
⑮商店	東海林忠七
⑯商店	鈴木忠助
⑰商店	鈴木利三郎
⑱商店	鈴木平治
⑲商店	鈴木文藏

所屬問屋業者 (イロハ順)

宮城縣鹽釜港築港地

## 鹽釜町製氷共同販賣組合

事務所 電話一四五一、一三四 魚市場 電話五三九

組合會社	鹽釜工場
日本食料工業株式會社	電話五三七
同	鹿島屋製氷冷藏株式會社
同	電話一三六
同	東北製氷冷藏株式會社
同	電話二四〇
同	雙立製氷倉庫株式會社
同	電話四一
同	三和製氷株式會社
同	鹽釜工場
同	電話二二九

前付 一一

東北で始めて出來た

# 日東過燐酸

一五、〇%  
一九、〇%  
一九、五%

## 日東肥料株式會社

宮城縣鹽釜港

前付 一〇

# 宮城縣鹽釜町役場

町長 佐浦重次郎  
 助役 三浦源次郎  
 助役 佐藤曾次郎  
 收入役 菊地金五郎  
 副收入役 熊谷諒

●東京航路  
 ●函館航路  
 ●三陸沿岸航路  
 ●金華山航路  
 宮城縣鹽釜町



## 三陸汽船株式會社

●船渠部 鹽釜港內藤倉地先 電話一七・二九・二五番  
 ●壹千噸級汽船渠 電話一五・七七番  
 ●三百噸級引揚船渠 一般船舶工事御引受仕候

營業科目  
 船舶代理業 海陸運送業  
 回漕業 倉庫業  
 保險代理業 稅關貨物取扱人



## 白石商會株式會社

營業用 電話一五・八  
 臨港出張所 電話三四五  
 日本食鹽回送株式會社  
 住友炭礦株式會社  
 淺野セメント株式會社  
 明治炭礦株式會社  
 專屬荷扱店  
 三菱礦業株式會社



## 鹽釜海運合資會社

宮城縣鹽釜港築港中埠頭  
 電話三〇三

# 日本三景 松島遊覽

奥州一の宮 鹽釜神社 參拜ハ  
靈島 金華山

## 是非宮城電鐵デ

日本一、臨海電車デ短時間ニ經濟的ニ御愉快ニ御見物御參拜カ出來マス



### 宮城電氣鐵道會社

仙臺市東五番丁一  
電話 一〇五二 七三二

### 金華山—石卷間—直通バス

渡船賃共往復壹圓八十錢(一日、六往復)

### 石卷—氣仙沼間—直通バス

一日、五往復片道二圓

都築自動車部

石巻電話四四七番  
志津川電話一〇二番

### 宮城縣鹽釜港水先人

## 沖宮太郎

宮城縣鹽釜港  
電話 三三七番  
六四六番

### ◆仙臺遊覽自動車乘車御案内

- ◆御一人にて、團體(十人以上)にては仙臺駅前當社案内所にて御案内申上ます。
- ◆遊覽バスには御一人でも團體にても女客内者乗車發車より終了まで車中又は下車し名勝舊址は勿論市の状況を面白く御説明申上ります。
- ◆貸切、團體は遊覽コース所要時間の御變更臨時發車等は御相談に應じます。尚御指定の場所まで御送迎も致します。
- ◆本社遊覽自動車の特徴
  - ◆犧牲奉仕 最新式車輛故に最も愉快に市内の遊覽が出來ます。
  - ◆乗賃的奉仕 他に比なき最低料金を仙臺の名勝舊址及繁華なる商店街を一巡し説明付きで仙臺遊覽が出來ます。
  - ◆定期發車 年中無休故に遊覽計畫に時間の利用に非常な便利で且つ御一人にては發車するの安心して遊覽が出來ます。
  - ◆不定期 御五人以上の場合何時でも發車致します。
- ◆出發場所と時間

### ◆定期

### ◆仙臺駅前發車

時間 前午九時 後午一時

### ◆乘車料

大人 一人 金八拾錢 小 金四拾錢(但十二歳マデ) 右の他下車拜觀料御一人貳拾錢申受けます

### ◆遊覽所要時間

乘車時間 約九哩餘 下車見物時間 約一時間半  
乘車見物時間 約一時間半 下車見物箇所 七ヶ所

### ◆遊覽順路

仙臺駅前 鹽釜神社 支倉六右衛門之墓 縣廳前 芭蕉の辻 仙臺公園 林半平 支倉六右衛門之墓 縣廳前 芭蕉の辻 仙臺駅前

### ◆仙臺市街自動車株式會社

本社電話 一〇四番 三三三番  
遊覽發切仙臺駅前案内所 電話 三三三番

前付 一五

仙臺の御泊り  
仙臺鐵道局指定旅館協會

(イロハ順)

針	針	針	大	及	中	青	境	菊	仙	瀨	市
久	久	久	く	泉	川	村	木	屋	臺	戸	街
支	別	本	田	蕉	旅	本	旅	旅	旅	旅	街
店	館	館	店	館	館	館	館	館	館	館	街
店	館	館	店	館	館	館	館	館	館	館	街
部	館	館	部	館	館	館	館	館	館	館	街
部	館	館	部	館	館	館	館	館	館	館	街

電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電	電
話	話	話	話	話	話	話	話	話	話	話	話
※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
三	六	三	一	四	二	五	三	一	九	九	六
七	六	二	〇	六	四	一	三	〇	八	八	三
七	六	一	五	九	〇	八	五	六	三	二	八
二	五	四	七	九	三	二	六	三	二	二	八
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番

前付 一七

茶銘

よまろの園

炭火  
やまろ茶  
木

創業  
文政十二年

御茶屋  
よまろの園

仙臺市大町四丁目  
電話 八四〇  
振替口座仙臺六〇三八番  
振替口座東京一〇、八四九

前付 一六

REGISTERED TRADE MARK



寫眞製版藥品製造販賣業

製造認可

- 指令第一〇號 ネガチユーブワニス
- 指令第一八號 寫眞製版用コロヂオン
- 指令第四一號 燃料用變性酒精
- 指令第二五〇號 ラックニス
- 指令第四二〇號 沃度化合物
- 指令第三一九〇號 鹽化鐵液
- 專賣特許コールドエナメル

大日本東京市芝區西久保八幡町九番地

ヤマトヤ商店

營業所

出張場所  
販賣店

- 東京市江戸川區逆井二丁目六九八
- 朝鮮京城府蓬萊町三丁目六二番地
- 福岡市材木町五四番地
- 滿洲國新京老松町壹
- 滿洲國奉天加茂町壹八
- 中華民國上海吳淞路八九九
- 23Haiphong Road Hong Kong
- 香港永和街貳貳號
- 九州販賣店
- 京城出張所
- 東昌洋行
- 共昌公司
- 小林商店
- 廣基新和

前付一九

營業概要

優生結婚身許調査  
血統遺傳と家系素行人  
物及健康資産信用程度  
等其の他婚姻上の必要  
事項一切を精査詳報す  
信用程度資産調査  
銀行會社重役一般商工  
業者の資産信用程度及  
各種職業人の身許問歴  
素行風評前科の有無  
其他一般人事調査  
の依頼に應需 秘密の  
嚴守と調査の絕對正確  
とは我が社の生命とす  
るところなり

大衆人事錄

發行所



帝國秘密探偵社

本社

支社

東京市麴町區有樂町一丁目四三番地  
電話 2681  
振替口座 東京 八五九三  
電話 2682  
電話 2683  
電話 2684  
電話 0973  
電話 1761  
電話 4836  
電話 5036  
電話 5068  
電話 5069

社長 猪野三郎  
大阪市北區東梅田町廿八番地  
電話 北(36)五四三・五四三・五五

前付一八

オフセット印刷

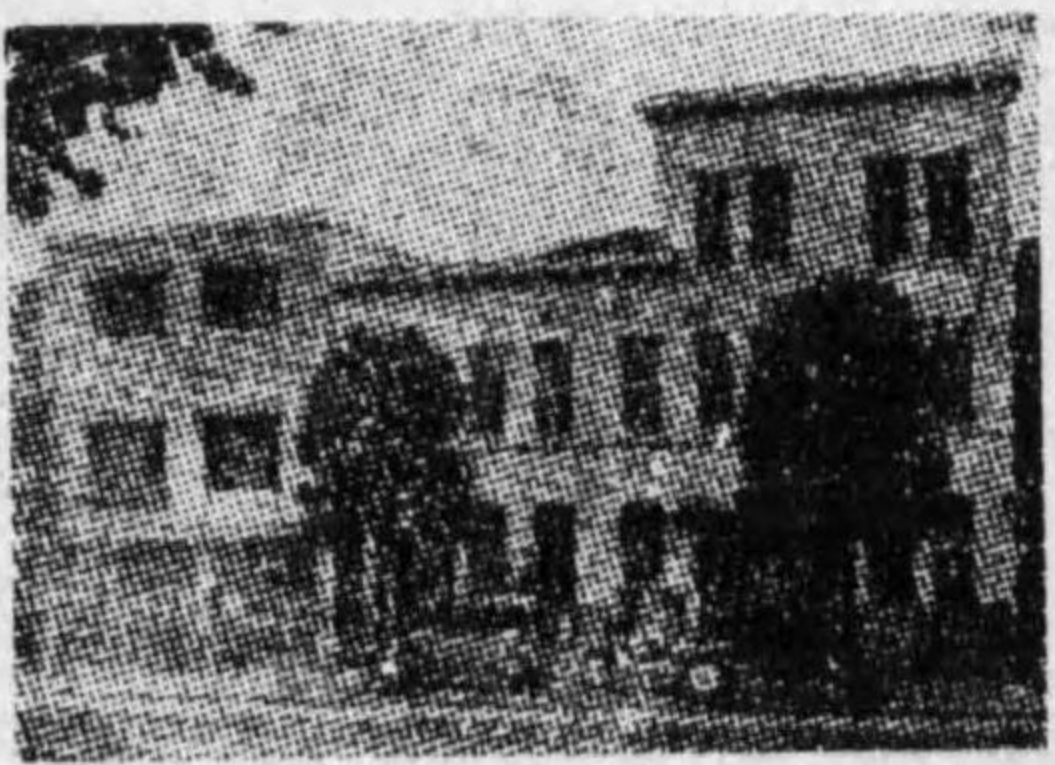


株式 熊谷印刷所

東京市京橋區築地一ノ三  
電話京橋(四六八二番)  
分工場 京橋區築地一ノ一  
紙工場 京橋區築地一ノ三

熊谷 敬一

東京市京橋區築地一ノ九  
電話京橋五二〇二番



山形市横町

山電器具販賣店

電話 五六一七番

大量製産  
別型五號特價  
販賣中  
家庭用三十八圓  
輕便家庭金庫より  
二十五圓より  
手提金庫  
金銭登録器  
金自動分類器  
御眞影奉安庫  
防火扉、鐵製文書  
庫と家具  
型錄及代理店募集



東京市京橋區築地一ノ九  
東下谷  
神田區  
田下  
一七四  
旅社  
株式會社  
金庫部  
一廿の

資本金 壹億七百貳拾萬圓

大阪市東區今橋三丁目

頭取 中根貞彦



株式會社

三和銀行

秋田市大町三丁目

株式會社 三和銀行秋田支店

電話園一七五番・六四〇番

支店長 若松一美



# 式株・債社公

## 藤本ビルブローカー証券株式會社

福島支店

福島市榮町十二番地

證券擔保の低利金融

サービス お手持債券の運用預り (説明書贈呈)

證券の登録 (無料)

公社債、株式投資資料、仲値表御申込次第贈呈

電話福島  
四二九  
四三六  
五六一

前付 二三

業創年六十二治明



# 大阪海上保險株式會社

火災保險  
海上保險  
傷害保險  
自動車保險  
運送保險

本社 大阪市北區堂島濱通二丁目

最近二十年間の  
收入保險料  
二億三千三百三十餘萬圓  
支拂保險金  
一億五千三百九十九萬餘圓

仙臺市國分町一番地 仙臺出張所

電話長一八三番

支店・出張所  
代理店  
歐洲總代理店

東京・横濱・仙臺・金澤・名古屋・京都・神戸・福岡・京城  
内國外國樞要ノ地ニ二千八百店設置  
セドウィック・コリンズ商會(ロンドン市)

前付 二二

# 御買物は仙臺三越



電話 自至 四〇四 五〇四



前付 二四

## 昭和十一年河北年鑑

特輯 東北の産業  
觀光の東北

大日本帝國皇室	一
皇族及公族	二
皇族臣籍降下	三
皇族、王族婚嫁	四
秩父宮殿下の御精勵	五
特輯 東北の産業(農)	六
(漁)	七
(山)	八
(工業と電氣)	九
東北振興問題	一〇
税及地方財政	一一
地方政界	一二
金融概況	一三
交通運輸、通信	一四
人口	一五
地産地銷	一六
商業	一七
銀行	一八
衛生・社會事業	一九
司法・警察	二〇
宗教と教育	二一
運動	二二
學藝	二三
趣味、娛樂、ラヂオ	二四
クラビア寫眞	二五
特輯 觀光の東北	二六
索引	二七
編輯後記	二八
年節早見表	二九
廣告目次	三〇

昭和十二年年齢早見表

(欄内右端の数字は年齢、中央の数字は西暦年、  
 数内左端の数字は天保、昭和十二年の数字は年)

癸	天保一四 卯 九四	弘化元 辰 九三	弘化二 巳 九二	弘化三 午 九一	弘化四 未 九〇	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五
甲	弘化元 辰 九三	弘化二 巳 九二	弘化三 午 九一	弘化四 未 九〇	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四
乙	弘化二 巳 九二	弘化三 午 九一	弘化四 未 九〇	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三
丙	弘化三 午 九一	弘化四 未 九〇	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二
丁	弘化四 未 九〇	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一
戊	嘉永元 申 八九	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一	文久五 巳 八〇
己	嘉永二 酉 八八	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一	文久五 巳 八〇	文久六 午 七九
庚	嘉永三 戌 八七	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一	文久五 巳 八〇	文久六 午 七九	文久七 未 七八
辛	嘉永四 亥 八六	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一	文久五 巳 八〇	文久六 午 七九	文久七 未 七八	文久八 申 七七
壬	嘉永五 子 八五	文久元 丑 八四	文久二 寅 八三	文久三 卯 八二	文久四 辰 八一	文久五 巳 八〇	文久六 午 七九	文久七 未 七八	文久八 申 七七	文久九 酉 七六

14.4  
1081

大日本帝國皇室

天皇陛下 第二百二十四代天皇 大正天皇第一皇子。御名 裕仁

明治三十四年四月二十九日御降誕。  
 明治四十一年四月十一日學習院初等科に御入學。同四十五年七月三十日儲位に登らせらる。大正元年九月九日任陸軍少尉任海軍少尉叙大勳位。同三年四月二日學習院初等科御卒業。同日御學問所御開始。同年十月三十一日任陸軍中尉任海軍中尉。同五年十月三十一日任陸軍大尉任海軍大尉。同年十一月三日立太子禮御舉行。同八年五月七日御成年式御舉行。同九年十月三十一日任陸軍少佐任海軍少佐。同十年二月二十八日御學問所御終業。同年三月三日御外遊。同年九月三日御歸朝。同年十一月二十五日攝政御就任。同十二年十月三十一日任陸軍中佐任海軍中佐。同十三年一月二十六日故久邇宮邦彥王第一女良子女王を妃と爲し給ふ。同十四年十月三十一日任陸軍大佐任海軍大佐。同十五年十二月二十五日大正天皇崩御即日御踐祚。昭和元年十二月二十八日朝見式。同三年十一月十日御即位禮御舉行。同十四日十五日大嘗祭御親祭。

皇后陛下 故久邇宮邦彥王第一女。御名 良子

明治三十六年三月六日御誕生。同四十二年四月十一日學習院女學部に御入學。大正七年一月十七日東宮妃に御豫定の御沙汰あり。同四月御學問所御開始。同十一年六月二十日御婚嫁勅許。同年九月二十八日

大日本帝國皇室

御納采。同日叙勳一等。同十三年一月二十六日御入宮。同日皇太子妃とならせ給ふ。

大正十五年十二月二十五日皇后に登らせらる

皇太后陛下 故公爵九條道孝第四女。御名 節子

明治十七年六月二十五日御誕生。同二十三年九月華族女學校に御入學。同三十二年七月十八日華族女學校初等中學校御修了。同三十三年五月十日御入宮。同日皇太子妃とならせ給ふ。明治四十五年七月三十日皇后に登らせらる。

大正十五年十二月二十五日皇太后とならせ給ふ。

皇太子 明仁親王 今上天皇第一皇子。

皇男子 正仁親王 今上天皇第二皇子。

昭和十年十一月二十八日御誕生。美宮と稱し奉る。

皇女子 成子内親王 今上天皇第一皇女。

大正十四年十二月六日御誕生。照宮と稱し奉る。目下女子學習院御在學中。

和子内親王 今上天皇第三皇女。

昭和四年九月三十日御誕生。孝宮と稱し奉る。目下學習院御在學中。

厚子内親王 今上天皇第四皇女。

昭和六年三月七日御誕生。順宮と稱し奉る。



皇族

秩父宮

東京市赤坂區一番ノ一表町御殿  
大正十一年六月二十五日秩父宮の稱號を賜はる。

陸軍歩兵少佐大勳位。雅仁親王 大正天皇第二皇子。明治三十五年六月二十五日御誕生。昭和三年九月二十八日御結婚。

雅仁親王妃勳一等。勢津子 子爵松平保男(松平恒雄第一女) 明治四十二年九月九日御誕生。同右。

高松宮

東京市芝區高輪西臺町一番  
大正二年七月六日高松宮の稱號を賜はる。

海軍少佐大勳位。宣仁親王 大正天皇第三皇子。明治三十八年一月三日御誕生。昭和五年二月四日御結婚。

宣仁親王妃勳一等。喜久子 故公爵德川慶久第二女。明治四十四年十二月二十六日御誕生。同右。

三笠宮

東京市赤坂區一番ノ一青山東御殿  
昭和十年十二月二日三笠宮の稱號を賜はる。

大正天皇第四皇子。大正四年十二月二日御誕生。陸軍士官學校御在學中。

閑院宮

東京市麹町區永田町二丁目二十番地

東山天皇第六皇子直仁親王に始る  
享保三年初めて閑院宮と稱さる。

元帥陸軍大將大勳位二等。載仁親王 故  
邦家親王第十六子。慶應元年十一月十日御誕生。明治二十四年十二月十九日御結婚。

載仁親王妃勳一等。智恵子 故公爵三條實美第二女。明治五年六月三十日御誕生。同右。

陸軍騎兵大尉大勳位。春仁王 載仁親王第二子。明治三十五年八月三日御誕生。大正十五年七月十四日御結婚。

春仁王妃勳二等。直子 故公爵一條實輝第四女。明治四十四年十一月七日御誕生。同右。

東伏見宮

東京市澁谷區常盤松町百一番地

伏見宮邦家親王第十七子依仁親王  
明治三十六年小松宮彰仁親王御繼嗣を止められ東伏見宮と稱さる。

故依仁親王妃勳一等。周子 故公爵岩倉具定第一女。明治九年八月二十九日御誕生。明治三十一年二月十日御結婚。

伏見宮

東京市麹町區尾井町四番地

崇光天皇第一皇子榮仁親王を祖とす。親王初め有横川宮を稱せられ  
後伏見宮と改め給ふ。

元帥海軍大將大勳位功四級。博恭王 故貞愛親王第一子。明治八年十月十六日御誕生。明治三十年一月九日御結婚。

博恭王妃勳一等。經子 故公爵德川慶喜第九女。明治十五年九月二十三日御誕生。同右。海軍中佐大勳位。博義王 博恭王第一子。

明治三十年十二月八日御誕生。大正八年十二月二十三日御結婚。

博義王妃勳一等。朝子 故公爵一條實輝第三女。明治三十五年六月二十日御誕生。同右。

博明王 博義王第一子。昭和七年一月二十六日御誕生。

光子女王 博義王第一女。昭和四年七月二十八日御誕生。

令子女王 博義王第二女。昭和八年二月十四日御誕生。

章子女王 博義王第三女。昭和九年二月十一日御誕生。

山階宮

東京市麹町區富士見町二丁目五番地ノ一

伏見宮邦家親王第一子晃親王を祖とす。親王初め清範法親王と申上げしも元治元年復飾して山階宮を創めらる。

故菊麿王妃勳一等。常子 故公爵島津忠義第三女。明治七年二月七日御誕生。明治三十五年十一月二十六日御結婚。

海軍少佐勳一等。武彦王 故菊麿王第一子。明治三十一年二月十三日御誕生。大正十一年七月十九日御結婚。

賀陽宮

東京市麹町區三番町二番地ノ五  
初め久邇宮朝彦親王賀陽宮と稱されしも明治八年久邇宮と改稱さる。

よつて第二子故邦憲王襲きて同二十五年十二月賀陽宮を稱さる。

故邦憲王妃勳一等。好子 故侯爵醍醐忠順第一女。慶應元年十二月七日御誕生。明治二十五年十一月二十六日御結婚。

陸軍騎兵中佐大勳位。恒憲王 故邦憲王第一子。明治三十三年一月二十七日御誕生。大正十年五月三日御結婚。

恒憲王妃勳一等。敏子 故公爵九條實實第五女。明治三十六年五月十六日御誕生。同右。

邦壽王 恒憲王第一子。大正十一年四月二十一日御誕生。

治憲王 恒憲王第二子。大正十五年七月三日御誕生。

章憲王 恒憲王第三子。昭和四年八月十七日御誕生。

文憲王 恒憲王第四子。昭和六年七月十二日御誕生。

宗憲王 恒憲王第五子。昭和十年十一月二十四日御誕生。

美智子女王 恒憲王第一女。大正十二年七月二十九日御誕生。

久邇宮

東京市澁谷區宮代町一番地(東京七番地)京都市上京區東櫻町二十

伏見宮邦家親王第四子朝彦親王を祖と爲す。親王初め青蓮院宮中川宮賀陽宮と稱せられ明治八年久邇宮と改めらる。

梨本宮

東京市澁谷區美竹町四十一番地  
伏見宮貞敬親王第七子守脩親王(初昌仁法親王)慶應四年復飾、明治三年梨本宮を初めて稱さる。

元帥陸軍大將大勳位功四級。守正王 故朝彦親王第四子。明治七年三月九日御誕生。明治三十三年十一月二十八日御結婚。

守正王妃勳一等。伊都子 故侯爵島直大第二女。明治十五年二月二日御誕生。同右。

朝香宮

東京市芝區白金臺町二丁目二十六番地  
明治三十九年三月朝香宮の稱號を賜はる。

陸軍中將大勳位。鶴彦王 故朝彦親王第八子。明治二十年十月二日御誕生。明治四十三年五月六日御結婚。

陸軍歩兵中尉勳一等。平彦王 鶴彦王第一子。大正元年十月八日御誕生。

湛子女王 鶴彦王第二女。大正八年八月二日御誕生。

東久邇宮

東京市麻布區市兵衛町一丁目十三番地  
明治三十九年十一月東久邇宮の稱號を賜はる。

陸軍中將大勳位。稔彦王 故朝彦親王第九子。明治二十年十二月三日御誕生。大正四年五月十八日御結婚。

裕彦王妃勳一等 聰子内親王 明治天皇第九皇女(御稱號恭宮) 明治二十九年五月十一日御誕生。同右。  
 盛厚王 裕彦王第一子。大正五年五月六日御誕生。  
 彰常王 裕彦王第三子。大正九年五月十三日御誕生。  
 俊彦王 裕彦王第四子。昭和四年三月二十四日御誕生。

北白川宮

伏見宮邦家親王第十三子智成親王を祖と爲す。親王初め照高院宮と稱せられ明治三年十一月北白川宮と改めらる。

故成久王妃勳一等 房子内親王 明治天皇第七皇女(御稱號周宮) 明治二十三年一月二十八日御誕生。明治四十二年四月二十九日御結婚。

陸軍砲兵中尉勳一等 永久王 故成久王第一子。明治四十三年二月十九日御誕生。昭和十年四月二十六日御結婚。

永久王妃勳二等 祥子 男爵徳川義想第二女。大正五年八月二十六日御誕生。同右。  
 多惠子女王 故成久王第三女。大正九年四月十五日御誕生。

竹田宮

東京市芝區高輪南町十七番地 明治三十九年三月竹田宮の稱號を賜はる。

王族及公族

故恒久王妃勳一等 昌子内親王 明治天皇第六皇女(御稱號常宮) 明治二十一年九月三十日御誕生。明治四十一年四月三十日御結婚。  
 陸軍騎兵中尉勳一等 恒德王 故恒久王第一子。明治四十二年三月四日御誕生。昭和九年五月十二日御結婚。  
 恒德王妃勳二等 光子 公爵三條公輝第二女。大正四年十一月六日御誕生。同右。

昌德宮

京城府臥龍洞二番地(御本邸) 東京市麹町區紀尾井町一(東京邸) 陸軍歩兵大佐大勳位 李王璵 故李太王第七子。明治三十年十月二十日御誕生。大正九年四月二十八日御結婚。

李王妃勳一等 方子女王 梨本宮守正王第一女。明治三十四年十一月四日御誕生。同右。  
 王世子 李致 李王璵第二子。昭和六年十二月二十九日御誕生。

故李王璵妃勳一等 尹氏 侯爵尹澤榮第一女。明治二十七年九月十九日御誕生。明治四十年一月二十四日御結婚。

李鍵公

東京市澁谷區常盤松町百一(御本邸) 京城府寬洞洞九十六番地(御別邸) 陸軍騎兵中尉勳一等 李鍵公 李璵第一子。明治四十二年十月二十八日御誕生。昭和六年十月五日御結婚。

李錫公

京城府雲泥洞百十四番地(御本邸) 東京市澁谷區常盤松町百一(御別邸) 陸軍砲兵中尉勳一等 李錫公 李璵第二子。大正元年十一月十五日御誕生。昭和十年五月三日御結婚。

李錫公妃勳二等 贊珠 侯爵朴泳孝孫。大正三年十二月十一日御誕生。同右。  
 故李錫公妃勳一等 李氏 故李錫九第一女。明治十六年七月十日御誕生。明治三十五年一月十九日御結婚。

故李錫公妃勳一等 金氏 故金在鼎第一女。明治十一年七月十八日御誕生。明治二十八年一月十九日御結婚。

皇族臣籍降下

海軍大佐正三位勳一等侯爵 小松輝久 故北白川宮能久親王第四子。明治二十一年八月十二日御誕生。明治四十三年七月二十日降下。

陸軍砲兵中尉從三位勳一等侯爵 山階芳麿 故山階宮親王第二子。明治三十三年七月五日御誕生。大正九年七月二十四日降下。  
 海軍大尉正四位勳一等侯爵 華頂博信 伏見宮博恭王第三子。明治三十八年五月二十二日御誕生。大正十五年十二月七日降下。  
 正四位勳一等侯爵 筑波藤磨 故山階宮親王第三子。明治三十八年二月二十五日御誕生。昭和三年七月二十日降下。  
 陸軍歩兵中尉正四位勳一等伯爵 葛城茂磨 故山階宮親王第五子。明治四十一年四月二十九日御誕生。昭和四年十二月二十四日降下。  
 從四位勳一等伯爵 東伏見邦英 故久通宮親王第三子。明治四十三年五月十六日御誕生。昭和六年四月四日降下。  
 從四位勳一等伯爵 伏見博英 伏見宮博恭王第四子。大正元年十月四日御誕生。昭和十一年四月一日降下。  
 從四位勳一等侯爵 音羽正彦 朝香宮攝王第二子。大正三年一月五日御誕生。昭和十一年四月一日降下。

皇族臣籍婚嫁

絢子女王 故久通宮朝彥親王第五女。明治五年五月三十一日御誕生。明治二十五年十二月二十六日子爵竹内惟忠に歸嫁。  
 榮子女王 故久通宮朝彥親王第二女。明治元年二月十八日御誕生。明治三十二年九月二十六日子爵東園基愛に歸嫁。  
 禎子女王 故伏見宮貞愛親王第一女。明治十八年六月二十七日御誕生。明治三十四年四月六日侯爵山内豊景に歸嫁。

月六日侯爵山内豊景に歸嫁。  
 貞子女王 故北白川宮能久親王第二女。明治二十年八月六日御誕生。明治三十六年二月六日伯爵有馬頼寧に歸嫁。  
 滿子女王 故北白川宮能久親王第一女。明治十八年十月十九日御誕生。明治三十七年十一月十四日伯爵甘藷寺受長に歸嫁。  
 篤子女王 故久通宮朝彥親王第八子。明治二十一年十月十六日御誕生。明治三十九年十月二十八日伯爵玉生基基に歸嫁。  
 勳二等 武子女王 故北白川宮能久親王第三女。明治二十三年三月二十八日御誕生。明治四十四年四月十七日子爵保科正昭に歸嫁。  
 勳二等 茂子女王 關院宮親王第二女。明治三十年五月二十九日御誕生。大正三年一月二十一日侯爵黒田長成嗣子長禮に歸嫁。  
 勳二等 由紀子女王 故賀陽宮那憲王第一女。明治二十八年十一月二十三日御誕生。大正四年四月三十日子爵町尻量弘嗣子量基に歸嫁。  
 勳二等 擴子女王 故北白川宮能久親王第五女。明治二十八年五月二十八日御誕生。大正四年七月二十日伯爵二荒芳徳に歸嫁。  
 勳二等 恭子女王 關院宮親王第一女。明治二十九年五月十三日御誕生。大正四年九月三日子爵安藤信昭に歸嫁。  
 勳二等 安子女王 故山階宮親王第一女。明治三十四年十月三十一日御誕生。大正九年十一月九日侯爵淺野長勳孫長武に歸嫁。  
 勳二等 智子女王 故久通宮朝彥親王第三女。明治三十九年九月一日御誕生。大正十三年五月六日侯爵山内豊景に歸嫁。

王族臣籍婚嫁

李德惠 故李太王第四女。明治四十五年五月二十五日御誕生。昭和六年五月八日伯爵宗武志に歸嫁。  
 李辰婉 故李璵公第一女。大正五年五月十八日御誕生。昭和九年十二月二十日尹源善に歸嫁。

# 畏し・秩父宮殿下御精勵



御外遊より  
御歸朝まで

秩父宮殿下  
昭和十一年二月二日青森縣中橋野にて謹寫

秩父宮殿下には、大正十四年五月二十四日軍艦出雲に御乗艦、陸軍歩兵中尉の御軍装、凛々しく横濱を御出港、晴れの御渡歐の途に就かせたまひ、御航海の御途中、ホノコンにて宮崎丸に御移乗、マルセーユより御一路パリに向はせられ、こゝにて御滞佛中の東久邇宮殿下と御對面、種々御物語あらせられ、數日間御滞在ののち、ドーヴァ海峡を越えたまひて、ロンドンに御着、郊外に宏壯なる邸宅を有する

秩父宮殿下は、昭和十一年八月一日付を以て陸軍歩兵少佐に御進級、同年八月十日、前第八師團歩兵第三十一聯隊大隊長に御着任あらせられたり。御着任に際しては、陸奥の地を草深き地に御軍務に一年餘、その間に御精勵に日々御軍務に御精勵あらせられたり。御精勵の御模範を謹記し奉らる。御精勵の御模範を謹記し奉らる。

ドラモンド將軍家に御假寓、御勉學にいそしませられた。

殿下には大正十五年十月同家を辭され、オックスフォード大學に御入学、英國史、歐洲史を學ばせられ、更に政治的、經濟的發達史および英語、英文學の御研鑽に御執筆あらせられた。然るに同年十二月、御父君陛下大正天皇の御不例の御報を御耳にせられ、いたく御心痛あらせられたり。オックスフォード大學にて正規の學科試験を受けさせ給うた。

しかるにこのとき大正天皇御容態御變調の御趣に、遂に御見舞のため御歸朝を仰出され、御寄宿舎オックスフォード大學を御

引拂ひロンドンに御歸還あらせられた。

殿下には御心痛一しほ深く御匆忙のうちをジョージ五世陛下、マリー皇后、各皇族を御訪問、御別れの御挨拶を遊ばされ、同月二十二日、マゼスチック號に御乗艦、サザムプトン御發、米國を經由せられ、御歸朝の途に就かせられ、同月二十八日、ロワイヤット・ハウスに米大統領を御訪問、翌昭和二年一月四日サンフランシスコ發のさい、いりあ丸に御乗船、同月十七日、横濱御着、御歸朝、悲愁に閉ざす諒闇の帝都へ御歸還、天皇、皇后、皇太后三陛下に御挨拶を言上遊ばされた。

大正天皇崩御の悲しき御報は、殿下大西洋御航海中、マゼスチック號にて御耳にせられ、深き御哀愁を抱かせ給ひつゝ、御歸朝を急がせたまひたる御胸中を拜察し奉り、國民はひとしく恐懼し奉つたのであつた。なほ殿下には御滞英中、社交方面、運動方面の御研究も遊ばされた。

## 賢所大前にて 輝く御結婚式

秩父宮殿下には、昭和三年九月二十八日、すなはちこの年十一月、天皇陛下には賢所を奉じさせ給ひて東京御發聲、京都に御即位の御大禮を擧げさせ給ふにつき、かねて妃宮と御定めあらせられた松平保男子爵の御姪、松



秩父宮殿下と妃宮殿下  
昭和十一年十月一日、東京皇居内、大御所大御前においでになり、御結婚の式を擧げたまひ、

輝く御即位の大禮に妃宮と御共に御參列あらせられたのであつた。妃宮勢津子殿下には、御結婚前、御父君に從はせられ、永らく英國に在はし、ロンドンの社交界において明星と仰がれたまひ、またスポーツにも御理解あらせられ、御美しく御聰明の姫君におはし、秩父宮殿下との御結婚は、こよなき御似合と國民は御喜申上げつゝ、御多幸を祈上げ、御祝福申上げた。

## 御名代とし て滿洲國へ

秩父宮殿下には、昭和五年三月六日陸軍歩兵大尉に御昇進、同年六月十一日陸軍大學御卒業、同月麻布歩兵第三聯隊中隊長として實兵を指揮せら

れ、同七年九月一日麻布歩兵第三聯隊付、參謀本部勤務とならせられ、同九年六月二日天皇陛下御名代として滿洲國帝政實施御慶祝のため御渡滿、同月六日新京御着、七日御親書ならびに勳章を御贈進あらせられ、輝く御大任を御無事果させたまうた(御贈進あらせられた勳章は、康徳皇帝には大勳位菊花大綬章、鴻秋皇后には勳一等寶冠章である)同日、康徳皇帝には右勳章を御胸に御答訪のため、秩父宮殿下の御宿舎を御訪問あらせられた。なほ翌八日には新京における殿下迎賓兵式を康徳皇帝と御同列にて御閱兵、同月十八日御恙あらせられず御歸朝あそばされた。

## 御軍務に御 精勵の数々

秩父宮殿下には、前記に謹記せる通り、昭和十年八月十日、勢津子妃殿下を伴はせられ、弘前歩兵第三十一聯隊大隊長として御着任あらせられたが、御着任以來、御軍務に御精勵寸暇も拜せぬは、まことに畏き極みである。しかも同聯隊第三大隊長室は、なんらの飾装もなき極めて質素きはまるものにて、御椅子さへ木製品と承

で、これには、できるだけ質素に、格別の設備をするには及ばぬ

との深き思召を體し、聯隊當局は殿下の仰せを畏み、軍隊ありのまゝのものとし、たゞ清潔にのみ萬全を期し奉つたとのことであ

る。かくて殿下には、御着任あらせられたれば、しの御愁ひもなく、同月十二日より短期現役兵の行軍に御參加、十三日より行はれた青森縣山田野の演習に御出動、早曉より御親ら御指揮遊ばされ、最終日の十六日には御召馬旭夏號に召され、御熱心に御觀戰あらせられた。同月二十日より教練御指導、防護演習御視察、更に八戸市において行はれた現地戰術演習等に御參加あらせられた。

## 中村師團長 御近狀言上

昭和十年八月二十七日、中村第八師團長は、皇太后陛下に拜謁仰付けられ、御下問に對し

秩父宮殿下の弘前御着任の御模範から御軍務に御精勵あらせられたり。日常御生活にもきはめて御質素を旨とせられ、ことに火災に傷きたる兵への御いたはり、青森縣下弘前地方大洪水に際し、妃殿下と御共に自動車に召され、御慰問あらせられたる御事など詳細に言上申上げたところ、皇太后陛下には、畏くも師團長として今後とも何分よろしく頼むとの有難き御言葉を賜つた。中村師團長は、感激のうちに謹言した。

かく遠く陸奥の地に御軍務にいそしませ給ふ秩父宮殿下の御身の上を案じさせたまふ陛下の御心を拜察し、御親子の御情愛のいと濃かに、いと厚きに恐懼感激し奉る次第である。

秩父宮殿下の御軍務に御精勵あらせらる

畏し・秩父宮殿下御精勵

るは前に謹記し奉つた通りまことに異き次第であるが、次に殿下御前御着任以來今日まで各種演習御参加、御統裁、御指揮等の御模様を年月別に謹記し奉る。

- 昭和十年八月十二日 御着任早々歩兵第三十一聯隊...
昭和十年八月十五日 野砲兵第八聯隊の對空動作基礎教練...
昭和十年八月二十日 青森縣野演習場において行はれた歩兵第三十一聯隊と同隊に會營中の岩手師範學校生徒七十名、野砲兵第八聯隊の對空動作基礎教練...
昭和十年八月二十八日 八戸市を中心として行はれた歩兵第三十一聯隊幹部演習に御参加...
昭和十年九月四日 大隈演習のため御愛馬に召され岩木山麓高嶺山方面に赴かせられた...
昭和十年九月六日 宮殿下御統率の歩兵第三十一聯隊第三大隊召集豫備隊將校以下七百三十名に對し御訓辭を賜ふ...
昭和十年九月九日 第三大隊は岩木山中腹村附近へ一泊行軍を實施、篠つく雨の中を宮殿下には御外套も召させ給はず御参加あらせられた...
昭和十年九月十七日 岩木村高嶺山、新法師間で行はれた歩兵第三十一聯隊第三大隊の召集兵合併大隈演習をつぶさに御視察、陣地攻撃演習を御指揮あらせられた...
昭和十年九月十八日 滿洲事變記念日たる十八日陸軍墓地に於て國の英靈を御弔ひあそばせられた...
昭和十年九月二十二日 兩殿下御同遊にて民業獎勵のため弘前市中の東北、北海道工業品競技會および工業物共進會御成、御獎勵の恩召により金一封御下賜...
昭和十年九月二十九日 工事中の青森縣築港状況ならびに青森市産業御視察のため妃殿下御同遊にて青森市御成...
昭和十年十月六日 秩父宮、同妃兩殿下には再び青森市に成らせられ、青森縣林局長の御案内にて眺望山御登山、日本三大美林の一つである樺林を御視察、次で青森縣立金木修練農場に御成...
昭和十年十一月十九日 秩父宮、同妃兩殿下には岩手縣盛岡市に成らせられ、小笠試験場、商品陳列館、工業試験場を御視察遊ばされた...
昭和十年十一月二十九日 秩父宮、同妃兩殿下には八戸市に御成、磐城セメント八月工業所、青森縣立水産試験場、八戸魚市場、橋本香月園等を御視察あらせられ、終つて古式騎馬打撃名物えんぶりならびに菊花を台覽...
昭和十年十二月七日 秩父宮殿下には秋田縣各部隊御視察のため秋田市に成らせられ、同市の産業状況についても種々御見聞遊ばされた...
昭和十一年四月三日 秩父宮、同妃兩殿下には弘前市木村産業研究所に成らせられ、同所研究製作の陶器ならびに津輕地方の陶器原料、ホームズパン、自家用兎毛皮その他を台覽あらせられた...
昭和十一年四月十九日 秩父宮、同妃兩殿下には弘前市袋町青森縣立工業試験場へ成らせられ、機械、染色、化粧

- 昭和十一年十月三日 在弘前隊の兵器部、輜重八大隊衛成病院、憲兵隊、野砲八聯隊、騎兵八聯隊を御視察、なほ同年十月八日には歩兵第三十一聯隊、盛岡工業隊との聯合演習を御視察あらせられた...
昭和十一年十月十六日 第八師團秋季大演習は青森、秋田、岩手の三縣下において行はれた...
昭和十一年十一月五日 岩手縣下中等學校、青年學校に未入塾補充兵教育状況御視察...
昭和十一年十一月十二日 弘前歩兵第四旅團の現地戰術に大隊長として御参加...
昭和十一年十一月十九日 岩手縣に成らせられ公會堂前に於いて學生生徒、郷黨、消防組、青年團員分別式を御視察あらせられた...
昭和十一年十一月三十日 弘前各聯隊に衛成病院除隊兵一千餘名は弘前縣へお成り御訓辭を賜り御見送遊ばされた...
昭和十一年十二月七日 秋田縣の諸部隊御視察のため秋田市に御成...
昭和十一年十二月十二日 第八師團長下元中将將着任につき殿室の中を秩父大將軍殿下には御部下をひきまいたまひ弘前驛に御出迎へあらせられた...
昭和十一年一月八日 弘前公園で行はれた弘前第八師團陸軍始式に御参加...
昭和十一年一月十七日 山形縣御視察のため山形市に成らせられ更に米澤市に向はれ米澤スロープに開催中の全國學生スキー大會に台覽...
昭和十一年三月三十一日 歩兵第三十一聯隊の雲中一泊行軍に御参加...
昭和十一年六月六日 矢野山を中心として行はれた歩兵第三十一聯隊對空軍中隊に御参加、雲の中に御二夜を過され八月御歸隊あらせられた...
昭和十一年二月十四日 歩兵第三十一聯隊諸兵聯合演習に御参加...
昭和十二年二月二十二日 歩兵第三十一聯隊のスキー查閱に御参加。なほ同日將校スキー山岳踏破にも御参加あらせられた...
昭和十三年三月十日 陸軍記念日につき陸軍墓地に御成英靈を弔はせられた...
昭和十三年四月二十六日 三十一聯隊の軍旗祭台覽、御觀ら、御計畫の弘前市内各中等學生、青年學校生、在郷軍人の模範戰を御查閱...
昭和十三年五月九日 山田野において行はれた中隊演習演習に御参加あらせられた...
昭和十三年五月九日 歩兵第三十一聯隊演習御参加、山田野に將兵と共に御露營遊ばされた...
昭和十三年五月二十二日 歩兵第三十一聯隊中隊教練檢閲に御立會のため青森縣津輕郡津輕町山田に御成、御野營、第二次檢閲ならびに大隊教練檢閲に御立會あらせられた...
昭和十三年六月三日 青森縣津輕郡山田野演習場における大隊教練檢閲に下元師團長の第二次檢閲を受けさせ給ふ爲部下將兵を御指揮遊ばされ約十日間の御激務にも拘らず益々御元氣にて三日御歸隊...
昭和十三年六月十日 陸軍の編成改正によつて聯隊に昇格した弘前輜重第八聯隊の昇格記念祭に寺垣事務官を隨へさせられて台覽あらせられた...
昭和十三年六月二十一日 秩父宮殿下に御成り、殿内を御視察の上全患者に兩殿下の恩召を傳達、慰籍した...
昭和十三年四月十一日 秩父宮殿下には弘前將校婦人會員等と共に弘前衛成病院に成らせられ傷病兵を親しく御慰問、傷病兵の製作品を御覽あらせられた...
昭和十三年六月二十日 中元御慰勞の有様恩召を以つて下元第八師團長、青森縣知事、弘前市長、弘前警察署長その他在弘各部隊關係將校に金一封を御下賜...
昭和十三年六月二十一日 秩父宮殿下御假邸に伺候した八戸市長に對し昨年の不適、北海道の出稼漁夫等の窮乏等につき種々御下問あらせられた...
昭和十三年六月二十七日 秋田市に御成りの秩父宮兩殿下には社會事業の異色、秋田感恩講堂を御視察二十九日御歸遊ばされた。

教育、産業御奨励

秩父宮殿下には、以上のごとく御軍務に御精勵あらせられ聯隊將兵の御模範として仰がれ給ひつゝ、眞に御寸暇もあらせられざる御御軍務の御餘暇を得させ給ひ、時として御軍務の御餘暇を得させ給ひ、産業御奨励の思召より各地に御成、親しく産業状況も御視察あらせられた。かゝる場合はいつも勢津子妃殿下には背の宮殿下と御共に御視

祭、發刺たる産業興隆の現状を御眼のあたり御覽せられた、昭和十年九月十一日青森縣黒石の苹果試験場御視察をはじめ爾後各地に成らせられた御足跡を謹んで列挙する。

- 昭和十年九月十一日 歩兵第三十一聯隊慰勞休暇をえらばせられ青森縣黒石苹果試験場御視察...
昭和十年九月二十二日 兩殿下御同遊にて民業獎勵のため弘前市中の東北、北海道工業品競技會および工業物共進會御成、御獎勵の恩召により金一封御下賜...
昭和十年九月二十九日 工事中の青森縣築港状況ならびに青森市産業御視察のため妃殿下御同遊にて青森市御成...
昭和十年十月六日 秩父宮、同妃兩殿下には再び青森市に成らせられ、青森縣林局長の御案内にて眺望山御登山、日本三大美林の一つである樺林を御視察、次で青森縣立金木修練農場に御成...
昭和十年十一月十九日 秩父宮、同妃兩殿下には岩手縣盛岡市に成らせられ、小笠試験場、商品陳列館、工業試験場を御視察遊ばされた...
昭和十年十一月二十九日 秩父宮、同妃兩殿下には八戸市に御成、磐城セメント八月工業所、青森縣立水産試験場、八戸魚市場、橋本香月園等を御視察あらせられ、終つて古式騎馬打撃名物えんぶりならびに菊花を台覽...
昭和十年十二月七日 秩父宮殿下には秋田縣各部隊御視察のため秋田市に成らせられ、同市の産業状況についても種々御見聞遊ばされた...
昭和十一年四月三日 秩父宮、同妃兩殿下には弘前市木村産業研究所に成らせられ、同所研究製作の陶器ならびに津輕地方の陶器原料、ホームズパン、自家用兎毛皮その他を台覽あらせられた...
昭和十一年四月十九日 秩父宮、同妃兩殿下には弘前市袋町青森縣立工業試験場へ成らせられ、機械、染色、化粧

社會事業に御專心

秩父宮殿下には、御專心におはす軍事に、いそしませ給ふは、か、教育、宗教、産業、運動などあらゆる方面に御關心を有せらるゝが、とりわけ社會事業については殊のほか御關心を有した

まひ、御軍務の傍、實情につき詳細に御研究、更に進んで御視察あらせられ、ことに殿下御着任以來御假邸附近に居住する貧困者に御憐愍の情を垂れ給ひ、常に御食事、献上品の一部を割いて頒與へられ、また御假邸附近の弘前市紺屋町に住居する六家族の、いと哀れなる生活なるにいたれ、御心を動かし給ひ、種々御恵みあらせられた。悲慘なる貧困者の生活に潤ひを與へたまへる一事など畏き次第と申さばならぬ。兩殿下が、次に社會事業に御關心を有し給ふかは、次に記し奉るかすゞによつても拜察し奉るのである。

- 昭和十年十二月二十一日 年末御慰勞の恩召をもつて小林青森縣知事以下廳員その他に金一封御下賜...
昭和十一年一月四日 秩父宮妃殿下には東京赤坂表町の御殿において天保十年生の御給納子刀刀をばじめ全國高齡者一萬三千餘の代表三老刀刀に賜を賜ひ御披露御下賜...
昭和十一年三月二十三日 秩父宮兩殿下の恩召により宮家事務官前田子爵は青森縣北部保護院を訪問、院内を御視察の上全患者に兩殿下の恩召を傳達、慰籍した...
昭和十一年四月十一日 秩父宮殿下には弘前將校婦人會員等と共に弘前衛成病院に成らせられ傷病兵を親しく御慰問、傷病兵の製作品を御覽あらせられた...
昭和十一年六月二十日 中元御慰勞の有様恩召を以つて下元第八師團長、青森縣知事、弘前市長、弘前警察署長その他在弘各部隊關係將校に金一封を御下賜...
昭和十一年六月二十一日 秩父宮殿下御假邸に伺候した八戸市長に對し昨年の不適、北海道の出稼漁夫等の窮乏等につき種々御下問あらせられた...
昭和十一年六月二十七日 秋田市に御成りの秩父宮兩殿下には社會事業の異色、秋田感恩講堂を御視察二十九日御歸遊ばされた。

運動競技に  
深き御理解

秩父宮殿下が運動  
競技に深く御理解を  
有せらるゝことは、  
國民のひとしく拜承し奉るところである。  
御馬術はもとより御登山、テニス、スキー  
等には一個のスポーツマンとして熟練せら  
れたる御技をもち、登山とスキーに  
はことに御熟達あらせられる。昭和二年八  
月日本アルプスを御踏破あらせられ、昭和  
四年二月には御弟君高松宮殿下と御共に赤  
城山をスキーにて御踏破、同年八月には妃  
殿下御同伴、信州朝日山に登らせ給うたの  
である。

青森縣下水  
害に御心痛

秩父宮殿下には昭  
和十年八月末、弘前  
津輕地方は大洪水に  
見舞はれ被害甚大との旨を御召され同月二  
十四日、妃殿下と御共に岩木川流域を御視  
察遊ばされ、二十五日は小林青森縣知事を  
御假邸に御召、縣下の被害状況を具さに御  
聴取遊ばされ罹災民御救恤として再度にわ  
たり御下賜金があつた。

弘前市の嚴  
肅な奉迎式

青森縣民が待奉つ  
た秩父宮殿下には御  
豫定のごとく昭和十  
年八月十日妃殿下御同伴にて御着任あらせ  
られたので、弘前市においては同年九月十五  
日弘前市公園本丸において嚴肅なる奉迎式を  
舉行した。この日秩父宮、同妃兩殿下には  
國歌吹奏の裡を式場に御着、御直立のまゝ

にて参列者一同の最敬禮を受けさせられ小  
林青森縣知事、石郷岡弘前市長の奉迎の辭  
に御擧手の禮を賜ひ、知事の發聲にて萬歳  
を三唱、再び國歌吹奏のうちに兩殿下には  
御機嫌麗はしく御歸還遊ばされた。なほ昭  
和十一年二月十五、十六兩日大饗スキー場  
において奉迎スキー大會を開催、兩殿下に  
はスキーを召して狐森スロープに成らせら  
れ親しく大會を台覽、秩父宮殿下には記念  
シヤンツエより阿闍羅山に御登攀遊ばされ  
た。

其の他の御行動

- ▽昭和十年九月九日 九日は妃殿下の御誕生日に當ら  
せられるがベルギー皇後の崩御により御誕生祝は御  
取止めなされた。
- ▽同年十月十三日 兩殿下には七分に色づく紅葉、又  
奥入瀬の溪流を御觀賞の後十和田湖に御遊覽あそば  
された。
- ▽同年十月十八日 弘前將校婦人名譽會員であらせ  
られる秩父宮妃殿下には弘前將校婦人名譽會の奉  
迎會に台覽あそばされた。
- ▽同年十二月二十四日兩殿下には大正天皇祭、並に年  
始の諸儀に御参列の爲御上京六日御歸弘あそばされ  
た。
- ▽昭和十一年一月十六日 ガルミツシュにおいて行は  
れるスキーオリムピック大會に出場する選手一行は  
スポートに最も御理解深き秩父宮殿下に御暇をひに  
御假邸に同候し殿下には種々激勵あそばされた。
- ▽同年二月十五日 兩宮殿下には弘前公會堂に開催中  
の地方名士所藏美術品展覧會に御成りあそばされた。
- ▽同年二月二十六日 二、二六事件で御心痛の秩父宮  
殿下には午後十一時の列車で御上京、皇太后陛下ミ  
御對面、種々御慰め遊ばされ翌月九日御歸弘遊ばさ  
れた。

- ▽同年三月十七日 妃殿下には弘前年中行事である市  
民の雪切りを御覽あそばされた。
- ▽同年三月十八日 秩父兩宮殿下奉迎古來武道大會は  
東奥義塾講堂で舉行され、兩殿下には御熱心に御覽  
あそばされた。
- ▽同年五月七日 皇太后陛下の御機嫌御奉伺のため御  
上京あらせられた秩父宮妃殿下には七日御歸弘遊ば  
された。
- ▽同年五月十日 秩父宮兩殿下には花爛漫の弘前公園  
において行はれた青森縣下消防演習に台覽あそばせら  
れた。
- ▽同年五月十日 弘前公園運動場に行はれた北日本陸  
上競技大會ならびに第十一回オリムピック競技、北  
海運大會第二日秩父宮兩殿下には親しく競技を台  
覽、選手一同に御觀戰を賜つた。なほ同日夜咲き詩  
の櫻を御覽のため御微行にて弘前公園に成らせられ  
た。
- ▽同年六月七日 秩父宮同妃兩殿下には青森縣中津輕  
郡百瀨部落に御成り、附近山麓にて藤狩りを遊ばさ  
れた。
- ▽同年六月二十五日 秩父宮殿下の第三十四回目的御  
誕生に當らせられ而も殿下が地方で始めて御迎へ遊  
ばされる御誕生日である爲青森縣民ごまつて奉祝の  
計畫をたて、居たところ殿下には奉祝の儀物は取止  
めさせよ、との御言葉あり、一切を中止して各戸毎  
に國旗を掲揚、殿下には御假邸において目出度きこ  
の日を御遊ばされた。
- ▽歩兵第三十一聯隊第三大隊は、秩父大隊長  
宮殿下御統率のもとに、昭和十一年八月十  
三日、折柄の豪雨を衝き午前九時五分岩木  
山頂上に登攀、秩父宮大隊の輝く記録を留  
めた。この日、宮殿下頂上を極めさせたま  
ふや、宮城の方を御遙拜あらせられ、御音  
聲もいと高らかに「大元帥陛下萬歳」を御三  
唱あらせられ、また部下の櫻井大尉は秩父  
大隊長宮殿下萬歳を奉唱、殿下には御機  
嫌うるはしくこれを御受けあそばされた。

# 産業興隆への道

## 「東北の産業」振出し

米といひ麥といひ、またその他の農産物といひ、繭でも、馬でも東北産のものは、全國のどの地方よりも優れてゐる。その産額においては、或は他の地方に比して微々たるものであるかも知れないが、その質においては決して他地方に劣つてはゐない。ことに米は「米産地東北」を自他ともに許してゐるだけあつて質も、量も全國に冠絶してゐる。農村からいへば、米麥、雜穀類の主要農産物をはじめ、蔬菜でも園藝農産物でも相當の生産成績を擧げてゐるのは、東北農村の一特徴といひうるのである。

純農業について東北農村を象徴するものに養蠶がある。氣候の關係から春蠶に手はつけられてゐないが、夏秋蠶に名を售つてゐる信州、春夏秋蠶の群馬、埼玉等我國養蠶地方に伍して堂々の陣を張る福島縣信達地方、山形縣米澤地方のすばらしい産繭額を見るのはなんとしても心強い限であるといはねばならぬ。東北地方これらの各地は全國養蠶地方の序列から見ると福島縣第八位、山形縣第十一位となつてゐるのであるが、質からいへば山形繭などは全國で押もおされもせぬ優秀な品質である。

更に畜産界における東北馬の地位に至つては、幾多の優秀馬を軍部に送りそのいづれもが伶俐にして、しかも放胆、そ

東北の産業

の任務に極めて忠實なることは、過去數十年間の成績に徴して明らかなるところである。政府の産馬奨勵方針にびつたり呼應してわが東北の馬産業者はいま肅然として眞摯なる産馬育成事業の現場に熱意を注いでゐる。これまことに東北馬産界の一大誇といはねばならぬ。豚、綿羊、鶏その他あらゆる畜類の養飼成績また逐年面目を改めつゝある事實は、更に意を強うするに足るものがある。

轉じて山村に眼を睜る。山村における諸種の實情はいまだ微弱、これに矜を持つことは尙早ではあるが、自力をもつて起上らうとする山村民の意氣に見たなら、その前途はかならずしも悲觀するに當らないのである。由來東北民は、打たれ放しで泣寝入つてはゐない、打たれても打たれても敢然起つところの勇猛心に燃えてゐる。幾百年間に、ひとり農村といはず、山村といはず、また漁村といはず、常に自然的な暴威を蒙つてゐるが、一度も、これら東北民は泣寝入つた例がない。最後まで、息のつゞかぎり猛然起上る底の氣力をもつてゐる。刀折れ、彈盡きても鬪志を捨てない。この意氣、この氣魄によつて農村は今日もなほあらゆる苦難に遭逢しながら雄々しくも更生へ向つて鬪つてゐるのである。

今日、山村の生産品といへば木炭、建築用材、薪材、竹材



などであるが、東北の生産高は木炭が第一位を占め年産額にして一千八百三十六萬一千餘圓、建築用材第二位に座して一千九百九十四萬八千餘圓、薪材六百六十五萬九千餘圓、竹材殿りをつとめて七萬七千四百餘圓となつてゐる。全國總産額二億五千六百三十三萬九千餘圓から見れば、一割四分五厘に過ぎないけれども、多産を目ざす前途にはさう深き悲觀はいらないとされてゐる。品質が物をいふ、前途に好評の多幸が手招すること必せりといふべきである。かくしてわが東北の山村にもまた静かなる黎明の訪れがあらう。期待さるゝゆゑんである。

眼を更に漁村に轉じよう。歎乃勇ましく、赤鉢巻の漁者の頬に豊漁の喜びが、あすといはずけふ訪れよう。鯨も、鮪も、鰹も、また鱒も、烏賊も網にいつぱいの、歡喜のおとづれも期して待たれる。漁村には季節々々にももろもろの魚類の豊漁が連年續けかしくと祈られてゐる。その訪れは遠くはない、寒流暖流あはせ呑んで苦惱に喘ではゐるが、こゝでも黒潮に乗る意氣は熾烈に燃きつゝる。豊漁の水揚げ、市場に釣を振る掛聲、鮮魚を積むトラックの動き、貨車のきしりなにもかまが、漁村の網の手繰なのである。

昭和九年度東北各縣水産物生産額を引くるめて見ると一千五百五十八萬八千四百六十九圓、全國の一億七千三百三十三萬七千二百二十三圓に比しわづか九分となつてゐるが、冷害凶漁の影響がこの數字を現はしたものと見て差支ない。しかし東北に冷害のみあるわけではなからう、温惠などもあつていのである。期して待つといふ心は實にこの温惠である。以上東、北農、漁、山村を一わたり見ると、生氣はまだ全く失はれてゐない。手さへ施せば並の姿勢を取戻すことができ

きる。東北の個々の、あるがまゝなる諸様相は各項目にわたつて極めて詳細に述べてある。豊作豊漁にめぐまれざること、數ヶ年の東北に、活氣旺盛せる實體を眼のあたりには、不可能であるが、幾多の慘禍を甜めつゝもこれと闘ひ、克くこれだけの姿をその産業的部門に保ち續けてゐる東北民の意氣は、あくまで謳歌、賞讃されなければならないと信ずる。

東北民は自力による更生を心がけてゐることは前に述べたが、しかし連年襲ひくる自然の兇暴にはやゝ對抗の力が弱りかけてゐる。闘志はいつも烈々と燃えてはゐるても、闘志ばかりで自然を相手に太刀打はできない。腹がすいては戦はできないのである。太刀を持かへる餘裕を與へ、腹を満たして起上らしめねばならぬ。東北振興事業はこれら疲弊せる東北民にどれだけの活力を添へるかにはわからないけれども、起上らうとする者に「起上れ！」程度の掛聲ぐらゐるにはなるかも知れない。東北振興事業が東北地方に眞の救ひの手となるのは、今後三、五年、あるひはもつと經つてからとなるかもしれない。前途遠遠の感が深い、しかし既に事業は開始されたのである。電力會社にして、興業會社にして衆智をあつめて眞剣に乘出したのであるから、相當の期待をかけてよいと思ふ。

われらは政府、政黨、實業家その他東北振興事業にすこしも關係をもつ向に對し、東北を、東北民を全國の水準まで一刻も速かに置替へるべきであると希望する。起上らうとする東北に、理解の手をのべさへすれば、東北はもとの、不撓不屈の氣魄を抱いて突進することができる。勵ましつゝ、手を貸せばよい。さうすることが東北の産業を興隆に導くのみならず、實に日本全産業發展興隆へ到達する捷徑なのである。

東北の産業分佈圖



宮城縣 (昭和十年)

米	1,200,000
麥	500,000
大豆	300,000
小豆	200,000
粟	100,000
高粱	100,000
其他	...

福島縣 (昭和九年)

米	...
麥	...
大豆	...
小豆	...
粟	...
高粱	...
其他	...

岩手縣 (昭和十年)

米	...
麥	...
大豆	...
小豆	...
粟	...
高粱	...
其他	...

青森縣 (昭和十年)

米	...
麥	...
大豆	...
小豆	...
粟	...
高粱	...
其他	...

山形縣 (昭和九年)

米	...
麥	...
大豆	...
小豆	...
粟	...
高粱	...
其他	...

農 村

大耕土、米の王國

東北の耕地を見る

東北地方の農民はすこしでも不利な條件を緩和し、その環境を安住の樂園たらしめようとする努力を怠りなかつて来た。農民は山を崩し、野を拓き、沼を埋めて耕地の擴張につとめて来た。その偉大な努力が實を結んだ。作付反別統計によれば、明治十六年以來昭和十年までの五十三年間に、東北農民は九萬一千餘町歩に亘る水稻及び陸稻の作付面積を擴張した。この間の耕地面積増加率は一割七分二厘で全國の一割八分七厘よりはやゝ低位につくが、可耕地面積の割合から見るとすばらしい好成績といはねばならぬ。かくて東北農民は耕土化可能な土地を片つ端から耕していった。過去五十三年間に最も多く耕地擴張の成績を上げたのは、青森縣で二割五分の増加、次が岩手縣で二割二分五厘の増加、第三位が宮城縣で二割一分四厘の増加となつてゐる。この三縣は全國の増加率よりも遙かに超えてゐる。

更に昭和十年協同會の調査によれば、東北地方の耕地開拓の餘地はもう僅かしかないといふことになつてゐる。今日の農業技術上開墾可能とされる農耕地に對する既耕地の割合即ち三十八萬八千餘町歩の可耕地を配分す

は全國の〇・七五に比較し東北は〇・七七にまで進み、宮城縣は〇・八九となり、次いで山形縣は〇・八七と躍進してゐる。宮城縣の大崎耕土、山形縣の村山耕土など一眸千里、眞に廣袤漢々たる田畑が眼に映る。米の王國、豐饒の秋の東北の姿を如實に見たなら、誰でも感嘆の聲をあげずにはゐないであらう。

地主獨占の耕地

しかし、かく尊い努力を拂つて開墾し、擴張した耕地の配分關係は極めて悪い。東北地方の耕地は農家一戸當に見積ると一町四反三畝二十九歩で、全國の比率よりは三反四畝二十五歩も多くなつてゐるが、それは大地主が廣大な土地を獨占してゐるからである。統計面では農家全部が一町四反三畝二十九歩の土地を分配されてゐることになつてゐるが、實際は大部分が土地を持たぬ農民である。更に最近農村經濟は大地主を中心として頻繁に土地の吸収作用を起し、土地を失つて地主に隷屬する小作人が急激に増加しつゝある。驚くべ

千町歩も開墾の餘地がある、現に東北六縣耕地協會聯合會では次のやうに水田と畑地の可耕地割合を示してゐる。

Table showing land use statistics for various regions in the Tohoku area, including categories like 'Year', 'Area', and 'Percentage'.

れば大體水田の適地四・六%、畑は五五・四%とすることが出来る。開墾適地の最も多いのは岩手縣の九萬六千六百十町歩を筆頭に秋田縣九萬三千三百八十二町歩、青森縣五萬

Table showing land use statistics for various regions in the Tohoku area, including categories like 'Year', 'Area', and 'Percentage'.

農産物の値下り、減収など収入面の番狂せが假にないとしても、食扶持が増加する。これは絶對的な事實である。人口増加は國力の發展であるが、農村に對してこれをいへば困窮への一原因に數へられてゐる。かやうな状態で農家の生活水準は低下し、土地は細分化作用を増進し、小作料は糶上り、労働賃銀は引下げられて行く。このことは農家一戸當の所有する耕地にも響いて、その一戸當の耕地は年々減少するのみである。

東北六縣耕地協會聯合會が調査して發表した數字によると、大正十一年に東北六縣の農家一戸當耕作反別は一町四反九畝あつたが、これが昭和九年には一町四反四畝に減つてゐる。數字面から見ると十三年間に僅か五畝歩の減少を見たに過ぎないけれども、東北の耕土が年々擴張されてゐる事實からいつて、それは意外な數外であるといつていい。かく農業生産の舞臺が縮小されて來るのであるからそれには何等かの對症療法が講じられなければ農業収入は減少して行く一方で、まことに當然である。その對症療法として考へられるのは、耕地を開拓することであるが、耕地は開拓する餘地があるかどうか。その二東北の開墾可能地、これも極めて最近の調査に基づくものであるが、東北地方にはまだ三十八萬八

七千六百七十七町歩となつてゐる。適地の最も少ないのは宮城縣であるが、それでも三萬八千九百町歩は開墾可能とされてゐる。

Table showing land use statistics for various regions in the Tohoku area, including categories like 'Year', 'Area', and 'Percentage'.

土地に憧れる

農 村

自農維持創設問題 貧農への没落を防止するために、そして小作農から自作農へ引上げを目的として大正十

あらう。耕土は耕作者が所有すべきであるとの建前に基いてはじめてられた事業ではあつたが、いまは暗礁に乗上げてゐる形である。土地にそこがれをもつ小作農に絡む悲話、哀話を参考に掲げて見る。

福島縣西白河郡某村のある農民は村内切つての地主、役場の収入役などを勤めてゐるうち、困りきつてゐる村のために財産をすり田地一切を入手に渡してつた。地主をすべつた親の窮状を見かねた作は、他人の手に渡つた水田一町歩ばかりを小作してゐたが昭和九年から十年と續いた不作で四俵の年貢米を滞納して、地主から土地の返還を迫られたのに逆上し傳家の寶刀を携へて地主方に暴れ込み住居侵入罪に問はれた。

宮城縣刈田郡福岡村には、可愛い娘を一千三百圓で青界に賣飛ばし一反二畝の自作農になつた農民がある。土地を持たぬ小作人は猫の額ほどでもない、耕地がほしいと絶えぬ愛着をもつて働いてゐる。「早く自作農になりたい」と夢を追ふ生活である。耕地を主題とする深刻な事件は東北農村に到るところで聞かれる。土地の配分が極端に偏重した結果である。

またまた一面には次のやうな事例もあつた。自作農創設維持資金の融通を受け八町歩の耕地を有つた宮城縣桃生郡飯野川町の小農三十七名はその後遺産物の暴落と冷害凶作の打撃を受けて借受資金の償還が不可能となつてつた。飯野川町

當局は事態を憂慮し宮城縣や内務省にしばしば陳情対策を考究の末、やうやく昭和六年以降の減收者は百七十圓、昭和九年及び昭和十年の冷害による減收者には六百圓の金利補償を與へられ慰勞を開いたが、この利子補償だけでは充分な更生が期待されないで、第二段の対策を考究してゐる。自作農創設維持事業をやつと耕地を有つた小農が、そのために苦難を満喫してゐる。かういふ矛盾が隨所に起つてゐるので、關係町村は共同戦線を張つて難局打開に當らうとする機運さへ醸酵しかけてゐる。

土地制度の確立は絶対に必要である。東北地方農村は特にこれを要求してゐる。自作農創設維持事業は今日の狀態では効果を期待しがたいため、その缺點を合理的に改善し偏頗な土地配分の形態を修正しなければならぬとされてゐる。

その三

小作地と小作慣行

宮城、山形、秋田の三縣下には小作地が多い。昭和十年農林省調査統計によると、宮城縣は七萬八千八百八十八町三反、山形縣七萬五千六百四十八町一反、秋田縣八萬二千五百五十八町六反となつてゐる。ここには比較的大地主が多くどつしり構へてゐるからである。大地主が小作人に對し絶對的に君臨してゐるのは

封建時代の特殊な小作慣行が今日依然として残つてゐる證左で、土地問題や小作問題の研究材料たるを失はない。

東北地方に現存する特殊な小作慣行

敷金 この慣行は小作契約の締結に當つて一定の金銀を地主に納めるものである。最初は小作料の滞納に備へる損失補償の意味から發生したものであるが、次第に小作地を獲得するための権利金に轉化した。山形縣下に廣く行はれてゐる小作慣行である。

刈分小作

東北地方には刈分小作といふ定率小作が比較的多く行はれてゐる。その大部分は岩手、青森に集中し、この兩縣では刈分小作が總小作地(岩手四九、三八二・五—青森六四、七六一・九)の二割乃至三割を占めてゐる。

刈分小作の行はれてゐる地方

〔岩手縣〕 岩手、和賀、膽澤三郡下の十六ヶ町村、氣仙上閉伊、九戸、二戸の各郡下一圓。

〔青森縣〕 北津輕、上北、下北、三戸四郡下の五十三ヶ町村。

〔山形縣〕 最上、南置賜、東置賜、西置賜、西田川の五郡下七ヶ村。

〔秋田縣〕 南秋田、由利、北秋田の三郡下十一町村、鹿角郡の山間部又は遠く部落を離れた畑地。

〔名子制度〕 中國地方に残つてゐるもの、作り子、名子などとも稱し、相互扶助的な温情關係から出發したもので、地主と小作人の關係は頗る圓滑に經過してゐるが、最近では單なる賦役制度に變化し、小作人は有難がらず地主もまた過重な負擔を持たなければならぬといふ双方に不利な缺點が生れ、この小作制度は崩壊する傾向が濃厚である。東北地方では岩手縣に最も多く行はれ、秋田、青森、福島の三縣下にも残存してゐる。

作り子、名子の残存する地方

土地制度改革

土地の負債は特殊事情をもつが、土地の大部分に低當權が設定され、債權の強制執行により銀行の地主化作用が行はれてゐる。昭和十年十二月内閣調査局調査によると宮城縣はこの作用が特に著しく、新しい形態として産業組合の土地管理が次第に増加してゐることは注目すべき現象である。土地制度の改革はどうしても必要であるが、その改革はどこからいとも見つけるかが問題なのである。自作農創設維持、農地金庫の設定、小作法の制定、土地の國有、協同組合的解決等幾多の案がある。どれが妥當な案かは見る人によつて異なる。いま二、三有力意見とされてゐるものを掲げる。

自作農本位

わが國の國情からいつてどうしても自作農本位で進むことがいふ。ロシアやドイツが採用してゐる協同形態は日本の現狀に適しない自作農創設維持制度の確立こそ最善の方法である。けれども現在のやうな方法では意味をなさない。政府が土地證券を發行し、政府の指定する價格により、地主の所有農地を一定期間内に強制的に買収できるやうな法律を制定し、政府は自作農創設に對して土地購入費の半分以上を補助してやる。自作農地は政府の許可なくして賣買、讓渡或は擔保に供し

その四

小作料問題

東北地方の表作收穫高に對する水田實納小作料の割合は全國と比較して幾分低率ではあるが、秋田、福島二縣は全國の水準よりも高率である。昭和四年より昭和八年まで五ヶ年間の平均小作料は次の如くで、土地の生産力、小作地の割合などで多少の違ひはあるが、畑作の利用價值が増加したため畑地の小作料は全國的に騰勢を示し、東北地方は特にこの傾向が甚しい。

(昭和十一年日本勸業銀行調査)

Table with columns for region (地方), year (昭和十年, 昭和十一年), and crop type (水田, 畑地). Rows include various regions like 北海道, 東北, 關東, 北陸, 東山, 東海, 近畿, 中國, 九州, 全國.

得ないことにする。自作農地の租税公課も相  
當期間減免し、負債整理を積極的に行ふ。か  
うして自作農創設維持を圖りまた一面では産  
業組合もしくは部落組合によつて土地管理制  
度、土地共同耕作制度を併行して樹立をする  
ことがいふ。

### 産業組合の土地管理

土地國有論もあるが、莫大な経費を要する  
上にどれだけの効果があるか疑問である。ま  
た町村有にするとの議論もあるが現在の自治  
體の状況では困難であらう。むしろこれを産  
業組合によつて解決するのが妥當である。産  
業組合は單なる經濟行為を中心とするもので  
はなく、農村社會經濟の中心でなければなら  
ない。この意味から言つて土地問題も産業組  
合に歸屬せしめ、農村協同社會の現出を圖る  
べきである。

### 協同耕作組合本位

自作農創設も結構であるが、農業利潤が僅  
かに二分三厘位であるとしたりどうなるか、  
折角借入れた低利資金の利率より低い農業利  
潤でどうして引合ふか、少しも土地問題の解  
決にならないではないか。まづ農業利潤を高  
めることが先決問題である。元來日本の耕地  
は高すぎる。明治五年まで續いた土地賣買の  
禁止令が影響して土地の偏愛、偏重精神が土  
地價格を高めたものであらうが、これを公正

妥當な價格に引下げ、金利を低下せしめ、農  
業金融を圓滑にすることが土地問題の根本で  
あると思ふ。小作料についても收穫に比例し

## 土地政策、開墾事業

### 青森縣の土地政策

年々八十萬圓の自作農創設維持資金を豫算  
に計上して來た青森縣では、いつも起債は更  
正され、自作農創設維持に轉貸されるのは三  
十萬圓前後となつてゐる。最近縣内事情を見  
ると、田地七萬七千町歩のうちで、昭和五年  
に自作地二萬町歩、小作地二萬一千町歩あつ  
たものが、昭和九年度には自作地が一萬八千  
町歩に減少し、小作地は三萬三千町歩に増加  
してゐる。自作農が減少し、小作農が増加す  
る傾向が強くなり、大地主の集積的土地を手  
離すものが多くなつて來た。この集積的土地  
は更に分散して他の市町村、または他府縣在  
住の資産家の手に入り不在地主が次第にその  
數を増して行くので、根本的に土地政策の樹  
立に乘出し、不在地主の漸減を目標に自作農  
創設を計畫中である。右は産業組合を主體と  
し五ヶ年計畫事業として資金四百萬圓の融通  
を受け九百町歩の自作農を創設しようとする  
もので、從來の貸付方法は縣から市町村へ廻  
付され、更に個人に貸付られて來たがこの貸  
付方法を改め縣から産業組合に貸付けこれを

て動くのが妥當であり、協同耕作法を制定し  
て可能な土地で集團的に土地の管理耕作を行  
はしめることが最善案である。

### 矢吹ヶ原開墾

農林省の開墾助成法により福島縣では西白  
河郡矢吹ヶ原二千三百四十四町歩を縣營でも  
つて開墾、理想村を建設する計畫を立案し昭  
和十一年三月十七日その耕作移住規程を發  
表、開墾地事務所長橋本仁平氏以下開墾指導  
の職員を任命した。事業は昭和十年度から五  
ヶ年間に毎年三十六家族づゝを移住せしめ山  
林一千十町歩、畑地七百二十町歩、原野四百  
八十町歩、水田九十九町歩、宅地二十六町歩  
その他十一町歩を開墾するもので、このうち  
昭和十年度から五ヶ年間に山林、原野八百二  
十七町歩を開墾せんとするものである。開墾  
後は開墾反別の半分四百餘町歩を移住者に、  
他の半分は附近の關係農家に開墾の終了をま  
つて貸つける。

- 一、理想農村建設の爲矢吹ヶ原開墾を耕作せむとすることを得
- 二、移住者は左の各號の資格を具備せる者より知之を詮衡す

- 一、農業に經驗ある者にして福島縣に本籍を有し三箇年以上住居したる者
- 二、身體強壯にして永久土着し得る者
- 三、移住後六箇月以上自家主計に要する費用に農村經營創設に要する資本を準備し得る者
- 三、保證人は本縣において公民権を有し地租又は所得税年額金五圓以上を納むるものなることを要す
- 四、移住の許可を受けたる者に對しては縣有財産管理規則に依り土地の貸付をなすものとす
- 五、移住者は指定せられたる宅地に直に移住家屋の建設をなすべし、但し特別の事情あるものは此の限りにあらず、移住家屋の建設については福島縣開墾地移住獎勵規程により補助金を交付することあるべし
- 六、移住者に對し借地地域に關する農業經營成績の報告を徴することあるべし
- 七、移住者は本規程の範圍内において農業以外の事業を営む場合はその事業目的及内容を記載したる書面を提出せしむることあるべし
- 八、移住者隱居死亡その他の事由により相續人を以て繼續移住をなさむとするときは事故發生後三十日以内に知事の許可を受くべし
- 九、左の各號の一に該當する場合知事は移住者に對し移住の許可を取消し得るとあるべし、但し之がため損害を生ずるも縣は賠償の責に任ぜず
- 一、公用又は公益事業上必要と認めたるとき
- 二、貸付料の納入を怠りたるとき

### 岩手縣の開墾地移住獎勵

岩手縣では昭和十一年三月二十三日昭和十年度の縣内開墾地移住獎勵費交付規定を公表した。なほ昭和十年度の移住獎勵費は總額一萬圓である。

### 府縣開墾地移住獎勵國庫補助 (昭和十年)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
補助金額	一、五〇〇	九、七〇〇	七、八〇〇	一、五〇〇	九〇〇	九〇〇	三、八五〇	九〇,〇〇〇
共同建設戸數	五	三五	三三	五	三	三	一三六	二、八三三

### 耕地擴張施設要望

北海道東北六縣耕地協會聯合會は耕地擴張に要する施設として次の如く政府に要求してゐる。

- 一、一般農家の經營面積を擴充する爲の助成施設比較的小面積(二百町歩以下)の開墾適地を開發
  - 二、小作農家を移住させて新農村を創設し自作農の増加を圖るための施設
- 東北地方の開墾適地には官有地や集團土地が多  
いから縣營をもつて開墾を行ひ、小作農家を移住  
せしめ新農村を創設して一般農村を指導すると共  
に自作農家の創設を圖り、かねて農家經營面積の  
擴充を圖り収入の増加につとめる必要がある。こ

### 府縣開墾地移住

昭和十年度の府縣開墾地移住獎勵金の申請  
は三十六萬三千九百九十七圓、移住家屋は一千  
百五十六戸、共同建物十八棟に達した。これ  
に對する國庫補助の交付額は九萬圓(申請額  
の約二割五分)で移住家屋二百八十二戸分、  
共同建物六棟分である。これで開墾地約四百  
町歩に一千二百名の農民を移住土着せしめ農  
村の人口過剩を緩和し、農村經濟更生運動に  
も効果をあげつゝある。東北關係分は次の如  
くである。

二戸郡馬海村里館組合一戸四百圓  
岩手郡牧野村一人施行一戸四百圓  
戸數總計二十三戸

の目的で縣管開墾を行ふものには工事費、移住家  
屋共同建物建設費の事務費などには高率の助成  
金を交付されい。

### 暗渠排水事業

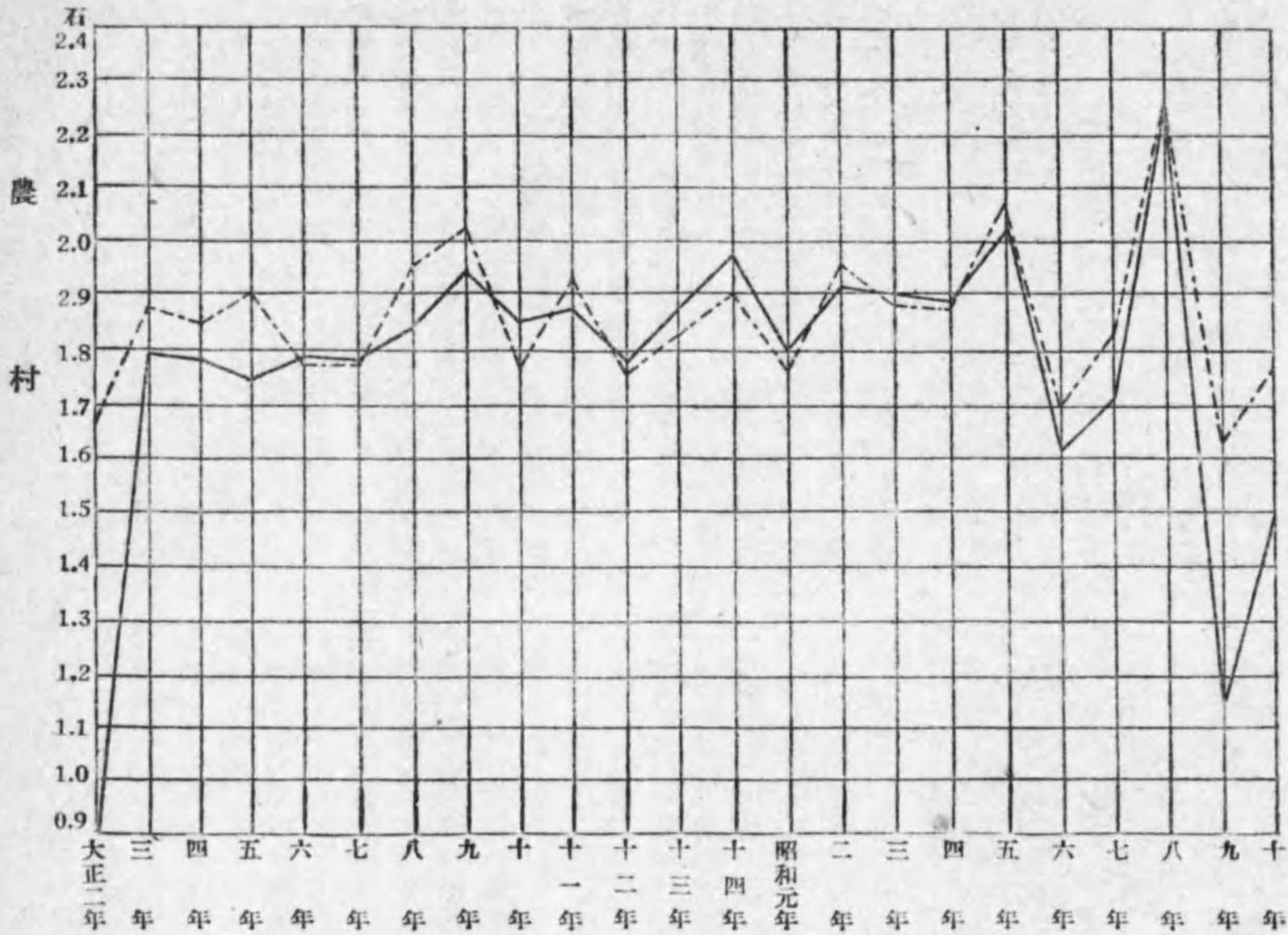
政府はさきに開墾助成法により開墾を助成  
し各府縣もまた政府にならつて民間の土地開  
墾、水田開發を奨励したが、昭和八年後藤農  
林大臣の提唱した減反案から關係當局を深く  
反省させ、開墾助成は米穀統制法と矛盾を來  
すものとして、昭和九年から開田計畫に對す  
る助成金の交付に手加減を加へるやうになつ  
た。農業土木事業に關する政府の助成方針は  
こゝに大きく一回轉し、暗渠排水事業に主力  
を注ぐやうになつて來た。

▽暗渠排水事業 暗渠排水は凹地の排水不良田で  
地下水の高い所に暗渠を埋設(粗渠暗渠又は土管  
暗渠)地下水を排除して乾田とし上田とする農業  
土木事業であるが、冷水の上昇を防ぎ日光を透射  
し地温を高め冷害を除き、有機物の分解を容易に  
して肥料の効果を大ならしめ地力の増進を圖るも  
ので、東北の現状から見てこの種の農業土木事業  
は冷害克服の効果を上げるために頗る重要とされ  
てゐる。

### 耕地整理概況

耕地整理事業は東北各縣とも相當な成績を  
擧げてゐる。仙臺稅務監督局の調査によると  
東北地方で昭和十年中に起工した耕地整理事  
業區は、五百十四地區、地積六千七百二十一

### 東北地方農作物反當收量變化



「東北地方稲作反當收量の變化」略圖説明  
東北地方稲作反當收量は全國平均よりも少なくなつてゐるが年々全國平均に接近しつつある。東北の農民は多年自然的不利な環境の下にありながら營々として稲作に精進して來たため、稲作の生産面が著しく進歩してゐることを示すものである。反當收量の變化割合は東北地方が全國平均よりも著しく屈曲が多く、凶作などの危険率が大であることを物語つてゐる。

凡例  
—— 全國平均  
—— 東北地方平均  
—— 反當收量趨勢値

## 旺なる農村の實體

### 目覺ましい生産への足どり

東北農村は奥羽山脈と、北上山脈のふところ深く抱かれつゝ、のびのびと生長して來た。悠久なる天地開拓を仕遂げた氣やすさが

町八反二畝、貸賃價格八十八萬一千二百三十三圓、筆數六萬二千二百五筆である。このうち土地異動その他による増減を加減すれば合計二千百地區、地積六萬三千六百二十四町五反九畝、貸賃價格七百七十九萬四千三百七十三圓、筆數五十九萬五千八百五十八筆となる。この事業地區中で昭和十年十二月末までに成功したものは百七十六地區、地積五千三百二十一町二畝、貸賃價格九十九萬七千七百二十二筆、筆數六萬三千二百六十筆、これを各縣別について見れば次の如くである。

- ▽宮城縣(成功地) 九地區、地積一千三十四町七反六畝、貸賃價格十四萬九千四百六十二圓、筆數八千六百八十九圓。(未成功地) 百三十六地區、地積一萬一千四十三町七畝、貸賃價格百二十一萬九千三百三十三圓、筆數八萬五千三百八十九筆。
- ▽福島縣(成功地) 一地區、地積六百七町一反八畝、貸賃價格九萬八千四百一圓、筆數八千五百七十三筆。(未成功地) 六百四地區、地積八千二百六十五町六反步、貸賃價格百六十六萬五千八百
- ▽岩手縣(成功地) 二十六地區、地積十町五反四畝、貸賃價格一千三十七圓、筆數二百十九筆(未成功地) 六百八十六地區、地積一萬四千四百六反六畝、筆數十一萬四千六百五十七筆
- ▽青森縣(成功地) 七地區、地積百三十七町八反、貸賃價格一千五百八十三圓、筆數百七十筆(未成功地) 百八十九地區、地積九千五百九町三反二畝、貸賃價格三十萬二千三百三十二圓、筆數二萬一千二百四筆。
- ▽山形縣(成功地) 十九地區、地積一千九十二町八反七畝、貸賃價格二十四萬一千四百三十九圓、筆數一萬八千三百筆。(未成功地) 百五十六地區、地積八千六百八十七町一反八畝、貸賃價格百三十一萬三千九百八十八圓、筆數九萬二千三百筆。
- ▽秋田縣(成功地) 四十四地區、地積二千四百三十七町八反七畝、貸賃價格五十五萬五千五百十圓、筆數三萬四千七百七十九筆。(未成功地) 百五十三地區、地積六千七百八十二町一反六畝、貸賃價格百二十五萬九千三百四十六圓、筆數七萬五千五百六十三筆。

らいていつた。田園農村にいつまでも農民かぎりの歡喜は續かなかつた。九十萬町歩にわたる茫莫たる大耕土に立つて東北六十萬戸の農民はやがていろ／＼な事情に取まかれ、その重壓に泣かなければならなかつた。東北には、東北農民には風水害の見舞あつた。それには必然おそるべき凶作が伴つた。また雪害、冷害があつた。それにも凶作が次にやつて來た。起上らうと身構へるあとから自然は兇暴の手をのべた。しかし勤勉過ぎる東北農民は決してそのまゝ屈しはしなかつた。ひしがれ、打のめされながらも起上つて鋤を執り鋤を握つた。戰爭に強い東北兵は自然の暴威にも強い東北兵であつた。黄金の波うつ津輕平野、秋田平野、仙臺平野、庄内平野の壯觀を思へばよい。そこには農民の揮ふ鋤が光つて九百萬石の米が生産された。價額にして二億五千萬圓といふものが他地方に移出されて行くのである。東北には開墾の餘地がまだ／＼残つてゐる。従つて米生産額は今日以上上り行くわけである。麥、大豆も米につく主要農産物である。また稗は岩手縣が日本一の産地となつてゐる。一萬六千餘町歩から實に二十七萬石の收穫を見てゐるのである。この旺なる農村、生産へいたむきに進む力強い足どりを見のがしてゐるものか。

また園藝農産物も林檎、櫻桃、梨、柿、甘藍、馬鈴薯、白菜等東京、大阪方面の市場を壓し、暖地栽培に限られてゐた甘藷でさへ漸

次北進し「地もの」として福島、宮城の兩縣約四千町歩から年に八百三十餘貫が生産收穫されてゐる。工農農産物は福島、岩手の葉煙草を數へるにすぎないが、それでも年額五百萬圓以上の賠償金を獨占してゐる、けだし、俸とすべきである。蕪蕪も、薬用人蔘も福島縣から獲れる。

しかしなんといつても米である。米は國民の糧であるなどいはず、米代が一家支出の根源であると同時に金融の大きな對象となつてゐる。米價が統制され高低相場の中が窮屈にはなつたが、それでも機を見るに敏な相場師の手にかゝれば一瞬時でぼろい儲が許されてゐる。米は氣候に頗る敏感である、農家が秋の收穫に多大の期待をかけて年貢米を差引いた残りを高く賣つて、肥料代を拂ひ頼母子講の掛金、伊勢詣りの積立金などに充てゝゐると冷害凶作に見舞はれたりする。また二十日も平穩無事に過ぎ、今年も豊年萬作だと祝ひ酒にさんざめいてゐたりすると、生産過剰で相場がどんと低落する。

この豫測もつかない米を豫定コース上に、定石通りゴール・インさせるのは容易の業ではない。いな絶對不可能事である。政府が米價調節法をつくつたりして、これを制御しようとして十億五千萬圓の資金を運用して活動を續けてゐるが、まだまだ眞の効果は期待されな

生じさせる。農村經濟がぐらつけば東北全體の經濟がぐらつく、産業經濟一般に力のないのはこゝに原因する。米をつくる者の大きな悩みである。

現在の養蠶業は農家副業の域を脱してもい程度に進歩し盛んである。最近人造絹絲の發達と支那蠶絲に押され絲價が振はず繭相場も芽が出ないので養蠶家は一般に困窮してゐるが、東北地方の全農家の半數以上、三十七萬餘戸が一生涯命を懸けて年々八百萬貫に上る繭を産出してゐる。この繭代金が一千七百萬圓以上に達し、農家經濟に多大の潤ひを與へてゐる。福島縣は特に養蠶業が盛んで伊達附近の養蠶は往昔から有名である。

畜産、殊に馬産事業は盛んで、廣大な原野を利用して濔政時代から最も重要な産業の一つとされ發達して來た。北海道が開拓されてから馬産の第一位は奪はれた觀があるけれども、質の良い、馬の生産地として東北は依然として第一位に數へられてゐる。岩手、青森の兩縣に跨る舊南部領からは最も質のいい馬を出し、全國に對する種馬の供給地となつてゐる。古くから馬政を確立した點で南部藩が有名であり、南部駒の名聲を今に傳へてゐる、また伊達藩の鬼首馬、山形の最上馬、福島

三春馬なども有名である。舊南部領下、岩手縣下閉伊郡岩泉地方の牛も有名である。岩手縣からは年々五千頭以上の牛を生産してゐるが、東北地方全體の畜牛

生産頭數は一ヶ年一萬頭内外のところである。その他養豚事業も年々盛んになり、宮城縣を筆頭に福島、岩手方面で多く飼育し、東北六縣で九萬六千餘頭を飼育してゐる。綿羊、山羊、鶏、蜜蜂の飼育熱も旺盛であるが、未だ副業の域を脱し切れない。

氣候の關係から半歳を失業状態で暮す農村に最も有利な副業を與へ、この副業収入で農家の經濟難を救ふといふ理論は、片つ端から指導機關によつて實行に移されてゐるが、更に積極的な効果をあげるために農村工業が提唱されてゐる。熟練工にのみ頼らず、部分品製造の分散的工場を農村に設立して、農村の過剩勞力をもつて精巧な工業品をつくらうといふのである。各縣は既に用意周到な設計の下に着實な第一歩を踏出した。

原始産業の域を脱し切れない東北の産業に新しい生命を注ぐのが農村工業のもつ大きな使命でなければならぬ、特色ある地方産業を背景として、飽くまでそのローカル味を生かすことによつて、更に大きな購買層を開拓しようとする宮城の乾牡蠣、兎肉罐詰、福島

# 米のみ作る農民

## 災禍に抗す東北の村

農林省の調査によると、昭和十年度日本内地（北海道を含む）生産米は五七、九五六、九七六石で、その一割四分餘の八、〇五八、四二九石は東北六縣の農村から生産された數量である。見舞はれがちな冷害、風水害などの自然の災禍に抗しつゝ、よくこの天の試練に耐へてわが強力なる農民は、より多く、より良質の米をえて、それを市場に提供しよう

と斷えざる、撓まざる努力を續けて來た。現にいまも農民は烈々の意氣をもつて老成たる田園に汗を流しつゝある。

農民の多くは日常の生活費を切詰められるだけ切詰め、忍びうるだけの粗食、粗衣に甘んじて孜々として働いてはゐるが、いづれも申合せたがやうに困窮の底に喘いでゐるのはいつたいどうした譯だらう。いくら働いても東北の農民には樂な生活が見舞つてこない。といふのは、このことは後に「農家の經濟を見る」の章において詳しく説いた。冬の間およそ半歳にも亘る長い期間を雪の中に閉込められ、働きたいにも働けない現實の事情によるからである。

農村

東北の冬は寒くて雪が多く、それに長い、田圃にも、畑にも出られない、つまり農事作業といふものからこの季節は完全に隔離されてしまふのである。それに氣候がら作物の種類に恵まれないから、農業の多角的、合理的經營は思ひもよらない。米以外の農産物に多くを期待できないことは東北農民のもつとも痛手とするところである。だから農民は半歳の間、田を遊ばせておきながら米を作ることにのみ専念しなければならぬのである。農家經濟は元來副業収入、裏作収入によつてバランスを取るべきだとされてゐるのであるが

これは東北以外の農家のことである。悲しいかな、東北には前述した通りそれが許されない。副業収入と裏作収入によつて經濟のバランスをとるといふことは、すくなくも東北の農家からいへば痴人の夢であつて、氣候の悪い東北農民の多くに了解できないことゝされるのは、無理もない。

東北地方の農業生産物から米を除いてしまへば、残るはわずかに青森の林檎、山形、福島の養蠶、岩手の甘藍、雜穀、畜産、宮城の

白菜などに過ぎない。米作が東北農家經營上いかに重要、唯一のものであるかはこれではつきりしてゐるであらう。東北地方の農業經營がかやうに米作本位、單一農業であるから一朝自然の激怒に觸れ、その暴威に遭つたが最後、米作不良の悲惨なる現前に立たされ、農民はその惨害に足掻かなければならぬのである。

しかしこの宿命に泣く東北農民にも、自ら慰めうる明朗面がある。それはかく無慈悲な大自然の猛威にたゞきのめされながらも、よく年々九百萬石を越す大量の米を生産し、夥しい俵米として管外に移出してゐることである。

昭和十年十一月から昭和十一年一月までの僅か三ヶ月間に管外に移出された米の實數は、山形縣から東京ほか各地に三十一萬石餘、宮城縣からは三十萬石餘、秋田縣二十六萬石餘、福島縣二十三萬石餘、岩手、青森の兩縣からも夫々十一萬石餘を移出し東北全體としては百三十三萬七千九百十九石を管外に移出してゐる。右のうち山形、宮城二縣の米生産高は縣内消費額の二倍以上で、これらの餘剰米はことごとく管外に移出してゐるのである。

わが國の内地生産米は國內の消費に不足して毎年多量の鮮、臺米を移入し、更に外米の厄介にさへなつてゐるが、東北地方は各縣ともおしなべて米の産額が縣内消費額よりも多

く、その餘剰米を管外の市場に供給してゐることは欣快に堪へない。殊に最近調製が吟味され市場の人氣を博し、管外移出米が増加して來た。東北の米は關東市場と北海道が大きな仕向先であるが、宮城の本石米、山形の庄内米、秋田の仙北米などの配給範圍は、ぐんぐん伸びて關東市場を壓し、箱根の關を越して遠く和歌山、鳥取、山口方面にまで移出されてゐる。

米の出廻り最盛期になると、米産地附近の荷馬車やトラックはことごとく動員され、運搬機關はすべて米の輸送で活動を開始する。最寄の驛は洪水のやうな移出俵米を捌くのにてんでこ舞、貨車は各驛に拂底する、配車掛が目を見舞うのはこのときである。車積にされた俵米はそれ／＼自慢の銘柄スタンプを捺して南へ、北へ連日景氣よく發送される。東京北海道をはじめ仕向先各地の人々は以上のやうに東北産の米を食つて生活してゐるのである。東北地方の農民は自分の作つた米が食へないといふ不合理もあるにはあるが、しかし一面にはこれだけの米を現金に代へてゐる、東北農村のこの生産喜悅は充分察しられる。縦しその金が直接生産者の懐中にたつぷり入らなくとも。

東北各縣米産額

Table with columns for Prefecture (縣別), Production (十年米自五年至九年平均), Increase/Decrease (前年との増減割合), and National Total (全國). Rows include Aomori (青森), Iwate (岩手), Miyagi (宮城), Fukushima (福島), Ibaraki (茨城), Tochigi (栃木), Gunma (群馬), Saitama (埼玉), Chiba (千葉), Tokyo (東京), Kanagawa (神奈川), and National Total (計).

昭和十年十一月以降一月まで三ヶ月間の累計

陸稻の生産

東北地方の陸稻作付面積は明治十六年から昭和十年まで五十三年間に僅か一千三百八十二町歩を擴張したに過ぎない。昭和十年度の收量について見れば山形縣の八千九百九十石が

第一位、次は福島縣の七千四百七十六石、第三位は秋田縣一千三百三石收獲となつてゐる。東北六縣の收獲高は一萬八千三百九十三石で前年より八千二百二十石を増加してゐる。元來陸稻は雨量の多い年ほど作柄がよく、旱魃の年には悪い、かく豊凶の差が甚しいので各縣では陸稻獎勵に消極的方法を取つてをり、その結果作付反別に著しい増加を示さず、従つ

て收量も全國各府縣に比較して甚だ少ないのである。夏季に雷雨の多い山添地方では、陸稻栽培に相當の効果をあげてゐるので品種の改良と、指導の如何によつては更に大きな効果を期待することが出来る。東北全體としての陸稻作付面積を見ると次第に減少する傾向があり、最近五ヶ年間の平均作付反別は二千六百三十六町歩、全國の陸稻作付面積十三萬九百三十二町二反歩に比較して二分強に當つてゐたのが、昭和十年度の作付面積はその歩合が一分八厘に減少してゐる。

東北六縣陸稻作付反別

Table showing rice planting area per ryo for six prefectures: Miyagi (宮城), Iwate (岩手), Fukushima (福島), Yamagata (山形), Akita (秋田), and Aomori (青森). It compares the current year (昭和十年) with the average of the last five years (五ヶ年平均).

東北六縣陸稻收穫高

Table showing rice harvest per ryo for six prefectures: Miyagi (宮城), Iwate (岩手), Fukushima (福島), Yamagata (山形), Akita (秋田), and Aomori (青森). It compares the current year (昭和十年) with the average of the last five years (五ヶ年平均).

る。東北で最も作付面積の大きいのは福島縣の一千五百五十三町一反歩、山形縣の八百三十一町四反歩である。青森縣に至つては僅かに三十二町七反歩に過ぎない。最近五ヶ年間の平均作付反別二百九町三反歩であつたものが

農村

黄金米の關係

昭和十年度に至つて三十二町七反歩と驚くべき激減ぶりを示したのである。農家一般が危険率の多い陸稻を棄て、生産價值の高い農作物に替へたといふのがその最も大きな理由である。

はいま中央市場に上場されてゐないが、北海道に販路米を求め年々白米として移出されてゐる。昭和十年十一月から昭和十一年一月までに管外に移出されたこれらの銘柄米は、三六〇、八四五石に上つてゐる。これら大部分が深川、神田川兩正米市場に上場され巍然として騰價を保つてゐるのはさすがに本場米となつたかえらる。いま、これから東京市場に上場されてゐる銘柄米の特質を見る。

本石米 (宮城縣)

産米の六割強までが本石米で、あとは仙南米である。本石米は關西方面の米のやうに色は白くない。いはゆる小麥色であるが、粘がよい。炊いて水引がよいから飯米として萬人の口に合ふ。これが受けてゐるのである。産地は仙北、加美、志田、玉造、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉の九郡、そのうち栗原郡が第一の産地となつてゐる。舊藩時代石巻、鹽釜から三十五反の白帆を上げて盛んに積出し、東京洲崎から陸揚げして市場に運んだものである。本石米の名聲はその頃から大江戸の市場に知られ、味付米として強固な地位を占めたのである。今日では仙南米の進出も著しく、苦心改良の結果昨今では中央市場で人氣を博し、取引相場も本石米と次第に接近して來た。數年前までは石當一圓前後の開きがあつたものが、この頃では東京着相場で

僅か二、三十錢の開きしかない。それほどまでに追ひかけたのである。十年産米の如きは驚異的な移出數量を示し、本石米を顔色なからしめた。宮城縣の最近五ヶ年間の均平米收穫量は百七十二萬八千三百七十三石であるが、この内約六割は本石米で、四割が仙南米である。

米の品種は福坊主が最も多く、陸羽一三二號、愛國一號、陸羽二〇號、宮城四二號、萬代、奥羽一號などである。

會津米 (福島縣)

福島縣の産額は百七十九萬三千九百五十六石(最近五ヶ年間の平均收量)に上り、太平洋沿岸部一帯濱通は磐城米の産地で、相馬、石城の兩郡はその主要産地である。猪苗代湖の東南部中通一帯は岩代米、會津地方は會津米で有名、中央市場でも相當の地位を占めてゐるが、取引は最近丸種と長種とに大別されて行はれ、丸種は宮城の仙南米と同額のところである。

品種は愛國二號が最も多く、愛國、陸羽一三二號、豐年、早稻などがこれに亞ぐ。

江刺米 (岩手縣)

岩手縣の産米は最近五ヶ年間(昭和五年より昭和九年まで)の平均收穫は百二萬六千六百九十九石となつてゐる。あの廣大な面積から見ると産額は割合に少ない。しかし北上沿岸の

盆地は古來岩手米の産地として聞えたとこで、江刺郡から出る江刺米、紫波郡から産する徳田米は籾米として好評を博し、江刺米の如きは遠く南洋方面にまで輸出される。中央市場では村山米、本石米など、肩をならべてゐるが、移出數量は他の東北産米に比し甚だ少ない。

岩手縣産米の品種は早生種で、早生大野、關山秋田二號(南部早生)中生種では陸羽一三二號、龜ノ尾、豐國、晩生種では愛國、本郷二號、新イ號などが栽培されてゐる。

津輕米 (青森縣)

青森縣産米の約八割までは津輕米である。舊藩時代には弊價を博した米であるが、廢藩後に米納制度が廢止され、金納制度となつたため、農家はたゞ現金収入の多いことにのみ魚つて米の調製に意を用ひなかつた。それに調製依裝が次第に粗悪となり弊價を落して了つた。孜々として努力を續け今日の弊價を維持してゐる庄内米と對象するのと興味がかい。青森縣では明治三十九年四月から縣營移出検査を行つてゐるが、大正五年九月から生産米検査を行ひ、調製、乾燥、依裝などを根本的に改善し、更にまた大正十五年から希望の向に對しては品質検査を施行し、ひたすら弊價の挽回につとめてゐるので、最近やうやく津輕米の面目が改りつゝあるが、中央市場に登場して他の東北産米と覇を争ふには至ら

ず、中央進出を斷念して北海道に販路を求めてゐる。しかし食味よく一般にも愛好される素質は充分あるが、乾燥の不充分と調製が不完全で競争線上に立てゐない。産米品種は龜の尾、陸羽一三二號などの比較的優良品種が多くなりつゝあるから向上を期待するに充分である。

庄内米 (山形縣)

産米の約四割強がこの庄内米で占められてゐる。西北部日本海に面してゐる鶴岡、東田川、西田川、飽海等庄内地方から生産される硬質米を總稱して庄内米といはれ、この地方は土質が豊饒で舊藩時代から全国的に知られた米産地である。その當時から貢納米の検査が嚴重を極め農民は少なからず苦しんだが、この結果農民は米質に留意し、良米の生産地となつたのである。農民の血の苦闘が庄内米今日の榮譽を築き上げたものといへる。今日深川、神田川兩正米市場で村山米を常に壓倒して高値に取引されてゐるのは、實に先代農民の努力の賜である。藤島、最上川、余目、鶴岡、遊佐、砂越、酒田、本楯の各驛は庄内米の發送驛で特に藤島驛から積出されるものが多い。庄内米の大部分は鶴岡取引所の附屬倉庫や酒田取引所の附屬倉庫(山居倉庫)の取扱となるが、この山居倉庫の扱ひになるものがある三居米である。調製と管理に特別の注意を拂ひ硬質米の本領をあくまで發揮す

ることにつとめ、出來秋の出荷を極力抑へて夏場まで倉庫に保管し、本石米や秋田米が軟質のため夏季の取引が不可能に陥つた頃合を見て中央市場にドンと移出して高値相場を獨占するといふゆき方で弊價をあげて來たが、最近では軟質米の産地(本石、秋田)では米の生れから吟味し改良を加へ、長期保管にも耐へるやうにつくり出してゐるので山居米の弊價はやゝ壓倒されつゝある。

村山米 (山形縣)

庄内地方を除いた山形縣下一圓から産出する米で、庄内米と比較して含水量がやゝ多く軟質米であるが、美味で庄内米に匹敵する良質米として市場の弊價を維持してゐる。産地別に見れば最上、東置賜、北村山、西村山の各郡が大生産地となつてゐる。

山形縣産米の品種は早生種、中生種、晩生種に區分され早生種では早生大野、信友早生六日早生、酒田早生、中生種では龜の尾、イ號、福坊主、豐國、玉の井、陸羽一三一號、晩生種では中生愛國、京錦、高瀬錦などが多く用ひられてゐる。

仙北米 (秋田縣)

秋田縣の縣南盆地雄勝、平鹿、仙北の三郡から産出する米で、秋田縣産米の四割強がこの仙北米である。仙北米の生産地方はすべて水田で、産米は純然たる軟質米であつたが、

變質し易く永く貯蔵することが出来ない。このため市場の人氣を失ひかけたので、産地では全力を盡して改良につとめ十數年前からすべて乾田栽培として市場の人氣を盛返へした。美味なものと、清酒の醸造用に適當してゐるので、歡迎され中央市場や北海道に販路を持つてゐる。舊藩時代は大曲、神宮寺あたりから雄物川を下つて土崎港から海路を北海道や關東、關西方面にまで仕向けられた。土崎港の川口には當時を偲ぶ米倉が堂々と並んでゐるが、今日では大曲、飯詰、横手、十文字角館、湯澤等の各驛から積出され大曲驛の出荷は殊に多い。

賣られ行く米

米商人兼肥料商

東北は米の主要産地であり、重要な配給者であるが、しかしこゝにも弱き者の内面的な悩みがある。前に書いたあの豪勢な倭米移出數量の中には、農民が自分たちの食ふために自家用として用意してゐた米も多數含まれてゐる。農民は粒々辛苦してつくつた良質米を賣拂つて他から廉い米を買つてゐる。さうしなければ農民の生計が立たない。廉くとも米

地廻米、本莊米 (秋田縣) 地廻米は秋田市を中心とする附近一帯から産出する。量においては最も多く、南秋田郡が主産地である。本莊米と同様東北産米の王座に立ち、中央市場の取引相場は常に他の産地米を壓倒してゐる。本莊米の主産地は日本海に面した由利郡で、山形縣庄内地方と隣接してゐる關係から砂質土壌が多く、地質が産米に適當し本莊米の銘柄が古くから知られてゐる。

秋田縣の産米品種は陸羽一三二號が最も多く、次が龜ノ井、豐國、酒田早生二號、神錦生大野、新イ號、福坊主、日吉等の順位となつてゐる。ならばまだいゝ、もつとひどくなると更に粟や稗などの代用食で我慢するのである。更につき進んでひどくなると秋の收穫を待切れず「青田賣り」をやる。青田賣はまだ米になつてゐない稻の穂のまゝで、現物取引に曳出すのである。農林省や縣當局、或は系統農會の指導によつて米のつくり方(生産面)にはどうやら、級第



し、標準線まで向上することに成功したが、賣方については全くもつて零である。産業組合の發達程度も低い。販賣方面の組織も幼稚で、農業倉庫の數も少く、組織なり機能なりが周知されておらない。従つて有利な販賣機關を利用したくも利用のしようがない。結局米の販賣は産地附近の商人の手で行はれることとなる。販賣施設の改善こそ目下の急務である。いつたい農産物を安當な相場で賣るにはどうしたらいいか、これこそ農村が熱心に知らんとするところである。これに明快なる答を得たなら農村の不況はおそらくその大半を解消することが出来るのであるが、それがなかなかできない。東北の農民は「米」にのみ頼つて生活してゐるが、その「米」がどんな経路を辿つて消費大衆に提供されてゐるかをまづ極める必要がある。

米は農家の手を離れて米商人、地方問屋、運送店から轉々として都會の間屋に到着、更に小賣商人の手に渡り、それからやつと消費者の米櫃にをさまるのが順序である。

従來の米穀商は多く肥料商を兼ねてゐる。農家の大部分は、この肥料商人であり、同時に米穀商である且那から米をつくるための肥料購入資金を借りてゐる。こんな關係からこれらの農家は秋の收穫期が來ても、その生産品たる米を勝手に處分したり、販賣したりすることが出来ない仕組になつてゐる。既に農家の大半は米商人に對して、米に關する一切

の主張も権利も抛棄して手が出せないのである。もちろん、債權者たる米商人に農家が商談をやるにしても安當だと信ずる値段を強く主張することは許されぬ。若し農家が自分の權利を主張すれば米商人はこゝで假面をかなり棄て、肥料商人に早替りし、肥料の貸金催促と出るのである。この信用取引から生れた一方的な、不合理は農村で米を賣買する上にはつきりした慣行になつてゐる。更に米取引について次のやうな亂暴な事例さへも聞く。農家の善良さと、商人の惡辣さを最も露骨に示すものであらう。

**青田賣買**

資力のない農家によく行はれる取引方法である。資金の必要に迫られ刈入れ前の「青田」を賣却するのであるが、買方に廻る米商人は收穫に至るまでの天候その他の危険率を見越し、法外な安値相場で引受けるのが通例である。凶作時の東北地方にこの青田賣買が一つの流行型となつて現れてゐる。

**荷馬車曳賣買**

米相場に案外無關心な農家がある。隣近所の顔見知りの荷馬車曳などをつかまへて當時の相場を聞き、手頃な安値で賣つてくれと處分を依頼する。依頼された荷馬車曳はその米を町に運び、米穀商に成りゆき相場で賣却してふ。蔬菜や果實も同様である。こんな方法で賣つては損をしてゐるのである。それでも農家は運命だと諦める。しかし今ではどんな草深い農村にも立派な産業道路が拓け、トラクタが盛んに出入し、米相

**産業組合**

元來産業組合主義運動は資本主義經濟組織から現れた不合理を是正するのが主眼で、産業組合組織による販賣組合は、農村の不合理な販賣方法を改善するために生れたものであるが、東北地方の産業組合が眞に農民大衆の機關として發達してゐない。産業組合を發達せしめるためには、農家の經濟状態をもつと餘裕あるものにし、農民に産業組合とはいかなる組織で、いかなる事業をなすものかを理解させなければならぬ。

東北地方販賣組合の取扱品目は米を第一とする、青森、宮城、福島は蔬菜や果實が大部分を占めてゐるが、東北農村のやうに義理と人情に縛られ、負債のある且那衆に申請がなからとて販賣取引に舊時代の慣行をそのまま後生大事に守つてゐる。農産物販賣組合の活動、發展は望まれないのである。産業組合側は販賣組合の機能を充分に發揮するためには消費組合と提携し、生産者から直接消費者へと題目をかへ、農産物保管機關である農業倉庫をもつと利用することにならなければならぬ。事實東北地方の農業倉庫に入るものは穀物(主として米)が多い。他の地方の足

もとに近よれない程、「米」一本槍で進んで來た東北農業の面目を維持してゐるが、米の産額と移出數量から見るとまだ「農業倉庫」が普及されていゝ。農業倉庫は、利用程度その保管される入庫數量から見て他の地方よりは遙かに進んでゐるのは愉快なことであるが、これを利用するのは農民大衆でない、大

地主の多い東北地方では實際に農業倉庫を利用してゐるのは地主階級で、一般農家はこれを利用することが許されない事情にある。しかも農業倉庫の經營者は産業組合が多い。その産業組合經營に屬する農業倉庫は地主にのみ利用されつゝある。なんといふ奇觀であらうか。

**産業組合の業績**

**1 購買組合 (昭和九年末)**

縣別	昭和九年中の購買高内譯		前年對増減歩合
	米	其他	
宮城	1,111,000	1,111,000	100.0
福島	1,111,000	1,111,000	100.0
青森	1,111,000	1,111,000	100.0
山形	1,111,000	1,111,000	100.0
秋田	1,111,000	1,111,000	100.0
計	5,555,000	5,555,000	100.0

**産業組合の業績**

**2 販賣組合 (昭和九年末)**

縣別	昭和九年中の販賣高内譯		前年對増減歩合
	米	其他	
宮城	1,111,000	1,111,000	100.0
福島	1,111,000	1,111,000	100.0
青森	1,111,000	1,111,000	100.0
山形	1,111,000	1,111,000	100.0
秋田	1,111,000	1,111,000	100.0
計	5,555,000	5,555,000	100.0

**産業組合の業績**

**3 信用組合 (九年未現在)**

縣別	昭和九年末の信用組合	
	組合數	資本金
宮城	1	100,000
福島	1	100,000
青森	1	100,000
山形	1	100,000
秋田	1	100,000
計	5	500,000

**全購聯の肥料配給**

昭和十年八月一日から昭和十一年五月十五日までに全購聯の東北六縣に配給した肥料は山形縣を除き他の五縣は總て實際配給量が豫定數量より超過してゐる。殊に宮城縣の如きはその配給量が茨城、長野、静岡に次いで第四位といふ成績を示した。東北六縣の豫定量に對する實際配給數量は次の如くである。

縣別	實際配給量	豫定數量
宮城	2,857,000	2,500,000
福島	2,857,000	2,500,000
青森	2,857,000	2,500,000
山形	2,857,000	2,500,000
秋田	2,857,000	2,500,000
計	14,285,000	12,500,000

全購聯仙臺出張所開設 全購聯では肥料および雜貨類を積極的に配給せんとしてゐるが、東北六縣の配給に對し統制連絡機關の必要を認め、昭和十一年六月一日から仙臺市茂ヶ市坂福徳ビル之二階を事務所として全購聯仙臺出張所を開設した。

**米買ふ米産地**

全國に比べると東北の産業組合事業はまだまだ活動の餘地が残されてゐるが、この數年間に目覺しい躍進を見せ、民間金融業者や中

縣別	同上の内外務を営むもの	
	組合總數	出資總額
宮城	一四六	一、三八八、六四三
福島	三三七	五、三三七、八五六
岩手	二二〇	二、〇〇一、七四五
青森	一四六	三、七六一、八二七
山形	二二八	三、七三三、九六三
秋田	一九九	二、二八五、二四四
計	一、〇五八	一七、三九九、二七七

小商工業者は次第にその壓迫を感じて来た。仙臺稅務監督局の調査によると、昭和九年に東北六縣下の購買組合が取扱つた米、雜品、魚具及び油類、食料品、肥料、衣服類等は一千七百四十三萬二千三百四十四圓に上り、昭和八年に比較し實に五百十五萬三千七百五十五圓の増加ぶりである。この増加比率は四割強となつてゐる。民間の中小商工業が驚くのも無理はない。販賣組合の取扱高は二千九百八十八萬八千八百七十圓で昭和八年と比較すれば六百四十四萬一千四百七十七圓の増加、二割五分の増加比率である。販賣組合の取扱つた品目も米を第一とし食料品、肥料、海産物、繭生絲、藥品等が大部分を占めてゐる。發展率の比較的低い信用組合の昭和九年の中における

縣別	貸高現在額		増減割合
	八年末	九年末	
宮城	七、五二一、七四五	八、一六九、〇六四	〇・〇八
福島	四〇、八七六、〇〇〇	四七、六〇四、〇〇〇	〇・〇八
岩手	一三、三三六、〇七六	一三、九〇一、四〇六	〇・〇四
青森	七、五二一、七四五	八、一六九、〇六四	〇・〇八
山形	七、五二一、七四五	八、一六九、〇六四	〇・〇八
秋田	七、五二一、七四五	八、一六九、〇六四	〇・〇八
計	一〇、〇〇〇	一〇、八〇〇	〇・〇八

る貸出高は五千六百五十八萬七千二百圓を算し、昭和八年に比較して三百六十七萬二千三百八十圓(口數四一、六八三)の増加を見た。産業組合の活動ぶりを米だけについて見るに、販賣組合の取扱高は流石に米産地秋田、山形宮城が壓倒的に多く、昭和九年の東北總取扱高一千九百六十一萬一千九百五十五圓の中で秋田縣の販賣組合は六百七十四萬五千六百十八圓の賣上げ高を獲得し、山形縣は第二位で三百五十五萬七千九百九十一圓、宮城縣は三百四十六萬七千九百五十五圓代の米を取扱つて第三位である。反對に購買組合が取扱つた飯米購入費も意外に多く、東北全體として昭和九年には購買組合を通じて四百六十七萬一千五百八十七圓を管外に支拂つてゐる。

東北の農民たちは前述べたやうに自分のつくつた上等米を管外に賣出し、逆に格安米を購入して飯米としてゐるのであるが、昭和九年に購買組合の取扱つた米代金の中には政府米十萬五千九百四十四石を納入した二百三十四萬四千八百圓の米代が含まれてゐる。米産地秋田山形、宮城の各縣が格安の飯米を多量に購入してゐる事實は注目すべきであらう。購買組合が最も多く飯米を購入してゐるのは秋田縣で、實に百七十八萬六千四百八十九圓(政府拂下米購入費六十七萬一千五百四十三圓を含む)第二位は山形縣の八十六萬六千三百五十六圓(政府米購入費六十萬五千二百四十五圓)第三位青森縣の六十一萬一千三百三十七圓(政府米購入費三十四萬九千九百九圓)宮城縣は第四位で五十九萬四千八百八十六圓(政府米購入費二十九萬二千七百七十九圓)の支拂となつてゐる。

農産物の販賣施設改善が農村の更生を圖る上に唯一に残された事業であることは、最近一般にも了解されて来た。東北を一丸として販賣施設の改善を圖らうとする機運が濃厚になつて来たことがその證左である。この機運が更に濃厚となり、改善が實現され、農村はもつと救はれるに違ひない。

### 米穀販賣統制強化

東北六縣の産米は東京市場に集る内地産米の過半数を占めてゐる。東北六縣が手を繋ぎ

一丸となつて販賣統制を行へば充分中央市場の相場を牽制することが出来る。遅滞ながら東北六縣は打つて一丸に販賣統制を斷行しようといふ建前から六縣の産業組合販賣協会の協同して米穀販賣統制協議會を開いた。その席上、各縣購買協会は横の連絡を緊密にして統制の強化を圖らうと申合せた。

一、毎年定期に各縣輪番で販賣協会の販賣協議會を開催すること。

一、開催地は山形、福島、宮城、岩手、青森、秋田の順番にすること。

一、協議會には全販賣東京事務所及び小樽、横濱の販賣所より主任係員を派遣出席せしめること。

を附帯事項として決議した。提案事項は次の如きものであつた。

一、東北六縣販賣協会の連絡協議施設に關する件

吾が東北六縣産米は東京出廻内地産米の過半数を占め極めて重要な位置にあり、その統制如何は中央市場の價格に重大なる關係を齎すが故に産米の自治的出荷の統制を圖り農家の要求する販賣價格の獲得を期するためには常に連絡を保ち業務の協調を必要とする。昭和九年の如き凶作時においては、相互格安米の供給を阻害ならしめる必要があるのみならず時局に鑑み一層強力なる運動を扶翼するために産米の事情を同じくする東北六縣を一丸とする團結の必要があるから毎年各縣順番に幹事を持廻り協議會を開催したい。

### 米穀自治管理法案に關する件

- 1 販賣擴張に關する件
- 2 全販賣内販賣組織改善に關する件
- 3 秋葉原運送店に關する件
- 4 消費團體に積極的販賣方策に關する件
- 5 全販賣より各縣に對する連絡に關する件

### 米管案反對

産業組合がその強力な販賣組織を利用し、横の連絡を保つて農産物販賣の統制強化を圖らうと申合せた直後、即ち昭和十一年四月二十日東北六縣米穀業者二千名は仙臺市西公園公會堂に會同して商標擁護を主張し、米穀自治管理法案の反對を叫び、法案阻止の氣勢を

あげた。全米聯から梅原會長、顧問渡邊鏡藏博士、幹事服部崎市氏その他來賓多數が出席し、空前の盛況を告げ警察側の物々しい警戒裡に次のやうな宣言、決議を可決した。

宣言 今や祖國日本は開關以來の一大苦悶に達せり。これが解決の方法にして一歩誤らんか邦家の前途海に深憂に堪へず、廣田内閣は組閣日尙淺きに拘らず、卒然として米穀自治管理法案を特別議會に提出せんとす。想ふに非常時國家を擔當するものは先づ天下國家の公を乗り國論の統一を圖らざるべからず、曩に同法案の世に發表せらるゝや、俄然國論沸騰し(中略)たり。しかして該案の第六十七議會において不成立となりたるは、實に審議未了の名の下に否決せられたりといふも過言にあらず、こゝにおいてか後の政府當局たるもの職然とし内閣反省すべきに拘らず、敢て強行提出せんとは、何ぞその無謀の甚しき、若しそれ活眼を以て國家の全局を達觀せんか禍根は局部にあらずして正に全局面にあり、深憂實にこゝに存す(中略)然も同法案の影響する所は豈に一米商のみならず多數農民と消費大衆を擧げて惡法下の犧牲者たらしめ、一面産業組合の跋扈跳梁を激成して國家經濟機構を益々攪亂するのみ。(中略)宜しく旗鼓堂々荆棘の道を勇往突進し、惡法案の將來性を完全に撃滅せんことを期す、右敢て宣す。

決議 一、米穀自治管理法案に對し絕對反對す二、商標擁護運動を擴大強化し飽迄目的の貫徹を期す。

### 帝農販賣指導

帝國農會は昭和十一年四月東京市丸ノ内帝

國農會事務所に全國道府縣農會幹事主任技師を招集、その席上、農産物の生産販賣施設改善は刻下の急務であるとして、農産物生産販賣指の綜合導方針を決定することになり、次の如く決議して昭和十一年中に實現を期するを申合せた。

一、農産物生産販賣の綜合指導方法に關する件

- 1 帝國農會は生産販賣綜合指導の必要あることを町村農會技術員に徹底せしめるために農業經營販賣指導に關する調査を基礎として適當なる印刷物を作成して配布する。
- 2 道府縣農會は適當の機會に町村農會技術員に生産販賣綜合指導に關する講習會や協議會を開催すること。
- 3 この講習會には帝國農會からつとめて適當な職員を派遣して、その主旨徹底方につき協力すること。
- 4 帝國農會はこの事業に對して昭和十二年度には相當の豫算を計上すること。
- 5 生産販賣綜合指導の徹底を圖るためには町村農會技術員の活動に俟つことが多からこれに普及宣傳に關する各種の施設に對して農林省が助成の途を講ずるやう帝國農會から要望すること。

反産運動のその後

東北地方の産業組合主義運動に先づ第一に脅威を感じたのは米屋と肥料商である。今日まで農村と特殊な取引慣行を續けて來た米穀商と肥料商が長い間かゝつて築き上げて來た地盤が崩れかけて來たからである。米屋と肥

料商はこの問題を民間商工業者全體の問題と結びつけ神聖なる商權を破壊するものであると、昭和八年民間中小商工業者を全國的に結合し、日本商工會議所を中心として全國各府縣の商工會議所に檄を飛ばし、商工業各種團體を説き全日本商權擁護聯盟を組織した。政府が農村救済の一方的手段として産業組合の擴大強化を圖らんとしてゐることは全國の中小商工業を激化させ、遂に商權擁護のために産業組合主義運動を全國的な運動とし、産業組合に對する政府の不當なる保護助長政策を撤廢して民間商工業者と同一線上に立たせて自由競争せしめるべきであるとして眞剣な活動を開始した。

商權擁護聯盟の主張

最近購買組合及び販賣組合の不當な進出に依つて中小商工業者の蒙る打撃は甚大であるが、しかもこの商權擁護が政府の産業組合に對する過度の保護助長政策に胚胎することは斷じて默過出來ない所である。現今産業組合に對して政府は多額の補助獎勵金を交付し、巨額の低利資金を融通してゐるほか各種の租税公課を免除し、しかも官憲自らが産業組合の事業に關與してその經營助成に任じ殆どあらゆる便宜と特典とを與へてゐるに反し民間中小商工業者はかくの如く過大な保護の下に立つ購買組合、販賣組合に壓迫されて商權の脅威を感じ廢業或は倒産するものが續出する有様である。吾人は極力過大な不當なる購買組合販賣組合保護助長の特典を撤廢すると共に中小商工業者に對する重大なる壓迫を除き組合と營業者との均等公

平なる待遇を要求せんとするものである。かくて各府縣商工會議所を中心に聯盟支部を設け運動の効果をあげる方針の下に昭和八年十一月運動要綱を次のやうに定めいよいよ實行に入つた。なほ石巻市では昭和十一年四月十九日反産運動を旗幟に商權擁護青年會を結成した。

一、本聯盟は日本商工會議所及び内地の各商工會議所を中心として利害關係を同じくする各種の商工業團體を糾合して全國的な組織とすること。

二、日本商工會議所を中心として、これに全國的重要關係商工業團體を糾合して中央本部を組織し、その事務所を日本商工會議所内に置く。

三、各府縣を單位とし各商工會議所を中心として各府縣商工業團體を糾合して地方支部を組織し、その事務所を府縣廳の所在地商工會議所内に置く。

四、本運動の繼續的實行方法については順次攻究の上で改め中央本部へ通報すること。

産業組合の米取扱高

縣別	購買組合		販賣組合	
	取扱高	取扱高	取扱高	取扱高
宮城	五、四八六	一、三九四	一、三九四	三、四六七
福島	四、四六七	一、三九四	一、三九四	三、四六七
岩手	三、七五二	一、三九四	一、三九四	三、四六七
青森	六、二二七	一、三九四	一、三九四	三、四六七
山形	八、六四九	一、三九四	一、三九四	三、四六七
秋田	一、七六八	一、三九四	一、三九四	三、四六七
計	四、一七二	一、三九四	一、三九四	三、四六七

東北六縣の可耕地

縣別	田	畑	田畑合計	可耕地に對する既耕地の割合
宮城	三、八〇〇	四、八五〇	八、六五〇	〇・八九
福島	一、八〇〇	一、〇〇〇	二、八〇〇	〇・八四
岩手	一、七〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	〇・七三
青森	一、七〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	〇・七三
山形	一、七〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	〇・七三
秋田	一、七〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	〇・七三
計	一、七〇〇	一、〇〇〇	二、七〇〇	〇・七三

東北の耕地面積

縣別	總耕地面積	既耕地面積	割合
宮城	一〇、〇三三	八、六五〇	〇・八六
福島	五、五五五	四、八〇〇	〇・八六
岩手	六、二二七	四、五〇〇	〇・七二
青森	七、四〇〇	五、三〇〇	〇・七二
山形	七、四〇〇	五、三〇〇	〇・七二
秋田	七、四〇〇	五、三〇〇	〇・七二
計	四、一七二	三、〇〇〇	〇・七二

郷倉管理状況

縣別	總倉數	貯蓄量	貯蓄率
宮城	一、二六四	一、〇三三	〇・八二
福島	一、一三三	一、〇三三	〇・九一
岩手	一、〇三三	一、〇三三	〇・九一
青森	一、〇三三	一、〇三三	〇・九一
山形	一、〇三三	一、〇三三	〇・九一
秋田	一、〇三三	一、〇三三	〇・九一
計	六、〇三三	五、〇三三	〇・八四

小作人組合及び地主組合

縣別	小作人組合	地主組合
宮城	一、〇三三	一、〇三三
福島	一、〇三三	一、〇三三
岩手	一、〇三三	一、〇三三
青森	一、〇三三	一、〇三三
山形	一、〇三三	一、〇三三
秋田	一、〇三三	一、〇三三
計	六、〇三三	六、〇三三

縣別	總面積	耕地	山林	その他
宮城	七、三三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
福島	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
岩手	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
青森	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
山形	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
秋田	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三	一、〇三三
計	六、〇三三	六、〇三三	六、〇三三	六、〇三三

同組合員 1,155 51 261 493 1,971 3,613  
 協同組合 1,155 51 261 493 1,971 3,613  
 同組合員 3,333 1,666 2,666 4,333 8,666 13,333  
 二、括弧内数字ハ青年部、少年部及婦人部トシ組合員数及組合員数中ニハ之ヲ包含セズ  
 三、地主組合中ニハ土地會社ヲ含ム

負債整理組合と負債額 (昭和十年)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
組合員	100	100	100	100	100	100	600	600
負債總額	100	100	100	100	100	100	600	600

東北地方肥料消費高 (昭和十年)

自作農創設維持成績 (昭和九年三月末現在)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
貨付金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	600,000	600,000

水田經營

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
昭和十年	100	100	100	100	100	100	600	600
平均反當收穫	100	100	100	100	100	100	600	600

水稻作付反別 (昭和十年)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
作付反別	100	100	100	100	100	100	600	600
生産高	100	100	100	100	100	100	600	600

米の生産高及び販賣數量 (昭和十年)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
生産高	100	100	100	100	100	100	600	600
販賣數量	100	100	100	100	100	100	600	600

農業生産額 (昭和十年)

農村

農業倉庫及び收容力 (昭和十年末現在)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
倉庫	100	100	100	100	100	100	600	600
收容力	100	100	100	100	100	100	600	600

農家戸數 (昭和十年三月末)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
農家戸數	100	100	100	100	100	100	600	600

農家一戸當

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
農家一戸當	100	100	100	100	100	100	600	600

綠肥作付反別生産高 (昭和十年末現在)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
綠肥作付反別	100	100	100	100	100	100	600	600

東北の小作料 (昭和五年より最近五ヶ年間の平均)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
小作料	100	100	100	100	100	100	600	600

# 東北地方の大麥

東北地方の畑作利用も他の地方に比較すれば随分おくれである。畑作の利用度の劣つてゐる點は水田ほどではないが、しかし農家經濟の更生策を立てる上において考へなければならぬところであらう。最近東北地方の各縣でもこゝに着目して畑地利用、經營の合理化について随分力を入れ出した。近い將來には面目が改るであらう。何故東北地方の畑地利用が劣つてゐるかといへば、その原因は麥作と、緑肥の利用耕作が少ないためにほかならない。こゝでも冬作に至難な東北地方の氣候が耕地の利用を妨げてゐるのをしみ、嘆ぜられるのである。それから土地改良の不十分であることも間接的な原因に數へられてゐるが、それは次第に改善されつゝある。

岩手、福島、山形に作付面積が著しく増加して行く。昭和十年の反當收穫高は宮城縣が最も成績よく、二石六斗三升九合、次が福島縣の二石二斗四升八合、岩手縣は第三位で一石八斗七升二合に落ちてゐる。東北平均の反當收穫高は二石一斗八升九合で、全國平均（二石一斗三升）と比較すれば五升九合の増收である。たゞこれらの收穫高は水田裏作から得たものではなく、本格的な畑作物としてあげた收穫であるから、麥を中心としての畑地利用が將來の經營合理化と相俟つて進められなければならぬ。

昭和三十年の大麥縣別收穫高は、宮城四十萬八千二百五十九石、福島三十三萬二千八百五十石、岩手三十二萬百十四石、青森二萬一千六百三十六石、山形二萬八千八百八十六石、秋田三萬八千五百八十八石となつてゐる。これらの大部分は農家の重要な食料品であり、管外に移出されるものは、生産高の二割を出でない。米のくんだりで書いた東北地方産米の管外移出量が驚異的な數字を示すといつたのは、かやうに大麥の自家用が多いため、大麥あるがために思ひきつて米を移出することが出来るのであるといへるのである。岩手、青森などの馬産地では馬糧に供されるのも莫大である。

## 東北地方大麥の生産高 (農林省調査)

縣別	作付反別		收穫高		反當收穫高	
	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年
宮城	一五、四四五・一	一五、四九八・八	一四、七	三三、三六	三、八六	二、六四
福島	一四、四四・九	一四、八五・五	三三、六	三三、八五〇	三、二二	三、三〇
岩手	一六、五八・六	一七、〇九・一	一八、八五	二六、九四	一、七三	一、八三
青森	一、三三・七	一、四三・二	一、一五	二、六六	一、三二	一、五〇
山形	一、六五・五	一、七七・四	一、五九	二、四四	一、四六	一、六六
秋田	二、五・六	三、六・〇	三、〇四	三、八八	一、〇三	一、〇三
東北計	四九、六五・四	五〇、九三・〇	一、二六・六	四九、六八・二	一、七四・九	一、八三・九
全國計	三三、七五・一	三三、二五・八	一、〇三・七	六七、六三・八	二、八七・七	二、八七・七

## 小麥の實績

小麥の作付反別も岩手縣が歴史的に多く一萬四千二百四十九町一反歩を占めてゐる。次は福島縣の一萬五百八十八町一反歩で、東北地方の作付總面積は四萬一千三百三十五町一反歩である。作付反別は各縣とも増加の傾向を辿り、昭和八年と比較し福島縣は最も著しく一千三百九十七町一反歩を新に増し、次いで岩手、山形、青森、宮城、秋田の順位で増加してゐる。東北全體としてはこの二ヶ年間に二千八百四十三町歩の増加を見てゐる。收穫高においても岩手縣が筆頭第一で、昭和十年の收穫量は十七萬七千四百二十一石、福島縣十六萬二千三百三十六石、宮城縣十一萬四千六百六十石となつてゐる。山形二萬二千五百二十五石、青森七萬五千四百七十八石、秋田七千四百八十四石等東北地方の收穫高合計は五十五萬九千四百四十四石、これを昭和八年と比較して十四萬四千四百六十石の増加である。反當收穫高は宮城縣が最高の一石七斗四升五合、福島縣の一石五斗四升五合が次位、岩手縣は第三位で一石二斗四升五合である。昭和十年の東北平均反當收穫高は一石三斗五升三合で全國平均（一石四斗五升六合）に比し一斗三合も少ない。東北地方で生産する小麥の販賣高は極めて少く、大部分が自家用に供され、味噌、醬油の原料などになるが、最近各地で農村工業が計畫され、従つて小麥の用途も

次第に開拓され、作付面積もますます増加して行くことであらう。

## 小麥の作付状況 (農林省調査)

縣別	作付反別		收穫高		反當收穫高	
	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年
宮城	六、三〇・七	六、四四・八	二、四二	六、〇九	一、四一	一、四一
福島	九、一一・一	一〇、〇八・八	二、三三	九、二二	一、二二	一、二二
岩手	一三、七六・二	一四、二四・九	四、八二	一四、二二	一、七三	一、七三
青森	六、七五・〇	七、〇八・八	三、〇八	六、八九	一、〇三	一、〇三
山形	一、四四・三	一、二四・四	三、〇七	一、四四	一、〇三	一、〇三
秋田	一、〇九・七	一、一五・五	二、九七	一、〇九	一、〇三	一、〇三
東北計	三三、四九・四	三三、五三・四	一、二六・六	四九、六八・二	一、七四・九	一、八三・九
全國計	六、四・九	六、三・二	一、五七	一、二六	一、〇三	一、〇三

縣別	裸麥作付反別		收穫高		反當收穫高	
	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年
宮城	一、七九	三、九四	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
福島	六、九二	一、五三	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
岩手	七、九二	三、三三	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
青森	三、二一	〇、四六	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
山形	五、八	〇、四六	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
秋田	三、六	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
東北計	一、〇六・〇	一、七〇・六	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二
全國計	四、四・〇	六、一・〇	一、六二	一、六二	一、六二	一、六二

縣別	稗作付反別		收穫高		反當收穫高	
	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年	昭和八年	昭和十年
宮城	一、四四・一	一、五〇	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
福島	一、四四・一	一、五〇	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
岩手	一、五八・九	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
青森	五、八八・九	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
山形	四、八	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
秋田	三、七四・三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
東北計	三、七四・三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
全國計	三、七四・三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三

### 畑地利用の種々

**甘藍と南瓜** 雪害で全滅した麦作畑地を如何に利用すべきかは重大な問題となつてゐる。これが利用法について盛岡高等農林學校實驗試驗場にきくと早生甘藍と早生南瓜栽培は左記の如き有利な條件を具備してゐる。

**【早生甘藍】** 今回のやうな場合のみならず、早春の空畑地期間を利用して収入をあはらせる。而も生産時期は六月中旬頃のため早生甘藍が丁度品切れとなつてゐるので需要多く市價が高い。なほこの時期は病蟲につかれやうな處がないので全部結球するものと見られる。實驗の結果によると反當収入は百圓(一畝二畝として)内生産費は四十圓(肥料、薬劑、育苗施設その他)播種は三月一日(温床)移植は同二十五日、定植は四月二十五日となつてゐるが、縣南地方では播種四月十日(温床)移植同三十日、定植五月十日となつて、おくれでも氣候の関係上六月中旬から七月上旬頃同時に生産される品種は結球が早くても結球率百パーセントの優良な「ブルデン」エーカー種で經濟品種として奨励してゐる。早春の畑作物として収益を確保に多くあはせるものは目下之に比較するものがない。

**【早生西洋南瓜】** 麦不作の結果食料缺乏を補ふ代用食として最適なものである。收穫期は七月下旬頃であるが、極めて生産費が安く反當十八圓で収入は三十五圓(收穫高一、二〇〇疍から一、五〇〇疍)これを馬鈴薯と比較して見ると、生産費(反當)十八圓に對して馬鈴薯が品不足のため高騰して反當分種薯二十五圓である關係上、生産費三十圓となる折角生産しても馬鈴薯は四十五圓、南瓜は三十圓程度のところである。しかし量の點においては南瓜の方が遙かに多く、自家用食する場合においては馬鈴薯より有利となる。唯問題は營養價がいづれに多いかである。早生西洋南瓜として高農一號より七號までを優良品種として奨励してゐる。

**秋田縣の小麥適種** 秋田縣農事試驗場では秋田縣における小麥の適種を發見しようとして新

潟縣その他から種々品種を集め大久保試驗地で試験中であつたが、農林十號、北陸十一號同十三號の三品種は從來の本縣獎勵品種である農林二號その他より耐病性收量その他の點においてまさつてゐることが判り、今回右三品種を縣の獎勵品種に決定栽培せしめることとなつた。新獎勵品種は何れも丈が短く收量も頗る多く、殊に北陸十一號、同十三號の兩品種は雪腐れ病の心配が絶対にないと秋田縣農事試驗場では語つてゐる。大久保試驗地における農林二號との比較試験における反當り收量程長の比較結果は左の如くである。

農林二號	八・三	〇・九	四一石
農林十號	五・六	九	一・五
農林二號	八・二	一	一・三
北陸十一號	八・一	一	二・二
北陸十三號	七・四	一	二・〇

反當收量 (以上昭和七年より九年迄の平均)

**畑の畦間に小堰** 岩手縣瀧澤村水上澤園の篤農家角掛治郎氏は十一月下旬から四月中旬まで殆ど半ヶ年間雪に埋められてゐる同氏所有の畑地一町歩を如何に利用するかについて苦心の結果、畑地附近を流れてゐる一里程上流に湧口のある澤水を利用して畑の周囲、畦の間に小堰を掘りこれに溝々と澤水を流入する獨特の小麥栽培法を案出した。この方法によると、附近には積雪四尺あるにも拘らずこの畑地だけは水溜のため積雪せず麥は寒中でもグングン伸びて行くといふのである。水

は降雪前より五月初まで流入してその後は水を抜いて自然に生育せしめると普通より一ヶ月早く收穫し、而も倍の收穫約三石を上げることに成功したのである。

**畑地新作物栽培** 青森縣農事試驗場では、凶作に疲弊した農家のために収益のある新作物の栽培を奨励しようとして研究中のところ、煙草、阿片、薄荷、生姜、百合、除蟲菊などが好適と決定。これを農家に栽培せしむる方針で、煙草は大蔵省へ、阿片は内務省へ、それぞれ栽培許可方を申請した。

**蠶下し薬「セメン」の原料「みぶよもぎ」** はソヴェト聯邦トルキスタンの特産であるが、昭和十年北海道農事試驗場で栽培に成功。その後地質、氣温、緯度から見て岩手縣もつとも適地と判明、岩手縣衛生課で栽培を奨励することになつた。この「みぶよもぎ」は「よもぎ」の一種で、高さ二尺五寸乃至三尺、從來はソヴェトが栽培に絶対秘密主義をとつてゐたため植物學上においても詳にでなかつた。これは夏七、八月頃トルキスタン地方で粗製されて英國に亘り、それが精製されて世界に擴まつてゐた。我國ではセメン原料として精製洋を英國から一斤三圓で(總額五、六百萬圓)購入してゐたものである。

**名取洋菜指導團** 宮城縣名取郡玉浦村聯合農家組合では數年前から西洋蔬菜の栽培を開始そのうち試験的に栽培したセルリ、カリワラワーが反當三百五十圓の収益をあげ、全

く驚異的成績を収めたので昭和十一年から名取洋菜指導團を組織し、大いに栽培法を研究し栽培種目を増し十一種の洋菜を栽培、將來は輸出も行ふ計畫で、四月上旬組合の木津谷理事は神戸の貿易商と懇談、諒解を得たので組合員は非常な意氣込で精進してゐる。

**岩手縣のケン栽培** 岩手縣では阿片の原料となつてゐる白花ケンの栽培を昭和九年から開始した。九年、十年と冷害に祟られ成績は思はずなかつたが、昭和十一年には是非將來の見透しをつけやうと内務省に承認を求めた結果、六十町歩の栽培を許された。同縣ではとりあへず縣下各市町村農會に極力栽培を奨励してゐる、ケンは大陸的氣候に適し、滿洲國、熱河省などは好適の地である。四月に播種して七月に收穫できるので、その後には大根や蕪草などを播くことができる。

**篤農家の試み** 秋田縣大館町の篤農家櫻庭儀助氏は中學校裏の畑約三町歩ばかりを一人で耕してゐるが、肥料は一切買はない、畑にくれる肥料は塵、芥ばかりのものでいらす、大館の町ちうからこれを掻集めては畑に入れる。塵芥中の鐵屑や茶碗かけが寒氣や熱を吸収するから冷害をうけず、昨年の冷害でさへこゝだけは安らかに畑作物豊年の實を組んだ。田は一反歩三百圓も出さねば買へぬが、畑はその十分の一で足りる。しかも田の收穫は今日殆どその限度に來てゐるが、畑はまだまだ原始状態にある。都會地の郊外であれば

塵芥肥料は無盡蔵であり、山間地帯であつても山の小柴を切つて埋ておけばそれが腐つて行つて結構肥料になり、これが母體たる畑の地力を増進する。今日の化學肥料は母體の榮養とはならず、悉くそのまゝ作物に吸収されるやうになつてゐるから、冷害には他愛もなく凶作を食はねばならぬ、と櫻庭氏大衆的經營の宣傳にあつてゐる。

**ラミイ栽培奨励** 宮城縣遠田郡農會では管内農村の畑地利用のかたはら凶作對策の一助としてラミイ栽培を奨励、同郡籠嶽、涌谷の兩町村に種苗二十七萬六千貫を互理郡農會より購入、昭和十一年三月二十日これを配給した。ラミイ加工品は優良カーテン、シャツ、ズボンとして用ひられ、粗悪品は専らロープ類の製造原料となるため全然失敗の懸念なく特に陸軍糧秣廠においてはこれが購入と奨励に馬力をかけてゐる。

**山葵で部落更生** 宮城縣刈田郡福岡村の三部落三十戸住民はもつとも文化におくれれた製炭を專業として細い煙を立てゝゐるが、部落高橋留三郎氏の提唱と同村駐在土井技師の指導により滾々として盡くるとなき出口の湧水を利用して五丁歩の山葵畑を經營する計畫を樹て、昭和十年來山葵畑の開墾に着手、十一年も雪解を待つて繼續開墾に着手した。山葵栽培の生命たる清水の温度は攝氏九度乃至十五度たることを要し、更に水量の豊富が條件であるが、同部落出口の湧水は好條件を

具備し縣下第一の適地の折紙をつけられ、その將來を期待されてゐる。部落民は今冬竣功した共同作業場を加工場にあてゝ加工し蔵王山麓名産山葵漬として廣く全國に出荷する意氣込みで、五町歩の山葵畑建設計畫は着々實行の緒につき山葵による部落更生の日も近いと見られる。

**開墾可能地調査** 昭和十一年の臨時議會に提出された東北地方國營開墾建議案は、秋田縣選出代議士土田莊助氏の調査した東北地方の集團開墾可能地(五百町歩以上)實數を基礎材料として作製されたもので、これが導火線となり農林省は集團農耕地開發事業獎勵計畫を樹し、昭和十一年度の産業獎勵費から二十四萬圓を東北六縣に交付することになつたのである。農林省は更に開墾地に對し昭和十二年度から三ヶ年間に十九萬圓の補助金を支出する計畫を發表し、行詰つた東北の農業に大きな光明を與へた。土田代議士の調査によれば東北地方には五百町歩以上の集團開墾可能地が七十八ヶ所あり、この總面積は八萬二千二百八十二町歩に亘つてゐる。この中、水田可能地は四萬五千七百九十九町歩、畑地の開墾可能地は四萬一千七百三十三町歩で水源の種類は河川湖水取入、溜池、揚水などで縣別にこの開墾可能地面積を見ると次の如くである。

宮城 水田 四、〇〇〇	畑地 三、〇〇〇	福島 水田 四、〇〇〇	畑地 二、〇〇〇
岩手 水田 一、〇〇〇	畑地 六、〇〇〇	青森 水田 二、〇〇〇	畑地 五、〇〇〇
山形 水田 二、〇〇〇	畑地 三、〇〇〇	秋田 水田 三、〇〇〇	畑地 三、〇〇〇

# 農家經濟を見る

## 農民のなりはひ

米が安く、藪相場に芽が出なければ農家は現金収入に期待ができない。目星しい副業はなし、米以外頼るべき農作物はなしといった東北農民には、なんとも思案の立てやうがないのである。昭和五年、農産物下落の大方を食つて以来、農家の収入は目立って減少して来た。従つて購買力が減退するのは當然である。東北農村がこんなに急激に困窮を訴へ出したのはおそらく人口過剰の故たうとして、政府は農村人口の移流策を樹て海外移住を奨励し、新天地開拓の宣傳につとめ、これが今日政府の重要な農村対策の一つとなつてゐるが、一時に大きな効果は期待されない。海外に去る移民数は東北六縣最近の調査によると、一ヶ年一千五百名から一千六百名の間である、殖える人口はまた一ヶ年に十一萬四千にも上つてゐる。即ち移住民の幾倍かの人口が農村の内部で現に殖えてゐる。つまり政府の対策は焼石に水の結果を見つゝある。政府はまた副業奨励や、土木事業を起して臨時収入を與へ、側面から農家經濟を緩和しよう

### 農家の財産、現金、負債、純財産

としたが、これも一時的なもので永久的に救はれるものではなかつた。かくして農家は生活費を極度に切下げていくことのほかに方法がない。什器費を抹殺し、被服費をけづり、電燈を消し、舊時代のランプを復活して、文化の進みとはおおよそ反對の生活進路をとりつゝ、經費の節減につとめ、冠婚、葬祭費や交際費を切詰め、娯樂を棄て、ひたすらに家計簿の收支均衡を圖らうとしてゐる。農家の生活改善問題は全般的な輿論にまで進んで来たが、農家は依然として赤字に塗られたその日を送つてゐる。自力で起上らうとしてゐるが容易に起上れない。周囲の力を適度に貸してやらないことにはなんともできない。農村は經濟全般が明るく上昇し農産物價格がもつと引上げられ、社會全般の景氣がよくなることを待たなくてはならない。

こゝに米の産地宮城、山形、秋田の三縣につき純農村の農家經濟調査表中から最も新しい數字を集めて農村の呼吸状態を打診して見よう。

### その一

#### 農家純財産

まづ農家の財産調べから入つて行かう。ここに選ばれた自作農では仙北米の産地秋田縣が斷然裕福である。庄内米の産地山形縣が第二位、本石米を誇る宮城縣は第三位となつてゐる。これを全國平均の自作農純財産九千八百八十八圓二十六錢と比較すれば、東北第一の富裕者秋田縣の自作農も九百五十八圓二十六錢だけ少く、宮城縣に至つては實に四千九百十五圓二錢も引離されてゐる。自作農では大農經營の特質が現はれ、全國の平均よりも上位につき、三縣ともその純財産は多く東北平均で六千四百圓十八錢を示し、全國平均の四千八百二十二圓四十六錢より一千五百七十七圓餘多く、米作農家の本領を發揮してゐる。小作農も同様東北平均一戸當の純財産は四千五百四十四圓十九錢となつてゐるから、全國平均一戸當の純財産一千九百三十四圓六十八錢より實に二千五百七十九圓五十一錢だけ多くなつてゐるのは意外とせねばならぬ。しかしこれは東北地方農家一戸當の耕地反別がその六農家純益の末尾に示す通り全國の農家一戸當に比較して三反三畝二十五歩だけ多くなつてをり、これを財産として含まれてゐるからである。

農家別	自作農	自小作農	小作農	宮、山、秋三縣平均	全國平均
農業財産	1,000.00	600.00	400.00	700.00	500.00
農業用以外財産	500.00	300.00	200.00	400.00	300.00
現金及これに準ずるもの	200.00	100.00	50.00	150.00	100.00
負債	300.00	200.00	100.00	200.00	150.00
純財産	1,400.00	800.00	550.00	1,050.00	750.00

農家別	自作農	自小作農	小作農	宮、山、秋三縣平均	全國平均
農業収入	1,200.00	800.00	500.00	1,000.00	700.00
副業収入	300.00	200.00	100.00	200.00	150.00
雑収入	100.00	50.00	20.00	70.00	50.00
支出	1,000.00	700.00	400.00	800.00	600.00
純収入	500.00	300.00	200.00	470.00	300.00

#### 農業収入

農業用財産は土地、土地改良設備、建物、種苗、肥料、飼料その他の生産原料又は材料などを指し、これらの財産中には便宜上負債をも含み、農業用以外の財産は兼業用、家事用財産で兼業用財産は兼業のために使用する土地をはじめ土地改良設備、建物、器具、機械、動植物及び現物などを指し、家事用財産は兼業用兼業用以外の土地建物及び現物を指し、家具、家財のごときものは含まれてゐない。正確にいへば現金およびこれに準ずるものも農業財産に含むのが至當であるが、これは兼業用の財産であるか否かを決定することが困難なので便宜上これを除外した。

農業収入では米産地東北の農家が全國の農家一戸當平均収入よりも遙かに多く、稲作に全生命を注いでゐる東北地方の宮城、山形、秋田の各縣農家は流石に米を資金化することが多い。三縣の平均を見るに自作農は米の全生産額中實に七割九分一厘までを資金化し自作農は五割九分六厘を、小作農は四割二分五厘までを資金化してゐる。しかしこの數字

には自家用飯米を節約して販賣してゐるといふ深刻な事情のひそむことを見逃がしてはならない。また緑肥を除いては完全な裏作の効果なく、多角農業にも期待できず、土地の利用が氣候、風土の關係から極度に制限されてゐるために、米以外の農業収入、雑穀園藝農産物、或は農家の重要副業たる養蠶、養畜などが全國の平均収入よりも遙かに少ないことは、いかに宿命であつても堪へられない苦痛である。たゞ東北の農家は米一本槍の農業によつて耕種収入の合計が全國農家一戸當収入よりも多く、雑穀収入や園藝農産物収入の不足を補つてゐるかに見えるのである。

種 耕	自作農		自小作農		小作農		宮、山、秋三縣平均		全國平均	
	計	不販賣	計	不販賣	計	不販賣	計	不販賣	計	不販賣
稻作収入	4,410.00	1,730.00	2,680.00	1,040.00	1,390.00	530.00	2,380.00	380.00	1,730.00	1,040.00
雑穀収入	1,730.00	750.00	840.00	380.00	550.00	240.00	1,190.00	800.00	350.00	240.00
副業収入	510.00	230.00	260.00	110.00	160.00	70.00	840.00	600.00	250.00	160.00
雑収入	170.00	70.00	80.00	30.00	100.00	40.00	380.00	280.00	110.00	80.00
計	6,820.00	2,780.00	4,460.00	1,560.00	2,600.00	980.00	5,090.00	3,520.00	2,390.00	1,520.00
支出	5,150.00	2,100.00	3,050.00	1,180.00	1,870.00	730.00	3,820.00	2,730.00	1,800.00	1,180.00
純収入	1,670.00	680.00	1,410.00	380.00	730.00	250.00	1,270.00	720.00	590.00	340.00

Table of agricultural income and expenses for Hebei province, categorized by type of income (e.g., crop, livestock, forestry) and region (e.g., Miyagi, Yamagata, Iwate).

農業所得

農業収入は農家が一年間の自家農業経営によつて得た一切の収入で、この年度の耕種、養蚕、養畜はその生産物加工によつて得た収入と自家生産物の加工に當つてその不足を補ふために他から原料を得て行ふ程度の加工又は農業財産の一次的農業以外の利用によつて得た収入(牛、馬、農具などの賃貸料をも含む)である。但し土地、建物、農具などの賃却によつて得た収入は含まない。

農業總収入から農業經營費を差引いた農業純益を見るとこれも東北地方は著しく少額になつてゐる。全国の一戸當平均と比較し、宮城、山形、秋田の三縣の一戸當平均額がこれを物語つてゐる。すなはち自作農では百六十五圓三十八錢、自小作農では百三十四圓四十七錢、小作農では百三圓五十錢の差が見られる。これも勿論東北が泣く／＼甘受して來た冷害や風水害によつてその都度農業一般に大きな被害を受け、農作物(主として米)の減

收を來した影響なのである。これでは宮城縣の小作農が最も大きな打撃を受けてゐるが、東北地方は他の地方と比較し、土地の利用度が低く二毛作、三毛作の條件に適當しないことが決定的な痛手である。農業以外の所得、農家の總所得(統計表参照)においても同様な結論が下される。

Main table of agricultural income and expenses, categorized by farmer type (self-cultivating, small tenant, tenant) and region (Miyagi, Yamagata, Iwate).

肥料代金

肥料代金は農家支出の最も大きな額となつてゐる。九百萬石の米を收穫するために、東北の農民が過去において注ぎ込んだ肥料代金は莫大な借金となつてなほ残つてゐる。農民はこの借金のために苦しむ抜いてゐる。農村がかういふ状態になつては肥料商も従前のやうに右から左へと新規に肥料は貸してくれない。肥料が貸されぬわで、農民は肥料なしで耕作はできない。農民はいよ／＼ますます受身の立場に立たされるのである。

東北の農家一戸當肥料消費量は一見全國平均に右から左へと新規に肥料は貸してくれない。肥料が貸されぬわで、農民は肥料なしで耕作はできない。農民はいよ／＼ますます受身の立場に立たされるのである。



均表と大差はないやうであるが、これを肥料と金肥に分けて見ると初めて農村の眞の姿が映像されてくる。殊に東北地方の金肥購入量は最近目立つて減少して来た。金がなくて金肥など購はれないのである。各縣ではこの事情を察して自給肥料の奨励に努めてゐるがこれとてやうやく全国の平均と肩をならべるにすぎない。施肥の貧弱さ加減が了解される。施肥料が少ないのは農業組織が單純で、作物の種類が少く粗放だからであるが、結局は金がないからである。施肥料の少ないことは、直接農業生産力に影響することは農民もよく承知してゐるが、どうにもならないのである。農村には肥料商を兼ねた米穀商や、現物を提供して農産物を購入する現物金融業者が根強く關係を結び、しかもこの勢力が壓倒的である。従つて農業生産物の販賣條件が甚しく悪い。この事實が肥料の購入状況にはつきりと現れてゐる。

東北地方農家の購入肥料は大部が肥料商を兼ねた米穀業者や、製絲業者から提供される。農産物及び繭供給を條件とした掛賣の形式で現物を與へられ、現金で購入する肥料は極めて少ない。政府から融通される肥料資金も、産業組合を経由するものは別として、農工銀行や勸銀支店經由の手もあるが、これは貸出成績が悪く、一般には行き渡りかねる。有力な擔保もなく、よしあるにしても評價價格が安く、折角の肥料資金も今日の大部分の

農民は融通を受けることが出来ない。依然として不合理な高利貸資本や商業資本に泣きついて肥料を買つてゐるのである。産業組合はこの不合理な肥料購買の方法を訂正することを大眼目としてその組織を擴充し、産組肥料の配給に力をそゝいでゐるが、いまだ充分とはいひ難い。しかもなほかつ貧農が不合理な肥料商人を利用する理由は、これら農民は肥料商と永年の取引關係がある。今俄に取引を中止したら最後、火のつくやうな貸金の請求を受ける、これが怖い。産業組合を利用するのはいくが、産組はお役所式で固窮屈だ。それに支拂期日が来ても頼めば待つてもくれない。しかしこの取引は際限なく續かない。貸金が多くなり回収困難と見れば、もう貸してはくれない。こんな状態の連續である。肥料の買へない時代、施肥不可能の危機を農家は恐

肥料購入額

昭和九年の東北六縣肥料購入額は二千三百二十三萬圓に上つてゐる。肥料商その他から個人が購入した額は一千四百七十六萬五千圓、産業組合の手で供給を受けたものは僅かに五百九十三萬八千圓に過ぎない。個人取引によるもの、及び産業組合を経由して購入した肥料の販賣肥料全體に對する割合は全國の平均と同じで、個人取引が六割、産業組合經由が二割となつてゐる。秋田縣は産組肥料の普及最も旺盛で五割を占め、岩手、福島が最も成績が悪い。従つてこの二縣は不合理金融の犠牲になり、個人取引で肥料を購入したものが比較的多く、岩手縣の如きは八割までが個人取引である。

東北六縣肥料購入額 (昭和九年) (農林省調査)

Table with columns for county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北六縣計, 全國) and rows for fertilizer purchase amount (千圓) and percentage of total purchase.

肥料消費量

農林省の昭和九年肥料要覽によれば東北地方の金肥消費量は平均反當り二圓五十五錢で

肥料消費量 (農林省肥料要覽)

Table showing fertilizer consumption per hectare for various counties (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北平均, 全國平均) in 1934.

昭和九年一戸當消費量

Table showing fertilizer consumption per household for various counties (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北平均, 全國平均) in 1934.

Table showing the percentage of fertilizer purchase amount relative to total income for various counties (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北六縣計, 全國).

その五

農家經營費

農家經營費は全國平均一戸當に比較して東北のそれは著しく少い。殊に小作農において甚しい。全國平均小作農一戸當の農家經營費は四百四十四圓四十六錢となつてゐるのに對し宮城、山形、秋田の平均は三百六十五圓四十四錢、即ち七十九圓二錢だけ少ないのである。これは打續く不況のために東北地方の農家がひどく困窮し、比較的大きな經營面積を有しながら經營費を極度に切詰めてゐることを物語つてゐるのである。しかし肥料費や諸負擔は、全國の一戸當平均よりも多くなつてゐる。農家經營費の中で肥料費が全國の平均よりも多いといふ事實は、そのまゝ施肥量が多いとはいへない。農家は莫大な借金を背負ひ込んでゐるので、安い肥料を現金で購入することが出来ず、また組合の普及程度が薄く、發達がおくれてゐるがために、産業組合の恩恵に浴する機會が少くない。つまり購買組織の不備に禍され、金利の高い肥料を使つてゐる結果である。搾取をのみ目的とする不合理な金融業者が、物資の取引上に介在することも、この不自然な數字を示した原因と見るべきである。



住宅はいづれも設計が廣く、規模が大きいから、當然住居についての支出、修繕、維持費などの支出も多かるべきはずなのに、全国の平均支出と比較し東北地方は甚しく少ない。宮城、山形、秋田三縣小作農の平均額に至つては、全国の小作農の平均額よりも住居費が九圓四十九銭も少額に見積られてゐるのでもうなづけよう。大部分の大きな農村住宅は十五年も二十年も修繕の手も加へられず、腐朽のまゝに委せられてゐるのである。

糧食は人口に正比例する。家族人員の多い東北地方の農家は飲食費も多く、嵩ばるのが當然である。冬眠期間がばかに永い東北農村には娯樂機關がない。その結果慰安といへば飲食である。喜怒哀樂、何ことにまれ酒なのである。圍爐裏をかこんでの談笑にはきつと飲食が伴ふ。飲食の機会がかく多く、かく量

が多い。飲食費が必然多くならざるをえない。だが多額だといふのは他の費用に比較してのことである。飲食費は宮城、山形、秋田三縣の平均では自作農も自作小作農も、また小作農も全国的平均以下となつてゐる。他地方農民よりも粗悪な、味も栄養価もない飲食物で我慢してゐるからである。東北農村と榮養の問題は今日當面の問題として論議されてゐるのはこのためである。更に冬の永い東北地方は光熱費にも餘分の支出があるべきはずであるが、全國平均よりこれも少ない。飲食費と同様、暗さを我慢してゐるその現はれである。子弟の教育費も少ない。これは國民教育上放任の出来ない問題なのであるが、どうにも捻出の方法がない。衛生費も同様に少く傳染病の爆發的流行、乳幼児死亡率の大なることなどはこれを雄辯に物語つてゐる。

なほ東北農村は冠婚葬祭にあまり金をかけ過ぎると一般から見られてゐるが、こゝに現はれた數字によると、三縣の平均額は全國の平均額よりも著しく少額となつてゐる。又自作農と小作農の被服費や自作農の家具什器費が全國の平均額よりもやゝ多くなつてゐるのは、冠婚葬祭が多く、臨時支出の關係と見られる。

一般に貧乏である東北地方の農家は生活費を切詰め、これによつて收支の均衡を保たうと努力してゐるが、さてそのばんはなか／＼思ふ壺にはまつてくれないのである。家計費の合計において全國の平均額よりも東北の三縣平均額は自作農が九十七圓四十銭少く、自作小作農は實に百八十二圓二十四銭、小作農は五十九圓七十一銭少くなつてゐる。

種目	農家別		計		費 (昭和十年調査)			
	自作	小作	自作	小作	自作	小作		
飲食費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
住居費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
被服費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
家具什器費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
第一生活費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
活費計	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
教育費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
修養費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
交際費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
嗜好費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
娯樂費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
衛生費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
冠婚葬祭費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
光熱費	計	現物	計	現物	計	現物		
計	現物	現金	計	現物	現金	計	現物	現金

種目	農家別		計		費 (昭和十年調査)			
	自作	小作	自作	小作	自作	小作		
飲食費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
住居費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
被服費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
家具什器費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
第一生活費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
活費計	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
教育費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
修養費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
交際費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
嗜好費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
娯樂費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
衛生費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
冠婚葬祭費	計	現物	計	現物	計	現物		
	現物	現金	現物	現金	現物	現金		
光熱費	計	現物	計	現物	計	現物		
計	現物	現金	計	現物	現金	計	現物	現金

諸負擔	現金		其他	現金		活費計	現金		合計
	計	現物		計	現物		計	現物	
諸負擔	一〇・八〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
其他	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
第二生	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
活費計	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
現金	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
現物	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇
合計	一・〇〇	二・九五	三・三三	一・九〇	六・二二	二・三四	五・〇〇	四・一五	七・八〇

**農家純益**  
 農家の總所得から家計費を差引いた残りの純益計算について見れば、全国の平均は自作、自作、小作とも若干の餘裕を見せているが、宮城、山形、秋田三縣平均では自作農と小作農では山形、小作農では宮城、山形が收支の

**農家の總所得と家計費**

農家別	自作農	小作農	全國平均
農家の總所得	四九・四三	四三・七〇	四六・五七
家計費	四七・二〇	四〇・四〇	四三・八〇
差引過不足	二・二三	三・三〇	二・七七

以上の調査は宮城、山形、秋田の各縣農會の農家經濟調査書に基礎を置いたもので、この調査は比較的有福と見られる篤農階級の實生活から得た記録で、東北の農家經濟一般を

## 東北向の稻の品種 勤勞・努力の農民

十年二月發表した實態數字である。日本の農業經濟と東北地方の農家經濟の實際を知る上において多少手がかりとならう。

なほこの調査數字は昭和九年農林省調査の農家一戸當平均耕地反別から東北と全國の比較して見ると、

東北の農民はよく大きな天の試練に堪へつ、幾世紀かに亘る超人的な勤勞と努力を續け、農業經營を今日にまで進めて來た。さうして氣候、風土の上から一年一作に限定されてゐる米作をできるだけ採算のつくやうにと考へていつた。まづ米のつくり方を研究した更に自然に限定された一年一作といふ極めて窮屈な條件の中で、最も多く米を穫る方法について考へて見た。さうして長い年月を費して、その一つ一つが成功した。米作は東北を飛び越して北海道の最北端美深と稚内の中間五度の等温線にまで侵入した。これは農民の涙ぐましい撓まざる努力によるもので、人類の偉大な自然征服といふべきである。

米作が今日のやうに北限界を擴大したのは、周期的に見舞はれた凶作のための耐寒新品種の發見によるもので、凶作の慘禍が、農民の自然征服を完成させたといへるのである。

すなはち福島縣の愛國種、宮城縣の福坊主、岩手縣の大野早生、關山種、青森縣の豐國、小山地、九平種、秋田縣の豐國種、山形縣の玉ノ井、福坊主、豐國などの寒地米作の基礎品種が生れ、更に肥料を少くして收穫を多くあげる耐寒品種龜の尾や、適應性の強大な陸羽百三十二號が登場し、東北地方に最も適する寒地米作の體系をつくつた。陸羽百三十二號がなほ一週間早く出穂するものなら、高地稻作の安全性はもと増大し効果をあげることが出来る。もう一步で高地稻作の安全性が確保されようとしてゐる。農村の指導機關や、各種の農事研究機關は、それらの立場から、學者はその領域から、民間の篤農家は多年に亘る貴重な體驗を基礎として、いづれも残された「もう一步」について研究してゐる。學界から發表される研究報告や、民間から出る實踐的な経過報告を、適宜に取り入れ

### 稻作上の注意

東北、北海道地方の稻作はちよつとの場所違ひで豊凶に非常な差がでる。岩手縣についていへば、標高二〇〇米以下の場所と五〇〇米以内の場所とは、一〇〇米毎に氣温が約〇・五度も違ふのである。それがため陸羽百三十二號でさへ受精作用を妨げられ不稔粒となつたところさへある。

苗代の播種期、本田挿秧期がたつた五日の差で豊凶全く相反したりするのである。岩手縣農林技師鈴木誠一氏は稻作に關し、この地理的關係を調査研究した結果次の重要結論を得た。

①水稻の早、中、晩を多角形化すること。  
 農事試験場の豊凶参照試験の成績を基礎として大正二年から昭和七年までの約二十年間の平均指數をもつて氣象要素と收量との關係をコラレーション係數の計算法によつて割出して見ると

(一) 早稲は六月の氣温高く八月の日照多く七、八月の降水量多い場合に豊作で、これに反す氣候の年は收量を減少する。

(二) 中稻は五、八、九月の気温が高く、五、六、七、八月の日照が多ければ豊作となりこれに反する年は収量を減少する。

② 苗代早播、本田の早植 水温攝氏十二度以上になれば播種するのが通例であるが、岩手縣の實情について見るに播種期は四月十日頃から五月十日頃まで約一ヶ月間の幅があり、早播のものには冷害を蒙らず遅いのは概して冷害にかゝる等の事實に鑑み、昭和十年は播種期の幅を二十日位に縮め苗代に防風垣の設備をなすしめたが、この設備をせぬのは苗の發芽と發育が遅れ、設備した苗代は五日以上早く本田に移植することが出来た。東北部沿岸地方でも早蒔して六月三日に移植したものは立派に稔實し、六月八日に植付けたものは稔らない。僅か五日間の差でかやうな差違が現れたのである。

③ 地形の選擇條件 地形が南東南か西南に面して緩傾斜し陽光の照射十分で、北東、北又は西北地方に山或は村木等があつて北風を防ぎ、陽光のある場所を概して冷害少く、海岸地方では冷霧、潮風のおたらない地方は冷害が少い。幾分でも日照を増加する方法をとると同時に條件の悪い地方は早生種を選ぶことが肝要である。

④ 土性と灌漑水 冷水のかゝる水口は、青立となり生育が遅く不稔粒となる。水の流が急であればある程、冷害程度も大きい。寒暖兩地方とも新開田地は下層土が礫質で、水持が悪く冷害も多い。水持の悪い水田は盤粘をなし、掛流を廢して温水灌漑に工夫することが大切である。

⑤ 冷害と肥料の關係 施肥量、施肥期、施肥法、肥料の種類及びその配合等が不合理な場合は冷害を蒙り易い。殊に土性及び品種の關係を考へぬと生育遅延、青立、不稔粒、稻熱病等の發生を誘因する。土性に應じて速効性及び遅効性肥料の配合に留意し、高温多照の際は砂質土に速効性肥料が効果多く、これに反して冷温寡照の場合には速効肥料が効果ある。

その二 稻品種の研究

盛岡高等農林學校教授農學博士小坂博氏、同助教授宮城實夫氏、安川傳郎氏等は昭和十一年度において日本學術振興會から補助金の交付を受け作物の冷害防止策として稻品種の感應度に関する試験研究を開始した。この研究は水稻の冷害抵抗性品種の選抜につき基礎的な概念を得んとするものである。

東北地方の稻作が苗の良否によつて著しく影響される。昭和九年の冷害凶作ではこの事實が明白に立證されたのに鑑み、この試験研究を實施するものである。小坂博士は、稻の體內に花青素並にその色素原が含有してゐるのは、冷害に對する稻の抵抗性を示す一つの形質であることを、實驗的に證明してゐるので、この成績を利用して研究を開始した。その研究上の設計は

- 一、本邦において比較的環境條件の悪い地方で栽培されてゐる水稻品種の形態的形質、特に花青素並にその色素原の含有程度によつて分類する。
二、低温、多濕、日照不足等凶作型の不良環境における稻の發育状態及び各期間中の品種の感應程度を比較調査を行ふ。
三、外的條件が著しく異なる場所で依託栽培試験を行ひ品種の發育につき比較調査を進める。

水稻「農林七號」

農林省農事試験場奥羽試験地で陸羽一三二

號と神龜四二號の人工交配を行ひ、これを宮城縣立農事試験場農林省指定水稻新品種育成試験地で選抜確定し、昭和七年以來東北十九號と命名して東北六縣その他の縣に種子を配付し試作中であつたが、昭和十一年改めて「水稻農林七號」と命名し宮城縣獎勵品種に加へられた。

△特性 昭和九年および十年と二ヶ年調査による特性の概要は左表の如くで、熟期は陸羽一三二號と福坊主一號のほぼ中間に位し、強稈で稻熱病に對する抵抗性強く玄米は中粒で品質優良である。

Table with 4 columns: 品種名, 出穂期, 成熟期, 品質. Rows include 水稻農林七號, 陸羽一三二號, 福坊主一號, 陸羽二〇號.

△成績 昭和五年から十一年まで六ヶ年に亘つて岩沼町本場および宮城縣下各地で収量の調査を行つて見たが「水稻農林七號」は陸羽一三二號、福坊主一號、陸羽二十號等在來の優秀品種に比較して優つてゐる。殊に昭和九年および昭和十年の冷害年における増収歩合は次の如くである。

農村

Table with 4 columns: 品種名, 昭和九年, 昭和十年, 比率. Rows include 岩沼本場における成績 and 宮城縣下試作地における成績.

△栽培上の注意 本品種の栽培は比較的容易で特に注意を要すべき點は少ないが、大體の耕種標準を示せば次の如くである。

播種期 四月中旬、播種量 坪當三合―四合、挿秧期 六月上旬、苗代日數 四十―五十日。五十日以上苗代におくことはよろしくない。苗丈が短い特性があるが苗代日數四十日に達すれば充分であるから植えて差支ない。挿秧間近に殊更深水にして苗の伸長を圖ることはよろしくないから注意を要する。

その三 試験場の研究

農林省農事試験場の新研究

1 稻の生理關係と冷害の科學的研究 新研究着手の理由 東北地方凶作の直接原因は稻作に最も大切な七、八月頃に千島列島の東方海上からオホツク海の方面に高氣壓が滞留して動かないために東北地方一帯に冷い北東風が吹くからである。この期間中に著しく気温が下り、曇天となつて日照時間が減少するから當然農作物の生理機能を阻害し、生育をおくらし開花、授精、稔實の機能を妨げ、稻熱病の發生を誘發し、凶作を出現する。しかしこの不良天候は直に凶作を誘ふものではなく、一般に氣象状態と作物品種の特性と栽培方法との三つが互ひに作用し、豊凶の差違をつくるのである。故に水稻品種の生理的的特性の研究が冷害地の水稻品

種改良上重要である。

農家に奨励する水稻新品種や新品種育成のために交配する品種については、豫め人工冷害を與へその生理的性の検定から着手しなければならぬ。この種の實驗には人為的に温度や光線を調節出来るやうな特殊の構造をもつ實驗室と高級な理化學的裝置が必要である。農林省農事試驗場では昭和十一年三月この冷害防止研究施設を完備したが、試驗室は建築費八萬五千圓を投じ鐵筋コンクリート建、地階とも三階建とし、延坪百二十坪のものをつつた。内部には冷房式ガラス部屋、冷房式暗室、紫外線透過ガラス室等から成り、土壤恒溫槽、恒溫器、レントゲン及び紫外線放射裝置、開花作用檢定裝置等があり、四月から冷害そのもの本質を極めた上で、稻の生理的關係を根本的に研究してゐる。この結果により冷害を完全に克服する水稻の新品種が究明されよう。

冷房装置試驗室

東京澁野川の農林省農事試驗場構内冷房装置試驗室では愈々冷害克服の試驗研究を開始した。陸羽百三十二號をつくり出した寺尾博氏が主任となり、稔實の運れる東北地方山間部に適應した新品種を完成しようといふのである。これはわが國としては最初の研究で、従來東北、北海道地方の冷害は單に冷寒な温度と曇天の作用であるとのみ考へられてゐた

のであるが、昭和九年秋の凶作以後冷害の誘因を底徹的に調査した結果、稻作品種にも科學的檢討を加へることが必要とされ、こゝに冷害抵抗品種の育成試験に取かゝることとなつたのである。冷害に抵抗し得るものと認められた選抜品種五十餘種は、一千餘の鉢に移植され、夏の分蘗季から第一次試験を開始した。人工冷害の無残な悪條件を組上に、あらゆる角度からこの選抜品種の上に加へられたのである。主任の寺尾技師は試験を前にして「陸羽百三十二號は十數年かゝつてやつと完成された品種である、だから直ぐにこの冷害抵抗品種をつくり出すことは困難であるが必ずやり遂げて見せる」といつてゐる。第一次試験に登場した五十餘種の水稻品種から、やがて冷害を克服する力強い抵抗品種が生れることであらう。

岩手縣農事試驗場

岩手縣農家に最も適當する温床苗代法を示して、基本たらしめ冷害に備へる方針で數年來各種温床の試験成績を資料として研究を續けてゐたが、愈々「温床苗代に依る水稻栽培」を發表した。この方法は技術的に簡單で、かつ材料費が低廉なため一般に普及されるものと期待されてゐる。

〔融雪の促進〕 積雪多き地方では三月下旬温床苗代設置場所に土を撒布するか、又は除雪を行つて融雪の促進と土地の乾燥を圖ること。(木框及び障子) 木框は長さ十二尺、幅六尺、高さ前部八寸後部一尺二寸、板の厚さ八分、障子は荏油障子にて長さ六尺、幅三尺のもの、木框一個に付四枚を要し以上木框及障子の材料費五、六圓を要する。(反當り温床三、四坪を要する) 注意A—木框の代りに煙草、栽培用の冷床應用又は木の代りに麥稈、新聞紙を折りたたみたるもの等にて造るものB—油障子は硝子障子又はレンヨ—温床障子紙を用ひしものは一層良好なり。(床土) 充分腐熟土化する堆肥と畑土とを四對九の割合に配合し畑土の粘質なる場合は川砂一割位混合して蔬菜温床用園藝を作成するのが最も良いが若し以上の如き床土を得難い場合は普通の植土に川砂を等量乃至は植土一〇對川砂一二の割合に配合し砂壤土を作成して園藝土に代へても良い。なほ立枯病發生の虞ある床土は珪藻アルマリン五〇倍液五升の割合にて撒布しつらにて覆ひ置き三、四日放置殺菌して後床土を接半アルマリンを蒸散せしめ約十日乃至十四日間を経て全くアルマリンの臭氣消失したる後供用すること。(温床の設置) 三月下旬に土地を六寸位掘下げ、その中に融熱物として新鮮麥稈、厩肥及麥稈を混合堆積しつゝ、灌水し、良く踏み固めて厚さ六寸とする。融熱物の堆積終れば木框の前部を南側に向けて載せ後床土を四寸位入れ肥料を施し木框の外圍には土を充分寄せて熱の發散及び雨水の浸入を防ぎ上部は障子を以つて覆ふこと。後數日間床土の温度を測り温度が攝氏二〇度内外に一定せる後播種すること。

なほ温床設置上注意を要する事情を下に示す。注意A—以上は低設温床なるも排水不良なる時は高設温床となす。B—融熱物は成るべく稻藎を使用せざること。これは稻熱病發生の誘因となる爲に避くべきである。若し萬一使用する時は攝氏六〇度の風呂湯に二〇分間浸漬殺菌したものを使ふこと。C—融熱物は木框の外圍より一寸位廣く踏み込み木框内の温度の平均を計ること。D—融熱物踏み込みの際の灌水の適度は手に厩肥を握りしめ値に指間より手を融熱物に挿し込み發熱を確めた後木框を載せ床土を入るゝ時は發熱上の失は少ない。E—反當り温床苗代面積、坪當株數及一株本數によりて異なるもの普通三坪より四坪を要する。

(一) 外圍 温床の周圍に高さ六尺乃至九尺の藎蓋防風障を設け寒風を遮断し氣温低下を防止すること、而して藎蓋障の位置は苗に腐蝕を與へぬやう北側は温床幅より六尺東西は九尺南側は十二尺を隔てて設置すること。(二) 種粒品種 温床苗代に供用する次のものを大體可とする。縣北地方及山間地方 種六日 早生 陸羽一三二號 種 平六號 小柴團 中部及縣南地方 種 農林一號陸羽一三二號 種 奧羽二〇號小柴團 選種及び消毒 種粒は必ず鹽水選を行ひ(比重無芒、種粒一、一三 種粒及有芒種粒種一、〇八) フォルマリン消毒を(約一日間水中に浸漬し後更に四、五日間水中に浸漬す) 行ふを要する。

(四) 肥料 施肥法は土壤の肥やせによりて異なるも温床土として園藝土を使用せる場合は普通珪藻アルマリン二〇〇匁、精過燐酸石灰二五匁木灰一〇匁位應用するを可とし、床土として砂壤

土を使用せる際は硫酸アルマリン四〇匁、精燐酸石灰五〇匁、硫酸加里二〇匁位應用するを可とし(五) 播種 播種期 四月初旬(四月一日前後)を適期とする。播種量 坪當浸漬種五合とする播種法 ぬるぬる水せる床土を適度に鎮壓せる後、種粒を粗密なきやう撒播し其上に川砂又は砂壤土を三分乃至五分の厚さに篩を以て振りかけ後更に灌水し障子を覆ふのである。

(六) 管理 播種後の管理の巧拙は苗の生育と極めて密接の關係があり、温床育苗の成否は實に管理の如何に存するものである。その主なる注意事項を次に示す。(温床の調節) 播種後二週間位は夜間往々外氣の低下を來す虞があるので必要に應じ藎又は藎を障子の上に掛け温度の低下を防止するを要する。これに反し晴天の日中に障子を密閉し置く時は框内の温度は攝氏四〇度を越ゆる如き高温に達するを以て温床内の温度が攝氏三〇度位に至つたなら障子を明け、常に温度の激變を少くするやう調節に努むることが肝要である。特に種苗の二、三寸に生育せる頃において温度の調節を誤る時は藎蒸枯死するに至り立枯の現象を呈するやうになり、かゝる失敗は少くないから充分注意を要する。(陽光を充分に當てること) 發芽後苗の生育に伴ひ晴天温暖の日中は出来る限り障子を除き苗を陽光に當て健全の育成に努むる。(水を用ひること) 灌水は温暖なる水を用ひること、厩土は乾燥し易きを以て充分注意して適度の灌水を行ふ。而して灌水の量は細孔の如露にて丁寧に床土が均一に濕るやうに注意すること。

雪も冷氣も解消した五月上旬が稻作の本田へ直播するに最適の季節であるといふ結論を得た。それに收量も(品種關山) 反當平均二石二斗四升五合で普通の栽培法で苗代から本田に移植したものは二石三斗四升七合となつてゐるので、收穫においては大差がなく、しかも苗代に要する勞力肥料等がかゝらないため著しく生産費が減少するので、寒冷岩手縣の水稻栽培法として直播を奨励することにならう。なほ農事試驗場では昭和十一年度から九戸郡江刈村、輕米農場、二戸郡荒澤村の三ヶ所に新に直播水稻の試作を行ふことになつたので、遠からず山間地帯の水稻栽培法に革命が齎されよう。直播法に就いて同試驗場の談を紹介しておく。

北海道では八分通り直播法を行つてゐる。直播法にもいろ／＼あるが播種機で直接本田へ播付けるので手数が著しくはぶけるから勞力費が儲かる。北海道では夫婦二人で三町位水田を耕作して居る程である。雪が多く播種が著しく遅れる年には直播に限る。收量も普通の方法のもの大差はない。最適期の播種は五月上旬、濕田に適して居る。種子は苗代の十倍播かなければならない。たゞ缺點とされるのは草が澤山出ること、厚播きになること、二つである。しかし湯田、澤内地方の雪の多いところは直播の方法でもしなかつた

山形縣農事試驗場

4 山形縣農事試驗場は昨年縣内の山間部凶作地第十二ヶ所をえらび、稲作凶作防止試作地を設定し優良品種四十四種について種々の角度から試作し、次のやうな結果を見た。試作地は標高地勢土性を異にして居るが、各試作地で共通又は單純に實施した各種試験の實績である。

▽冷水抵抗性試験 常に冷水を掛流し灌漑水口に近く不稔實又は病害が多いので抵抗力ある優良品種をえらぶため東澤、三澤兩地で實施した。設備不備のため完全には行かなかつたが草丈は水口一丈は最も短く隔るに従ひ高く十株目より大差なし、出穂時期は水入口と出口で五日から七日の遅速があり不稔實歩合病蝨被害共に水口程多かつた。抵抗力の最も強いのは熊鷹坊主愛國で昭和二號奥羽一七三號等これに次いで居る。

▽綜合栽培法試験 従来の慣行栽培法に改善を加へるため實施したもので、各試作地で行つた結果福榮、作相澤を除き慣行法より出穂二日三分收量一〇パーセント増加した。凶作も耕種法の綜合的改善により被害の軽減を實證した。表示すると次の通り。(括弧内は慣行栽培)

Table with columns: 試驗地, 出穂期日, 玄米收量. Rows list various locations like 東澤, 大谷, 常盤, etc., with their respective harvest dates and yields.

三 澤八・一三(八・一七)二、三九八(一、九六三)東八・〇三(八・〇八)二、二五九(一、九九〇)福榮八・〇七(八・〇八)二、六三三(二、七五五)小國本八・〇九(八・〇五)二、三八八(二、二二二)日向八・二〇(八・一九)三、〇二九(二、八四五)作相澤八・一六(八・二二)二、二五九(二、三九八)▽浸透防止試験 東澤、及位、三澤、吉野、福榮の五箇所で實施したが、石代或は土俵代等で床締する事は相當効果があり及位は三割八分、吉野二割五分増収した生粘土を坪當三貫位客土するもよし、及位では普通五時間の保水を十一時間保ち收量を一割六分七厘増加した(代播きをていれいにするもよく、吉野試驗地で收量一割六分増収した。

▽適地委託苗代試験 適地に苗代を委託し早植の効果を実証したもので大谷、常盤、東小國、東日向で行つた。標準に比し苗の生産は草丈莖數には大差なかつたが充實度は異なる。播種後の活著早く健全に生育し出穂成熟期共に四、五日促進した。收量の差は明に認め難いが日向では八パーセント六だけ増収した。夏季天候不順の場合實効を収めるのに融雪期おそく苗代作業遅延の恐ある時設置すれば威力を發揮する。

▽自給肥料用量試験 堆肥の改良施用適量を確め慣習の生草加用の可否を研究するのがこの試験で及位、小國本、福榮、日向各地で行つた。一般に堆肥の品質悪く、その改善と施用の適量決定は凶作防止上の重要事として力を入れ、及位では生草の加用適否を確めるため敷區で實施したが、堆肥のもつとも多いのは稻熱病發生、生草加用は發育稍遅れて收量が少し多かつた。今回は反當五百貫施用の範圍で害を認めなかつた。

秋田縣農事試驗場

6 秋田縣農事試驗場の稲作人爲的冷害防止

これについて種々研究中であつたが苗の植付が他府縣に比べて著しく遅れてをり、寒冷の早く来る東北殊に裏日本としては冷害の蒙り易いことが明白なので、冬の間に優良品種陸羽百三十二號の苗を温床で育て、昭和十一年四月早々試験的に植付て見たところ、稲の發育はもろん結實も早く少々の冷害にも耐

へ、收穫も一反歩當四石以上の成績を収めた、よつて同年春から陸羽百三十二號のほか秋田一號の原種改良を圖つてゐる。

7 苗代七分作といはれる秋田縣農事試驗場の水稻苗代の簡易温床化は、三ヶ年の苦心研究の結果その實際化の一步を踏出すこととなつた。この水稻温床育苗は普通苗代よりも二十日以上早く播種し、約四十日間温床で育て、更に豫め準備した苗代に一回假植し凡そ十五日間も早く最大優良な苗を本田に移植し、出穂成熟を早め、増收と品質の向上と更に作柄の安定を期するものであつて、東北地方の如く秋冷早來、春消雪が遅く灌漑水が冷たく發育期間の短い地方は苗の早播早植を必要とするが、自然状態では或程度以上早植早播が許されないと、温床を利用してその目的を達しようとするもので、その實施方法は次の如くである。

▽温床 蔬菜園藝の低設温床と大同小異で、三月下旬排水良好で日當りのよい場所をえらび四尺に十二尺に先づ四寸五分の深さに穴を掘り、更に南側に一寸深さに掘り下げ、その土は穴の中央部にあけて中心を幾分高くして温床の平均を圖るのである。燃熱物は最下部に乾燥藁五寸位の長さに切つたものを一寸五分厚みに敷き、その上に厩肥を一尺三四寸に踏み込み十分踏み込んだ上に稀薄の水肥二斗を一様に注入し、これに框を据ゑて床土を入れる。床土は前年夏季堆肥と土を五分に混合堆積し三間位切返し、又土は厩の底に入れるか堆肥の下敷として肥汁を吸せしめたものを混合す

るのが良法である。秋季一框分に油粕二升を木灰一升に混ぜ堆肥の下で腐熟せしめたものを加へる。かく使用する時は四分目の篩にかけ四寸五分から五寸位の厚味に凸凹なく平均する要領は蔬菜園藝と變りはない。

▽播種 種子はアオルマリン五十倍液に三時間浸して消毒を行ひ、七日乃至十日間器物に入れ浸水し屋内か温床の中で發芽を促進し、下種する。その精粗は良苗育成に重大關係があるから點播器で型をつけ一粒づつ播下し播種量は坪二合三勺位とする。覆土は微細な腐熟堆肥、砂、藁灰を混じつたもので、吸濕性よく灌水しても固結しないことが肝要で、約三分位の厚みとして鎮壓した上に藁を一本並べに覆ひこれに一框分一斗二升位の微温湯を注いでガラスを覆ふ。

▽管理 灌水は最も重要で多過ぎれば床温低下し發芽後れ軟弱に徒長し病害に犯され易い。それ故晴天の午前九時頃とし冷水を避け波み置きの温い水とし、床土は乾いても雨模様や夕刻の灌水は徒に床土を冷却させるから見合せ。床内温度は攝氏二十度内外が最も高温で、炭酸ガスの放散を期するため高度に通風を行ひ、晴天温暖の日は午前九時頃より徐々に障子を閉き十一時頃から一時頃までの高温時に廣く開き、午後二時から徐々に下げ床温の保持に努め、夜間でも最低十五度を下らないやう障子の上には藁藪又はトマを覆つて保温に努め、殊に晴天の日温の未だ下らないやうに覆ひをなすこと。なほ雨天の日中は發芽前でも覆物をとり床温の上昇を圖り、發芽後は日光を射入せしめて強剛な苗の育成を目標とする。假植前十日は日中に障子を除去し日光、風に十分晒す。

▽假植 かくて床内の育成凡そ四十日、五月上旬一框より得る苗數一萬五千本(本田一反歩分)を普通苗代期に施肥し荒播きを行ひ、十分肥沃ならしめた假植苗代は凡そ二十五坪を要する。假植五日前に代播きを行つて凹凸なく整地し二四方に一本づつなるべく淺く假植する。温床育苗であるから急激な變化を避け假植苗代は周圍を覆圍ひとし、寒風を避け夜間の保温にも留意する。かうして六月五日頃までに五、六本から一、二本に分藥した優良な苗を得て本田に移植するがその活着極めて早く、而も一本植の疎植であるから肥料も比較的要せず挿秧努力も軽減出來生育強硬であるから病蝨被害少く冷害に強く殊に不順の天候に最も強く、稲作最後の目標である作柄の安全豐作が期待出來るわけである。

8 秋田縣平鹿郡山内村大字黒澤照井久治氏擔當の秋田縣立農事試驗場委託冷害防止試驗地では、十年産米につき收穫までの經過を種種試験した結果、稲作栽培上に貴重な參考資料を得た。この品種試験によると龜の尾、豐國、奥百八十六號等の品種は山間高冷地には不適當で、平坦地に比較し出穂成熟が著しく遅れてゐるばかりでなく不稔粒が多く收量も極めて少い。これに反し秋田一號、秋系品種は山間部でも成熟が早く、結實收量ともに良好冷害地方の栽培品種として有望であることが立證されてゐる。

併用した。山間地は直播が不適当であるがもし直播とするならば五月五日頃までに終ることが必要である。

9 東北地方の山間部に適合する抵抗品種については、寒冷の地元秋田仙北郡花館村の国立農事試験場奥羽試験地で福家技師指導の下に近く完成を見ようとしてゐる。

この新品種研究は数年前から着手されてゐるが、この四五年の間には優秀の新品種ができる見込がついた。待望の抵抗性品種は稲の雑種を何十回となくかけ合せ、寒冷に適應するやうにするもので、三年や、四年の年月で完成させるのは無理である。しかし現在では相當低い温度で稔實する品種が出来つゝあるから完成は時間の問題である。これが完成すれば平地の陸羽百三十二號に呼應して山間部特有の稲が出来る譯である。

東北地方の従來の苗代は、多くの不合理から病蟲害の發生と生育の不良に陥るものが尠くないので、岩手縣岩手郡中野村の農林省東北小麥試験場ではこれを改良合理化のため昨年秋から苗代の整地、播種、灌排水の三方面を合理化して種粒の發芽状態と、苗の生育に及ぼす影響について試験を行つてゐるが、遠からず一般農家に合理化苗代法が發表され、苗代時代の稲作の完璧が期せられるものと見られてゐる。

整地の方法 普通の苗代は代播の方法であるが、これによると土がよく練られ密着する關係上空氣

の流通が悪く、肥料の分解作用の際ガスが発生し苗に悪い影響を與へる。加ふるに土中に酸素の缺乏を來し易いので苗の根の伸張を妨げる等の缺陷がある。代播を行はず前に整地後水を入れたる前記弊害を或程度まで除くことができる。これが確められたので、本年は更に規模を大にして苗とりを便利その他實行上の育苗成について試験中である。

播種方法 普通は水播の方法として整地の苗代に水を入れ播種するものと、播込みの方法として苗代の水を落して撒播した上を軽く摺り込むものと二方法がある。更に暖地においては地方的に行つてゐる方法で、苗代に砂を撒布して雑草の發生を防ぐ方法と、糞粒を撒布して太陽熱を吸収する方法等が水温、地温、發生育いによる影響があるが試験中であるが、昨年の結果によると水播の方法が發芽、生育共一番良好であつた。

灌排水の方法 従來苗代は晴天の場合午前八・九時頃排水し、午後三・四時頃灌水して晝は地温を高めて夜は冷却を防止して、排水は日の出頃(午前六時)水温、地温が最低下するが日中になれば急激に温度が上昇するから午前八、九時頃水を落した方が温度を高めるために効果的である。灌水は正午乃至午後一時になると太陽熱が最高時であるが、次第に下り返りとなり、三四時頃の灌水では低下し切つた冷たい水となつてゐる苗代が大して暖まらなから、正午乃至一時頃灌水すると保温の上において効果的である。更に夜から明方までの苗代

稲品種の試験

Table with columns: 出穂期, 品種, 試験結果. Rows include 秋田一號, 陸一三, 龜の尾, 秋七號, 豐國, 三秋系, 五秋系, 二秋系, 六號, 奧一八.

の溜り水はグット低下して一度から四度程の経度であるが、流水は溜り水と違つて晝は暖まらない代り夜間大して冷えないため流水の温度は八度から十度もの普通で、溜り水より遙に高温で晝に苗代にカケ流しは却つて逆に苗代を暖める効果がある。この方法で夜間と晝間の苗代温度をできるだけ高く、苗の生長を目的に合理的に灌水の方法を實際に試験中であるが、夜間の流水灌漑は苗代の温度を高めるだけでなく青ミドロの驅除と腐敗病の防止の副産的な良結果を齎らすことになる。

會津若松分場

10 福島縣農事試験場會津分場では、會津山村地方における苗代播種期の遅延及び晩植期の出穂成熟促進を計るため昭和五年以來水稻苗の温床育苗を研究中であつたが、普通栽培、晩植栽培、温床育苗法に頗る好成績をあげた。同試験場の發表した温床育苗法は次の通りである。

三月下旬彼岸より四月上旬に日照り良い箇所を選び苗床を踏込む。若し大面積を要する場合は床幅六尺長さ適宜とし、周囲は藎圍とし臘熱物の踏込み肥土の作製等は太陽普通蔬菜の温床に準じ床温一定するを待ち四月上旬、年三合位の割合で播種する。

冷害と厩肥の効果

盛岡高等農林学校小野伊勢之助氏は冷害時における施肥について研究を續けてゐるが厩肥が最も効果的であるを説明してゐる。

冷害の年には厩肥が最も効果的だといひ傳へられてゐる。加里肥料(寡照時に最も効果あるものとされ、植物の同化作用を助けるもの)を多量に與へた場合、ある量以上になると却つて害を來すものであるがしかしこれに硫酸を加へれば非常に發育良好となる。従つて加里の多いほど硫酸を與へるといふ。加里の働きは硫酸に現されるやうになるが、従來硫酸は植物の發育に不必要なものとされ、かつ硫酸を與へた場合水稻においては出穂が一日か二日おくれる。この點から考へて冷害の場合厩肥が効果的であるといふ理由が明かにされたやうに思ふ。即ち厩肥を施した場合に植物が早く成熟するのは、適當に處理されてつくれた腐敗せる厩肥は窒素よりも加里が多くしかも硫酸を多量に含んでゐる。厩肥が腐敗するに従つて可溶性となり硫酸の量を次第に増加することは實驗によつて證明されるところであり、厩肥の中にある加里は水にとけやすから硫酸と加里が共に植物に働いて成熟期を早める効果があるものと思ふ。馬四頭を飼つて實驗したが、馬糞として豆粕を與へこれによつて厩肥をつくり施肥した場合、豆粕肥料を直接與へたものよりも、成熟(水稻)が頗る良好であつた。即ち窒素を多く含み、

硫酸を多く融すことの出来る厩肥を與へた方が東北地方の冷害時に最も効果的である。以上の事實を考慮して合理的に厩肥をつくり、これを冷害時の基本肥料とすることを一般農家に奨励したい。なほ小野寺教授は昭和十一年度日本學術振興會から一千圓の補助金を得て、異狀天候に際し厩肥の水稻に及ぼす影響につき更に學術的な研究を進めることになり、試験地を盛岡高等農内と御明神村の二ヶ所に設けて試験を續けてゐる。

稗の研究

東北の山村、殊に岩手縣方面の山村住民の主要食品は稗である。凶作のため稲作收穫に自信を缺く地帯ではこれを常食としてゐるので、稗の營養研究は重大題目の一つである。盛岡高等農林学校の小原哲二郎氏は數年前から稗の研究中であるが、右は山間住民の食糧問題を解決するばかりでなく、日本一の稗産地岩手縣の産業上に少なからざる意義をもつものである。氏は昭和十年までに稗の營養學的研究、稗の利用加工に關する研究の結果、從來原始的食糧品とされてゐた稗は營養價值が米より遙かに優れ、米には含まないビタミンB(抗脚氣性ビタミン)が多量に含有してゐることが實證された。同氏は更に稗の作物學的、化學的研究に乘出すため全國から稗の品種五十餘種を蒐集分類し、最も優良な品種を發見して岩手縣山間地方の主要生産物たら

照明で天候克服

凶作は氣象的原因が大部分を占めてゐる。農事電化協會では青森、岩手、宮城の農事試験場と協議して農事電化試験を開始したが、これは氣候の關係から苗代の成長が不充分なものに對して電燈照明により成長を促進せんとするもので、農事電化協會の調査したところによると、電氣照明に要する經費は一反歩當約五圓三十錢で、この照明により苗代成育が促進され十六圓前後の増収があり、一町歩で約百圓の増収可能とされてゐる。宮城縣岩沼農事試験場でもこの提唱に聴き、昭和十一年四月二十日の播種期から苗代に電燈照射装置をなし、四尺四方の試験田を二十區つくり各區に六〇ワットの電球二個で地上四、五尺のところから夜間照射を行ひ、苗に刺戟を與へて分蘗促進の試験を實施した。

農業地域計畫

宮城縣では昭和九年、十年と打續いた冷害



凶作により劃一的農業の缺陷を知り、その地  
特殊性に適應した諸施設を行ふことになり、  
先づ農業地域計畫を樹立する方針の下に昭和  
十一年四月縣下各地で農會技術員、農業關係  
機關代表者等會同して

災害對策指導の具體的實施方策、農業地域計畫  
樹立、災害地方農業計畫樹立  
を中心議題に種々協議した結果、各方面から  
適切な意見を得たので、これらの意見を基礎  
として農業の災害對策を樹立することになつ  
た。將來は合理的農業經營の指導上、仙臺、  
石巻等の都市と農村の區劃を定め、農村の中  
でも山間部と平坦部とで指導方針を異にし、  
漁村は漁村に適應した指導對策を樹立するこ  
とになつた。

### 篤農家の試験、研究

宮城縣石巻市山崎の篤農家高成田東助氏は  
宮城縣農事試験場の委託を受け、石巻市釜本  
草園前の水田を利用し、水稲十三種につき鹽  
害抵抗性品種の比較試験を行つたが、東北十  
四號、陸羽百三十二號は將に驚異的收穫記録  
を示し、肥培管理宜しきを得れば潮冷害を完  
全に克服出来る確信がついた。同氏の試験研  
究は沿岸地方農民に喜色を與へたものである  
收穫成績 東北十四號五石八斗二升、陸羽百三  
十二號五石五斗八升、奥羽二號四石八斗六升、東北  
十九號四石八斗、關山一號四石七斗四升、宮城十  
九號四石六斗四升、宮城四十二號四石五斗三升、  
白河一號四石五斗、奥羽一號四石三斗五升、愛國  
一號四石、福坊主一號三石六斗、陸羽二十號三石

三斗三升、奥羽二十七號二石二斗五升。  
高成田氏は施肥量は主として加里質の肥料を  
多く、反當人糞尿六石、草木灰三十貫のほか  
追肥として尿を加へ、あくまで金肥を排し自  
給肥料を施したもので、肥培管理の如何では  
潮害地にも立派に稻作が出来る自信がついた  
といつてゐる。

福島縣伊達郡富田村大字鶴澤の篤農家氏家  
菊治氏は大正八年以來愛國二十號X平井一號  
の交配種創作に苦心の結果、大正十一年これ  
に成功した新品種を栽培してゐる。この新品  
種は九年の凶作にも平年作以上の收穫を見、  
十年度の凶作には反當三石二斗の成績を挙げ  
た。同村農會長はこの水稲品種を「富田一號」  
と命名し廣く紹介することになつた。

秋田縣雄勝郡須川村農會長高橋繁造氏は、  
二十餘年間獨力で苦心研究の結果、水稲品種  
の改良を完成した「穀の王」は、完全に冷害  
を克服し好成績を収めたが、この品種は「雄  
勝」と新しい號との人工交配の無世品種で、蟲  
害に強く分蘗は陸羽百三十二號よりやや少  
いが、外皮糖薄く、穂がやゝ長いので收穫多く  
米質も良好である。

青森縣三戸郡猿邊村字袴田の篤農家工藤圓  
作氏方には凶作克服の家傳秘訣が残されてゐ  
る。それを摘録して見る。  
品種の選定、肥料の適確な配合、灌水の淺掛

## 東北各縣の養蠶

### 三千萬圓に上る繭賣上

支那傳來の絹布は納税品や、交換の媒介物  
として貨幣以上に珍重され、高く評價された  
時代があつた。この思想は徳川時代まで持続  
し舶來ものとして貴重品扱ひを受けた。これ  
が今日わが國の主要産業となり、本場の支那  
を壓倒し堂々海外に輸出するに至つたのである。  
もう今日では「日本の生絲」が世界市場  
を獨占してゐる。生絲は明治維新後僅か半世  
紀の短期間における收穫である。實に目覺し  
き躍進といふべきである。

横濱が開港場に指定された直後、安政三年  
六月「日本の生絲」が外人商會の手で初めて  
華々しい輸出のトップを切つて以來、海外市  
場、特にアメリカ市場の人氣はすばらしいも  
のがあつた。日清戦争後は愈々好況の波に乗  
り生絲輸出量は増加して來た。一八八三年に  
確立されたアメリカの絹業保護政策が生絲輸  
入に歡迎的であつたのと、明治三十年にわが  
國の金本位制が確立し、爲替關係は安定し、  
生絲貿易は益々盛んに發達していつた。明治  
初年六百萬圓を出でなかつた輸出量は、歐洲  
大戰後一躍二十億五千萬圓といふ大數字にな  
つて現はれ蠶絲界を有頂天にした。かく生絲  
貿易の好調に伴つて養蠶業は驚異的な發達を

遂げ農家の養蠶技術も長足の進歩を告げたの  
である。

しかし歐洲大戰後の好況にも遂に反動が來  
た。すなはち世界恐慌の波のあほりが大きく  
昭和四年アメリカに恐慌の嵐が吹き、海外の  
生絲需要は急激に減少した。絲價の低落によ  
つて日本の蠶絲業は收拾すべからざる混亂狀  
態に追込まれた。この原因は、當時繭の生  
産過剰から來る生絲の増産に一半の責任があ  
るとなし、政府は輸出を制限して見たが、そ  
れは徒らに滞貨生絲を多くするだけであつた  
従つて今度はその滞貨生絲の處分難に直面し  
なければならぬといふ有様であつた。

この間に化學工業の進歩があつた。人造絹  
絲の發達を見た。格安の代用絹絲が遠慮もな  
くのさばり出し、生絲市場の人氣を蠶食して  
完全に人絹流行時代を現出した。養蠶者が蠶  
ぐるみを入絹ぐるみにかへ、女給が人絹の振  
袖を着る——人絹流行に拍車をかけた。市場  
の人氣はますます生絲を離れていつたのは詮  
方もない次第であらう。

かういふ生絲消費市場の大勢は、そのまゝ、  
東北地方養蠶家にも反映した。一杞一憂、横  
濱市場の絲價がすべてを支配してゐるのであ

守(但し七月二十日後は二寸位の深水にすること  
土用前には必ず除草をする。追肥を絶對にせぬこと  
地力の試験施行。  
なほ同家ではこの秘訣を弘化元年からやつて  
ゐるが、試作研究の收穫數量は次のやうにな  
つてゐる。これによると、どんな凶作年でも  
減收を見ず收穫は平均してゐる。昭和十年の  
如きも凶作とはいへ、反當二石八斗五升を收  
穫した。

反當收穫高白米計算 弘化元年一石二斗四升、  
嘉永元年一石二斗四升、安政元年一石五斗、萬延  
元年一石四斗一升、文久元年一石四斗五升、文久  
二年一石六斗、元治元年一石四斗七升、慶應元年  
一石五斗一升、慶應二年(凶作)一石一斗、明治  
元年一石三斗一升、明治二年(凶作)一石二斗七  
升、明治七年(凶作)一石二斗五升、明治十四年一石五  
斗一升、大正二年(凶作)一石五斗六升、昭和元  
年二石七斗一升、昭和六年(凶作)二石五斗七升  
昭和九年(凶作)二石七斗一升、昭和十年(凶作)  
二石八斗五升。

### 漁民より農民へ

青森縣下の漁村は最近漁業不振で窮乏甚し  
く、或は農業に、あるひは商人に轉業するも  
のが多くなつて來た。上北郡六ヶ所村の漁民  
たちも漁業に見切りを上げ、數百戸が擧つて  
農業に轉向することを申合せ、同村字室久保  
の官有原野一千八百町歩を借受け畑地に開  
墾することになり、昭和十一年五月青森商業  
銀行に資金六萬圓の特融方を申込み、開墾組  
合を組織し、櫛、櫛を握つた手で鋤、鋤をと  
り開墾事業に乗出さうといふのである。

昭和九年の絲價は未曾有の安値を顯現し  
この年の九月には底を突いて四百四十五圓  
(生絲百斤建の現物相場)に低落し、ひいて  
繭相場にも響き、豫想外の安値となつた。養  
蠶家の落膽は傍の見る眼も痛々しい限り、遂  
に昭和十年の掃立を手控へさせる結果さへ生  
み、東北地方昭和十年産繭量は例年より著  
しく減少し七百六十四萬二千八百七十八貫と  
なり、前年よりも六十四萬一千九百五十六貫  
減少した。

そのうちに絲價はやうやく上向き、晩秋蠶  
出廻期には反撥の氣勢を示し、平均相場は六  
百五十圓見當に立直り、繭相場も好轉し、東  
北地方は二千九百六十四萬一千四百二十一圓  
の繭代金を得た。前年の昭和九年から見ると  
一躍一千萬圓以上の増收となつて、農家經濟  
を緩和し、養蠶家に再び活を與へたのである。  
東北の養蠶業は農家經濟と密接に結びつい  
てゐる。養蠶業を離れては農家の經營が立た  
ないのである。秋、米を賣却する季節を除い  
ては、大きな現金収入の機会がない農家にと  
つて繭代金は肥料代となり、畜産資金となり  
小作料となり、衣服費および借金の償還資金  
となる。農家のあらゆる現金支出は米の賣却  
代金と、この養蠶による繭代金をもつて行は  
れてゐる。養蠶經營の安定は、農村問題の重  
要な題目となつてゐる。

# 不安の蠶繭處理問題

## 統制法案の效果に俟つ

從來、蠶絲業の隆盛であつた時代には養蠶家が生産した繭の處理についてはいさゝかも不安がなかつたのであるが、この頃の状況では産繭の處理について頗る困難を感じる有様である。相場の如何を問はず、養蠶家は收購後五日や十日の短時間で必ず賣拂はなければならぬので、繭の處理上養蠶家は常に弱い立場に立たせられて不利を蒙らなければならぬ。製絲業者にしてもその通り、所要の原料繭を一時に購入しなければならぬので多額

の資金が必要であるが、繭價は一年の絲價平均相場から割出されるものではなく、單に繭の購入當時における絲價を標準として定められる。従つて一旦購入した繭についてはその後絲價變動による危険を全部負担しなければならぬ。これがために製絲業者は全く不安定で投機的に流れ、蠶絲業全體の安定性を缺くことになるのである。

政府はわが國の蠶絲業の根幹である繭の處理に關する組織とその處理方法を改善、合理

### 昭和十年度産繭額

種別	昭十年度	昭九年度	昭八年度
宮城	1,207,100	1,100,000	1,000,000
福島	1,100,000	1,000,000	900,000
山形	1,000,000	900,000	800,000
秋田	900,000	800,000	700,000
東北計	4,000,000	3,500,000	3,000,000
全 國	10,000,000	9,000,000	8,000,000

### 昭和十年度産繭量

種別	昭十年度	昭九年度	昭八年度
宮城	1,207,100	1,100,000	1,000,000
福島	1,100,000	1,000,000	900,000
山形	1,000,000	900,000	800,000
秋田	900,000	800,000	700,000
東北計	4,000,000	3,500,000	3,000,000
全 國	10,000,000	9,000,000	8,000,000

化し、養蠶および製絲業經營の改善向上を圖り、延いて繭絲價の安定に資するため産繭處理統制法案を昭和十年の第六十七議會に提出した。以來種々論議を重ね、昭和十一年春の特別議會で遂に兩院を通過し、蠶絲業更生に關する恒久的方策としてこの法案は實施されたのである。蠶絲業統制の威力が何處まで發揮されるかは將來に俟つより今ははかないが多年の宿望が達せられたのは、とに角業者にとつて喜びとされてゐる。

### 養蠶合理的經營

この頃の繭相場は一にヤンキー・ガールの氣受け如何にかゝつてゐる。といふのはアメリカ娘の穿くストッキングの長短が直ぐ生絲の相場に影響するからである。頼りない次第だが實際なのである。それ程にアメリカ市場は日本生絲の得意先になつてゐる。生絲生産の最前衛をつとめる養蠶家は、五月下旬沼津の繭初取引が済むまではてんで見當もつかない。

その間、養蠶家は流言蜚語に惑はされがちである。來年は繭相場がいゝと聞けば、掃立を多くし、相場に芽が出ないに耳にすれば桑園まで潰してしまふ。隣で扱つた蠶種がいゝと見れば、直ぐ利に走つてインチキ種紙をつかまされ、掃立後に違繭額出で泣き出すのである。見透しのつかない養蠶經營に安定を缺

いてゐる結果である。

養蠶經營の安定化は、自給自足主義によつて實現を期すること、自家勞力の範圍内で經營一切の設計を立てること、桑園を土臺として出發し、蠶作に注意し、掃立數量を定め、作柄の安定と生産費の低減につとめて良品を廉價に生産し、堅實にして安全な經營を確立することである。

養蠶經營の方法は地方の状況、規模の大小、普通農事との關係その他にもいろいろ事情があつて一律には定め難い。

### 五、産繭の處理

養蠶實行組合の産繭を産業組合製絲或は乾繭組合の手で處理させ、生産販賣に關する特約取引については取締を嚴重にし養蠶業者の産繭取引を矯正する。

六、養蠶實行組合の活動促進  
養蠶實行組合の指導員を各地に派遣出張せしめて組合の普及と活動を促進する。

以上のやうな方針で政府はそれ／＼國庫補助金を交付して奨励し、關係各縣でもこの指導方針に基づき、養蠶業を正しくリードすることにとつて効果を擧げてゐる。

養蠶家の吉凶を占ふ昭和十一年の沼津繭市場初取引は五月三十日華々しく益開けした。この結果は案外の高値でどつと揚つた數聲に、全國養蠶家は今年の養蠶景氣は上吉だと幸先を祝し合つた。

この日、初取引に登場した繭は黃繭一千二百四貫百二十匁、白繭百六十四貫五百八十匁、總量一千八百八十八貫七百匁である。相場は黃繭高値五圓

## 掃立豫想

### 十一年春蠶

二十九錢(前年五圓十一錢)安値四圓五十一錢(前年四圓二十三錢)買四圓九十四錢二厘(前年四圓八十五錢)掛目三十四(前年三十四)白繭高値五圓二十錢(前年五圓三十一錢)安値四圓二十八錢(前年四圓三十六錢)買四圓六十八錢九厘(前年四圓八十六錢)掛目三十四(前年三十五)

沼津の初取引は今年の繭に高値豫想を裏書したが、農林省の五月上旬發表した昭和十一年の春蠶豫想掃立數量は、四月末現在で六千四百六十四萬三千七百七十九グラム、この内譯は白繭四千五百八十四萬四千四百七十九グラム、(七割一分)、黃繭種一千八百七十九萬八千六百七十九グラム(二割九分)前年から見ると四百七十四萬六千三百三十三グラム(六分八厘)の減少である。これは桑園整理による反別の減少と、雪害で桑量の減少を見越して一般養蠶家が掃立を手控へたためである。

これを東北六縣について見れば、岩手、青森の二縣が掃立を増加してゐるだけで、他は何れも減少してゐる。東北全體の掃立豫想量は五百九十萬七千七百七十九グラムで、前年より四百七十四萬六千三百三十三グラムの減少である。

### 春蠶掃立豫想量

種別	昭十年度	昭九年度	昭八年度
宮城	1,100,000	1,000,000	900,000
福島	1,000,000	900,000	800,000
山形	900,000	800,000	700,000
秋田	800,000	700,000	600,000
東北計	3,800,000	3,400,000	3,000,000
全 國	10,000,000	9,000,000	8,000,000

前年に對 三五、七二 二八〇、三六 三四、六六

六四四、六四〇、六四四 七、一四 九三、〇三〇 一三

蠶種品質統一

東北各縣では、農林省の指導方針に従ひ、蠶業試験場の試験研究になる地方的にもつとも優良な蠶種を選定し、この奨励品種の原蠶種をそれ、縣内の蠶種製造業者に配付し、指導奨励を加へて品種の統一を期す。...

桑園混作の効果

東北五縣成績

養蠶の投機性を矯め、繭價の低落にも耐へ

- 五、掃立 掃立三十四時間前までに飼育箱を清水にて充分潤し置くこと。約十五時間清水に浸す。箱内には蠶座紙を敷きその上に掃立つこと。...

農 村

なほ宮城縣では未だ桑園混作物についての調査が出来てゐない。

岩手縣の箱飼

岩手縣では蠶作の安走と繭生産費の節減を圖るために、養蠶家一般に稚蠶期における箱飼を奨励することになり、昭和十一年の春蠶から指導奨励につとめてゐる。...

天蠶飼育

天蠶は獨特の光澤を有してゐる。絲質は極めて強靱、雨露に對しても強大な抵抗力を有してゐるので、天蠶に對する關心はややく集つて来た。...

桑胴枯病發生原因

桑樹の胴枯病被害は年々東北、北陸、近畿中國等において五百萬圓に上つてゐる。この胴枯病發生原因は冷害説、病菌説がありその何れとも決定しかねてゐるが、農林省指定の秋田縣大館試験桑園の技手關本清太郎氏は昭和六年から五ヶ年間に亘り研究した結果次の如く湿度の多少が發病に重大關係があるといつてゐる。...





桑園整理、改植實施反則 (既往三ヶ年間)

Table showing the number of mulberry trees (桑園整理、改植實施反則) across various regions like 宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, and 東北計. It includes columns for years (年次) and tree counts (樹數).

Table titled '真綿生産高 (昭和十年)' showing the production of raw silk (真綿生産高) in different regions and the total (全) for the year 1935.

Table titled '繭の處理方法 (昭和十年)' detailing the methods for processing silk (繭の處理方法) such as 生繭賣賣, 乾繭賣賣, 組合製絲, etc., across various regions.

養繭處理方法別數量 (昭和十年)

Table showing the quantity of silk processing methods (養繭處理方法別數量) categorized by region (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北計) and method (生繭販賣, 乾繭販賣, etc.).

販賣全體別繭販賣數量 (昭和十年)

Table showing the quantity of silk sold by type (販賣全體別繭販賣數量) including 共同販賣, 個人販賣, 特約取引, etc., across regions.

特約取引其他別數量 (昭和十年)

Table showing the quantity of special transactions and other types (特約取引其他別數量) for silk processing across regions.

Table titled '養蠶戶數' showing the number of silkworm rearing households (養蠶戶數) by region (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北計) and year.

Table titled '生絲生産高 (昭和十年)' showing the production of raw silk (生絲生産高) by region and year, including sub-sections for '收繭' (silkworm rearing) and '生絲' (raw silk).

# 輝く園藝農産物

初夏六月から秋の終りにかけて櫻桃、梨、柿、林檎などがつき／＼に實り、枝もたわ／＼にその爛熟し切った姿態を見せて芳醇な香を放ち頻りに味覺をそよめる。東北地方の最も恵まれた季節である。農民は大自然の恩恵を心から感謝しつゝ、色づいた櫻桃を摘み、梨や林檎や柿の果實を枝からもぎとる。田園の乙女たちは嬉々としてこの採果作業や選別に當つてゐる。摘取られた果實は乙女たちの多幸な夢を乗せて、縣外に移出されるのである。

園藝農産物の中でも東北地方から生産する果實類は實に多い。全國の果實類總生産額に對して一割五分強といふ壓倒的な數字を示してゐる。農林省の調査によると、昭和九年中國の果實總生産額は六千九百六十四萬四千四百十六圓となつてゐるが、この中で東北地方の生産額は一千七百七十五圓である。

東北地方の生産果實として代表的なものは青森の林檎を第一としなければならぬ。次は山形、福島、櫻桃、梨、柿類であらう。これらの果實が有名になつたのは明治維新以後のことであるが、偶然芽ばえた一粒の種、一本の苗木が五十年を出ない間に立派な果實の銘柄を附され、各地に出荷して市場の人氣を獨占する迄に成功したのである。地理的な環境と氣候の關係を極度に利用して改善して來た

結果である。東北地方の果實はその地方色を飽迄發揮し、永い間競争品を市場から驅逐することにつとめ、遂にこの覇業を完成した。

青森の林檎は、生産數量も、その聲價も日本一で光輝ある王座を占め、その銘柄は日本を代表して堂々と海外に輸出されてゐる。

山形の櫻桃もその産額及び聲價は日本一であり、福島産の櫻桃は第二位に下るが、生果移出の陣容は斷じて他に譲らない。

福島産の柿は産額では第一位を岐阜に奪はれてゐるが、第二位を確保して動かない。福島産の梨は産額順位から數へて五、六位のところにあるが、品質のいゝ點で市場の人氣は素晴らしい。蔬菜類の生産も東北地方は多い。大體内地全産額の八分一厘餘を獨占してゐる産額からいへば、青森縣の馬鈴薯、宮城縣の仙臺白菜、岩手縣の甘藍などは代表的なもので、これらは縣内の消費を満してゐるだけでなく、關東及び關西の大市場に出荷し、年々好評を博してゐる。

東北を代表するこれらの果實や蔬菜類はそれ／＼銘柄によつて大市場に移出され人氣を掌握してゐるが、舞臺は自由競争時代である、各地の生産市場では虎視眈眈として虚をねらつてゐる。東北地方の各生産地ではこれに備へる對策が必要である。生産制限と販賣統制

## 青森縣の林檎

全國産額の六割を超す



ひ揃勢の娘經津に取採檢林

東北の物産で青森の林檎ほど宣傳の行きとどいたものはない。今でこそ朝鮮産や關東州産の林檎に壓迫されて直取引は少なくなつたが、それでもなほ遠く南洋、印度を初め、浦鹽、ハルビンから大連、青島、上海方面にまで輸出され萬丈の氣を吐いてゐる。産額から見ると青森産の林檎は全國總生産額の六割以上を占めてゐる。林檎が青森縣に植ゑられたのは明治七年、記

録によれば、東奥義塾の米人教師ウオルフ・イング氏が故國アメリカのインディアナ州から印度の苗木數十本をお土産に持歸り栽培したのが日本一の林檎國をつくつた動機である。この意味で青森縣は先づ米人イング氏に深く感謝すべきであらう。

その後試植時代を經過して明治二十三年には栽培反別が百四町歩となり、こゝから生産された林檎の收量が二萬五千貫、この代價が一萬六千圓に上つた。青森縣農事試験場に林檎の病理研究所が設けられ、この研究と平行して栽培指導につとめたため、大正七、八年頃から産額が一度に増加し大正十五年にはその生産高が一千八百萬圓に膨脹した。しかし大正七年と大正十年は林檎の大恐慌時代で病蟲の被害が夥しく收量も著しく減少した。これが當業者に致命的な打撃を與へ、斯業の前途を悲觀し、愛樹を伐採して炭に焼いたといふ悲惨な事實さへあつた。廢園の續出したのはこの頃である。この苦難を経て大正十四年頃から斯業は再び軌道に乗り、昭和元年には一千八百萬貫の大豐作を出現し、生産過剩の歎を吐かせたのであるが、その後は一進一退で今日に及んでゐる。

林檎の販賣取引について青森縣では主要都市に駐在員を特派し、出荷最盛期には毎日市況を速報させ、出荷の調節を計り、信用調査や販賣斡旋、代金の回収などを行はせ、取引の改善につとめてゐるので、次第に効果を上

げて來た。移出林檎の大部分は青森縣林檎移出同業組合の手で行はれてゐる。取引の相手は需要地の問屋で、委託販賣が多いため着地問屋に利益を獨占される傾向がある。問屋の倉庫に入つた林檎は次から次へ現れる仲買人から小賣商に渡り、それから需要者の手に入るのである。この多くの段階を経なければならぬので、市場の價格は自然にせり上げられて行くわけである。

## 林檎海外輸出額

青森縣の林檎生産額は昭和十年移出同業組合の調査によれば、一千五百萬圓以上に上り縣外移出高は七百萬圓を突破してゐる。青森縣林檎統制會（青森市所在）と青森縣林檎移出同業組合（弘前市所在）が販路の開拓に當り、毎年新しい宣傳方法について頭を悩ましてゐる。昭和九年から京都、大阪、東京、神戸名古屋などの大市場で有力者を招待し、津輕林檎の懇談會を開いたり、林檎の展覽會を開催したりして消費宣傳につとめてゐる。更に大消費地の各女學校で林檎料理の講習會を開いて新しい需要の開拓に専念し、横濱、神戸大阪方面の輸出問屋の手を経て海外に美麗な林檎ボスターを送り、海外の需要開拓にも全力を注いでゐる。これがため海外に輸出される林檎は年額三十萬圓に達する豪勢さである

## 林檎の種類

林檎には種類が多く青森縣でも、以前には

- 國光** (原名「ロルス」は俗に雪の下と稱し市場に取引される極上品で十一月月中旬から翌年五月頃までが出荷期節になつてゐる。鈍紅色の中に橘の色澤があり、甘味と酸味が適當に配合された外國種である。(原名「ジョナルサン」も外國種で俗に「満紅千成」と稱し十月中旬から翌年の二月頃までが出荷期節である。色澤は美しい鮮紅色で甘味と酸味がかつてゐる極上品である。)
- 紅魁** (原名「レッドアストラカン」林檎出荷のトップを切つて出荷陣容の水先案内を承り、俗名山野早熟六號種で七月下旬盛夏の市場に早くも顔を出して需要家を喜ばせる。第二陣)
- 祝** (原名「サムマベイヤメ」俗名「札幌地」で紅魁の後を繼ぎ、九月上旬から新な嗜好に供へるため濃潤で登場して來る。第三陣は)
- 紅玉** (俗に「中畑玉」を呼ばれ九月下旬から十一月にかけて姿を現す。例の)
- 紅玉、満紅、千成** (俗名「夢長」もこれと同座して移出される。國光雲の下に次いで林檎大出荷陣の殿をつとめるのは地元弘前原産の)
- 柳玉** (十一月月中旬から翌年の初夏六月までが出荷期節で、一年間に亘つて休みなく青森縣産の林檎は市場に出荷されてゐる。)
- 印度**

### 風穴利用林檎の貯蔵

果物は採集後も腐敗するまでは成熟作用を持續する。この生理現象を利用し採集後の成熟期間を延長するために貯蔵法を吟味しなければならぬ。青森産林檎のやうに全国的に販路をもつてゐるものは、貯蔵法を殊に吟味しなければならぬのである。林檎は種類によつて貯蔵の出来ないものもあるが、國光(雪の下)は十一月の上旬に成熟採集した後一、二月も過ぎてから本當の香味が出て來るのでも貯蔵の必要がある。青森港の大東、青森製氷、日魯漁業などの冷蔵庫が近頃林檎を貯蔵するやうになつてから大分局面は拓けたが、青森縣には獨特の風穴貯蔵法がある。

風穴といふのは自然の冷蔵庫で富士の風穴は有名で磐岩の大トンネルをなしてゐるが、青森縣の風穴は秋田縣と青森縣の縣界にある矢立峠の一、國見山の麓に湧く冷い風を、明治四十五年頃から林檎の貯蔵に利用してゐる。この温度は一年中攝氏零度から五度乃至六度位、林檎の貯蔵には最も適當してゐるので、現在この山麓には、十餘の冷蔵庫が建てられ一萬五千箱の林檎が貯蔵される仕掛になつてゐる。この大自然の懷中に深く抱かれた「雪の下」が國見山の麓から十二月の聲を聞く全國の市場に向けて出荷されるのである。

### 林檎の海外輸出

昭和十年は青森林檎の大豊作で移出検査高は縣管検査開始以來の最高記録をつつた。青森縣農産物検査所の調査によると、十年産林檎の海外輸出は實に十四萬三千五百七箱に達し、その仕向先は次の通りで、青森林檎の

種別	数量	金額	種別	数量	金額
昭和三十九年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十九年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十八年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十八年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十七年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十七年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十六年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十六年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十五年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十五年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十四年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十四年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十三年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十三年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十二年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十二年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十一年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十一年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十年	一、九二、八六一	九〇、三三三

### 青森林檎輸送量

青森縣の林檎は全国的に販路を持つてゐるので國鐵にこらげ込む林檎輸送の運賃は素晴しいものである。昭和十年度は青森運輸事務所管内の各驛から發送された林檎は十八萬三千七百四十三箱で、この運賃だけで百七十三萬三千三百十圓に達した。近頃關西方面の市場を賑はしてゐる長野産の林檎は發送運賃三千三百七十五圓、運賃三萬一千四百七十八圓で、青森産林檎の六十分の一に過ぎない有様である。

### 青森縣林檎在荷高

青森縣農産物検査所の調査、昭和十年産林檎の縣内在荷高は昭和十一年五月十五日現在國光二十八萬五千五百五十八箱、紅玉二萬五千六百六十五箱、倭錦四百六十箱、印度二百五十箱その他三百二十箱合計三十一萬一千八百五十三箱となつてゐる。昭和十年は林檎園空前の大豊作で八百二十四萬餘箱の大量生産を見、この中から六百八十六萬七千二百六十四箱は縣外に移出されてゐる。冷蔵林檎の出荷期に入つた五月の市場相場は調子が悪く、下向に出た

### 苹果株數、收量、價格 (昭和九年農林省調査)

種別	株數	收量	價格
昭和三十九年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十八年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十七年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十六年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十五年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十四年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十三年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十二年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十一年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三
昭和三十年	一、九二、八六一	九〇、三三三	九〇、三三三

### 林檎箱の用材

青森縣産物の王座を占める林檎は、栽培地増加と共に年々産出高も増加の傾向を辿つてゐるが、それに伴ひ林檎箱は昭和九年度に六百五十萬箱、十年度には六百七十萬箱に漸増し、本縣にて使用される魚箱と共に年年使用する木材は流木百五十萬石で、その原料木は三陸赤松、南部松の三種に限定されてゐるため、現在殆どそれら民有林は伐採し盡され國有林の拂下げに俟たねばならない事情にあるが、青森營林局は林檎箱製造用材としてこれを拂下げず、一般公賣の際赤松を拂下げて

### 凶作年の米と林檎

青森縣立華果試驗場長須佐三郎氏は凶作の年における青森縣の米作と林檎の作柄を次の如く對比發表した。

昭和六年は例外として大體水稲が凶作に當つた年は林檎が豊作である。特に昭和九年、昭和十年は林檎が豊作であつた。一反歩當の收穫について見ると、凶作の年には米が反當僅か七斗二升となり價額十九圓位であるに反し、林檎は五十四箱を收穫してその代金は百十五圓となつてゐる。青森縣の農家にとつて林檎栽培が如何に重要なものであるか了解出来るであらう。

種別	数量	金額	種別	数量	金額
昭和三十九年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十九年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十八年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十八年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十七年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十七年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十六年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十六年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十五年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十五年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十四年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十四年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十三年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十三年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十二年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十二年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十一年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十一年	一、九二、八六一	九〇、三三三
昭和三十年	一、九二、八六一	九〇、三三三	昭和三十年	一、九二、八六一	九〇、三三三



### 馬鈴薯主産地

青森縣 王座

馬鈴薯は米麥の補助食物であり、蔬菜として最も一般的に親しまれてゐる。馬鈴薯はそのまゝ食膳に上るばかりでなく、澱粉にも、酒精にも、味噌、醬油、菓子等の製造にも供され、また牛、豚の飼料にもなる貴重な食品である。東北地方では青森縣の生産額が筆頭第一で、宮城、福島などが主産地である。青森縣の馬鈴薯は凶作の年に代用食とするために、藩政時代から盛んに栽培を奨励したもので、凶作克服の精神が一ケの馬鈴薯に注がれて見事に完成し、これが今では縣外におすそ分けするまでに發達したのである。

在來種は別として明治の初年に弘前の菊地桶衛氏が北海道から種薯を仕入れ友人や知己に配布して栽培したのが當つて縣内到此ころに移殖され、縣當局も大いに力を馬鈴薯に注いで、優良種の普及を圖り、施肥栽培、手入れ法から、病虫害の驅除に至るまで親切に農民を指導し、遂にわが國でも有数の馬鈴薯産地になつた。この栽培品種は今日三圓薯が最も多い。三圓薯は米國種で最初輸入した際の一ケの種薯が三圓で世人をあつといはれたのからこの名稱が生れた。昭和十年度の作付反別は六千七百三十八町四反歩に上り收穫量は九百萬三千六百九十六貫、この價額が九十

一萬六千七百二十圓に達した。一反歩の平均收穫量が百三十四貫である。一時萎縮病が蔓延して作付反別と收穫量がやゝ減少したが、栽培の分布は古間木下田を中心とする上北、下北、三戸各郡下の南部薯と弘前を中心とする津輕薯とに大別することが出来る。しかし南部薯の方が今日市場で好評を博してゐる。取引は産業組合、縣販購聯の手によるもの、出荷組合の手によるもの、移出同業組合を経由するもの、移出業者個人の手によるもの、或は仲買人の手で行はれるものなどがある。

▽縣販購聯 産業組合系の出荷組合を主體として

東北の馬鈴薯 (昭和九年農林省調査)

品別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全	國
作付反別	三、六四〇・〇	四、四六六・六	三、九四三・三	六、四六八・八	一、八三四・五	一、九二二・〇	二一、一九八・二	一、三三、六六五	
收 量	七、二四二、九五〇	七、四九三、〇四〇	六、八四六、九二九	一七、〇九九、〇八八	三、〇九九、〇八八	三、〇九九、〇八八	四八、六六五、七四	五、五五七、七六	三三、八六七、六三
價	六七、七〇五	七四、五五五	四〇、〇〇八	七九、四九六	三三、二九六	五八、七八一	六三、七三六	二六、三五七、三三	

馬鈴薯生産費資料 (青森縣農會調査十年度)

一、生産費	收 量	金 額	單 價
作付反別	收 量	金 額	單 價
1,000反	四、四四貫	五五・八二圓	〇・一二五圓
二、直接的生産費			

全販購聯と連絡をとつて全国的に委託販賣、指値委託販賣、買付委託販賣などの方法で出荷販賣して日覺しい活動ぶりを見せてゐる。

▽移出同業組合 昭和二年九月仲買業者と一部生産者で組織したもので事務所は古間木下田にある取引の系統は組合の仲買人が生産者から現金で現物を買取り、驛前の保管倉庫で検査を受け、移出業者の手から組合の名で移出、關東市場、關西市場などに送り出される。北海道も馬鈴薯の本場であるが、形が不揃で發芽しやすく料理に手数がかかる缺點があり、中國地方の温暖地産は軟弱で味がまづい。青森産の馬鈴薯はこれらの缺點がないので、市場の人氣を獨占してゐるが、この頃北海道から船腹を利用し無償にひとしい送料で不揃ひな馬鈴薯がどん／＼市場に顔を出し遠慮もなくダビングするので、市場はポテトの飽食で相場を崩してゐる。こんな状態で青森産の馬鈴薯が兎角北海ポテトに牛耳られ氣味であるのは遺憾である

#### 四、收支計算表

收 入	支 出	差引純益
直接	間接	計
五、八〇二	四、〇七六	一、七二六
四、〇七六	七、〇八	七、〇八

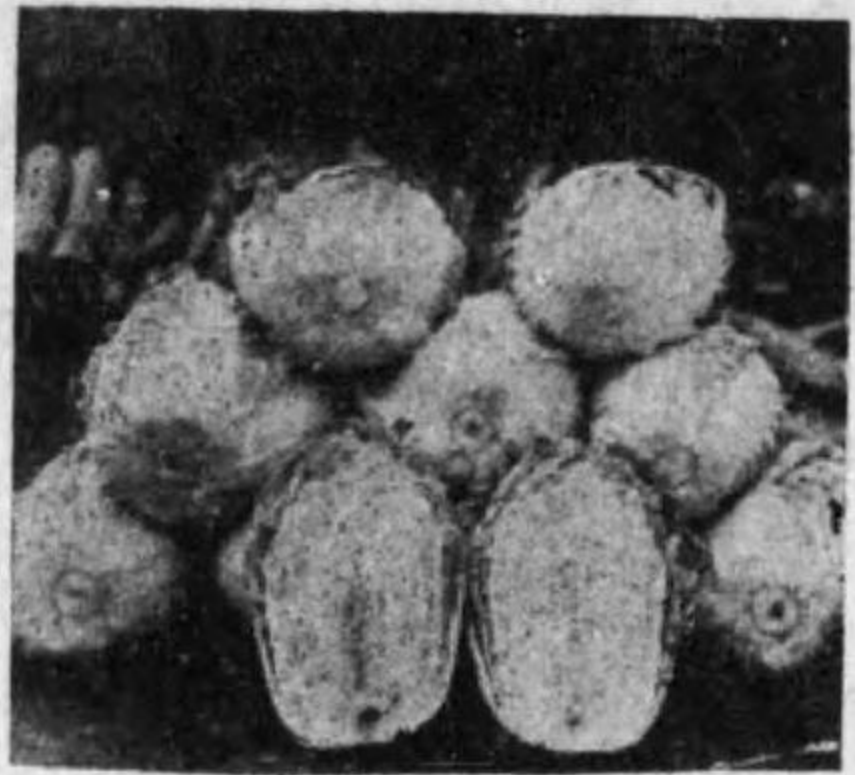
#### 馬鈴薯高値を示す

昭和十年の秋より昭和十一年の春にかけて馬鈴薯の市場相場は意外の高値を示した。これは北海道や青森縣の馬鈴薯が不作であつたことが理由にあげられてゐるが、全国的には

豊作であつたのから見て海外輸出の増加と、國內需要の旺盛とから品不足を告げたものであると解釋される。青森縣の馬鈴薯は長期の貯蔵に耐へ、美味である點では折紙をつけられてゐるので、海外輸出には頗るいい條件を備へてゐる。青森縣ではこゝに着眼し開墾適地を利用して馬鈴薯の増産を圖り海外へ大量輸出の計畫を立てゝゐる。全国的に見て馬鈴薯の輸出先は關東州、海峽植民地、佛領印度支那、香港、英領印度、露領亞細亞、比律賓諸島その他で、海外の需要は無盡蔵である。

### 仙臺白菜の特徴

莫大に上る移出高



仙臺白菜 宮城縣名産村浦生

鬼胡桃の殻を割つたやうに凹凸がしつくり食合つた純白な完全結球、緻密でそ

の嗜好に適つて壓倒的な人氣を博してゐる。生でよし、煮てよし、漬けてよし、の三拍子揃つたところに需要が湧くのである。宮城縣下の平坦部所産されるが、ことに名取、宮城、柴田、刈田、登米、桃生、志田、栗原の各郡から多く産出する。

昭和九年の作付面積は二千二百二十町歩に達したが、移出用作付面積はこのうち一千二百五十四町歩である。昭和十年の縣外移出數量は正味六貫五百匁入の俵で百十七萬二千八百四十四俵、これを貨車四千九十四車に積んで六大都市はもちろん、南は九州から、北は北

海道に至る各地の青物市場に發送されたのである。この賣上代金が六十七萬三千二百十二圓と集計されてゐる。出荷季節が僅々一、二月月に限定されてゐるので、白菜の輸送を引受ける鐵道側では輸送最盛期の十二月に入ると、貨車のやりくりで、目を廻す程多忙である。

昭和五年以來十年間で六ヶ年間の移出状況を見ると、縣外に移出して最も成績がよかつたのは昭和八年で、一俵の平均相場は九十五錢二厘で九十四萬七千二百二十八俵、車積にして三千二百五十車を出荷して九十萬二千六百十七圓を得てゐる。この年は早魘で作柄不良のため一般に品不良から相場を吊り上げたのに原因してゐる。昭和九年もあの冷害で、作柄不良のため品不足で相場は比較的高く(平均一俵七十八錢七厘)百十四萬六千七百四十八俵(貨車三千六百十車)を移出し、この代金は九十萬二千四百九十圓となつた。

縣内の生産地にはそれ／＼出荷組合があり、出荷組合聯合會(宮城縣農會)が統制に當つてゐる。最近仙臺白菜が市場で壓倒的な人氣を博してゐるのを見て、大都市近郊の蔬菜生産地が他の蔬菜栽培を抛棄して白菜に轉ずる傾向があり、生産過剰に陥る危険が多くなつたので、宮城縣下百三十餘の出荷組合は聯合會の統制の下に相互に提携し出荷制限を行ひ、市價の暴落防止につとめてゐるが、それでも拔賣の弊がなか／＼矯められず統制當

仙臺白菜の由来

仙臺白菜は日清戦争の戦後記念産物である。國民は白菜の味をもつて戦後の甘味を思ふべきである。
明治二十七年、八年の日清戦争當時、第二師團參謀長として出征した岡崎生三氏が凱旋の際に持ち歸つた支那の結球白菜種子が仙臺白菜の祖先なのである。...

局を悩ましてゐる。取引は大部分が委託販賣で、その發送者は販賣斡旋所か、中央卸賣市場である。
仙臺白菜が縣外に移出されたのは極く最近のことである。それまでは自家用として宮城縣地方だけの需要にとどまつてゐた。...

それ以来白菜の作付面積は全国的にあまり大きな動きを見せなくなつた。最近仙臺白菜は關東市場と關西市場で靜岡産や茨城産の白菜と競争しなければならなくなり、早場ものでは長野縣輕井澤附近の高原地帯から生産する白菜に押され、進路を阻まれたので、帝國農會の斡旋によつて靜岡縣農會と出荷季節を協定した。
關東市場では仙臺白菜が十二月末をもつて出荷を打切ること、靜岡産の白菜は仙臺白菜の出荷打切りを待つて十二月下旬から出荷を開始すること、關西市場では仙臺白菜が十二月二十三日で出荷を打切り、その後に靜岡産の白菜を出荷すること、として僅かに出荷過剰の痛手を避けることとしたが、作付面積が二千餘町歩にも上り、宮城縣と匹敵する茨城縣が地理的に關東市場に近い有利な立場を利用して、さかんに白菜のダンピングをやり市場を壓迫し相場を落す誘因となつた。この対策がいま仙臺白菜にとつては急務となつてゐる。

白菜の播種、施肥

宮城縣農事試験場では、昭和十一年の白菜採種期を控へ七月十五日一般農家のために白菜栽培講習會を開いた。講習者中には外人宣教師ウイリヤム・マツクナイト氏も交つてゐた。講習種目は栽培と病蟲害驅除に關するもので、栽培の指導概要は次のやうなものであつた。

白菜 宮城縣農會 自慢の獻立

落花生あへ (白菜、焙り落花生、人参)

白菜は細切しし鹽を振りかけて熱湯を注ぎ水で冷やし酢をかけて置く。人参は少量の煮出汁に醬油と砂糖を加へて下煮して置き、焙り落花生は焙り濃し砂糖醬油を混ぜて味をとり白菜と人参を入れて和へる。

白胡麻あへ (白菜、油揚げ、白胡麻)

油揚げを細く切り味酢と醬油で味をつけ白菜はきざんで鹽を少し振りかけ熱湯を注ぎ水で冷し、別に白胡麻を焙り摺り醬油と砂糖を加へて、味酢と酢とのほして和へる。

白菜の鹽漬 (白菜十貫、鹽一升五合)

白菜を縦二つ大きいものは四つ割、初め鹽三分の二に荒漬し、二三日して漬水が浸水するから他の桶に移し残り三分の一の鹽で漬直す。味酢、焼酎、わし昆布、ミラがらし、柚子等の調味料が混れれば芳香美味を増す。

白菜の糠漬 (白菜十貫、鹽一升三合、糠三升)

新しい糠に鹽を混ぜ薄塩漬と同じ方法で漬込む。柚子六

七個を輪切しし白菜に挟んで漬込めは一層良い。

おからの白菜漬

牛蒡、人参、椎茸等を混ぜた美味しいおからをつくるのであるが、白菜の葉を味の素を入れた醬油で軽く煮て味をつけて、これでおからを包み味をつけた干瓢で結んで食前に上す。

挽肉の白菜巻

牛肉、豚肉を挽肉し玉葱をきざんで肉を加へバターでいため鹽と胡椒で味をつける。白菜の葉を蒸し肉を包み軽く茹でた干瓢で結び、トマトケチャップをかけて食前に上す。干瓢のかかりに妻揚子でおさへてもよい。

白菜葉心の三杯酢 (白菜巻の殘物利用)

白菜の中心を巾五分長さ一寸位に切り鹽で軽く押しつけ五分間をおき、一方酢、醬油、砂糖を煮立て冷した後鹽と味の素少々を入れた前記の白菜を水洗しこの汁に浸して食す。

白菜王子 (涙の月)

鍋にバターを溶し白菜を細く切りいため、鹽胡椒で味をつけ中心に卵を落し半熟の程度で食す。

白菜出荷統制の通牒

需要供給關係の均衡が破れ、出荷過剰となれば當然市價が暴落する。宮城縣農會ではそこで白菜の出荷過剰を嚴に戒め、相場の慘落防除にとめてゐるが、縣下の各出荷組合に對して次のやうな戒律を廻し出荷統制を圖つてゐる。
一、白菜が有利に販賣された翌年は作付面積増し白菜の市場出荷が多くなり價格を落す、これは

仙臺白菜

Table with columns: 年次, 作付面積, 生産高, 同上の内移出, 同上の金額, 一俵當, 備考. Rows for years 昭和五年 to 十年.

利に走らうとする人間の慾が反對に悪い結果を來すのである。これでは白菜の相場を下げるやうなものであるから、徒に作付面積を増加しなすこと。

將來の改善事項

- 一、白菜生産者の中には統制外の出荷をして市場を擾亂するものがあるため、この防止策を講ずることが必要である。このためには假渡金をなし金融の便を圖ることも必要である。
二、白菜は腐敗し易く、出廻期間が短いことは販

仙臺白菜出荷高

仙臺白菜の昭和十年度作付面積は前年より百町歩を増加し二千二百五十町歩となり、生育期の天候が順調であつたため品質も數量も前年と比較して遜色がなかつた。殊に昭和十一年は早蒔の向が多かつたので出廻期は例年の

型を破つて二十日も早く、それだけ關東市場や關西市場で白菜のはしりとして喜ばれた。十月月上旬からは毎日四百題以上の出荷發送が續いて活況を呈した。仕向先は例によつて關東および關西市場が壓倒的で、出荷數量の九割を占めてゐる。十月末の白菜相場は東京で四十五錢から六十錢、神戸では五十五錢から七十錢で、前年よりは十錢安であつた。

移出白菜強制検査

仙臺白菜は大正十三年以來東京、横濱を初め門司、神戸、大阪、京都、名古屋などの大市場に統制ある共同出荷を行ひ、有利に販賣してゐるが、宮城縣農會が大正十三年出荷組合獎勵金交付規定と出荷組合準則をつくつて出荷組合の設立を促し、選別、荷造、包装などの規格を定め、栽培から出荷に至るまでをすべて組合中心に指導し、出荷の陣容を整備することに努めたが、このため出荷組合は次第に増加し、今日二百餘の組合數に上つてゐる。仙臺白菜の名聲は次第に高まつて來たので、宮城縣農會では昭和二年から出荷白菜の検査を勵行し、選別、荷造を厳正にし信用第一主義を進んだ。しかし一部の當業者は商人の現金買付に眩惑されて無検査の粗悪品を出荷し需要地の信用を落し、生産者全體が大きな損失を蒙つたので、昭和七年十月検査規則を制定し縣農會統制の下に出荷する白菜は凡て検査を受けることにした。昭和九年八月

この検査規則を更に改正して縣外に移出するものは全部強制検査を受けることになつた。

福島縣の柿

櫻桃で本場の山形を壓倒せんとしてゐる福島縣は、また天下に聞えた柿の産地、しかも全産額の九割まで縣外に移出して萬丈の氣を吐いてゐる。味がよく、未だこれ以上の味を知らずとあつて味不知柿と命名遂に身不知柿と轉じたといはれる



會津身不知柿の撰果

安積、岩瀬、東白川、西白河、石川、田村の各方面からは名産の蜂屋柿が出る。このほかに

會津地方からは御所柿を産出するが、これはまだ少量である。會津身不知柿は五百年の昔、高僧が支那から種子を持つて來て移植したに始り、蜂屋柿も松川附近で古くから栽培されてゐたらしく明治二十年頃から北海道やその他に移出して好評を博してゐる。會津方面には早くから會津生果生産移出組合が設立され、會津若松市に事務所を設けて生産と販賣の統制をとつて來たが、中道には統制機關がなく、取引も亂雑であつたが、昭和七年になつてやうやく生柿生産移出組合が生れ、縣廳内に事務所を設け、會津地方の生産移出組合と手を合つて共同戦線を張り、出荷の全般的な統制につとめてゐる。生柿の取引はすべて仲買人の手で

東北の柿

Table with columns: 種別, 宮, 城, 福, 島, 岩, 手, 青, 森, 山, 形, 秋, 田, 計, 全, 國. Rows for various regions and totals.

福島名物の梨

梨は福島縣の名物である。信夫、石城の二郡を主要産地として安達、安積、西白河、耶

晩三吉など、特に多いのは長十郎と早生赤の二種で長十郎は全生産額の約五割を獨占し、早生赤は一割五分内外を占めてゐる。福島縣の栽培を見たのは何時頃であるか明瞭ではないが、七十年前西白河郡白坂村の小林某が梨園式の栽培を始め、これが縣内に普及傳されたものであると傳へられてゐる。梨はやうやく福島地方の名物となつたが、福島市とその附近の需要を充てゐるに過ぎなかつたところ、次第に生産額が増加して來たので信夫郡庭坂村、野田村の有志が組合をつくり、明治四十年に縣の斡旋で遠く名古屋に移出し非常な好評を博した。これが福島縣對外移出の嚆矢である。

その後、明治四十二年に笹木野原梨園組合が出来て再び名古屋方面に移出して販路を確立した。笹木野原梨園は明治十八年頃鳴原某の手で經營されたものであるが、この苗木は日光方面から取寄せて移植した。日光の梨苗木が一步北に轉じ、福島縣で花を咲き梨園式栽培の野田村笹木野原を中心として實を結んだわけである。

大正十二年に笹木野原梨園振興會が組織され、梨園の改善に全力をつくしたため、品質が改良統一され、出荷數量も増加し、市場の聲價も揚つた。賣場の銘柄で廣く關東、關西の大市場に雄飛してゐるのはこれである。福島縣は氣候と收果期の關係から市場ではあまり競争品を見ないのが惠まれてゐる點で

あるが、晩生種だけは新潟産のものに壓倒され、東京や北海道では全く太刀打が出来ない生産者は晩生種の栽培を斷念し、中生種の栽培に轉向してゐる。しかし冷蔵庫の利用普及によつて將來は當然靜岡産の梨と市場で一騎打をしなければならぬ状態にある。しかし色彩のいゝのと味の芳醇な點で福島梨に特徴があるので、この特殊性を宣傳すれば人氣の獨占も容易である。福島梨の販路は京濱地方を第一とし、阪神地方や北海道方面に伸びてゐるが、取引は大部分が委託販賣で、一切を市場の間屋に一任する成行委託と出荷の際に最低の價格を指定する指値委託の二つの方法で行はれてゐるが、取引の改善もまた必要で

### 東北の梨

(昭和九年農林省調査)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
植付株數	六三、三三三	三三、一〇四	八九、四六六	五八、三六四	一五九、〇六七	三四八、一〇三	一、〇四、四四九	八、三六、五三六
收量	五、三〇九	一、九六九	三、〇三三	三、五二一	八、三二七	一、〇三、七四四	一、〇三、七四四	三、九六、〇七二
價額	四八、一六三	三三、三六一	一〇〇、三三四	五八、五三四	九八、五五〇	一、九四、四七四	九七、二五九	三、三二、五九七

### 秋田縣の西洋梨

西洋梨も東北、北海道が本場であるが秋田の西洋梨は歴史的にも有名である。昭和三年十一月京都で行はれた御即位式大嘗祭の机代物として秋田縣に西洋梨の供進を指定された、西洋梨の供進指定は全國で秋田縣だけで

ある。福島縣産梨の最近十ヶ年間に於ける一ヶ年の平均收量は百六十八萬五千五百五十五貫、金額にして十萬八千五百六十七圓となつてゐるが、昭和十年年度の收量は著しく増加し二百一十一萬六千六百六十三貫となり、價額は四十一萬四千八百七十八圓に増加した。なほ福島縣の調査によれば梨の生産費は貫當十九錢五厘である。梨の市場價額は競争品との難合ひがあつて生産費を割る場合が多いが、自家努力を主として生産してゐるのでやうやく利益を數へる状態である。獨自家産品をもつてゐるに、はらず企業化されないのはこのためである。

津國藝試験場から優良苗木の配付を受け、これを山本郡能代港町を中心として移植したのが當り、平鹿郡下その他でも栽培するに至り、栽培技術の進歩と相俟つて西洋梨の主産地となつたのである。

昭和六年以來の生産數量は次の如くで昭和十年は近來にない大豐作であつた。

年次	生産數量	價	移出數量	價
昭和六年	六、三〇七	三、六六八	一八、〇〇〇	八、一〇〇
昭和七年	五〇、一四六	一七、七三三	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇
昭和八年	五、三六一	一、五三九	三、五〇〇	一〇、一三五
昭和九年	六、九七五	二、八三三	二、八〇〇	一、一八〇
昭和十年	八、五二〇	三、〇〇〇	一三、五〇〇	一、三五〇

### 山形縣の西洋梨生産高

秋田縣では西洋梨の増殖獎勵につとめ、苗

### 東北の西洋梨

(九年度)

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	東北計	全國計
收量	一〇、三六六	五、四三三	四四、三三七	五、七〇〇	六九、七五五	六〇、一四八	一三九、〇九七	六六、一九九
同價額	三、六九三	一、三八七	一、九二六	一八、一八〇	三、五二一	三、六六六	一〇、九三三	二四七、一七五

### つぶらなる櫻桃

### 山形縣と福島縣の特産

櫻桃栽培發祥地は山形縣である、この頃隣

縣の福島縣がこの株を奪はんとして目覺しい

さくらんぼ採取 (園内はつぶらなるさくらんぼ)



躍進振りを見せて來たが、元祖はこちら、と悠々迫らず品質本位で市場の人氣を永遠に確保しようとする冷蔵車を利用して關西地方に販路を擴張する一面、罐詰、菓子、櫻桃液、鹽漬などに加工し新しい生産部面を開拓して年々櫻桃の加工事業が盛んになつて行く。櫻桃は明治五年北海道の開拓使黒田清隆氏がアメリカとフランスから移植したのが我が國に渡來した最初で、それから四年目の明治九年には山形縣令三島通庸氏の手で山形市千歳公園の一隅に試植されたのである。今は流石に本場だけあつて山形縣下所から産出するが、中でも山形市、米澤市、東村山郡、西村山郡、南村山郡、東置賜郡、南置賜郡は最も多く生産してゐる。櫻桃の種類は五百種以上もあり、山形や福島地方で栽培されてゐるのは大體次

の三種類である。

日の出

(原名アソール、パールギン) 地方名一號、原産地は歐洲及び小亞細亞地方で山形では五月下旬、福島では五月中旬頃が成熟期である。果肉は軟質で遠方への輸送には堪へないが早熟で市場に出るのが早い。栽培地も多い。

黄玉

(原名ガウアナウツド) 地方名八號、原産地は歐洲、小亞細亞地方で山形では六月中旬、福島では六月上旬が成熟期である。

奈翁

(原名ナポールオン) 地方名十號、原産地は歐洲、小亞細亞地方である。成熟期は山形六月下旬、福島六月中旬である。果皮は赤黄で美しく果肉の緊れる點が特徴で、鮮やかに遠く移出されるのはこれである。品質は上等で栽培地は最も多く、全生産額の五、六割はこの奈翁種である。

櫻桃の栽培は元來が個人的に發達したもので、共同的な施設は少なかったが需要が急激に増加し、有力な競争品が足元の福島縣から壓倒的に移出されたので、生産品の統一を圖るために共同販賣の必要を感じ、最近出荷組合が各地で設立を見られる。取引は栽培者と着地問屋の間で行はれるものと、地方の仲買商人の手によるものとの二つあるが、需要地の販賣方法は何れも委託販賣である。仲買商人が栽培者から買取るとは山買或は林買といひ、開花季節に早くも結實を豫想して賣買の契約を結ぶもので、互ひに危険率が多いが、困窮してゐる栽培者は不利と知りつつもこの取引に頼つてゐるのである。この點は稻の青田賣と同様である。買數買といふのは採收期に現品を見て時價で賣買するもの、この取引方法は比較的多く行はれてゐる。櫻

桃は收獲の多少で市價を左右することが多く、豊産の場合には相場が無残に下落する。これは産地の共同販賣組織が不充分であつたこと、他の地方産櫻桃と深刻な競争關係が起つて來たことに原因してゐる。殊に競争相手として隣りの福島縣が堂々と正面から登場し、出荷數量も山形縣と大差ないところまで漕ぎつけ山梨縣もまた氣候と土質が絶好の條件に恵まれ、この頃盛んに上質の櫻桃を出荷してゐるが福島、山梨兩縣とも本場の山形よりは一週間或は十日位早く出荷して市場の人氣を奪ひつゝある。

出荷される櫻桃の荷造は日本園藝會の主唱で大正四年に特大箱六斤、大箱五斤、中箱三斤、小箱二斤の五種類に統一されたが、山形縣櫻桃出荷組合聯合會で協定した箱詰等級は二斤箱に詰める櫻桃の數で次のやうに定めてある。

松印 一等品目の出二三四粒 黄玉一九二粒 奈翁一四〇粒 櫻桃の粒が小さくてこの箱詰數に達しないものは優等品で四等級に區別される。

撰別は主に婦女子の手で丹念に行はれるが餘程熟練したもので一時間に十五箱、普及二斤箱一日かゝつて二百箱位のものである。

最近十ヶ年間の平均産額は四十二萬八千二百八十四貫、金額にして二十三萬七千三百八十九圓となつてゐる。昭和十年は開花期の冷

獲得した原因である。福島縣の櫻桃は最近十ヶ年間の一ヶ年平均收量は三十四萬二千五百八十二貫で、金額にして十九萬三千七百六十三圓となつてゐるが、昭和十年度の收量は

東北六縣の櫻桃

Table with columns for Prefecture (縣別), Cultivation Area (植付株數), and Yield (收量). Rows include Miyagi (宮城), Fukushima (福島), Iwate (岩手), Aomori (青森), Yamagata (山形), and Akita (秋田).

十一年の櫻桃出荷

福島縣農會では昭和十一年五月十四日縣農會樓上で櫻桃出荷統制協議會を開き、昭和十一年度の出荷方針について協議した結果、新に販路を北海道に向けて開拓することになり櫻桃の都市配給率を次の如く決定した。なほ關西方面への出荷は市場の希望や、冷蔵車の都合もあり従來は福島縣に限つて出荷されてゐたが、伊達郡下の運送店が共同職線を張つて瀬上驛から出荷することを主張し、委員附託となり結局、福島、瀬上兩驛から出荷することとなり、六月二日瀬上驛から東京市場に華々しい出荷陣の火蓋を切つた。續いて福島驛からも六月五日東京市場に初出荷を見た。その後、瀬上驛からは産地に近い地の利を得て續々出荷され、六月十日までには早くも三

雨が祟り平年作の四割減收で、三十四萬八千七百六十一貫、金額では十八萬七千七百九十七圓の産額に下つた。仕向先は東京市場が第一で五萬五千三百二十貫、次が大阪市場で二萬一千五百九十五貫、北海道市場は第三位で一萬三千三百九十貫、横濱三千貫、名古屋九千三百三十四貫、京都八千五百七十二貫、神戸一萬九百七十七貫、九州五百七十二貫、その他一萬六千九百三十四貫と集計され、昭和十年度の移出額は八萬五千圓となつてゐる。元來山形の櫻桃は東京市を中心とする關東市場に消化されてゐたが、福島産の櫻桃と對抗する必要がある、この頃では永年の個人出荷を廢し、全縣下を一丸とした櫻桃出荷組合聯合會を組織し、山形縣農會が統制して關西、九州、北海道方面に販路の擴張を圖り、市場で同志打を避けるために販路を分散し、市價の暴落を防いでゐる。銘柄別に市場の人氣を見るに奈翁種が壓倒的である。なほ櫻桃の生産費は貫當五十二錢四厘前後になつてゐる。

福島縣の櫻桃産額

櫻桃は福島縣でも到るところで栽培されてゐる。信夫、伊達の二郡が主要産地、縣下産額の七割以上はこの兩郡から出る。福島縣の栽培者は滋養地の山形縣から長所を遠慮なく拜借し、山形縣よりも一足お先に共同販賣の實をあげ、協力して生産、販賣兩方面から改善し市場に好印象を與へたのが今日の聲價を

開花期の冷害が祟つて三十三萬六千二百四十七貫となり、この代價は十七萬六千八百六十六圓に減少した。なほ福島縣の調査によれば櫻桃の生産費は貫當五十二錢である。

(昭和九年農林省調査)

昭和十年度の配給歩合

Table showing distribution percentages for various regions: Tokyo (東京三七%), Osaka (大阪二二%), Kanagawa (神戶一〇%), Kyoto (京都八%), etc.

櫻桃最盛期と出荷統制

櫻桃の出廻りは山梨ものが最も早く、五月初旬市場に出て、六月中旬頃までは人氣を獨占するが、五月下旬から七月上旬にかけて東北産福島ものが第二陣として市場に出荷される。山形ものは第三陣に廻り六月上旬から市場に出て行く。出荷最盛期は六月下旬から七月上旬までとなつてゐる。帝國農會では五月二十九日山形、福島、山梨三縣の櫻桃關係者を集めて昭和十一年度の出荷統制協議會を開いた。昭和十一年の櫻桃

生産豫想高は山形縣が最高で、四十五萬貫、福島縣は四十萬貫、山梨縣はずつと下つて五萬貫と算定され、この生産豫想高に基いて市場出荷の割合を次の如く決定して實行した。各縣とも縣農會が嚴重に統制を保ち、出荷過剰で相場を崩すことがないやうにと同業者は自戒し合つてゐる。

福島、山形、山梨三縣の出荷割合

Table showing production and distribution percentages for Fukushima, Yamagata, and Yamanashi counties.

福島縣の出荷統制

福島縣における果實界の王座柿、櫻桃に次いで桃の生産高も最近著しく増加し、昭和十一年度における縣下(信達方部)の生産は六十七萬貫を越え、年々結實期には多額の出荷を行つてゐる。出荷先は大抵北海道を中心としてをり、帝國農會札幌事務所と緊密なる聯絡をとるべく縣農會は昭和十一年四月十八日午後一時より同所に同縣最初の桃出荷統制協議會を開催、生産地の信達地方栽培者、出荷團體代表者、福島鐵道運輸事務所の出席を求め實施方法その他營業者の意見を聴取した上、

今出荷期より統制に乗出した。

### 東北の甘藍

#### 岩手産は良質

最近岩手産の甘藍生産額は素晴らしい勢ひで増加して来た。質のいいものと味が無類であるといふ折紙がついて京濱市場に歓迎され、岩手甘藍の名聲が高まつて来た。大正四年故北白川宮殿下岩手山に御登山遊ばされた御みぎり、厨川村産の甘藍を台覽に供し奉つたところ「ますく、努力せよ」とのお言葉を拜し、地元厨川村では大いに感激して厨川甘藍生産組合を設立栽培法を研究し、東京方面に移出したのが縣外市場への初登場であつた。

宮殿下の御奨励に發奮して岩手甘藍は世に出たが、生産品はすべて地元商人の手で出荷されて来た。このため農民は少なからず不利益を蒙つて来たので、岩手縣農會は大正四年産業振興策として甘藍の栽培を奨励し、品質の向上を圖る一面、取引の改善につとめ販路の開拓と斡旋に乗出し、縣内各町村の聯合出荷を試み好成绩を挙げ今日に至つた。撰別荷造された甘藍は皆掛七貫目と定め、各球とも外葉を三枚つけて根は短く切り、腐敗の恐れある不良品は絶対に混入しないやうに注意してゐる。取引は出荷組合の手による場合と、仲買人の手で行はれる場合とがある。仲買人の手で行はれるのは豫め仲買人が農家に肥料

や苗を貸付け、收穫期に現物と相殺取引するのであるが、立毛で見込買するのと驛の持込買とがある。出荷組合のものは聯合會で販賣を統制し、販賣斡旋所や中央卸賣市場に送り出して委託販賣するのである。甘藍の出廻期に入れば出荷組合聯合會では主なる仕向先に監督員を出張させ、到着荷物の監督や市況通報の任に當らしめ、代金の回収送金その他取引上の必要な調査研究を行ひ、サーヴィスに萬全を期してゐる。

昭和十年度の作付反別は七百五十九町九反歩で、一千百三十九萬八千五百貫といふ收穫量をあげた。この價額は七十九萬七千八百九十五圓、このうち東京、横濱、甲府、静岡、名古屋、京都、大阪、神戸等の各大市場に移出したものは六百三十三萬三千百貫に上り、この代價は五十六萬九千九百七十圓となつた。なほ岩手縣農會の調査によれば生産費は貫當三錢八厘(昭和九年)である。

#### 岩手甘藍減收

昭和十年度の岩手甘藍は、補付當初生育が

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國
作付反別	一、八四〇・〇	二、七九・五	七、四七・七	五、四三・三	三、六〇・一	四、四九・九	二、四二・五	一、四三三・一
收量	六、四四一・一	〇、〇六六・五	四、〇七六・八	一、五三三・〇	一、〇六三・三	一、〇六三・三	一、〇六三・三	一、〇六三・三
價額	四、九五三・四	八三・七六	三、四七五・六	一、七五二・七九	一、〇九九・九	一、〇九九・九	一、〇九九・九	一、〇九九・九

頗る順調で、三萬圓の移出を豫想されたが、その後病蟲害の影響を受け作付反別は前年よりも二%餘も多く七百六十七町歩であつたにかゝらず生産額は二三%の減收を見た。仕向先は東京市場が最も多く、東京鐵道局管内の各驛に下されたものは一萬四千八百三十三圓に上り、前年から見ると一千七百五十二圓の減少である。次で關西市場を背景とする大阪鐵道局管内の各驛に仕向られた七千七百五十一圓で、前年より三百四十七圓の増加であつた。

#### 厨川村信販販表彰

岩手縣果菜組合では昭和十一年一月二十日縣農會事務所で定時總會を開き、甘藍出荷につき最も優秀な成績をあげた岩手郡厨川村信用購買販賣組合(代表田中銑一郎氏)を表彰した。なほこの定時總會の席上において、岩手甘藍の出荷成績を總體的に向上せしむるため新事業として仕向先各市場の事情、つまり市場の氣配、嗜好の變遷などを調査する視察團を適當の時期に組合から派遣することを決議した。

### 東北地方農村共同施設經費配當額及建設豫定棟數

(昭和十一年四月一日現在農林省調査)

縣別	區別	經費配當額				建設豫定棟數
		配當株數	建築費	作業資金	共同器具購入費	
宮城	前月迄	二、五七	二、五七〇	二、五七〇	二、五七〇	二、五七〇
	本月迄	一、五九	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇	一、五九〇
岩手	前月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
	本月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
青森	前月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
	本月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
山形	前月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
	本月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
秋田	前月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
	本月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
計	前月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇
	本月迄	一、〇八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇八〇

品の加工等に利用し得たる工賃又は作業を業者その他へ委託すればそれに支拂ふべき料金を示す。

東北地方農村共同施設作業種類別

Table listing various agricultural products and their corresponding compensation amounts. Columns include product names like '大豆', '小麦', '米', and compensation values.

煙草耕作實績 (昭和十年仙臺、郡山地方専賣局)

Table detailing tobacco cultivation performance. It includes columns for '人員反歩' (personnel per step), '量目' (quantity), '賠償金' (compensation), and '反別量' (quantity per step).

Table for '昭和十年煙草耕作反別' (Tobacco cultivation by district, 1935). It lists districts like '山', '仙臺', and '郡山' with their respective compensation and quantity data.

Table for '製造煙草縣別賣渡高' (Wholesale price of manufactured tobacco by prefecture). It lists prefectures such as '宮城', '福島', '青森', and '秋田' with their respective sales figures.

製	内		外		計
	数量	代金	数量	代金	
兩切	一、七五、一八七	一、三三、四九〇	一、一五、二九八	一、二五、五八八	二、五八、〇七八
葉巻	六、九〇五	一、七五、一八七	三、四八五	一、二五、五八八	三、〇〇、七七六
刻	四、九一、一八〇	一、三三、四九〇	三、三三、七三六	一、二五、五八八	三、五九、〇七八
紙巻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
煙草	六、三三、九〇九	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
パイプ	七、六、三〇五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
代金	三、三三、九〇九	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
計	三、三三、九〇九	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
刻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
葉巻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
紙巻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
煙草	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
パイプ	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
代金	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
計	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
刻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
葉巻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
紙巻	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
煙草	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
パイプ	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
代金	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇
計	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	一、〇三、一五五	三、〇九、四六〇

東北工藝農産物 (昭和十年農林省統計)

品別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	東北計
茶	三九一石	九、九七石	一、八九石	三三、〇三石	三、五〇三石	四、六三石	五八、五七石
胡麻	五、八六石	一三、三六石	二八、〇六石	三〇、六七石	四、八七石	四、六三石	五八、五七石
大麻	二九七石	六、六四石	六、三三石	九、九七石	一、七四石	一、七四石	二七、七〇石
大	八、八二石	一六、六四石	一六、六四石	九、九七石	一、七四石	一、七四石	二七、七〇石
ラミ	一、四四石	八、八二石	五、〇五石	三、五〇石	四、〇三石	六、六四石	二八、八二石
蒟蒻	二、二七石	一五、〇〇石	六、三三石	四、〇三石	八、八二石	八、八二石	三六、二二石
芋	五、三三石	一、四四石	七、七石	三、五〇石	一、四九石	三、八石	六、四五石
計	四九、九三石	一三、七九石	一、八九石	三三、〇三石	三、五〇石	四、六三石	一〇〇、〇〇石
計	一七、五八石	五、四九石	八、九石	二、九三石	一、七四石	一、七四石	二八、八二石
計	三三、三五石	一、八九石	一、八九石	三三、〇三石	三、五〇石	四、六三石	五八、五七石

馬産地東北

山野廣茫として展げられた東北地方に、悠久の夢がまだかである、この廣く連る地方は古來馬産の事業に絶好の條件が具はり、馬産地として輝やかしい歴史を綴つて来た。歴史に輝く代表的なものに仙臺馬、南部駒、三春駒などがある、今日、馬産地東北の名譽をかちうるまでには並大抵の努力ではなかつた、それは數百年間に亘つた舊藩時代における馬政當局の不斷の努力によつて確保されたものである。伊達政宗は大小の戦闘によく騎兵を用ひ、神出鬼没、あるひは敵の陣屋に殺到し、あるひは退き、機を見てはまた突入して當るを幸ひ難き倒し、蹄に蹴ちらす兵馬用兵の妙をもつて常勝したのであるが、當時領下に良駿がなかつたなら奥羽の歴史はどうなつてゐたか判らない。政宗公の覇業成就に一半の大役を引受けたのは仙臺馬であるといつてもよい。下つて元和元年五月六日、大阪夏の陣に、仙臺勢の騎砲は眞田幸村の陣營を屠り、難攻不落の大阪城を陥れ大いに面目をあげた。洋の東西を問はず、伯樂が千金の名馬を求め歩いた理由もこゝにある。科擧兵器時代が來ても、良馬なくしては戦争が出來ない、日清、日露の兩戦役から近くは滿洲事變に至るまで、國防の第一線に立つて赫々たる勳功

を樹て世界戦史に不朽の名を残した皇軍の義勇奉公活躍のかけに、東北産の軍馬が協力してゐることを忘れてはならない。わが國の馬匹は國防上五十萬頭を維持する必要があるとされ、乗馬および鞍馬として有能の馬を六十萬頭だけはどうしても保有しなければならぬ、政府は産業上からも眞剣に保護繁殖につとめてゐる。しかし現在、國內に保有する馬匹の約四割、六十二萬頭は東北六縣と北海道の農家が飼育してゐるもので、全國生産馬匹の約七割、八萬頭は東北六縣と北海道から生産されてゐる。多年不況に泣く東北がわが國の産馬中心地であることは愉快にたへない。明治大帝の御料馬金華山號の森殿不可侵な姿態は、實に宮城縣玉造郡鬼首村の産で、馬産地東北の光榮を永遠に記憶すべきである。東北地方は維新前各藩で良馬の管理、馬政に力を用ひ、良馬の藩外移出を禁止し、ひたすら兵器として優良種の保存と改良につとめ馬産地としての基礎をつくつた。廢藩後は舊制が弛緩し、良馬は四散して、亂牧、亂飼に陥り昔日の面目はやうやく失ひかけたので政府は産馬改良に乗り出し海外から良種を輸入、これを民間に貸與し良種の保存、蕃殖につとめ

馬政計畫樹立

今日に至つた。民間でも明治初年産業奨励の聲に刺戟され畜産の振興に努力し、種馬を外國から輸入した、トロツター、サラブレツト、アラブなどその代表的なものである。日清、日露の兩戦役は内國産馬の改良急務を知らしめた、馬政局官制の制定を早め、全國に種馬牧場、種馬所をつくり國有種牡馬を繋ぎ民有母馬に交配することとなつたのもこのためである、このとき東北地方は馬産地の故をもつて最も重きを置かれたのである。明治以後東北産の良馬は外國種との交配によつて更にその本質を發揮し、軍馬購買、競馬糶市などに刺戟され發達、改良の過程を辿つて來たが、軍馬購買は馬産地方に纏つた多額の現金を落し、疲弊農村に喜色を與へたが、購買豫算その他の關係で有資格馬で購買漏れとなるものが多く、一部小數のものを除いてはその購買價格が生産費用にも達しない場合がある、馬産地一般は軍馬購買價格の引上げを切に希望してゐる。日清、日露の外征において、わが國の産馬が甚しく劣つてゐる事實を意識したのが動機となり、臨時馬制調査會が生れた、明治三十八年同調査會の決議に基き馬政第一次三十年計畫が樹立されたのであるが、その後馬政機構の改變があつたり、經濟界の變動がしばしば現れて計畫の遂行を阻んだが、やうやく昭和



十年度をもつて第一次計畫は終了を告げた。わが國の近代産馬畜産事業の發達は實にこの馬政第一次三十年計畫に負ふところ甚大である。繼續して實施される馬政第二次計畫は昭和十一年の特別議會において協賛を得、愈よ第二次計畫の實行期に入った。

第二次計畫期間も三十ヶ年で内地保有馬数の百五十萬頭と種牡馬要数の六千頭を目標に置くことは第一次計畫と同様であるが、今回は馬政の目標を國防上必要なる有能馬、特に有能乗鞍馬の充實に置いた點と、各牧種に適應する性能を具へた馬をつくるため、體型を整理し種類を統一せんとすることは特筆すべきである。新計畫は従来より一層馬の資質を改良し、能力の向上と規格の統一に重きを置いたのであるが、産馬の基礎は産業にあるのであるから、産業との調節を如何にするか、馬産經營の安定から馬政第二次計畫が遂行されて行く筈であり、馬産地東北地方では今後の新計畫進行に多大の期待をかけてゐる。

農林省馬政局の新設に伴つて馬政方針の根本策と馬産統制の合理化につき協議する必要があり、全國種馬所長會議が昭和十一年六月五日から四日間に亘つて、岩手縣岩手郡瀧澤村の農林省種馬育成所で開かれた、出席者は農林省畜産局の馬産課長横屋潤氏、佐々田、廣瀬、井上、鹿島、湊川の各技師、佐原種馬育成所長ほか全國各地の種馬所長等二十八名、會議は秘密會で傍聴を禁止したが、會議の内

容は馬政第二次計畫に關するもので役種別、種馬の地方別、生産統制を中心とするものであつた。

### 優良馬産地

南部駒 (岩手、青森)

岩手縣一圓と青森縣の東北、下北、三戸の舊南部領一帯が南部駒の産地である。南部氏がこゝに覇權を握つて以來、廣濶なその領域が馬産地として絶好の條件を持つてゐるのでこゝに馬政を確立し、改良の方針を樹て牛馬籍を制定し、種牡馬の貸與、監査などを嚴重にし原野を開放し産馬事業の奨励に力めた。南部藩の馬政は周到を極め、藩有九牧(二牧は岩手縣内にあり)民牧の制度を確立し、馬産地としての基礎をつくつた。當時南部藩の馬政は各藩の模範とされたものである。洋種の輸入も古い、將軍吉宗の時代に南部藩に對してペルシヤ馬を下付してゐる。これは住谷牧(青森縣三戸郡斗川村附近)に放牧されたらしく、ペルシヤ馬の碑が今日青森縣三戸町の郊外に残つてゐる。

廢藩後、明治九年岩手縣では外山に牧場を開き、續いてこゝに獸醫學舎を建てたが、明治十四年産馬會社が創立され、産馬機關は悉く民間に移された。その後、縣ではハンガリー種アルゼリー、トロツター等の種馬を輸入し馬格の改良につとめたが、種馬の選擇悪く期待した程の成績は上らなかつた、日清戰爭

後岩手縣では率先して産馬の改良につとめ、アングロノルマン種、ハクニー種などを原産地から購入し種用として面目を一新した。ハクニー種の輸入は本邦で岩手縣が最初で南部駒がその洋種交配のスタートを切つたものである。

昭和九年農林省の調査によると岩手縣の生産頭数は八千九百二十九頭で福島縣に次ぐ産地である、良質の點からいへば他府縣に比較して一頭地を抜いてゐる。各縣が競つて父馬の供給を岩手縣に求めてゐるのにも見ても良質馬の聲價が判然するであらう。岩手縣でも盛岡市、沼宮内町、遠野町の近郷が馬産地として有名である、生産馬は輕挽馬で性質は從順であり、氣品を備へてゐる。縣内に十三の産馬組合があり、各組合では毎年秋に組合内で生産した二歳駒の難市を開く、牡駒は一度は必ず難市に於ける規定になつてゐる、種牡馬軍馬などの購買はこの期間に行はれるのである。

産馬方針 岩手縣では勞役と厩肥を主眼とする農用馬の増加に重點を置き、生産馬匹の體格改善、能力の向上につとめてゐる、縣内岩手、上閉伊、下閉伊、九戸、二戸の五郡は輕挽馬の生産を主とし他の地方は輕挽馬と小格轉馬の生産に努力してゐる。

### 南部馬の本場 (青森)

南部領に屬してゐた青森縣こそ南部駒の本

場である。維新後、明治三年勸農寮から洋種二頭を交付され、同十六年青森縣ではハンガリー馬六頭を購入して種用とし、同二十一年共同産馬改新社が設立され、米國産のサラブレッドおよびトロツター種牝十一頭、牝十五頭を輸入し大いに洋種交配を行つて馬種の改良につとめた。明治三十五年青森縣知事山内一次氏が次のやうな青森縣の産馬改良方針を樹立した。

三戸郡および上北郡は乘用種(アラブ、サラブレッド、アングロアラブ)を主とし或はトロツター種をもつて改良すること。  
下北郡は輕挽用種(チトロツター、ハクニー、アングロノルマン)をもつて改良すること、津輕の五郡は輕挽用種をもつて改良す、但し當分の種種を種牡馬に充當すること。明治二十九年七月町に奥羽種馬牧場が設置され、同三十五年以降縣および産馬畜産組合が外國種を直接輸入しつとめ内國産種馬の充實を圖り同三十九年には濠洲産種馬四百頭の貸下を受け、續いて同四十一年には野邊地町に青森種馬所が設置され種新以來洋種交配によつて改良して來た基礎種に對して、更に優秀な國有種牡馬を交配して血體體型の整理につとめ、こゝに獨特の青森馬をつくり出したのである。

大正十四年青森縣では特選牝馬の體型標準を次のごとく決定し、同時に各産馬畜産組合の生産率を定めて實行してゐる。  
八戸乘馬八割種馬二割、五戸、三本木乘馬七割輕挽馬三割、野邊地、七戸乘馬三割輕挽馬七割

三戸、東津輕、西北、中南は輕挽馬のみ、田名部は小格轉馬を生産することとし、種馬供用方針を左の如く定めてゐる。  
輕種はアラブ、サラブレッド、アングロアラブ種およびそ

の直接交配を同種に繋ぐもの、中間種はアングロノルマン種および直接交配を同種に繋ぐものハクニー種およびその系統のものは當分のうち供用す。

青森縣は岩手縣に次ぐ優良産馬地である。昭和九年の生産頭数は五千三百四十一頭で、父馬候補として政府の購買する頭數も年々増加してゐる。縣内でも地方によつて産馬の種類が違ひ、三本木、五戸、八戸からは乘馬を生産し八戸のアングロアラブは有名である。最近この地方は競馬の發達に伴つて活氣づいてゐる、野邊地、七戸、津輕地方は中間種の生産地である、下北半島の田名部では小型の農業用の轉馬を生産し、生産された良馬は産馬畜産組合の主催で難市に出され競賣されるのであるが、三本木、八戸および七戸の各市場は馬市で有名である。

産馬方針 青森縣では農林省の馬政方針に基いて乘馬三分、轉馬七分を生産する方針の下に縣下十二ヶ所に産馬畜産組合を設け極力増殖を計つてゐる、各産馬畜産組合の方針、生産割合は次の如く表示してゐる。  
八戸乘馬六・五、輕挽馬三・五、五戸乘馬五・五、輕挽馬三・五、三本木乘馬五・五、輕挽馬四・五、七戸乘馬二・〇、輕挽馬八・〇、野邊地輕挽馬一・〇、三戸輕挽馬一・〇、東津輕輕挽馬一・〇、〇、中津輕輕挽馬一・〇、〇、南津輕輕挽馬一・〇、〇、西北輕挽馬一・〇、〇、平内輕挽馬一・〇、〇、田名部小格轉馬一・〇、〇。

更に同縣では産馬助成策として縣有候補種牡馬の購買育成、二歳駒品評會の助成、牧野改良事業の助成等にもつとめてゐる。

### 三春駒 (福島)

舊藩時代から各藩は馬政を布き産馬畜産の保護と取締につとめて來た、このうちでも三春藩が最も指導獎勵に努力した、故あるかな三春駒の聲價は斷然高くなつた。廢藩後産馬畜産の施設廢滅し、三春駒の名聲も遂に地に墜ちようとしたが縣令安場保利氏がこれを憂ひ、明治七年岩瀬、安達、安積、西白河の四郡を併せて須賀川産馬會社をつくり、更に同十一年に全縣下を一丸とした福島縣産馬會社を組織須賀川町に本社を置き、三春に分社を、若松市に出張所を設けて種馬を輸入し駒難を整理して改良の實をあげたが、明治二十七年に産馬會社を解散し、産馬組合取締所を設けた。同三十二年には馬匹調査會を設けて委員を各地に出張せしめ、産馬畜産事業に關する各種の資料を集め、翌三十三年取締所を廢し新に産馬組合聯合會を設け指導獎勵につとめ今日に至つた。なほ明治三十二年には福島種馬所が設置され國有種馬を繋留し、明治三十四年に産馬組合聯合會を設置し、種馬飼養場を翌年縣に移管して縣立種畜場とし蕃殖飼育の機關とした。福島縣が外國種の種牡馬を取入れたのは明治六年、佛國産のもの二頭を下付された、三春駒は初めて外國種を交配したその後アラブ、トロツター、アルゼリーなどの輸入あり、明治三十四年縣立種畜場が設置されてからは續々と外國種が輸入され、更に

良牝をアメリカや濠洲から輸入して蕃殖につとめた、最近に至り福島縣では縣有種牡馬百五十頭の補充計畫を樹て大正九年から十五ヶ年計畫で實施中である。

生産頭數では福島縣が東北六縣中第一位にあり、昭和九年の生産頭數は農林省の調査によると九千二百八十七頭である。主として中間種を生産に目標を置いてゐるが田村、石川石城、東白川および西白河の五郡が主要産地となつてゐる、この地方が昔三春駒で有名なところ、西白河郡の白河町は馬市で名高い。この馬市は遠く寛永の昔に初り樂翁公の時代に發達したものである。現在では町營で行はれ春、夏、秋の三回開設される、秋の馬市には東北はもろん關東方面からも種馬が集り關西方面からまで一流の馬商人が入込み、盛岡の糶市とともに東北の馬市として代表的である。

なほ福島市には東北でたゞ一つの公認競馬場がある。

### 仙臺馬 (宮城縣)

仙臺馬は冒頭に書いたやうに藩政時代の熱心な保護奨励によつて發達した、特に藩祖政宗公は産馬改良に深く意を用ひ使臣をハルシヤ國に派遣して良種牡馬を求めたと傳へられてゐる。遠く海外に派遣された使臣が良馬を得てやうやく歸朝した時は、既に政宗公薨去の後で、當時は海外との通商が嚴禁されてゐる。

統計によれば三千八百二十九頭で東北では第四位の馬産地である。山形縣は最上馬の産地として昔は知られたが最近はその面影を失つてゐる。

### 購買軍馬成績

陸軍の東北地方から購入する軍馬頭數は年々増加の傾向にある、これは馬産地が學つて産馬改良に精進し、軍部の要求する馬質にびつたり呼吸が合致してゐるからである。馬産地東北を誇る宮城、福島、岩手、青森の四縣について大正十五年以降昭和十年までの軍馬購買状況を見る。

大正十五年には購買頭數一千四百九十九頭に過ぎなかつたが、昭和八年には一躍二千六百三十八頭の購買を見た、もちろん、この間には昭和六年の如きは購買頭數が一千三百六十三頭に減少したなどの消長もあつた、なほ昭和九年には二百頭、昭和十年には二千三百六十六頭の購買成績となつてゐる。購買金額について見れば毎年五十萬圓以上の現金が馬産地方一帯に振りまかれてゐる、昭和八年は冷害凶作で打のめされても馬産地方はこのため近年にない好景氣で、七十七萬八千四百五十三圓の軍馬購入資金が入つた、昭和九年には購買金額六十二萬三千三百九十四圓に減少したが、昭和十年には七十四萬四千三百四十三圓に増加し馬産地に活を入れた。これを縣別に見るとさすがに岩手、青森兩縣が成績

たゞめ江戸幕府の嫌疑を恐れ折角の良馬を南部地方に追放した、主要産地は玉造、加美、黒川、栗原など山の手方面で、現在縣内には五萬五千餘頭を保有してゐるが、蕃殖用の牡馬は六千頭内外で生産仔馬は毎年二千五百餘頭に上つてゐる。外國種牡馬が宮城縣に初めて公然と輸入されたのは明治二年であるが、その種類は詳かでない、その後明治十年九月には勸農局からケンタッキー産鹿毛一頭を、また米國ケンタッキー州から乗用種牡馬一頭を借受け、續いて軍馬局や下總種畜場などから優良種牡馬を借受け改良蕃殖につとめ、明治十六年には澳國公使館書記官シーホルド氏の紹介でハンガリー産牡馬五頭、牝馬一頭を一萬七千九百餘圓で購入し、明治二十年、翌二十一年の二回に亘つてアルゼリー種牡馬二十三頭を一萬二百餘圓で購入した。更に明治三十八年、同三十九年には日露戰爭に際し旅順で鹵獲した牝馬十八頭を陸軍省から交付され、また同三十九年には農商務省から濠洲産の牝馬三百五十頭の貸下げを受けて産馬組合員に預託し蕃殖につとめた。

宮城縣はその昔、有名な馬産地の中に數へられてゐたが、今日では玉造郡が主産地として僅かに命脈を保つて二千頭内外を産してゐるにすぎない。

産馬方針 玉造郡(鬼首、鳴子、川渡)、栗原郡(花山、文字、栗駒)、加美郡(宮崎、小野田)、黒川郡(吉田、大衡)は輕い乘馬と少

よく一頭の平均價額から見ても斷然他縣を壓してゐる。

### 軍馬購買狀況 (自大正十五年) (至昭和十五年)

縣別	年	次大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
宮城	頭數	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
宮城	價額	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
福島	頭數	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
福島	價額	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
岩手	頭數	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
岩手	價額	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
青森	頭數	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
青森	價額	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
合計	頭數	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638
合計	價額	1,499	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638	2,638

### 馬の蕃殖新研究

馬政計畫上技術的に最も重要性をもつ馬の

生殖については從來科學的研究が不充分であつた、經濟的蕃殖上に遺憾の點があつた、農林省の畜政課兼疫疫調査所技師佐藤繁雄博



明治四十四年の創立、昭和七年三月まで産馬畜産組合が経営して来たが昭和七年四月縣に移管した。

### 各縣の馬市

東北地方には馬に關する行事が多い、殊に馬肥える初秋の候、馬産地に展開される二歳駒の糶市は實に壯觀を極める。馬市は各地で開設されるが、中でも岩手縣盛岡と福島縣白河の馬市は由緒ある歴史を背景として立ち、東北地方馬市の双璧として有名である。

### 盛岡の馬糶

毎年九月中旬盛岡市志家松尾前、家畜市場で開設される、南部馬の原産地であり、糶駒は小岩井農場を初め附近の村落から續々集り日本一の馬市をつくる。自慢の名馬を曳く馬子は家族連れでやつて来る、この家族が市場を取巻いて愛馬と別れを惜しむ光景は痛ましい、買出に集る商人や、取引を見物する人がまた大變である。ここでは一頭一萬圓の評價を聞くことも珍らしくない。盛岡家畜市場の沿革は極めて古く、舊幕時代徳川將軍が南部から用馬を買ひ上げたのに始る。元祿四年に至つて用馬の買地を江戸に改められたので、地元馬商人たちが不況打開策として馬市場を設け糶駒を開始したのが起源である。



岩手縣岩手郡松尾村に建設された馬糶場

有の馬三頭で、この小便代二百六十圓、馬一頭の最高稼ぎ高は岩手郡松尾村古川某氏所有馬で百十圓である。從來顧みられなかつた馬の尿に一躍して値がつきしかも冬の農閑期に女小供でも容易に採取することができるので、縣でもこの成績に鑑み、昭和十一年秋から全縣下において馬尿採取を奨励してゐる。この第一回成績により妊娠馬尿が高く賣れるばかりでなく、尿を採取するために大豆粕、藁、麥の如き飼料を多量に與へたため優良な仔馬が生れ、母馬の榮養も目立つて良好、一舉兩得である。隔年蕃殖であつたものが尿が賣れるので、連年蕃殖を希望する向が多くなつた。母馬の榮養状態から見て連年蕃殖が出来

農 村

現在は盛岡産馬畜産組合、盛岡産牛組合、盛岡家畜市場三者の共同經營に屬し、組合法によつて管理されてゐる。

馬、牛、豚、羊の各種を取引するが馬匹は盛岡産馬畜産組合區域内の各部落や北海道方面から出場し、牛は盛岡附近並に下閉伊郡岩泉附近から出場する。販路は内地、北海道、朝鮮、大連などに伸びてゐるが、牛は東京附近および千葉、宮城、山形の各方面に取引されてゐる。

### 白河の馬市

地元では盛岡の馬市を一蹴し、自ら日本一と主張して譲らぬだけあり、この馬市も規模の大なる點と、出場馬数の多いことは天下に知られ春、秋二季殊に秋の馬市には東北地方はもろろん關東地方からも出場馬が集り、馬商人は關西方面からも多數出張する。この馬市は三春馬の産地を背景にして遠く寛永年間に發祥したのであるが、樂翁公時代に至つて藩の保護が加はり益々發達し今日に至つた現在市場は町營で春、秋二季に開設されるが毎期糶馬は五千頭を超え横町、田町あたりの空地に悉く馬小屋が掛り、商家は馬商人の臨時宿屋と化し、町内は雜踏、股賑を極める。

### 東北地方の定期馬市場

宮城縣 川邊産馬市場、岩ヶ崎産馬市場、中新田産馬市場、涌谷町二歳駒糶市場、仙臺産馬組合岩ヶ崎市場、仙臺産馬組合小野田市場、松山町産馬市場

さうである。

妊娠馬の尿採取を全縣下に奨励して行ふことになれば、岩手縣には現在一萬頭の蕃殖牝馬を飼育してゐるから、一頭で五十圓づゝの小便代を稼ぐとして、五十萬圓の馬尿代が入つてくる譯である。

なほ盛岡、九戸の各産馬組合でも馬尿採取を開始し、盛岡産馬組合では赤澤、玉山の二ヶ所、九戸産馬組合では久慈一ヶ所で採取し効果をあげた。

青森縣でも八戸産馬畜産組合や上北郡七戸産馬畜産組合が中心となり採尿を奨励したが、同郡六ヶ所村では平沼部落で試験的に採尿した結果この妊娠馬尿は尿にホルモン含有量少く採算のとれないことが判明し採取を中止した。連年の冷害凶作で飼料が低下し、粗悪となり榮養が悪いので、農村窮乏の影響がかなりふところまで影響してゐるので農家がつかかりしたが、これが刺戟となり今後は愛馬の榮養が大いに改善されることであらう、尿は賣れなくても津輕馬の素質が著しく改められることは請合である。

### 妊娠馬尿の効果

妊娠馬の尿は卵巣ホルモンの原料として有力顯著であることが臨床醫學家多數の實驗で證明され、一九二五年醫學者ローウエー氏が始めて婦人の血液および尿の中に女性の發情ホルモンが含有することを證明し、一九二七

福島縣 矢吹二歳駒市場、常葉産馬組合市場、小野新町産馬市場、猪苗代駒市場、大越産馬市場、守山二歳駒市場、蘆田産馬市場、須賀川二歳駒市場、安達産馬組合針道市場、田村産馬組合市場、小作田二歳駒市場、三代駒市場、喜多方駒市場、川前駒市場、郡山二歳駒市場、本宮二歳駒市場、坂下駒市場、磐梯村産馬市場、福島二歳駒市場、岩手縣 盛岡家畜市場、岩谷堂馬市場、沼宮内産馬市場、二戸郡駒市場、岩谷堂馬市場、水澤産馬市場、輕米家畜市場、大迫町馬市場、荒屋新町家畜市場、久慈産馬市場、青森縣 七戸家畜市場、木造産馬市場、五戸産馬市場、田名部産馬市場、駒越家畜市場、大館家畜市場、小湊産馬市場、山形縣 鶴岡馬市場、大山産馬市場、新庄馬市場、東根家畜市場、向町産馬市場、上ノ山産馬市場、遊佐産馬市場、米澤家畜市場、藤島馬市場、秋田縣 角館家畜市場、横手家畜市場、秋田家畜市場、刈野産馬市場、大曲駒市場、龜田家畜市場、十文字家畜市場、金浦産馬市場

### 妊娠馬の尿

妊娠馬の小便からホルモン原料を抽出することが出来る、川崎市の帝國社臟器業研究所では、ホルモンの原料をとるために妊娠後五ヶ月の馬の小便を一升十二錢五厘で買取つてゐる、昭和十年の秋、馬産地岩手、青森の兩縣にはじめてこの耳寄りな申込をして来た。各産馬組合では大喜びでホルモン含有の小便を最も効果的に提供する方法につき研究し、小便採取講習會を開いたりして小便賣りにつとめた。岩手縣では昭和十年十一月から沼宮内産馬組合管内の各村で妊娠馬の尿を採取して川崎市に輸送、昭和十一年四月二十日をもつ

年にはツオンデック氏が妊娠尿中に一層大量の女性ホルモンが含有することを明にし、越えて一九三〇年に至つてこの發情ホルモンは妊娠馬の尿中に驚くほど多量に含有してゐることが發見された、川崎市帝國社臟器業研究所の伊藤博士が實驗した結果によると、婦人の尿と馬尿の發情ホルモン排泄量は成熟婦人の五千倍に達し妊娠馬は妊娠五ヶ月頃から著しく大量の發情ホルモンを尿の中に含みそれを排泄してゐる。こゝにおいて妊娠馬の尿は女性發情ホルモンの重要な抽出原料となつたのである。

### 毛皮獸の養殖

東北六縣が數地爭奪で激烈な競争を演じた農林省の國立毛皮獸養殖所は、岩手縣岩手郡瀧澤村宇一本木山國有林内に設立と決定された。昭和十一年度に新設されるもので、敷地の選定については氣温、積雪、水、土質、環境などが毛皮獸の養殖に適すること、毛皮獸類の疾病研究に便利であること、交通に便なること、飼料の豊富なことなどを條件として最も好適の地としてこゝに決定したものである。この養殖所の目的は輸出毛皮獸の狸、鼬鼠などを養殖してその種獸を生産し、これを東北六縣の農村に配布し副業として飼育させ、東北地方農村の振興につとめやうといふので、毛皮獸養殖所の活動は大いに期待される。

國有林野放牧地 (昭和八年)

Table showing statistics for national forests and wilderness grazing lands, including categories like 'Total', 'Number of heads', and 'Area' across various prefectures like Miyagi, Fukushima, and Iwate.

國有林野採草地 (昭和八年)

Table showing statistics for national forests and wilderness mowing grounds, including categories like 'Total', 'Number of heads', and 'Area' across various prefectures.

綿羊飼養激増

農林省調査、昭和十年末現在全国の綿羊飼養戸数は一萬六千三百六十九戸で、これを前年に比較すると飼養戸数二割六分二厘(三千四百一十戸)の増加である。この内譯は一頭を飼養するもの七千七百七十戸、二頭を飼養するもの四千七百四十四戸、三頭或は四頭を飼養するもの三千五百五戸、五頭以上を飼養するもの一千三百八十戸で、飼養頭数は總數四萬七千三百三頭、前年に比較すると三割一分六厘(一萬一千三百五十頭)の大激増を見た。

綿羊繁殖成績

三井報恩會では昭和十一年度において濠洲産の綿羊四千頭を輸入し東北六縣に對して次の如く割當貸付けたことになった。昭和十年に三井報恩會が東北救済策として濠洲から輸入し山形、岩手の兩縣に配付した綿羊ユリヂール種一千頭の飼育成績は極めて良好で、初年度の繁殖成績は七割といふ素晴らしいものである。

福島縣 十三ヶ町村一、二五〇頭 宮城縣 十二ヶ町村一、〇〇〇頭 岩手縣 八ヶ町村五〇〇頭 山形縣 十ヶ町村 五〇〇頭 秋田縣 十ヶ町村 五〇〇頭 青森縣 三ヶ町村及縣種畜場 二五〇頭 今回輸入の種綿羊は濠洲メルボルン、シドニー附近産のものを主とし、特にニュージールランド産のものも相當購入された、四月十二日横濱入港の三井物産汽船明元丸で七百六十六頭が到着したのを皮切りに六月までに五回に亘つて輸入された。

滿洲國から綿羊註文

支那江蘇省蠶業試驗場では昭和十一年一月東京高等獸醫學校の阿部教授を仲介者として福島縣に綿羊購入方を申込んで来た、同縣では綿羊を滿洲國に送ることは國際的にも意義ありとなし安達郡木幡村から優秀綿羊廿六頭北十頭を選定して一月下旬發送した。また滿洲國ではかねて綿羊の飼育奨励のため宮城縣から種綿羊を購入して増殖につとめて来たが昭和十一年度においてメリノ種二歳乃至三歳の種牡綿羊五十頭を購入する旨昭和十一年四月十三日、滿洲國實業部から宮城縣農務課に通知があつたので優良種を選定中であつたが先方の都合で中止となり、九月に入つてから改めて滿洲國鐵路總局から綿羊購入の申込を受けた。

蠶沙を綿羊の飼料に

蠶沙利用は養蠶地方の經濟に重要な役割を演ずるものとして一考を要する問題であるが農林省では蠶沙を飼料に綿羊飼育を奨励してゐる、いつたいわが國でどれ程の蠶沙が生産されるか、またこれによつてどれだけの綿羊を飼育しうるかにつき各地の關係機關を動員して基礎調査を行った結果、従來は單に肥料としてだけ利用されてゐた蠶沙を飼料にして綿羊を飼育すれば、東北地方は優に二十六萬

Main table on the left page showing statistics for 'Year-end Current' (年末現在) and 'Total' (總計) for various categories like 'Number of heads' (頭數) and 'Area' (面積) across different prefectures and regions.

種		産	
種	産	種	産
雜種	一、九二〇	雜種	八、八三三
洋種	九、七〇〇	洋種	四、七〇〇
總計	一、八一〇	總計	一、五三三
牝	一、七〇〇	牝	一、四〇〇
牡	一、一〇〇	牡	一、一三三

四千餘頭の綿羊を飼養することができるとが判明した。生薑沙量七百匁をもつて一頭一日分の飼料として計算したものである。福島縣 十萬五千六十四頭 山形縣 六萬八千

種 牝 馬 (昭和九年)

種		産	
種	産	種	産
總計	一、八一〇	總計	一、五三三
宮城	一、七〇〇	宮城	一、四〇〇
福島	一、一〇〇	福島	一、一三三
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

種 牝 馬 (昭和十年)

種		産	
種	産	種	産
總計	一、八一〇	總計	一、五三三
宮城	一、七〇〇	宮城	一、四〇〇
福島	一、一〇〇	福島	一、一三三
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

牧野施業試驗地 青森營林局では盛岡營林署管内赤澤村峠の國有林内に牧野施業試驗地を設け、南部馬を放牧して産馬改良に側面的援助を與へる方針のもとに昭和十年から施業計畫を立てた。施業試驗地は九十五町歩、模範的な放牧地とする意氣込である。昭和十一年六月二十日、青森營林局の藤島計畫課長、三浦施業案技師等臨席、盛大な開放式を舉行した。

豚の飼育頭數 (昭和十年)

種	頭數	種	頭數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

牛の屠殺頭數 (昭和十年)

種	頭數	種	頭數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

豚の屠殺頭數 (昭和十年)

種	頭數	種	頭數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

馬の屠殺頭數 (昭和十年)

種	頭數	種	頭數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

綿羊山羊の屠殺頭數 (昭和十年)

種	頭數	種	頭數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

養 村

鶏の飼育戸數及羽數 (昭和十年)

種	戸數	種	羽數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

家畜傳染病發生狀況 (昭和十年)

種	發生狀況	種	發生狀況
炭疽	一、〇〇〇	炭疽	一、〇〇〇
氣腫	一、〇〇〇	氣腫	一、〇〇〇
豚丹毒	一、〇〇〇	豚丹毒	一、〇〇〇
馬丹毒	一、〇〇〇	馬丹毒	一、〇〇〇
綿羊山羊の疥癬	一、〇〇〇	綿羊山羊の疥癬	一、〇〇〇
他	一、〇〇〇	他	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

蜜蜂飼育戸數 (昭和十年)

種	戸數	種	戸數
宮城	一、〇〇〇	宮城	一、〇〇〇
福島	一、〇〇〇	福島	一、〇〇〇
岩手	一、〇〇〇	岩手	一、〇〇〇
青森	一、〇〇〇	青森	一、〇〇〇
山形	一、〇〇〇	山形	一、〇〇〇
秋田	一、〇〇〇	秋田	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

養 村

種	箱數	種	箱數
五十箱以上	一、〇〇〇	五十箱以上	一、〇〇〇
十箱以上	一、〇〇〇	十箱以上	一、〇〇〇
五十箱未満	一、〇〇〇	五十箱未満	一、〇〇〇
十箱未満	一、〇〇〇	十箱未満	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	計	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

養 村

種	箱數	種	箱數
五十箱以上	一、〇〇〇	五十箱以上	一、〇〇〇
十箱以上	一、〇〇〇	十箱以上	一、〇〇〇
五十箱未満	一、〇〇〇	五十箱未満	一、〇〇〇
十箱未満	一、〇〇〇	十箱未満	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	計	一、〇〇〇
東北計	一、〇〇〇	東北計	一、〇〇〇
全國	一、〇〇〇	全國	一、〇〇〇

獸醫師 (昭和九年)

Table of Veterinarians (獣醫師) for various prefectures including Miyagi, Fukushima, Iwate, and National Total (全國計).

家畜市場賣買頭數 (昭和十年三月末現在)

Table of Livestock Market Buy/Sell Headcounts (家畜市場賣買頭數) for various prefectures and national total.

農家副業の實際

農家の現金収入は秋、米の穫れた直後と、養蠶の上つたときだけ、つまり農家の現金決済は一年を通じてこの二期に限られてゐるのである。逼迫した農家経済を緩和し、農村生活にうるほひあらしめるにはいさほひ農家の餘剩勞力を利用する副業を奨励し、現金収入の機会を與へてやらねばならぬ。農家経済は、水田や畑地にだけ頼つてゐては收支の均衡を保つことができないことは前にもしばしば述べた。農家は副業収入によつて初めて、その均衡を保ちうるのである。

東北地方の農家に行はれる副業は多種多様であるが、一般に技巧が拙く、手法も幼稚である。これらを技術的に洗練し、宣傳すれば販路擴張また期待してよいのである。中には福島縣の兎毛皮、各縣の鹽工品、山形縣の草履表のごとき開發され副業の域を脱し立派に産業化されてゐるものもあることは心強いべきである。特質があり、地方的に重要視される副業を左に摘録して見よう。

凍豆腐 (宮城縣) 宮城縣玉造郡岩出山町がその主産地である。天保年間に同町の齋藤庄五郎氏が紀州高野山から製法を傳へたものといはれてゐる。明治二十年頃までは凍豆腐の製造業者が同町に僅か二十戸を數へるに過ぎなかつたが、その後次第に増加し現在は百戸を超え、昭和十年の調査によれば岩出山の凍豆腐は宮城縣下各地に普及し、縣内製造戸數は一千二百二十四戸を數へた。岩出山町を中心とする宮城縣の凍豆腐産額は實に二十萬八千三百四十三圓に達し、東北地方はもろん





森		縣		山	
計	計	計	計	計	計
リンゴ液 粗製ジャム 精製ジャム 石灰硫黄合劑	鯉油製 鯉油 鯉油 鯉油	桐板 桐板 桐板 桐板	蓆 蓆 蓆 蓆	腰床加工板 腰床加工板 腰床加工板 腰床加工板	ハムソーセージ ソーセージ ソーセージ ソーセージ
1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱
10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓

形		桶引工場		桶製工場		朝日工場	
計	計	計	計	計	計	計	計
家用品 玩具 日用 毛織物 皮革	洋梨罐詰 洋梨罐詰 洋梨罐詰 洋梨罐詰	葡萄干 葡萄干 葡萄干 葡萄干	ハムソーセージ ソーセージ ソーセージ ソーセージ	山梨罐詰 山梨罐詰 山梨罐詰 山梨罐詰	ナメコ罐詰 ナメコ罐詰 ナメコ罐詰 ナメコ罐詰	葡萄干 葡萄干 葡萄干 葡萄干	ナメコ罐詰 ナメコ罐詰 ナメコ罐詰 ナメコ罐詰
1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱
10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓

108

縣		出濱工場	
計	計	計	計
山梨 小麦粉 小麥粉 麵粉	山梨 山梨 山梨 山梨	山梨 山梨 山梨 山梨	山梨 山梨 山梨 山梨
1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱	1,000箱 1,000箱 1,000箱 1,000箱
10,000圓	10,000圓	10,000圓	10,000圓

農村工業の指導原則

農村工業は農林省經濟更生事業の一翼として昭和十年以來取り上げられたが、昭和十年度は過去一ヶ年の經驗に鑑み東北地方集中主義をもつて臨むことになり、東北六縣關係分として四十五萬圓の指導獎勵費を計上し次の三點に指導の力點を置く方針で實行に着手した。

一、經濟プロック主義、經濟情勢の同一な地區を選んで經濟プロックを組織せしめ各種の原始生産物を原料とする工業を開發する。

二、東北興業株式會社を利用し必要な機械、用具をつくり機械の自給、自足を圖る。

三、配電設備の助成、逓信省では農村工業について中心工場および分工場の配電設備に對して特に積極的に助成すること。

漁村

大漁に躍る港

眞夏の東北の漁港

太平洋金華山沖合から、北海道襟裳岬に至る海は、世界でも有名な漁場である。三陸沖には、寒流と、暖流の接觸點があるのでこの附近はことに魚族が多い、科學の力は漁業界にも伸びていつた、寒暖二流の飽和域を好む魚類や、潮流の底部に住む海の幸は易々と漁獲することができるようになつた、漁期盛の夏ごろになると、静岡、三重、愛媛、鹿児島、高知、和歌山、神奈川、千葉、茨城、北海道などの廻來船は、長驅、擧つてここに押しよせ、地元漁船の間に割込んでは大漁の漁獲を演ずる、五、六噸級の小型漁船から、二十噸、三十噸或は百噸級の大型漁船が數千の大集團となり、三ヶ月、四ヶ月と長期に亘つて海上に漁撈の汗を流すのである、漁獲高は實に數千萬圓に上る、そのほか新しい漁場は年々次々と開拓されて行く、裏日本、日本海方面の漁業は太平洋面の漁業にくらべると、その漁獲高は格段に下るが、荒海育ち、肉の引締つた美味な魚族がふんだんに獲れる、大謀網にかゝる秋田沿岸の鯛は有名である。三方を取圍む大洋は汲めども盡きない海の幸を、

未來永劫に提供してゐる。これらの漁獲物は、その都度最寄の漁港に水揚されるのであるが、鯉、秋刀魚、鯖などの漁期に入ると、地元をはじめ縣外の漁船が競々相摩すほど賑かに港へはいつてくる、沖の大漁氣分を、そのまま陸揚する、沿岸一帯の景氣は、この大漁に人氣が出て、漁夫も、街の人も潑刺たる獲物の中に埋まるのである。東北地方の漁港を數へて見ると、山形縣の加

湧返るある日の漁港

A 金華山を控へた鹽釜

晋に聞えた金華山沖の怒濤を乗切り、一眸千里の大海原を西に、また東に、魚族を追うて「運」と「生命」を取舵一つに委せ、闊び獲つた海の幸、それを一度ここに水揚され、ば、鮪も鯉も、秋刀魚もすぐそのまゝ、交易經濟の花形役者に仕上げられ、大市場一杯に擴がるせり合ひの聲、運搬積込み、碎氷搬入等々の喧噪、雑音の中で相場が立ち、時を争う

て遠近の消費市場に送られるのである。出入漁船は宮城、福島、岩手などの近縣はもちろん、北海道、千葉、茨城、富山、静岡、三重、神奈川、和歌山、徳島、高知、愛媛、大分などの遠征漁船も加はり頗る賑やかである、機船底曳、手繰、鮪流網、鯉釣船、鯉船、秋刀魚流網、突棒船、鮪巾着網等々あらゆる漁具を利用して獲つた魚をここに吐き出すのであ

るから、魚族の種類も非常に多い。遠洋漁業の最盛期、夏分の取引はそのうちでも一ぱん活気がある。

昭和十年の漁場概況を見ると、早春から夏にかけて太平洋の沿岸は寒流が強かつた、そのため暖流性の魚族が少く、沿岸筋の漁港、魚市場の取引は極めて閑散であつたが、秋から冬にかけては秋刀魚流網や鰯揚網漁業が近年にないほどの豊漁を見たので、下半期の漁港景気は果敢沸騰した。一般の人氣がよくなつたのと、魚肥や魚油製造工業にも景気がついて、久しぶりで漁村に大漁氣分が漲つたわけである。

漁場に湧いたこの大漁氣分から、鹽釜魚市場も素晴しく弾んだ、漁獲水揚高は六萬一千噸、四百二十萬圓の取引となり、前年の取引額(三百四十萬圓)を一氣に八十萬圓も突破したのである。出入漁船は總計一萬二千八百十六隻、鰯揚網漁船が最も多かつた、これは沿岸一帯が鰯の豊漁を語り、三千四百一隻を數へた、次がトロール漁船、これは三千二百六十七隻、突棒漁船の大半は縣外のもので(突棒漁船は千葉縣のものが多い)この水揚された漁獲物の約八割は東京市場へ仕向けられる、毎日定時に八噸貨車十二輛を連結した鮮魚列車が鹽釜引込線から一路東京へ直送される、情況がかうなると當然トラック輸送も盛んである、市場に出入する専用トラックは四十二臺を數へ、これも猛然として疾驅する。

午後から水揚された鮮魚は、このトラックに積まれる、トラックは既に進發した鮮魚列車の後を追ひ、中間停車驛に先廻りして列車に積荷を追加する、まるで放れ業である、時間的にこの放れ業が不可能であれば、深夜、奥州街道を霧らに東京まで乗りつけ、翌朝の市場取引に間に合はせるのである、鮮魚を積んだトラックはいつもフル・スピードで走る、とき／＼事故を起すのは、實はこのためにはかならない。

鹽釜魚市場から直接買出す小賣商人が最近著しく増加して來た、それと反對に仙臺市着町の市場取引は年々減少して行く、數年前まで仙臺市着町魚市場の取引額は年百五十萬圓から二百萬圓の間を上してゐたが、最近では年額六、七十萬圓の取引をやつと支へてゐる有様である。それほど漁港鹽釜は消費都市仙臺と直取引が多くなつたわけで、鹽釜の將來性はますます／＼確保されることであらう。

### 北洋から鮭・鱒など [B] 未明の青森港を見る

日本本土は東北端の青森から夜が明けけるなら、その青森は魚がしから朝の營みが始められる。午前二時ともなれば、魚がしに近い、といふよりは魚がしに依つて存在してゐるといふべ

き新安方町、安方町、新濱町方面の魚問屋の大戸がガラ／＼とあけられる、トラックの往復が繁くなる、店員がリヤカー、荷車、トラック等に大きな臺秤を積んで河岸へと出かける。

青森魚市場——といつても東北第二の都市漁港青森であるから堂々たる大建築の魚市場が想像されるが、實際は上屋もない野天の取引場に過ぎない、それも水際から三間位までの物揚場は、一寸傾斜を持たせたコンクリートの叩きになつてゐるが、その上五六間幅の道路兼魚介の陳列場は、丸い自然石でできた凹凸の激しい舗装道であり、石と石の間や石の沈下した所には馬糞、犬の小便が多分に含有して居る水溜り、鑛物質、動物質の油が混つてゐるので、これが跳ねたら最後だ、長靴、防水布の魚がし連の正装でなければ、ウツカリ見物もできない、魚市場建物の新築が最初縣で問題となつたが、市ではイヤ俺がやるといふ譯で、市會まで通過せしめたのであるが、理事者が變つた爲め今になつて狹隘のため建設の餘地がないといふ理由で實現されない、併し青森築港も著しく進捗し、埋立地の物揚場としての使用も近く可能となるので狹隘の口實もなくなり、茲數年内には實現する事だらう。

午前二時、取引の始まる前から見ようと川岸に出かけた、明け易き夏——八月上旬——とはいへまだ闇だ。雨が少し降つてゐる、穩かな瀨内の水面は雨のために僅かに揺くのみだ、防波堤突端や鐵道の青函連絡船用浮燈臺の青や赤の燈光が一定の間隔を置いて明滅し、その度毎に水面に美しい細長い縦線を描いては消える、連絡



青森港の朝

船岸壁の方を見ると、連絡待合室や船車連絡装置の可動橋などの大小電燈が、太い光の柱を水面に映寫してゐる、機船に曳かれた艇二隻、暗い水面を這つて出て行く、よく注意して見ると、艇には漁夫が、河岸に働く人々が滿載されてゐる、それが向ふ側の連絡待合方面の光を縫うて行くので、人影が見えたり、隠れたり、まるで探検物語中の一場面のやうだ。臨港倉庫附近の暗い物揚場には、青森市に東洋一といはれる罐詰工場を持つ大東食品會社の所屬播州丸の第十六號が、大きな黒い船體を横着けしてゐる、北洋漁場から鮭、鱒を積込んで來たのだ、十二、三人の漁夫連が一團となつてやつて來た、何やら話し合つた後碇泊中の縣の密漁監視船「陸奥」の中にドヤ

ドヤと入つて行つた、時間が早過ぎるのでその間の雨宿りらしい、東防波堤に近い河岸には、取外し自由の假電柱に笠なしの青燈が輝いて、その下には小鉢その他の小魚が種類別に魚箱の中に氷と共に詰められて、何十杯も並べられてゐる、瀨内名産の帆立貝を五十二々々、々々、五十三、々々、……と二個づゝ數へながら箱に詰め分けてゐる、トラックが來る、魚類を積込んで走り去る、この魚市場は午前三時から取引開始と聞いて居るが二時にはもう始まつてゐるのだ、三時も近くなつた、人出がだん／＼多くなり、眠つてゐた船も眠りから醒めて獲物を吐き出す。天候不順の爲めか八月と云ふに肌襦袢にセルでも寒く噓が出る、まだ夜明の模様が見えない、船からは尾鰭、脊鰭、胸鰭を切取つたまるで巨大な古いゴム長靴の胴だけみたいなかとう鰓が船員の手でドタリと投出される、これを三人の若い者が一間柄の釣で引つけ、ズル／＼と引揃いて來ては道路に並べる、人間ぐらゐの大きい奴だ、鰓は乾して支那人の大好物として輸出されるのだ、物揚場の一部にテヨコナンと置かれた兵隊さんの歩哨所より稍低く、稍幅の廣い事務所には帳面と萬年筆と算盤を持つた係員が出張つて來る、取引も忙しくなつて來る、市長宅——ではない魚問屋の總元締の千葉傳商店の大口も明けられる、雨は次第に強くなり、河岸に立つ人を中心に光の柱となつて水面に映つてゐた電燈の

光りも、雨に亂されても柱とはならず、電燈の真下だけに一塊となつて光りの渦となつてゐる、雨の日ながら四時が近づくと東の空が薄明るくなつて来る。

やがて浅虫方面から夏泊半島の三分の二くらゐのところまでの空の下方が赤味勝の紫に變る、その上部の空も下部の陸地も青黒い、野内、浅虫から夏泊半島の山並の輪廓が紫の空を背景としてクツキリと墨繪のやうに浮んで来る、灣内も次第に明るくなる、鰯を舷とすれへゝなるまで詰め込んで磯に漕付けの明け近い薄明りに鰯が青白く光つてゐる、このまゝでは鰯が餘り固くギツシリ詰まつてゐて陸揚げが出来ないので、長柄の柄杓で水をドシ／＼入れる、ヒタ／＼になつたところを胴まで届く、そして大きな俵で汲み上げる、陸ではこれを魚箱に並べて買手を持つ、鰯が揚る、鰯も揚る、四時を過ぎると濱藪の女がL字を二つ並べたやうな脊負臺を背負つてゾロ／＼出て来る、播州丸の機関が動き出して帆柱利用の起重機が活動し、船底の冷蔵庫から箱詰め、鰯が甲板に浮び上る、板橋を渡つて濱藪の女達が上つて行く、男二人で手釣を器用に使つて持上げた魚箱をヒョイと脊中の脊負臺に受けて、別の板橋を渡つて下りて来る、魚の上に更に氷が加へられてトラックや、貨車に運ばれる、これが青森産鰯鱈羅詰になつて歐洲に輸出されるのである。港

青森はスツカリ明ける、雨は依然として強い、トラックの往復も、胸にマークをつけた魚商組合員の荷車、リヤカーの出入も一層繁くなる、街を歩いてさへ他國の人には喧嘩と間違はれる聲の大きな敬語なしの荒い言葉の若い男の集りの河岸である、黒山となつての大活劇でも演じられてゐるかのやうだ、併しそれも七時頃になると取引が大方終つて一寸一服の形。

そのうち若い娘さん達が赤ん坊を背負ひ、大きな辨當箱を持つて河岸に出て来る、濱藪の女達は雨宿りをしながらそれを迎へて赤ん坊に乳を舂ませたり朝飯を食つたりする、色街を流してそのまゝ河岸に現はれたらしい支那そばの屋臺ももう引揚げたらしくチャルメラも聞えない、築港事務所のサイレンが物凄く鳴り響いて、埋立地の諸機關が勢よく活動を開始し、大青森港修築の工事を續ける、六時に出帆した青森連絡の三千噸は雨に霞んでもう見えな。

- この日の水揚高は打續く不漁ながら
- ▲八戸めぬき五百貫 四〇錢——三五錢
- ▲同かとう鮭一千貫 二〇錢——一八錢
- ▲同生いか八百貫 七〇錢——五〇錢
- ▲近海平目三百貫 一、八〇錢
- ▲生鰻三百枚 一、八〇錢——一、五〇錢
- ▲近海かれい五百貫 八〇錢——五〇錢
- ▲西郡まぐろ千五百貫一、五〇錢——一圓

▲北千島生鮭十五萬尾 工場入  
▲同生鮭二十三萬尾 工場入  
と千葉傳商店で發表した。

### C 宮古港の鮪の群

三陸沿岸特有の濃霧が晴れ、宮古灣を抱く月山の頂上に旭が昇ると、漁港宮古は深い眠りから覺めて寢亂れ姿をととのへて動き出すのである。鹽漁講は、潮風に乘つて港に押寄せ、三陸沖を漁場として活躍した鮪流網漁船が、先陣を争ひながら魚河岸に殺到する、どの船の腹にも沖での大漁を語る鮪を満載してゐる、船足が重い、一尾三、四十貫の大鮪から二、三貫の小鮪も取交せ、數萬匹の鮪を積んでゐるのである。投げける鮪繩を手ばやく結んで早くも水揚作業に取かゝる、つぎつぎと河岸にならぶ鮪の横つ腹には、白いペンキで水揚順と漁獲船の名が印されて行く、鮪の大行列で、廣い魚河岸は刻々に埋つて了ふ、大漁の喜び、水揚の盛観、人々の顔はみな生々としてゐる。

に水と一緒に詰められ、トラックで山田線宮古驛へ、或は港に待機中の冷蔵船に託され東京中央卸賣市場へ積出されるのである。午前十時頃になれば殺到する流網漁船が魚河岸一



鮪たれさ揚水に港古宮

帯にぎつしりと詰り、林立するマスト、濁つたエンヂンの響が海面をふるはして職團氣分をそより立てる。入港鮪流網漁船は一日で七十隻、水揚大鮪は二萬五千貫、中鮪五千貫、小鮪五百貫、金額にして一萬八千圓に數へる。大鮪を満載したダンベ船も来る、雜魚を積んだ延繩漁船や、鰯釣船、鰻旋網漁船等々も引續き港へ入つては水揚して行く、その度毎に港の景氣は上昇する。

宮古港は古來三陸地方切つての良港といは

漁村

れ股賑を極めたものであるが、後方連絡が悪いために次第に衰微しいまは昔日の面影を失つた、しかし山田線が全通して以來東北本線との連絡のみがたついたので、將來發展の道は拓けてゆくばかりだ。

### D 鮪景氣に湧く

#### 八戸港の水揚

館鼻の高臺に座を占める八戸測候所の屋上高く「海上静波」の標識が掲げられてゐる。前夜來魚群捜査のために沖合に出動してゐた第一線から「鮪の游影が見える」との情報が傳へられた、既に一切の出動準備を完了して港内に待機してゐた鮪揚網五十統、百隻の漁船は、この吉報に勇み立つて出港すれば、港外二哩の洋上で早くも鮪の大群に遭遇した。このあたり一面は鮪の海である、網を下すほどに、上げる程にたちまち船腹は鮪で埋り、またたく間に鮪に滿腹の漁船は大漁旗を押立て船唄高らかに歸つて来る、その後がまた大騒ぎである、湊町白銀海岸から濱須賀、湊川にかけて水揚作業が始る、女も子供も手傳ひに出る。その日の水揚高二千六百貫、七萬六千貫、砂濱が鮪で埋るほどの大漁である、附近の魚油工場や魚肥工場は全機能をあげて機械を運轉し出した、水揚を終つたばかりの鮪が機械の力で片つ端から處理されて行つた、こ

の大漁で各製造工場では釜焚人夫が拂底し、一日三圓五十錢に祝酒一升付といふ景品までつきそれでも引張風である。製品の相場もぐつと調子づき、魚油は一罐三圓五十錢、魚肥は一俵四圓の高値で取引され、鮪景氣は尾をひいて盡きない。

### E 鮪の小名濱港

沖では大漁が續き、大鯛、鰻、鮪、鯖等々を満載した漁船が海上の朝靄を突いて續々入港して来る、怒濤を乗切つて獲つた「海の幸」をここで水揚しようといふのである、船がびたりと岸壁に横づけされ、水揚作業が始り、近くの市場に運ばれる、大漁手拭をかぶつた濱の娘たちが、わつと歡聲をあげて手傳ひに飛び出して来る、大人も、子供も總動員だ、コンクリートのたゞきの上には見る見るうちに鮪の山がいくつも築かれ、ついで片つ端から石油箱に詰め込まれる、鮪は生賣に納る、もう取引が始つてゐる、ここは町營市場で一切の

取引は吏員の指圖で鮮かに進められて行く。水揚げされた鮮魚は樽詰、或は箱詰にされてトラックや荷馬車で最寄の驛に運ばれる、残つたものは行商隊のリヤカーに託されて附近の村落へ供給されるのである。その日の市場告知板には

鯉二萬七千五百本、相場六文半、鯛四百五十貫、相場二十五割、鯖四千貫、相場四割五



小名濱沖の大網漁業

分鯉五萬三千貫、相場九十五錢(石油箱一ケ)とあつた、小名濱港は昭和十年の水揚げが見事二百萬圓を突破し、新進漁港として萬丈の氣を吐いた。福島縣には、漁港が少く、小名濱港をもつて唯一の漁港とするが、荒天の際などは漁船の碇繋に不安を感じるほどだつたのを、近年これに修築を加へ三百餘米の防波堤をつく

り海岸附近の二萬餘平方米を埋立て、別に百餘米の防波堤を築造して出入漁船の碇繋や荷役地に利用することとした、その後は漁船の出入も以前よりは頻繁になつて来た。陸上設

### 東北地方の漁業大觀

東北地方の地圖を開いて見ると、東海岸一帯は渺渺たる太平洋の海波に洗はれ、西海岸には絶えず日本の激浪が押寄せてゐる。日本海を嚴格な父とすれば、太平洋は慈愛溢れる母性にも喩へることができよう。性質を異にした二つの海水は、津輕海峡を關門として自由に交通してゐる。三方を海に圍まれた東北の沿岸住民は朝夕岸にくだける浪の音を子守歌として、健やかに育つて来た。われは海の子と自負し、逆まく怒濤を人生試練の槍舞臺となし、果しない洋々たる大海原に漕ぎ出して黒がねの腕を撫し、海の幸を採つて生業として来たのである。宮城縣金華山の沖合には、深さ八千から九千米におよぶタスカラ海溝の最深部が横はり、太平洋の西部を流れる暖流(黒潮)と千島列島方面から来る寒流(親潮)が交錯してゐる。温床を異にする暖流と寒流の魚族がこの附近に集つて群泳してゐる、そこには鯨、鮪、鯉、秋刀魚、鮫、鰻、柔魚、鱈、鱈、鰯

備や後方連絡の便が極めてよいので、銚子沖合から金華山沖に至る間の良港として人氣が集つてゐる。

若布などが多い。裏日本、山形縣の沖合から一わたり東北地方の海洋について見て行かう。

山形縣から秋田縣男鹿半島までの海岸線は頗る單調である、縣境の沖合五十軒ばかりのところは飛鳥(山形縣飽海郡に屬す)が散在し、魚族の繁殖界線となつてゐる、百尋線もこゝまでは頗る單調である、男鹿半島附近は、日本海暖流の衝路に當つてゐるので、海流はこの半島に衝つて錯亂する、青森縣に入つて鮪作崎や、久六島に至る海區は廣大な百尋線内の魚棚で、暖流と寒流の魚族が混遊してゐる、津輕海峡は日本海と太平洋の魚族を交流する關門、日本海の支暖流が常に太平洋に向つて流れ、魚族も時間によつて遡上したり、流下したりしてゐるのである、津輕海峡の南には百尋線内の面積が四百四十平方哩もある陸奥灣(東京灣は四百三十七平方哩)があつて、産卵、食餌、成育のために關門を通過する魚族が來遊する。津輕海峡は柔魚の漁場と

して知られてゐる、この關門を東に抜けて太平洋に出ると、北海道の襟裳岬から青森縣の東北岸にかけて世界的な鮪の大漁場が横はつてゐる。これから更に南下し青森縣界から岩手縣の三陸沖にかゝり宮城縣金華山に至る海區は海岸線の屈曲が多く、リアリス式の複雑な曲線を多き、沖合にはタスカラの深淵を控へ、時折は地震や津浪の洗禮を受ける、この沖合附近は丁度黒潮と親潮が衝突し、交流する地點で、世にいふ金華沖の大漁場である。季節により漁業の目標は違ふが、鮪、秋刀魚などの漁期に入れば魚群を追つて集る全國各地の一流大型漁船がこゝを晴れの大舞臺として壯烈な魚群争奪戦を演ずるのである。選ばれたる海の子は飛沫をあげつゝ、精魂の限りを盡して漁撈に従事する、彼らの背後には所屬府縣を標示する名譽の旗印が潮風に翻騰としてひるがへり、「海國ニツポンの名譽を賭して戦へ」と激勵してゐる。名にし負ふ金華山沖の激浪と闘ひ、奪ひ取つた海の幸を船腹に満載し意氣揚々と港に歸へる、和やかな氣分は船乗でなければ味ひ得ないところであらう、金華山から更に南下すると百尋線が遠く陸から離れて了ふ、松島灣附近はわが國の東部沿岸を洗ふ黒潮流域の最北部で、暖海性の水産物は金華山沖を限りとするものが多く、アマノリ、かき、鰻などの産業的分布範圍はこの附近をもつて限界とされてゐる、漁業上密接な關係をもつ東北地方の沿岸、百

### 漁村

#### 尋線内の面積は次の如くである。

#### 東北地方沿岸百尋線内面積

縣別	海岸線	百尋線内面積
宮城	六六	一、五〇〇
福島	一四〇	一、三〇〇
青森	六六	一、九〇〇
岩手	六六	一、九〇〇
山形	六六	一、九〇〇
秋田	六六	一、九〇〇
計	二、〇四一	七、一三八

三方が開けつ放しで、太平洋と日本海の浪に洗はれてゐる東北地方の海岸線延長は實に二千四十一軒に達し、遠洋に、近海に、沿岸に水産資源は頗る豊富である。東北の沿岸漁民は、絶好の漁撈條件を持つてゐることを感謝しなければならぬ。

#### 鮪

鮪はわが領海の沖合各所に散遊してゐるが、秋から冬にかけて、三陸沖合と北海道襟裳岬の間に集遊する、漁期に入ると三陸沖は日本全國から集る流網漁業、延縄漁業或は突棒漁船など入亂れて鮪漁競演の活舞臺となる、昭和九年の農林統計によれば、東北地方の獲つた近海鮪と遠洋鮪は合計三百八十四萬五千六百貫、これを金額にして三百五十六萬六千九百七十七圓となつてゐる。

#### 鯉

金華山沖は、北方における鯉の本場である。こゝから獲れる鯉は三陸節の原料となり、全國の各市場に供給される、昭和九年農林省の調査によると東北地方の鯉總漁獲高は三百四十二萬九千八百六十貫、金額百六十萬四千四百六圓である、全國各府縣の鯉釣船が東北の沿岸漁港に水揚する數量を數へたならば、恐らく莫大な數字に上るであらう。東北の鯉節年産額は六十一萬九千二百五貫、二百五萬九千六百四十二圓で、宮城縣は鹿兒島、靜岡に次ぐ産地となつてゐる。昭和十一年の房總沖における鯉漁は素晴らしい好況で宮城、岩手、福島などの鯉船は先進地の漁船と堂々互角の勝負をつけ、北上する鯉群を追つて七月上旬には一先づそれ、母港に引揚て来た、船腹には數萬匹の鯉を満載し、沿岸一帯に久し振りで鯉景氣をふりまいたのであるが、一息入れて間もなく今度は金華山沖のホーム・グラウンドでまた素晴らしい漁獲高をあげた、鯉の市場相場もよかつた、景氣のよさは想像にあまりある、秋刀魚漁も東北地方の沿岸は出漁に絶好の條件を有し、南下する魚群を邀撃するに最もよい立場にある。

#### 鱈

陸奥灣殊に青森縣東津輕郡の平館沖合から下北嶺山沖合は、鱈の産卵場として著名であ

る。毎年十二月中旬から翌年の一月下旬までの産卵期には北海道方面から遼東する鱈の大部分がこの附近へ押寄せて来る、これには主として定置漁具を使用するのであるが、延縄漁業も盛んに行はれ昭和九年には非常な豊漁であつた、五百四十五萬六千五百九十二貫、八十三萬八千七百二十三圓の漁獲高を示したのである。

鱈(鮫・鱈)

鮫鱈の漁も多し、昭和九年には五百一十一萬九千八百三十九貫(價額百十萬二千七百三十四圓)の漁獲高を示した、これは延縄や流網で獲るのであるが、宮城、福島、青森の漁獲高が殊に多かつた。

鱈の漁獲高は最も多く、昭和九年には六千九百五十五萬一千六十九貫、價額三百九十二萬四千七百九十七圓(農林省統計)になつてゐる。陸奥灣が漁場となつてゐる關係上、青森縣の漁獲高は最も多く、二を爭ふほどで定置漁業や流網漁業、地曳網漁業、流網漁業などで盛んに獲つてゐる。陸奥灣の鱈は青森市が未だ外ヶ濱の一部落、善知鳥村といつた漁村時代から漁獲してゐたもので漁具の進歩、發達に正比例して漁獲高が増加して來た、鱈の周年漁獲は陸奥灣だけに見られるのである。

鮭・鱒

津輕海峽は鮭、鱒の漁場、空釣漁業で無数に漁獲できるのはここだけである。鮭、鱒は冬期この附近に來遊して冬眠する、この漁獲高は七十二萬七千七百三十七貫、價額六十萬二千七百七十圓(昭和九年)となつてゐる。

鮭・鱒

鮭、鱒は沿岸或は河川湖上魚を定置漁具で漁獲するのであるが、北海道に次ぐ漁獲高を示し昭和九年(農林省調査)には鮭六十六萬五千八百二十九貫、價格にして六十六萬九千五百二十二圓、鱒は四十萬六千六百七十九貫、價額三十九萬二千六百七圓の數字を示した、漁場は太平洋岸の北米桑港以北、カムチャツカ沿海州、樺太および北海道で漁期は各地方で相違するが、大體六月中旬頃から十月上旬頃までの四ヶ月間である、たゞ北海道の北見方面では十一月末まで漁獲できる、この廣汎な漁場からかき集められた鮭、鱒の大半は青森港に水揚げされ、取引實数は東洋といはれる程である。漁期に入ると青森の罐詰工場や市場は鮭、鱒の洪水を來し壯觀を極める。冷蔵庫の設立、罐詰業の發展は鮭、鱒の用途を更に擴大し、ますます需要を増加して行く形勢にあるので、いはゆる北洋漁業の前途は洋々たるものがある。漁業季節に入ると北緯五十一度以北の荒海に東北地方の出稼漁師が大挙押しかけ鮭、鱒漁業に従事する、邦人鮭鱒漁業のアラスカ進出とオットセイやその他

の海獣獵業の解禁も最近やうやく官民の間にその機運をつくりつゝあるから、東北地方沿岸漁民の活舞臺は國際的な彩色を加へようとしてゐる。

魚類

魚類に神と書いて「はたはた」と讀ませる、鮭は日本海、秋田の代表的特産魚である、朝鮮の一部と秋田、青森、山形の沿岸で漁獲されるだけである。これは元來が深海に生棲する魚族で、毎年十二月上旬産卵のために日本の沿岸に來遊するもので秋田縣の漁獲高が最も多く、一ヶ月位の漁期で百數十萬貫、價額にして十數萬圓を漁獲する、豪勢なものである、昭和九年(農林省調査)の漁獲高は比較的小なかつたが、それでも六十七萬三千五百七十八貫(二十萬七千六百七圓)と發表されてゐる。

貝類

貝類では鮑の産額が最も多く、青森、岩手兩縣の沿岸だけでも百萬圓を突破し、全國における産額の三割餘を占めてゐる、昭和九年(農林省調査)の東北各縣沿岸の鮑産額は、全國の二百八十四萬九千九百九圓に對し二百二十八萬八千七百四十一圓に達してゐる。牡蠣は松島灣の産額が全國でも有数の位置にあり、種牡蠣を遠くアメリカにまで輸出する盛況さで、養蠔事業は最近ますます盛んで

ある、昭和九年(農林省調査)の東北地方牡蠣産額は三萬四千六百五十八圓となつてゐる、養殖牡蠣の産額に至つては實に二十五萬五千四百八圓に達し、宮城縣松島灣(二十三萬一千三百七十四圓)は廣島、佐賀に次ぐ養殖場である。北寄貝は三陸沖合が漁場で、帆立貝は陸奥灣がわが國有数の漁獲場となつてゐる。津輕海峽は柔魚の漁場として日本一と稱されてゐるが、漁業季節には全國各地から柔魚釣船がここに集る、東北各縣の烏賊、蛸漁獲高は昭和九年(農林省調査)に二百七十八萬八千四百九十四圓となつてゐる、全國各府縣の出漁釣船まで加へたら、莫大な數字に上るだらう。

海鼠

海鼠は福島縣の沿岸が漁場で、昭和九年福島縣の漁獲高は一萬八千二百八十八圓(東北六縣の漁獲高は六萬四千八百八十四圓)となつてゐる。

昆布の産地は北海道、青森、岩手、宮城の數縣に限られ、東北地方では岩手縣から最も多く獲れるが品質は悪い、青森縣津輕海峽から獲れるものは品質が良好である、昭和九年の東北六縣昆布産額は三十八萬二千二百八十六圓。

鯨

捕鯨漁業はなんといつても金華山沖が絶好

漁村

とされてゐる、青森縣の鮫、岩手縣の釜石、宮城縣の鮎川、福島縣小名濱の四ヶ所を根據地としてゐるが、宮城縣の鮎川港は殊に有名である、全國における獲獲數の大半は金華山沖を中心とする東北海區である。昭和十年中にここから獲つた鮫は長須鮫、白長須鮫、抹香鮫、座頭鮫、鱈鮫などとり交ぜ一千三百五十六頭、金額にして百九十九萬一千四百二十一圓に達した。

昭和九年農林省の調査によれば、東北地方沿岸漁民の手で得た水産漁獲物および水産加工品は金額に換算して六千三百九十三萬一千二百四圓である、これを漁撈、養殖、製造加工などに従事する沿岸漁民十六萬八千九百四十四人に均霑すれば一人當三百七十八圓四十四

秋田名物はたはた

秋田の舊藩主佐竹公が水戸藩主であつた頃、常陸沖でこの魚族を發見した、その後秋田に遷封となり秋田縣男爵として再びこれを發見した。能代沿線の八森、岩館などで漁があつた秋田魚、佐竹魚など、いはれたものである。これまでは秋田地方の漁撈方法が

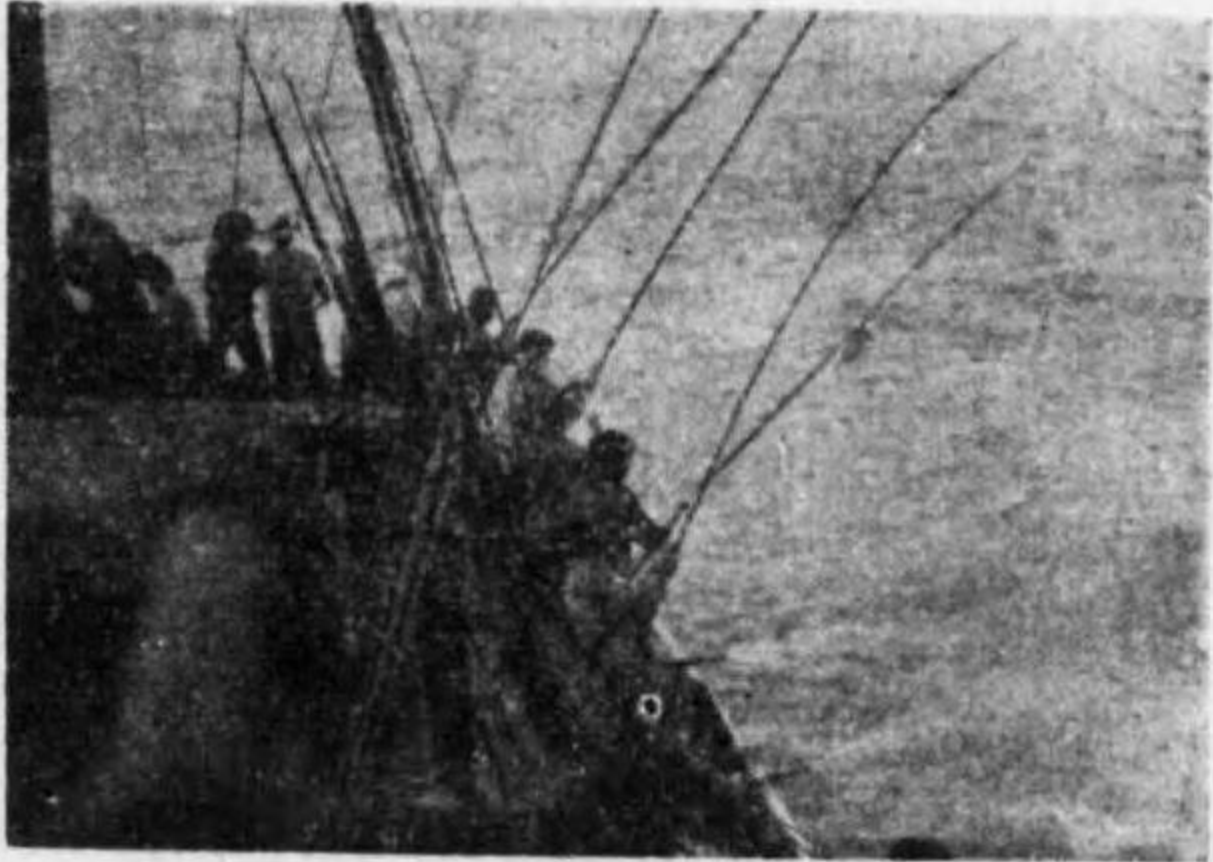
の人森太右衛門がこれを肥料にすることを考案し、藩に進言して肥料とし各方面に賣出した記録が残つてゐる。秋田は荒天の日に漁獲高が多いといふひねくれものである。漁業季節になると地元商人の外に各地から商人が集り、人札の方法で直接網主から購入してゐる。

Table with columns: 製養漁, 製造加工, 縣別, 宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 計, 全國. Rows include values for various fish products like 鮭, 鱒, 鮑, etc.

# 遠洋に躍る大型漁船

沿岸漁業が荒廢し衰微した、漁民の多くは遠く萬里の波濤を蹴つて、大洋の彼方に出漁しなければならなくなつた、市場の要求する大きな、その需要を充すには、どうしても遠洋漁業に頼るよりほか手がない、市場の要求に刺戟されて東北の漁民は敢然立上つた。遠洋漁業にはいふまでもなく長い間航海、操業に耐へる漁船と、漁具およびその他の設備が必要である、大型漁船の最近の發達は、すなはちこれに促されたためである、農林省の遠洋漁業獎勵規則による大型漁船の建造、またその設備費に對する補助金交付などで、漁場はやうやく遠洋に擴大していつた、昭和八年からは無線電信や電話の設備費にも補助金を交付し、各縣に大型漁船の建造を極力奨励した、各縣は競うて優秀指導船をつつた、いまも漁場開發遠洋漁業の保護助成に全力を盡しつゝあるのが、漁業の人氣は遠洋漁業に集中されたかの觀がある。東北六縣に五十噸以上の大型漁船は（昭和九年、農林省の調査）八十三隻をかぞへる、このうち宮城縣だけが六十隻を占め、遠洋漁業一手專賣のかたちである。

東經九〇度から一七五度、南緯一度から北緯六三度に亘る太平洋の大舞臺で行はれる、季節は晩春五月、鯉漁から明けてゆく、この頃になると、宮城縣の鯉船を盟主に、岩手、福島の大鯉船は神奈川縣の三浦三崎を根據地に、八丈島の南方、裏南洋附近に乘出し、先進地の漁船と華々しい闘ひを展開する、漁は魚群とともに黒潮に乗るわけである、このころ漁獲されたものは初鯉として千葉縣銚子、



明説眞寫  
宮城縣水産試験場指導船大東丸の上船鯉の漁獲の實況

勝浦に水揚され東京方面に送る、目に青葉、山ほととぎす初鯉、この季節をねらつて活躍する漁夫に、會心の笑があり、一般人が初鯉を自慢で食ふときである。かくして季節は移つてゆく、七月、八月となれば、鯉群は更に北上し、金華山沖に集結する、これを追うて各府縣の鯉釣船はまた宮城縣沖合に集り、鯉群に向けて最後の突撃を敢行し九月をもつて漁を終る。

元來、鯉は黒潮に乗つて北上し、一月下旬わが委任統治領南洋や、鹿児島縣の南端枕崎の沖合で姿を見せ、三陸沖で漁の終末を告げるまで、八、九ヶ月に亘つてわが領海の沖合から獲れるが、各府縣の漁船はリレー式に獲つて、最寄の漁港に水揚する、南洋方面で一月早々獲れるのは幼年期の鯉で、南洋節、柳節といはれるのがこれである、二月下旬から三月にかけて四國土佐沖で獲れる頃には鯉も壯年期に入り節も土佐節となる、四月、五月の頃、静岡縣焼津沖合で獲れるのは焼津節、次いで房州節、磐城節、三陸節となつて十月頃には黒潮の行方ともにも東方アメリカ方面に去つて了ふのである。

遠洋漁業による東北六縣の漁獲高は昭和九年九百七十四萬八千二百六十一圓（農林省調査）となつてゐる、この漁業は太平洋に面した宮城、岩手、青森、福島、四縣で盛んに行はれ、殊に宮城縣の漁獲高は最も多く、東北地方における遠洋漁獲高の四割一分を占め四

百三萬七千九百八十五圓となつてゐる、このうちで鯉漁は最も多く、百二十八萬六千六百六十二圓鯉全漁獲高の八割一分が宮城縣の鯉船で獨占してゐるわけである。

## 鯉遊戈のコース

### 岩手水試の調査終了

岩手縣水産試験場では、鯉の漁場および漁獲中心點の移動につき調査研究中であつたがこの程終了した、この調査研究によれば次のやうに魚游コースが判明した。

四月上旬野島眞南小笠原島の南百哩乃至二百哩のところに現はれた魚群は、四月中旬まではその附近五十哩の範圍を越えない程度で滞留中であるが、五月に入れば東方に向けて移動を開始し、五月下旬には百五十哩附近のところに進み、六月になつて北上の傾向を示し、東南東二百哩乃至三百哩のところに位置し、六月下旬には更に沖に出て七月上旬には約四百哩に位置する、この頃から盛んに北上し、七月中旬には移動も活潑となり、下旬になれば愈よ三陸沖に差かゝり金華山沖が鯉漁の中心となる、八月上旬には金華山の正東二百五十哩のところに接近し中旬には更に釜石沖に至り二百三十哩附近に位置し三陸沖における壯快な漁獲戦の最盛期となり、八月末には青森縣八戸の眞東三百哩の附近に去るのがある。なほ不思議な現象とされるのは九月末

になると魚群が一旦南下し、十月初めに至つて再び北上することである。

## 鯉漁場發見調査

### 宮城縣水試の豫言

宮城縣水産試験場指導船大東丸は、昭和十一年の春から夏にかけて、鯉の漁場を發見するため南海から金華山沖に移動し、東北帝大海洋水産化學研究所と共力、水温の調査を行った結果、昭和十一年は例年の漁期に比較し水温が二、三度も低く、海上氣候は二旬もおおく、石巻、長濱、渡波などの定置網に鮪、鯖などが四五回に亘つて飛び込んで来たといふ異例も見られた、鯉群は金華山を限度としてこれ以上北進移動は期待されなから、昭和十一年の鯉漁は金華山沖をもつて大團圓を告げ、結局、金華山沖では十月頃まで鯉漁が續き三陸沿岸一帯に大漁氣分を反映させるだらうと漁の最盛期前に豫言した。

## 秋刀魚漁發展

秋刀魚漁は九月二十日から翌年の六月末日までである、ほんたうの漁期は九月二十日から僅々一ヶ月位で、この期間内に金華山から東北東二百三十哩附近と、金華山から南へ百四十哩附近を漁場として漁獲されるのであるが、昭和九年農林省調査の秋刀魚遠洋漁獲高

は東北地方で五十五萬一千三百五十一圓となつてゐる、漁獲高の最も多いのは福島縣で二十一萬九千六百四十四圓、青森、山形の兩縣では漁獲高皆無となつてゐる、最近千島列島附近に新漁場が發見されて以來、地理的な關係から東北地方の秋刀魚漁は將來ますます發展するものと見られ、有望視されてゐる。秋刀魚は走り相場でなければ芽が出ないので、漁解禁の九月二十日前後には各地の秋刀魚船が千島方面に乘出し、南下する秋刀魚の大群を文字通り一網打盡に漁獲する、市場搬入には寸秒を争ふ必要があるのが、初漁當時の漁場は戰場もかくやの活氣を呈する。

## 秋刀魚の習性研究

秋刀魚は北海道の色丹附近から約五十哩の沖合を南下し、九州沖に至つて産卵する、これがため九月中旬前は發育不完全で、九月二十日までには漁獲を禁止されてゐるのである。漁解禁の二十日前後には、丁度三陸沖を通過してゐる頃で、沿岸漁民の立場は不利である岩手縣水産試験場の酒匂技師は前記の習性以外に、二種の南下コースをつくる秋刀魚群のある事實を確認し調査を完了した。これによ

ると南下する二種の秋刀魚群は、東經百五十度以東アリューシャン群島附近から三百哩附近を南下するものと、東經一千五百哩沖合を南下するものとがある、



種別	沿 岸 漁 獲					計
	宮 城	福 山	青 岩	山 手	秋 田	
魚 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
貝 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
藻 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
其 他	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
全 計	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二

漁具の工夫研究を完成し、機船底曳網漁業のやうに飽くまで魚族の殲滅を期する恐るべき「權威」が出現し、縦横に荒し廻り、魚族の蕃殖保護は忘れ去られた、濫獲の弊はやややく現はれて来たのである。沿岸漁業は漁業の根幹であり、漁民の大部分がそれによつて生きてゐるが、その前途に光明を失ふことがもしあれば、それは水産業の大局から見ても、各縣を督勵し、遠洋漁業を奨励する一方、沿岸漁業の振興對策を樹立することにとめてゐるのほけだし當然であらう、各縣は沿岸發勳機漁船の建造を奨励し新規漁業の開發、新漁場の開拓などに骨を折つてゐるが、魚族の蕃殖保護上最も弊害のある機船底曳網漁業の轉業を勸奨し、築機施設により魚介、海藻類の増殖を計り、沿岸漁業の更生に乗出した、遠からずこの不安は一掃されることであらう。

沿岸漁業合理化  
岩手縣の指導方針

岩手縣では、沿岸漁業の合理化を提唱し、過般發表した岩手縣水産業是の中で沿岸漁業の指導方針を次の如く示してゐる。  
岩手縣の沿岸は水産有用動植物の生棲來襲が極めて多く、特殊の漁業を除いて勞少く、大なる効果をあげることができた、しかし目前の利を追ひ、將來を考へなかつたので、つ

種別	沿 岸 漁 獲					計
	宮 城	福 山	青 岩	山 手	秋 田	
魚 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
貝 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
藻 類	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
其 他	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
全 計	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二

ひに沿岸地方は濫獲のたゞりを受けねばならなかつた。これら漁業と漁場の整理廢合はもつとも喫緊とされ、取締を嚴重にし、適種漁業の指導と従業者の養成にとめるやう細心の注意が必要である。  
水産試験場は海洋の調査、漁法の改良、漁場の探査、漁況の通信を擔當してゐるが、岩手縣水産課では漁場の整理廢合、取締につとめ沿岸漁業の振興に全力を注いでゐる。

漁船年末現在數

種別	宮 城	福 山	青 岩	山 手	秋 田	計
動力を有せざるもの	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
動力を有するもの	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二
全 計	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	昭和九年 一、九七、七二二	一、九七、七二二

痛手の鯨

金華山の捕鯨實況  
金華山沖はきこえた鯨群の根據地であり、一大游泳場である、これに對し宮城縣牡鹿郡の鮎川町、鮎川港は地理的に見ても絶好の捕



鯨根據地であらう。ここには土佐捕鯨株式會社、鮎川事業場、日本捕鯨株式會社、鮎川事業場、遠洋捕鯨株式會社、鮎川事業場、鮎川捕鯨株式會社などがあり、各會社專屬の捕鯨船が出漁し、金華山沖五十哩から百二、三十哩洋上の鯨を探索するのである。これを発見すれば着錨距離を測つて巨鯨めざして近く静かに進み寄り、時分を見はからひ砲手は狙ひ定めてロープのついた手練の鉤をグザ！と射込む。鉤に襲はれた巨鯨は不意を食つて白い飛沫をあげつゝ逃げやうともがく、もがくといふよりも、のたうち廻るといつた方がよい、痛さと怒りに手負ひの鯨は、捕鯨船をグイ／＼と引ずり廻す。死にも狂ひの實況である、この暴れに暴れ廻る鯨をあせらず、騒がず、緩急自在、静かに時のいたるを待ち、その疲れを見すまして征服して了ふ、息詰る男性的大冒險、海上に展開された人間と鯨の争闘は、しかし暫らくして終る、凱歌をあげた捕鯨船は、邪魔になる尾を斬落され敢なくなつた巨鯨を曳いて母港鮎川に引揚げる。一航海に數頭といふ成績も珍らしくない、一航海に一日或は三、四日を要するのであるが、捕鯨事業は四季を問はず一年中、金華山沖で行はれてゐる。

を手傳つて作業場に運搬する。その後では截割作業が始まる、作業夫たちは、先づ巨鯨の頭部に長い柄のついた解剖刀を手ぎはよく突刺してゆく、脊髄、肉部、臟腑、鰭などメスの動きはあざやかである、鯨の身體はまた、く間にコマ切にされる、赤肉は鮮食用に、或は罐詰用に、白肉は食用や肥料に、脂肪皮、舌、臟腑、骨、鯨腦は採油原料に、鬚、齒などは工藝用材として市場に賣られる、あの巨體全部が完全に資金化されるわけである。

### 捕鯨數量・價格 (昭和九年)

地頭	長須	白長	抹香	座頭	鯨	計
數量	11	11	11	11	11	11
價格	11	11	11	11	11	11

### 海藻類種々

海藻類は東北地方沿岸漁村の重要産物となつてゐる、昭和九年中、東北地方の沿岸から採れた海藻類は九十一萬七千三百一十一圓(農林省調査)である、なかでも岩手、青森の沿岸が多く、青森縣の産額は四十三萬八千七百

圓で筆頭を占めてゐる。その海藻類のうちでも最も多いのは昆布で、青森縣の産額は三十一萬五千四百二圓、次いで和布(二十萬七千四百九十九圓)海蘿(十萬七千四百二十二圓)紫菜(六萬一千二百八十九圓)石花菜(五萬二千五百三圓)の生産順位である。地方的に特異なものを拾つて見ると。

### 岩手縣の和布

九戸郡種市村附近から採れる和布は水苔がなく、葉が薄く、光澤がある、五六十年前から沿岸漁民の手で採取されて來たが、八戸線開通前までは八戸まで移送し、ここから「八戸和布」として東京市場や關西、四國方面に移出されてゐたが、最近では種市村から直送されてゐる。八木方面の和布も品質がよい、これは北海道や東京、神奈川方面に移出されてゐる。

### 宮城縣の海苔

鹽釜産の乾海苔は香味がある、また色澤もいい、大森海苔とならば遜色がなく、大正十四年から製造に着手し年々産額を増加しつつある。産額は七、八萬圓に上り、仕向先は東京市場を主とし名古屋、新潟、金澤、北海道方面である。

氣仙沼町附近の乾海苔も有名で、安政年間(武州大森)から職人數名を招聘、海苔の養殖を傳へ苦心研究の結果養殖加工に成功したも

### 東北の淡水魚

養鯉事業は山形縣が最も盛んである、昔、上杉鷹山公が大いに奨励したためだといふ。わが國でも有数の産額を示し昭和九年(農林省調査)の養鯉産額は十九萬九千八百七圓となつてゐる。このものは鯉種がよく、味がよく、畏くも皇室の御式典には山形縣産の鯉魚を御用命になる。米澤市南雲養魚場の鯉は殊に有名で、最近ますます眞價を認められ遠く樺太、北海道、臺灣などに移出されてゐる。夏は罐詰とし、冬は箱詰として贈答品に用ひられるのである。

秋田縣仙北郡横堀村附近も養鯉事業が盛んで水利のよいのと、豊富な清水で飼養されてゐるが、觀賞用の色鯉は花巻温泉や各地の遊覽浴客に土産物として仕向けられる、一部は帝國農會の斡旋で生身のまゝアメリカにまで輸出されてゐる、食用鯉は縣内一般はもちろん岩手、宮城、青森方面に移出され好評を博してゐる。同郡飯詰村附近の部落民が放棄する後三年の役古戰場、西沼の鯉も有名で觀賞用として或は食用として岩手、青森、北海道方面に多く移出されてゐる。

岩手縣和賀郡江釣子村の養鯉も著名である、秋田、山形方面から小鯉を移入して養成し、秋田に逆送するほか、青森、北海道方面に移

のであるといふ曰くつきのものである、秋田階上、唐桑、鹿折などの各漁業組合が熱心に海苔の養殖加工につとめてゐる、品質が頗るよく、殊に岩海苔は極上品と許されてゐる、東京方面に多く移出される、東京の間屋の手に入ると、もうレッテルは「淺草海苔」に貼替へられる。

古川町では氣仙沼から原料を取寄せ、刻昆布を製造してゐる、この年産額は一萬五、六千圓、東北六縣や北海道と直接取引してゐる。

### 福島縣の海苔

相馬中村附近の海苔は柴木で採取する青海苔である、鹽分が多く、賞用されてゐる、三百年前相馬藩公がこの地に移封されてから海苔の養殖加工を奨励したといふ古い歴史がある、年産額は一萬圓未滿で、大部分は地元附近で消化されてゐる。

### 秋田縣の昆布

沿岸藻類收穫物 (昭和九年)

類別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計	全國計
昆布	九、一七九	一、一五〇	五、七五五	三、五〇三	一、一〇〇	一、一〇〇	一一、七二七	三、九三〇、七三三
紫菜	三、六二七	一、一五〇	三、八八八	三、二六六	一、一〇〇	一、一〇〇	一三、一七二	四、五三〇、三三三
和菜	五、七〇五	一、一五〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	五、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇
石花菜	八、三三九	一、一五〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一〇、八三九	一、一〇〇、〇〇〇
海菜	四、八三九	一、一五〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	六、三三九	一、一〇〇、〇〇〇
其他	一〇、一七〇	一、一五〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一三、六九〇	一、一〇〇、〇〇〇
計	一、九五九、二二六	一、一五〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇



にどんどん水揚された、鮫を原料としてつくるが竹輪蒲鉾業者は好況から有卦に入り次から次へと製造また製造の手を休めなかつたので今度は竹輪蒲鉾のストック品が山と築かれ、消化し切れなくなつた、ストックものを冷蔵保管したが、七月頃まではきれいに賣盡した。

### 鯉節

金華山漁場最寄の宮城、岩手の沿岸、鹽釜石巻、氣仙沼、大船渡、釜石、山田、宮古等の各漁港は、昔から三陸節の産地として知られてゐるが、昭和九年農林省調査によれば東北地方の節生産額は、鯉節、鮪節、鱈節、鱈節その他を加へ、二百三十五萬三千六百五十四圓、鯉節の生産最も多く二百五萬九千六百四十二圓となつてゐる。節類の産額では宮城縣が東北一で百九十九萬一千五百圓の生産高をもち、岩手縣は第二位で、産額は二十萬六千五百九十九圓と下つてゐる。

三陸節の取引先は東京、名古屋、群馬、静岡、大阪方面で、大部分は仲買人の手を経て取引され、一部は魚問屋に委託販賣してゐる。鯉は六百匁以上の鯉から四本を製造することができ、背部で製造した二本を雄節と稱し、腹部から得た二本を雌節といつてゐる。

### 鯉節の製造方法

近で多くつくられ、そのうち大久保附近のものが著名で産額も多い。この佃煮は原料を精選し、製造方法も吟味してゐる、約三十五年前東京から丸鐵といふ人が湖畔に来て佃煮の製造を初めたのが最初である、製品はこの頃から關西方面にも移出してゐる、しかし製造方法が幼稚で販路は伸びなかつたので、その後改善に改善を加へ大正三、四年頃佃煮製造業者の組合ができ、政府はこれに補助金を交付して奨励した、この頃から製法が著しく進歩し大正十一年關東震災が契機となつて販路は關東、大阪方面に急激に擴張されたのである。佃煮出荷組合まで組織されてあり、縣水産會の技師連が検査員となつて出荷する佃煮の嚴重な検査を施行してゐる、最近の販路中に朝鮮も加はつて來たのはその盛況を物語るものである。白魚、公魚、鮫は、毎年秋から翌年の春にかけて製造され、蝦は一年中生産するが、夏期は一般に品不足を告げてゐる。取引の大部分は委託販賣である。

### 八郎潟魚族保護

八郎潟の魚族繁殖保護のため秋田縣では昭和十一年四月十五日から漁業規則を改正實施した、改正の要項は次のやうなもので、沿岸佃煮業者にとつては大痛棒である。  
一、從來認められてゐなかつた夜間の光、その他照明による漁業を今回より許可しない。

三陸地方で行はれてゐる鯉節の製造方法は、先づ身卸をしてから身割し煮籠に列べ、そのまま大釜に入れて煮沸してから引揚し冷却し、次に籠のまゝ骨抜器に移し小骨を抜いて背皮の一部を取り脂筋、汚物などを洗ひ落し、焙乾し日乾で硬くする、これを荒節或は鬼節といふのである。この荒節を三、四日樽に詰め表面に湯気が出て來るやうになつたら小刀で削り、日乾し表面が硬くなつた頃合を見てタワシで塵埃を磨り落し、更に樽詰し数回塵付作業を行ひ、その都度日乾し塵が出なくなればそれで完成品とされるのである。

### 鮭・鱈の罐詰

青森市は東洋一の鮭、鱈集散地である、鮭は蛋白質、脂肪分を多量に含んでゐるので栄養價があり、生ものは煮焼何れでもよく、鹽藏品は鹽鮭と稱し、卵菓は筋子となつて廣く賞味されてゐる、更に燻製鮭に至つては高級食料品とされてゐる。鮭は鮭より柄も小さく風味も幾分落ち、市場價額は鮭の半額である、ここで鮭、鱈の罐詰の製造を開始したのは明治四十二年、三年頃で、大正五年頃露領沿海州方面から鮭、鱈を冷蔵船に積んで回航して以來、原料はますます豊富となり逐年罐詰工業が盛んになつた。今日ではこの原料を専ら千島、樺太、露領沿海州方面から仰ぎ、冷蔵船で移送し、自動罐詰機にかけ全部が機械力で處理され片端から水煮罐詰とされる、罐詰工場の規模の大なることも將に東洋一である。市内には大規模の鮭、鱈罐詰工場が十一ある。

- 一、許可期限はこれまで五年或は十年であつたのを全部五年単位とする。
- 一、八郎潟における鯉の禁漁期間は五月十五日より七月十五日までのころを五月十五日より六月十五日として一月短縮する。
- 一、漁具の禁止期間について  
ゴリ曳網、イサジャ曳網、船曳網は三月一日より八月十五日までのころを八月二十日までとして五日間を延長すること。
- 一、各地曳網定置漁具は四月十五日より五月十五日までのころを六月六日より七月三十一日までと改正すること。
- 一、雄物川、米代川、子吉川並にこれらの支流に八郎潟の定置漁業および特別漁業は存置期を更新するものの外新規許可はなさないこと。

### 鱈の油漬罐詰

青森縣陸奥灣の鱈は季節を問はず一年中漁獲される、これは價格が安い上に、滋養があり、栄養價値も勝れてゐるのであるが、その割合に食料とするものが少い、食料に供されるのは全産額の二十分の一にも過ぎない。ヨーロッパやアメリカの婦人は鱈の油漬罐詰を喜んで食べる、これは味のいゝ點もあるが、鱈の体内に含有する油とこれを浸漬したオリブ油とは顔色の艶を増すといはれ、それが食はれる原因となつたものであらう。  
青森市では大正四年頃から鱈油漬罐詰を製造、歐洲方面に輸出したが、大正九年頃からは輸出不能になり今日では休止してゐる状態である。

つて、これらの製造工場が全能力をあげてつくり出す罐詰類は一ポンド箱(四十八個)半ポンド箱(九十六個)の二種類に區別され、フランスや英國に向けて輸出され、アフリカ中、南米方面にも大量に仕向けられる、取引は三井物産の委託販賣が大部分である、昭和十年の罐詰生産數量はピンク(鱈)二十四萬八千八百八十八箱、價額二百八十六萬二千二百十二圓、レッド(紅鮭)九百二十一箱、價額四萬一千四百四十五圓、シルバー(銀鮭)三百七十三箱、價額九千三百二十五圓、ケタ(鮭)八百五箱、價格八千五百圓、合計二十五萬九百八十七箱、價額二百九十二萬一千三百十二圓である。  
なほ内地の需要に對しては鮭、鱈水産組合を母體とする共販會社の手を通じて行はれてゐる。

### 秋田縣の佃煮

秋田縣の佃煮も代表的水産加工品に數へられるが、これは周圍八〇軒、面積二二一平方軒の八郎潟が材料の提供場所となつてゐる、白魚、公魚、蝦、ごり、鮒、鮫などがその原料、この湖畔でつくられる佃煮は、東京を筆頭第一のお得意に、大阪、名古屋、廣島方面から熊本方面まで移出され、年額數十萬圓である。

湖畔の大久保、一日市、鹿渡附近、船越附

あるが、最近になつて内地需要が湧いて來たので油漬罐詰業は再び向上線を迎へる模様である。その他の利用方法としては魚粕、焼干、煮干などに加工され冷凍したものも養魚、養鶏、魚獲の飼料として歡迎されてゐる、鱈の頭も信心がら、といはれてゐたが、近頃農村の榮養問題がいろいろに取沙汰されてゐるので、農民にもつと動物質の榮養分を補給する必要があり、それには安價で滋養分がある鱈こそ東北地方の農民に最も格好な食品であるとなつて、鱈食を奨励してゐるので、食用に供されるのはもつと増加するであらう。  
冷凍鱈は攝氏零下十度乃至十五度で冷凍され、自然の特質を損なうことがなく價格も安いため養鰻、養鯉の飼料となり、養鶏や魚獲飼料としても需要が多い、冷凍鱈の仕向先は静岡、愛知、山梨、北海道の各地が殊に多い、青森市で冷凍事業の始まつたのは大正十一年九月、當時は主として鮭、鱈の食料用についてだけ行つてゐたが、冷凍鱈は北海道で若干つくられ静岡方面に移出してゐた。昭和二年九月青森冷蔵庫が生まれ、冷凍鱈三函をつくつて養鰻飼料として縣外に移出したのが最初である、翌三年には大東食品冷蔵庫が設けられ、兩會社の間で冷凍鱈を盛んにつくり出したので生産額は年々増加し、昭和五年七月には同業者五名で冷凍鱈出荷組合を組織して冷凍事業の發達につとめ目覚ましい進展を見せられてゐる。

### 鯧は青森の神様

冷凍鯧は八戸、宮古、氣仙沼、鹽釜、小名濱などでもつくられるがなんといつてもその本場は青森市である。けれども歴史は案外新しい、まだ十年と経つてはみないのである。

青森市安方町の海産物問屋佐伯商店の主人佐伯嘉雄氏(仙臺出身)は若い時から露西亞で暮らしたといふ變り種、青森に店を出して間もない昭和二年鯧があまりに豊漁のために水揚げしては見たものゝ買手もない、そのまゝ腐るに任せて居るといふ有様を見て、加工して移出するか、値上りまで貯蔵するか、何かいい方法はないものかと考へた揚句、思ひついたのが冷凍である、さて冷凍はしたものの、今度はその處分に困つたが、窮すれば通ずる事であつた、鯧養殖の本場静岡、愛知方面に見本として送つて見た、併しその頃まだ鯧の飼料は蠶の蛹一點張り時代、鯧に冷凍鯧なんて贅澤至極とテンデ振向く人もなかつた、これには佐伯氏も悲觀したが、充分の自信を持ち猶飽かず見本として絶えず一車二車と送る事を止めなかつた。

その頃である、二十になるかならぬかの少年が毎日佐伯氏の倉庫に来ては顧みるものも

ない冷凍鯧を五貫詰二箱づゝ買つて行つたのは、いつたい毎日きまつて十貫づゝ買つて行つて何にするのであらう?これが店の人々の不思議の種となつたが、いくら聞いても少年決して種明かしをしない、ただニツコリ笑つて歸つて行く、頼むやうにして聞いた結果、やつと明かしたところによると、なんとこれが味酥干の原料だつたのである、味酥干の原料として生鯧よりは脂肪が抜けて居て、品がよくて柔かであるといふのが冷凍を使ふ理由だつたのだ、この少年、その後はどうなつたか判らんが、これが青森における鯧味酥干の元祖となつた人である。

又その頃、北海道の漁業家でこれも毎日のやうに注文して来る人があつた、これも調べて見たところ、北海道で鯧のとれない冬の中助宗鯧の釣餌にするものである事が判つた。鯧釣りに冷凍鯧を餌にする事を考へたこの男一人だけ大漁を續けたので、ほかの漁師から怪まれ、いろ／＼探索されて終にその種が判り、同方面からの注文が殺到し、一方静岡、愛知方面の養鯧業者が飼料としての價値が判る爲めである事が一般食通に知られたので、

養鯧には冷凍鯧を使用すべきものとする人が多くなり、注文が漸次増加し、昭和二年には殆ど見本だけで終始した冷凍鯧も、翌三年には百車、即ち一千噸の移出を見るに至つた、四年には更に激増したが、この好況振りを見た青森人、五年になるとわれもわれもこの事業を眞似て大競争を始めた、その結果は價格の暴落となり皆將棋倒れ、結局佐伯氏一人残つた、しかしその後堅實に同じ事業を始め資本家も出て来て、今日では青森に五名の同業者ができたが、つまらぬ競争をして共倒れになつてはと、前轍を踏まぬやう冷凍鯧移出組合を組織し、佐伯氏を代表者として出荷の統制と、價格の維持に努める事にした。

養鯧に冷凍鯧が常識となつた今日各地に冷凍の同業者が殖えたが、青森産が依然として好評で、五月末から十月一杯、鯧が餌を攝る期間は養鯧地に、助宗鯧の漁期であり、同時に北海道で鯧漁の休止期でもある冬の間は北海道へと年中需要が絶えず、昨年は青森産内稀有の鯧不漁の年であつた關係上、五千六百噸しか移出できなかったが、平年九千噸から一萬噸の移出をしてゐる、瀧内の層といはれた鯧が、この冷凍だけで十貫一圓五十錢内外、一噸を途中の減りを差引二百五十貫と見て、年三百七十餘萬圓となつて青森を潤うしてゐるのである。瀧内のゴミだなどゝはもつたない、信心がらでなくとも、鯧は青森の神様であることに間違ひはない。

### 松島の養殖牡蠣

昭和九年、農林省の調査、東北地方の天然牡蠣産額は三萬四千六百五十八圓で宮城、岩手の産額がもつとも多い、各地で盛んに牡蠣の養殖を行ふやうになり、最近養殖牡蠣の産額は次第に増加してゐるが、養殖牡蠣は宮城縣松島灣のものをもつて筆頭とする、養殖牡蠣は宮城、福島、岩手の三縣だけで生産するのであるが、養殖牡蠣の總産額は二十五萬五千四百八圓、このうち松島灣で養殖されるものは實に二十三萬一千三百七十四圓に上つてゐる。松島灣の牡蠣養殖は十數年前から行はれてゐるが、現在この事業に携つてゐるものは一千五百餘名からゐる。この養殖方法は垂下法が多く、海水の中層に生育させるので採取は毎年十一月上旬から翌年の三月中旬頃までとなつてゐる、剥身或は殼付のまま問屋の手を経て消費地の商人(東京は仲買人)へ送るのである。種牡蠣はアメリカにも輸出され、松島牡蠣の名聲は世界的となつて来た。

### 松島牡蠣輸出

宮城縣牡蠣水産組合では、昭和十一年度對米輸出種牡蠣生産割當を六月上旬決定した、これによると一般組合員に五萬二千八百輸出業者と關係のある組合員には一萬二千九百九十二箱とした。一般組合員に割當てた五萬二

千八箱の組合別割當數量は次の如くであつた  
鹽釜二、二八七箱。大代一九三箱。東宮一、一二二箱。代ヶ崎八五二箱。赤沼二、三七五箱。松島五〇七箱。高城四四八箱。磯崎一、六八四箱。手檜二九八箱。浦戸一六、三四〇箱。野蒜三、二〇二箱。宮戸五二三八箱。渡波一四、三〇五箱。澤田流留一、一三二箱。開上三三五箱。

### 三陸沿岸の海鼠

陸奥灣の東部沿岸から太平洋三陸沿岸にかけての海鼠の産額はめつぼう多い、大部分は加工して海參として市場に出されてゐる。海鼠の腸を取り、或はそのまゝ薄肉にして鹽水で煮熱し燻籠にかけたもの(又は日光で乾燥したもの)を海參といふので、これは支那人の手を経て支那各地に輸出される。東北地方の海參年産額は二十四萬八千五百七十六圓(農林省昭和九年調査)宮城縣の産額が一番多く、十八萬五千七百五圓、次が福島縣で四萬八千四百三十九圓となつてゐる。なほ岩手縣の年産額は六千七百三十九圓、青森縣は五千三百四十三圓、秋田縣は二千三百五十圓の年産額を見せてゐる。

### 青森の帆立貝柱

陸奥灣から獲れる帆立貝の貝柱は神戸の問屋の手を経て支那に輸出される、これは支那

料理に使用されるもので江瑤柱或は干貝といつて珍重されてゐる。

### 三陸地方の鮑

東北地方の三陸沿岸は鮑の産地ともなつてゐる、昭和九年總産額は百二十八萬八千七百四十一圓(農林省統計)となつてゐる、岩手青森の産額が多く、岩手縣の産額が筆頭第一の七十四萬四千七百四十二圓となつてゐる。青森縣の産額は三十四萬一千七百七十四圓、宮城縣の産額は第三位で十六萬六千二百六十一圓である。

鮑は暖流が流れ海水が清澄で掲布、荒布などの海藻類が繁茂してゐる海底に、三尋乃至十數尋の所にある岩石に棲息する、雌貝、雄貝(黒貝)マダカ、蝦夷鮑の四種がある。生食用のほか乾鮑として各地に移出してゐる、岩手縣宮古地方の鮑は殊に有名で、舊藩時代から南部鮑と稱し俵入にして盛んに移出されてゐる。生鮑は地元漁業組合の入札方法によつて東北各縣や北海道方面に移出されてゐるが、乾鮑は主として神戸に送られ、ここで輸出商人の手で支那の各地に仕向けられる。日支事變後は相當の打撃を受けたが、滿洲方面に新販路が開拓され、輸出範圍は年々擴大されてゆく、三陸沿岸産の乾鮑によつて、神戸市場の支那相場を左右するやうな盛況である。



鯛などの取引が殊に多い。青森縣八戸地方の柔魚漁業は平年でも七十萬圓前後の漁獲高があり、鰯と共に地方水産漁獲高の王座についてゐる、取引販賣方法は各問屋の店頭で行はれる、そのため亂雑を極め買手が無統制で、消費者も迷惑してゐたが八戸市湊魚市場では昭和十一年度からこれを全部市場に上場し、公正な値段で取引してゐる。八戸魚市場では柔魚の大量水揚場所を新設する必要があり、敷地を湊驛の東方、湊川口に求め木造で七十間と五間の柔魚専門水揚場をつくつた。

なほ従来鰯の肝臓を海中に捨て、ゐたが、無價値だと思つてゐたこの鰯の肝臓が、ビタミン（健康素）の原料として北米方面へ輸出されてゐることが判り、一躍して水産界の寵児扱ひにされ昭和十一年は一萬圓の輸出取引を見たが、昭和十一年は市場内に冷蔵保存の施設を完備し更に大量輸出の計畫を立てた、將來は八戸地方から大量の鰯肝臓が北米へ輸出されよう。

鹽釜魚市場

宮城縣鹽釜町築港大通北側の内灣南岸にあり、鹽釜水産株式會社と稱するのである、鹽釜町の海産物處理は従來、驛前海岸通の路上で行はれてゐたので交通、保安上或は衛生上に非難があり、各問屋間になんらの統制もなく、互に競争し取引上に頗る不便を感じてゐた。宮城縣では築港工事の進捗に伴つて理想的魚市場の必要を認め、簡易保險の低利資金の融通を仰ぎ昭和四年三月竣工したので、こ

石巻魚市場

株式會社石巻魚市場は湊町にあり、小賣場は木造平家建、仲瀬、湊の六ヶ所にある。従來、石巻市にあつた六軒の魚問屋が合同し、昭和四年七月株式組織により株式會社石巻魚市場の業務を開始した、取引漁船はその大部分が黒潮と親潮の接觸點たる金華山沖から來るので、漁獲高も多く従つて取引額も多い、年額三百萬圓前後に上る、鰯、鮪の水揚が多く二百萬圓に達する盛況である、この大部分は節の原料として地元だけで消費され、相場も比較的高いので、漁期に入ると金華山沖を舞臺として活躍する各府縣の漁船は争つて入港する、市場の景氣はいつもながら旺盛である。

氣仙沼魚市場

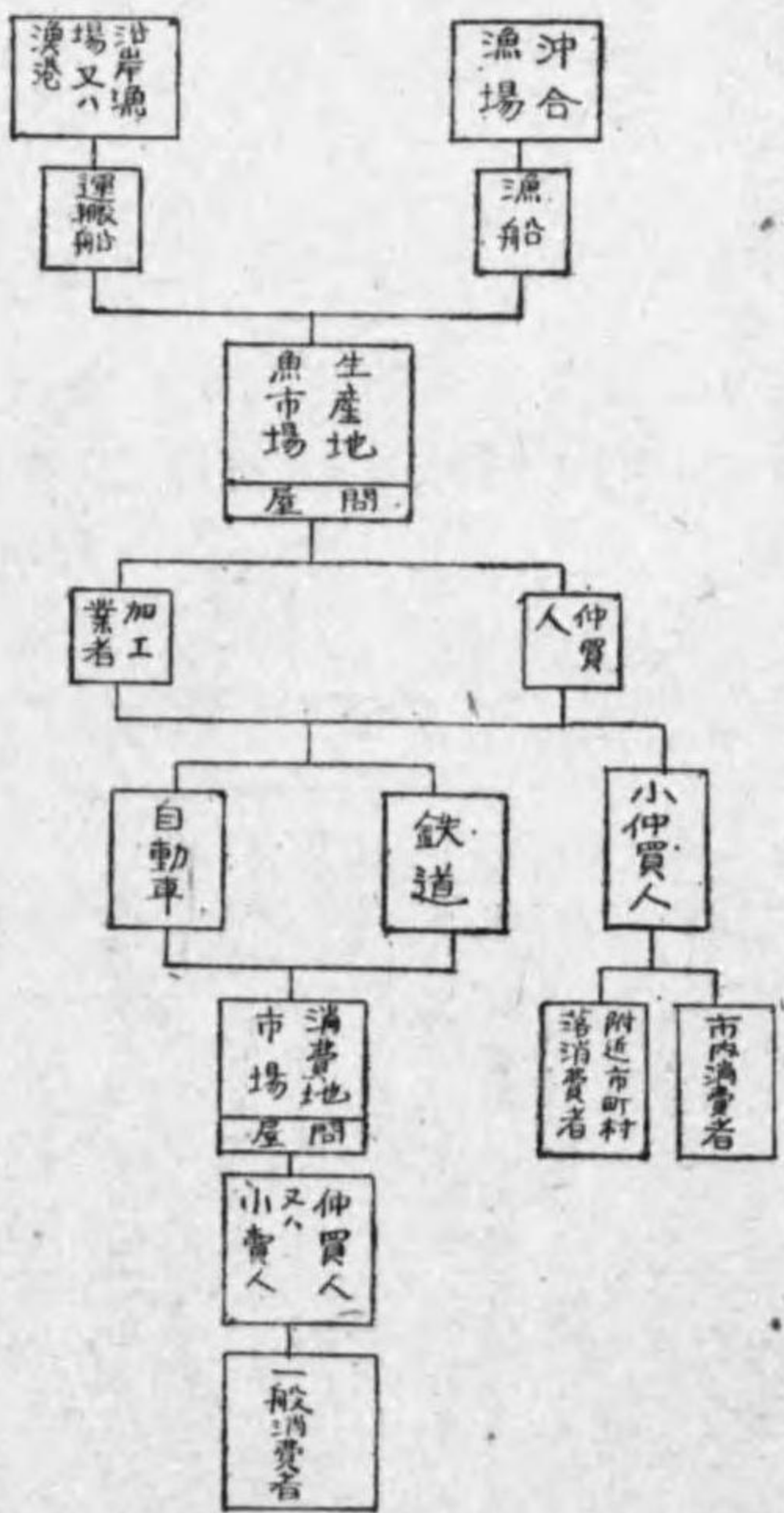
昭和十年以來兎角不振をかこつてゐた宮城縣の指導船宮城丸が昭和十一年の漁期に入つてから幸運を引きあて、初鯨一萬四千本を積んで入港したのが景氣上昇のトップ、ついで海晴丸、大晴丸、豊丸などの大型漁船が鰯を満載して續々入港し、七月中旬までには八十二萬八千本といふ夥しい鰯を水揚げした、この取引方法は悉く入札制度となつてゐるが、金華山沖の鰯漁最盛期に入つてからは連日九萬圓乃至十萬圓に上る取引實數を示してゐる。

れを鹽釜町に貸つけ、鹽釜町は町内の海産物問屋に轉貸して鹽釜魚市場株式會社を設立し



況盛の揚水場市魚釜鹽

鹽釜魚市場取引系統圖



昭和四年四月一日から店開きした、最初、市場の移轉に反對した一部の問屋もここに至つて非を悟り合流することになり、同年九月鹽釜魚市場株式會社を解散して新に鹽釜水産市場株式會社を設立して今日に至つた。この市場に水揚される魚介類は金華山沖合二千三百海里附近の遠洋漁獲物や三陸近海の漁獲物であるが、一旦三陸沿岸の漁港に水揚げされたものも値段が引合はず、ここに陸送されて來るものも相當にある。水揚漁船は東北六縣はいふに及ばず靜岡、三重、愛媛、鹿兒島、高知、和歌山、神奈川、千葉、茨城、北海道など各方面のもので五、六噸の小型漁船から百噸級の大形漁船が頻繁に出入してゐる。

重要漁業概況

三陸沿岸から金華山沖にかけて行はれる重要漁業の概要 鮪市着網漁業は夏季に主として仙臺灣で行はれる、仙臺鮪を獲る唯一の漁業である。漁港が極限されてゐる關係上、許可漁業に屬し船數は三十隻に制限されてゐるが、現在は十隻だけで、昭和九年以來不漁続きのため何れも缺損してゐる。

鰯揚網漁業 昭和五年以來の新興漁業で宮城縣の沖合を漁場に、毎年九月頃から翌年の二月までを漁期として宮城縣をはじめ、青森、岩手、福島、茨城、千葉方面の漁船がここに集り最盛期に入る。三百艘からの鰯揚網の漁船がここに集り最盛期に入る。九月下旬から十月の初旬にかけて本吉郡の沖合で獲れ漁場は次第に移動し翌年の一月頃には漁場が福島縣へ移る。漁獲高は一統當最高四萬圓程度である、將來は有望視され宮城縣沖合に出漁する他府縣の鰯揚網漁船は年々増加する傾向がある、これがため將來定置漁業その他の沿岸漁業と紛争を惹起する感がある、宮城縣では統制を計るため許可制度を實施する方針で手続中である、なほ宮城縣沖合に出漁する各縣の揚網船數は大體次のやうなものである。

宮城三三統、青森六二統、岩手四七統、福島三五統、茨城七〇統、千葉五九統、合計三〇七統 鰯揚網漁業は既に青森、岩手の兩縣が許可制度を實施してゐるが、水産業保護のため宮城縣でも許可制度とする方針で、昭和十一年一月福島、茨城、千葉三縣の關係者を會同して諒解を求め、内外ともに原則的には賛成

を得てゐる、宮城縣が許可制度を實施する上においては、宮城縣沖合を漁場とする鰯揚網漁船の隻數換算方法、禁止區域の設定、操業期間、操業時間などを制限すること。鰯揚網漁船の隻數は全部で三百隻を超過しないこと、いふ條件がついてゐる。

機船底曳網漁業 全国的に見て飽和状態にあり、その性能は鰯漁、鰻獲のため沿岸漁場を荒廢させ魚族の蕃殖保護上に大きな支障を來すので、農林省では昭和九年八月機船底曳網漁業の取締方針を確立し、この許可採決権を地方廳から本省に移し全国的に統一して漁船の漸減方針を取つてゐる。三陸沿岸を無差して活躍する、漁獲物の主なるものは鰯、鮪、鮫、目波魚、鰯、きつじ等、漁獲高は年々莫大な數字に上る、宮城縣の機船底曳網漁船は數量においても莫大な數字に上る、全国的に有名で長崎に次ぐ第二位に置かれてゐる、青森、岩手、福島の漁船も底曳網で盛んに活躍するが宮城縣の比でなく、機船底曳網漁業では宮城縣斷然他を壓し遠く青森方面にまで出漁するので、「平和の機船者」として常に苦情を持たれてゐる。

農林省では機船底曳網漁業の減少方針を徹底せしめるため昭和十年以來各縣に命じて漁船の規模漁業の實情などについて詳細調査中であつたが、二十噸以上の漁船を不登簿船として使用してゐる向が多く宮城縣の如きは超過噸數一千八百噸に達し、福島縣は八百九十五噸を超過してゐる事實が判明した、そこで農林省では、從來二十噸以上の漁船を不登簿のまま、で使用してゐる業者に對しては超過と同噸數の底曳網漁船を買収して廢船せしめるか、或は代船を購入せしめるかの方針をとるはずであるから、これによつて機船底曳網漁船は一舉に減少することにならう。

目抜魚延縄漁業 秋から春にかけて行はれるも、宮城縣本吉、牡鹿郡下沖合で行はれ、將來は有望視されてゐる。鱈、鱈延縄漁業も宮城縣牡鹿、桃生郡下の沿岸で行はれるものであるが、主として無動力漁船を使用する、しかし最近では發動機漁船を使用するものが續出して漁場も著しく擴大された。

Table with columns for '目別' (Category), '宮城' (Miyagi), '福島' (Fukushima), '岩手' (Iwate), '青森' (Aomori), '山形' (Yamagata), '秋田' (Akita), '計' (Total), and '全国計' (National Total). Rows include '無動力船' (Non-motorized boats), '動力船' (Motorized boats), and '合計' (Total).

機船底曳網減噸承認

宮城縣の荒濱、閑上、七郷、七ヶ濱、鹽釜浦戸、桃生、牡鹿、石巻、志津川、歌津などの機船底曳網関係業者二百餘名は、昭和十一年六月八日午後一時から宮城縣、縣會議事堂に會同、トロール漁船整理問題について協議した、業者は大乗的な態度で農林省の整理減噸案を承認することになり、次のやうな決議をなし機船底曳網整理組合を設け減噸に邁進することになった。宮城縣には機船底曳網漁船が二百八十艘(約五千六百噸)あるが、これに對して農林省から昭和十一年度以降昭和十五年度までに合計一千九百二十八噸の減噸命令が出てゐるのである。

機船底曳網漁業整理に関する業者の決議

- 一、機船底曳網漁業整理實行を容易ならしめるために左の整理組合をつくること。
二、整理組合の内、昭和十一年或は昭和十二年に整理又は歐洲期限の到来するもの、および参加希望者については左記事項を協議決定すること。
第一方法 組合より轉業する船を決定すること。
第二方法 組合外より轉業する船を決定すること。
買取價額の決定
第一方法 組合内においては一噸當り相場を決定して置くこと。

- 第二方法 組合外より購入する場合は買取の豫約をなすこと、その他の適當なる方法。
三、組合長、副組合長、評議員若干名を定め縣に報告すること。
四、第二項は昭和十一年六月二十日までに定め縣に報告すること、右の期限内に報告せざる場合はその旨農林省に報告せらるゝも異議なきこと。
五、昭和十三年以後に期限の到達すべきものについては將來適當なる時期において本決議の精神に則り整理すること。

三陸漁場の消長

昭和八年から十年にかけて三陸沿岸の潮流に異變あり、暖流の魚族、鱈、鱈、鯖などがとんと姿を見せなくなつた、それに引かへ寒流性の魚族、鮭、鱒、海鼠などが珍らしく豐漁續きなので沿岸各漁港や市場は、さてこれはなんの兆そやと奇異の眼を睜つた、十餘年前までは沿岸七、八里のところでもしかも無動力船で一日一人平均數百本を釣り上げた鱈漁が、今日では三百里から千理の沖合に出で六十噸乃至は百噸級の大形漁船でなければ漁獲できないといふ純然たる遠洋漁業に變化した、この現象は一年毎に激化し、漁場は次第に遠ざかつて行く、周期的に地震や津浪の洗禮を受け漁業資本が乏しい三陸沿岸の漁民にとつてこの事實は大きな痛手であらねばならぬ。つ最近までは鱈の集散港として股賑を極めてゐた岩手縣の釜石、宮古、大船渡などは、一年間に三港を合しても二十五萬圓程度の水揚量しかない、人氣はもう宮城縣の氣仙沼、石

關の研究も未だ正確な答案を出すまでになつてゐない。

漁村經濟ありの儘

小漁民の落ち行く處

卷、鹽釜等に奪取されて了つたのである。かつて五十餘ヶ所に三陸節の加工場を持つて盛んに製造能力をあげてゐた岩手縣氣仙郡の如きは、鱈の水揚量激減とともに加工場は片つ端から閉鎖し現在では數ヶ所を残すに過ぎない、三陸沿岸(岩手縣)各漁港の總水揚量は十年前から見ると八分の一乃至は十分の一に低減してゐる。
世界的だとも稱揚された三陸沿岸の定置漁業小壁建網を初め、約百ヶ所の定置網は昭和九年以來全く不振に陥り關係業者を失望させてゐる。漁業組合から漁具を貸貸してゐる業者はその貸貸料を納めることが出来ず、貴重な權利を放棄するものが續出してゐる。
無統制經營がそのもつとも大きな原因とされてゐるとも考へられるのである、三陸定置網の統制が叫ばれるゆゑである。經濟的漁業經營、漁場の整理、魚道その他の科學的研究等々三陸の沿岸漁業復興の根本策は農林省でも、これは緊急を要する問題だとして研究し出した、帝國水産會、日本水産會なども、調査に手を染めることになつた。
沿岸小漁民の米代となる鰯は支那方面にまで販路をもつてゐるが、永いこと不漁つきであり、昭和七年豐漁のレコードを破つた鰯は昭和八年以來不漁で、漁場は宮城縣沖に移動した觀がある。
何故に漁場が移動して行くか、水産指導機

沿岸漁業に久しく無統制濫獲時代が續いた漁場はいふまでもなく荒廢していつた、遠洋へでも乗出さなければ利潤に遠ざかるのみである、しかし資力が乏しく、大型漁船や、これに適應する漁具の用意ができない漁民は、舊式な漁撈法で沿岸漁業を細々とやつてゆくよりほかはない、かれいや烏賊を少しばかり獲つて生きてゐるのである、沿岸漁業の衰微を加へるのは無理もない、この衰微は昭和五年以來甚しくなつた、漁場が荒廢して漁獲高が激減した上に、一般市場が不況で、水揚漁獲物の相場が下落し、漁村の經濟は窮乏して來た、負債が大きくなるざるをえない、無盡の寶庫を前にして指をくはへてゐなければならぬ、若し寶庫を開拓しようとなれば、そこには纏つた金が必要である。水産王國を任じる東北地方、その中に君臨する宮城縣の漁村一般の昭和十年九月末現在による負債調査は次のやうな結果となつた、これはひとり宮城縣だけでなく、東北地方における漁村の全般を推察することができようと思ふ。
宮城縣沿岸漁村數二十五ヶ村、戸數九千九

百六十戸、人口六萬四千四百二十六人、
借入金 銀行百四十萬三千九百二十四圓
產業組合三十七萬六千六百二十二圓、漁業組合六十四萬四千三十圓、無盡及頼母子講二十三萬八千九百五十三圓、個人(高利貸)二百三萬一千八百八十六圓、その他七十四萬六千三百六十八圓、合計五百四十四萬一千七百八十三圓
高利貸の不合理金融を利用するものが最も多い、有力な擔保もなく強力な信用もない小漁民は高利貸を唯一の頼りにしてゐる、それよりほかなんとも方策がないからである、その結果は利拂ひにも窮し倒産、破産が相續く、この悲惨な事實はわれわれの常に直面するところである、これら漁民の負債の中には、現に一割以上の高利を負擔してゐる者すらある、それが實に二百九十二萬四千三百八十一圓、全負債額の五割四分に上つてゐる。
漁村で最も資金需要の旺盛な時期は遠洋漁業の出漁直前である、四月、五月は鱈漁の準備資金、五月、六月は大謀網の準備資金、九月、十月は鮭、鱒漁の準備資金の需要期とな

つてゐる。漁村の貯金高は九十七萬九千七百九十七圓であるが、この内譯は銀行預金五十三萬八千五百四十一圓、郵便貯金二十八萬二千三百三十二圓、信用組合預金九萬五千七百七十九圓、その他五萬三千五百六十五圓となつてゐる。これを漁村の一戸當に平均して見ると、九十七圓四十錢七厘の貯金をもつ反面では五百四十六圓三十六錢三厘の借金を背負つてゐる勘定となる。

斯くもあらうか

漁村民の生活

漁村の經濟調査は漁村の動向を知るために最も必要な事項であるが、その調査資料は極めて少く、必要統計は全然といつてもいゝ程手に入らない、それほど調査が困難なのである、宮城縣が、昭和八年十一月二十日を期して辛うじて調査した桃生郡十五濱村の産業統計を提供し、太平洋岸における漁村の經濟一般を知る手引としよう。

十五濱村の位置

宮城縣桃生郡の東北端に位して南は牡鹿郡女川町と接し、西南は桃生郡稻井村に、西北の一端は同郡大川村に隣接してゐる、南東と北部は太平洋に面し、漁民に貴重な職場を提供してゐる。村内の面積は東西三里、南北二里半で三、二方里餘、起伏多く、地勢が險しい

米四百二十四圓、麥六千八百四十圓、大豆二千三百七十六圓、食用農産物(大豆を除く)五千五百六圓、園藝農産物(果實を除く)六千七百二十圓、桑葉一千五百圓、繭二萬一千九百七十一圓、果實六十圓合計四萬四千九百六十五圓

十五濱村の生産物價格

(昭和七年末現在)

水産、農産、林産、工産、畜産などをとり交ぜ百二十九萬七千圓であるが、流石に水産物價格が歴倒的に多く百一十一萬七千六十圓に上つてゐる。

沿岸漁獲物

鱈百七十二萬三千貫、六萬六千五百七十三圓、鮑四萬貫、三萬六千八百六十六圓、章魚七千八百三十三貫、六千圓、和布四萬二千三百三十三圓、昆布四萬五百貫、四千七百三十三圓、ふのり四千六百六十六貫、二千四百六十三圓、計百八十五萬七千七百三十二貫、十二萬一千五百六十八圓

遠洋漁業

村内の遠洋大型漁船は、雄勝灣方面に十五隻一千五十噸、外洋および北浦方面七隻四百五十五噸が活躍してゐる、最近三ヶ年間の平均(自昭和五年至昭和七年)漁獲高は秋刀魚四萬一千三百三十三貫、一萬一千二百六十六

ため耕地は少く、水田面積は僅か三町五反歩あるに過ぎない。村内は名振、船越、大須、熊澤、桑濱、立濱、大濱、小島、明神、雄勝水濱、分濱の十二部落に分れ、ここに一千三百五戸、八千五百二十五人の村民が生活してゐる。この大部分が漁業をもつて生業とするものである。

沿岸の状況

半島が突出して南浦、北浦をつくつてゐるが、南浦は砂泥が多く、浅海で海流は緩慢である、北浦は外洋に面し深海であるけれども岩礁が多く海流の變化に富み、北上川の濁水により海藻魚介類の蕃殖に支障を來す有様である。

海産物の延長

海産物の延長は七里餘で灣曲多く、一部落の戸数は最大三百戸、最少三十戸内外、外洋に面した北浦方面は鮑、若布、昆布、海蘆などの産額がある、南浦は海藻類の生産が殆どなく、部落民は遠洋漁業を主業とするものが多い。

運輸交通

漁獲物の運搬は海路鹽釜、石巻を経て鐵道によるほか、陸路をトラックで石巻(十四哩)に聯絡する、海路鹽釜までは二十四哩、石巻までは十九哩である。

所有別土地面積

山林 反別 割合  
私有 101.6, 1000 云

公有 六三、八九〇七  
私有 三、九四、九〇七  
公有山林樹種  
杉十八町歩、檜六町歩、雜木五百五十九町八反九畝七歩、  
地目 自作 割合 小作 割合  
畑 計 三、二〇五 〇、九一 三、五三 〇、〇七  
田 計 104, 934 〇、八三 二、五〇六 〇、七  
田は一毛作  
畑は桑園三十九町五反歩、その他八十九町九反歩、

農業經營

農業は主に副業で、專業農家数は三十七戸大豆や麥作を主としてゐる、金肥は使用せず全部が堆肥を用ひてゐる、副業としてわづかに養蠶をなし、冬は官林を拂下げて薪炭などをつくつて販賣してゐる、生繭は養蠶實行組合で生産物の七割を共同販賣し、他は自由販賣によつて取引してゐる。專業農家一戸當の水田面積は九畝四歩、畑(桑園)三反三畝歩、その他の畑地四反歩となつてゐるが、村内には牛馬と交ぜ十八頭を飼育し、養蠶飼育戸数は百八十二戸ある。農産物はその全部を自家用に供してもなほ一ヶ年間に一萬圓内外の食糧農産物を他の町村から供給されなければならぬ状態である。

農産物價格

水産加工品 製造費 計 差引收入 製造戸數 従業者數  
水産加工品は鱈節、鮭節、鯖節、鰯、鱈、鱈油など原料費と製造費を差引總額七萬八千二百四十圓となつてゐる、製造戸數は七百三十三戸であるから一戸平均百八圓五十一錢八厘となる。鱈は漁業者が自分の製造場で鱈節をつくる原料にするのであるが、鱈漁の最盛期には他縣の廻船から鱈を買入れて製造してゐるものもある。鱈揚線網は漁業組合の共同施設で、この漁獲物は組合員に限り入札或は雜賣として販賣し、製品は組合がこれを取纏めて廣く一般商人に販賣してゐる。節類の仕向先は東京、大阪、名古屋方面で鱈類は京都、神戸、大阪、東京方面へ、海藻類は大阪京都方面に主として移出されてゐる。

水産加工品

Table with columns for fish types (鱈, 鮭, 鯖, etc.), quantities, prices, and processing costs. Includes sub-sections for '水産加工品' and '漁業'.



漁場概要

遠洋漁業延縄漁業は、南は東經百五十六度、北緯三十一度から北は東經百五十三度、北緯三十八度に至る海區で操業し、鰯釣漁業は、房總伊豆七島沖合東經百五十一度、北緯三十四度から青森縣の沖合東經百四十六度、北緯四十二度附近に至る間の海區で操業してゐる、出漁範圍は極めて廣い。

沖合漁場秋刀魚流網漁業は、金華山沖から北海道釧路に至る二百哩乃至三百哩の海區で操業し、北方から魚群を追つて次第に南下するのである。

沿岸漁場

沿岸漁業は、定置漁業を主とし、鰯揚網漁業がこれに次ぐ、他は慣行専用漁業による漁業で鰯揚網漁業は沿岸から三哩以内の區域で操業し、定置漁業は専用漁場の區域内で行つてゐる。

十五濱村の遠洋漁業は明治四十二年に初めて八噸十五馬力の小型發動機船で操業したが昭和元年に至つて二十噸、五十馬力の漁船をつくり遠洋に出漁して成績をあげた、昭和四年にはこの種の漁船が四十八隻となり、漁場は年々遠隔に、従つて出漁に困難を感じるやうになつたので、昭和五年に初めて大型鋼船雄勝丸(九十噸、百八十五馬力)を建造し劃期的成績を収めた、この翌年からは大型船を建造するものが續出し現在では百噸級のものが三隻、六十五噸以上八十五噸までの木造船二

十隻に上り漁獲高は六十萬圓を算してゐる。鰯揚網漁業は明治初年頃から小船二隻で小規模の旋網を使用してゐたが、大正七、八年頃から小型發動機船を使用するやうになりその後昭和四年船越漁業組合が二十噸級の發動機船二隻で揚網を經營したところ、好成績をあげたのでこの種の漁業を經營するものが續出し、現在六組、十二隻となり將來ますます有望視されてゐる。

定置漁業は古くから布設されてゐたが、最近漁具が改良され数年前から現在使用中の完全なる漁具を見るに至つた。  
◇漁船數  
無動力船五噸未満四百七十五隻、有動力船五噸未満十二隻、五噸以上十噸未満六隻、十噸以上二十噸未満三十八隻、二十噸以上五十噸未満十一隻、五十噸以上十二隻計五百五十四隻。

諸税負擔一覽表

Table with columns for tax types (Direct National Tax, etc.), amounts, and average per person. Includes data for 1935, 1936, and 1937.

前三ヶ年間の村税徴収成績表

Table showing tax collection performance for 1935, 1936, and 1937, comparing actual collection to previous years.

十五濱村總生産額

昭和九年末現在宮城縣の調査したところによれば、十五濱村の總生産額は百二萬八千八百五十六圓、このうち漁業生産額は八十二萬八千八百三十一圓で村の經濟はこれによつて支へられてゐるのである。産業の第一線に働く漁船は動力船七十九隻、無動力船四百七十五隻である。農業生産額は五萬二千四百三十

鯖の加工獎勵

三陸沿岸の鰯、和布、海苔などは半製品のまま、他府縣に移出され、他府縣では安價

これを買取つて精製加工し中央市場その他に販賣して利益をあげてゐる、資金が乏しく従つて従業者は投下資本の回收を急ぐため未製品のまゝで販賣することになるのである。この點につき最も痛切な悩みを感じてゐる岩手縣ではその「水産業是」の中で、水産倉庫の利用を奨励し、半製品や未製品の縣外移出を防止し、縣是水産會社で鯖の罐詰製造事業を起すやうに盡力してゐる。なほ鯖は魚價が安いので、罐詰事業を經營すれば充分利益をあげるのであるが、資金がないばかりに單なる原料品としてこれを他府縣に移出してゐるのは遺憾である。この遺憾事を取除かうとする岩手縣の努力は喜ばしい、すなはち水産金融の改善を必要とし、沿岸方面に水産倉庫の設置を奨励し、販賣部、購入部、信用部、信用部などを設け、販賣部では確實な統制の下に製品の販賣斡旋、仲買を行ひ、販路の統制につとめ、購入部では製造上必要な原料や機械、器具などの共同購入を行ひ生産費の遞減を計り、信用部では製造場や倉庫を設備して製品の加工荷造、製品の貯蔵などを引受、製造者の便を計るとともに信用部では水産製造場の擔保貸付をなし當業者の金融圓滑化につとめることを提唱してゐる。

漁村更生の指導對策

東北地方各縣では農林省の指示方針によりそれ〴〵漁村更生の指導對策を樹立實行して

あるがその根本方針は次のやうなものである、  
1 漁村の中核機關たる漁業組合の組織を新組合による共同施設の主體とする。  
2 低利資金の融通を圓滑にして高利債を排除すること。  
3 漁業資金の供給を豊富ならしめ遠洋、近海漁業の進出を奨励すること。  
4 沿岸魚介類の増殖施設を行ひ、漁場の擴張を計ること。  
5 共に漁獲高を増加するやうにつとめること。  
6 漁獲物に生産物の配給設備を改善し、必需品並に漁業用品の共同購入を行ふ。  
7 漁港、船渠その他漁業施設の普及と完備につとめる。  
8 漁業技術に加工技術の普及と改善につとめる。  
9 漁業者の智識向上を計ること。  
10 備荒制度に相互共済組織の普及につとめること。

うに北限界研究

岩手縣盛岡中學校の小山教諭は本邦産雲丹の北限界につき研究中であつたがその結果によれば  
紫ウニ、馬糞ウニの北限は三陸以南(金華山以南)と決定されるに至つた、岩手縣から樺太まで盛んに關東、關西方面に移出するウニは關東、關西産のウニと著しく性質を異にしてゐるので獨特の製法により特殊の味を持たせることが必要であるといふ。

漁業組合強化問題

宮城縣漁村産業組合創立總會は昭和十一年六月十二日志津川町で開かれた、論議の中心問題は、従来系統金融機關たる縣信聯が漁業金融に對しては極めて消極的であるため漁村産業組合は常に資金難に悩まされ充分な活動ができないから資金の供給を豊富にして貰ひたいといふことであつた。資金獲得のためにもこの際宮城縣下漁村産業組合の強化を

圖る必要がある、この手段として漁業組合の産業組合加入を極力奨励してその組織を強化することにしたいとて縣當局の積極的援助を要望した。

山形の漁獲競技會

日本海における漁業の振興策として山形縣ではこの荒海をバックに漁獲競技大會を行ひ多大の効果をあげてゐる、昭和十一年山形縣水産會主催(第三回)漁獲大會は山形縣の沿岸一帯に亘り四月五日から一週間に亘つて行はれたの如く入賞者が決定した。  
第一種(個人)一等 飛鳥村齋藤榮吉(福沼丸)二等 瀧澤村佐藤彌吉(第三長久丸)三等 瀧澤村佐藤幸四郎(金龍丸)  
第二種(定置)一等 飛鳥村本間五右衛門 二等 飛鳥村連藤金藏 三等 飛鳥村齋藤一郎  
第三種(機船曳曳)一等 加茂町鈴木助彌(龍神丸)二等 加茂町岩井富三郎(第五取丸)三等 加茂町藤田康次(住吉丸)

宮城縣渡波鹽田

北日本唯一の鹽田、宮城縣渡波の鹽田は面積四十一ヘクタール餘、製造場數三十七、煎釜釜數は三十七ヶであるが、ここに働く従業者は一千二百三十三人で昭和十年の製造高は四百五十萬四千五百九十担、賠償價格は二十二萬四千二百五十六圓四十七錢、昭和十一年の夏は乾天續きのため製鹽能力が著しく進んだので賠償價格も増加し關係製造業者は大喜びであつた。

蒼鷹丸の調査結果

昭和八年の東北地方大凶作以来「海流の氣候に及ぼす影響について」實際的研究を行ふため北太平洋沖から樺根、占守兩島を経てオホーツク海の流れ調査を行った農林省水産試験場の海洋調査船蒼鷹丸(二〇二噸)は昭和十一年八月北海道襟裳岬沖合六百哩の海上で

静岡以北、關東、東北、北海道の水産試験場調査船の協力援助を得て一齊調査を行ひ、その結果、極めて大きな効果を得たと發表した。即ち東北地方の氣候上、漁業上重大な影響をもつ黒潮は最近漸次沿岸から遠ざかつて行く傾向にあり、昭和十一年の黒潮状況は金華山沖から東流する本流とは別に北海道千島の沿岸を洗つてベーリング海に渡り、海速半節の有力な暖流のある事が判明し、黒潮の離岸説

およびこれによつて發生する東北地方の恒久的冷寒説を根本的に覆へることができた。南洋から東上する黒潮が銚子沖では海速二哩で金華山沖で分れ、千島の南に流れる分流でさへも昭和十一年の夏は從來のものより分量も多くカムチャツカの東岸まで暖かく、北海道では秋刀魚の漁が多く、金華山沖では鯉魚が多かつた。

養殖場數

Table showing the number of aquaculture ponds (養殖場數) across various prefectures (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田) and a national total (全國計). The table lists different types of ponds such as salmon (鮭), trout (鱒), and other fish (魚).

水産増殖魚苗放流高

Table showing the volume of fish seedling release (水産増殖魚苗放流高) for various species (鮭, 鱒, 公魚, 鰻) across prefectures and a national total. The table includes data for prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.

肥料製造高

Table showing the volume of fertilizer production (肥料製造高) for various types of fertilizer (硫酸, 硝酸, 有機) across prefectures and a national total. The table lists prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.

水産孵化場及禁漁場其他

Table showing the number of aquaculture hatcheries and other fishing-related facilities (水産孵化場及禁漁場其他) across prefectures and a national total. The table lists prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.

魚油製造高

Table showing the volume of fish oil production (魚油製造高) across prefectures and a national total. The table lists prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.

漁業組合及同聯合會

Table showing the number of fishing cooperatives and unions (漁業組合及同聯合會) across prefectures and a national total. The table lists prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.

遭難漁船種類別

Table showing the number of shipwrecked fishing boats by type (遭難漁船種類別) across prefectures and a national total. The table lists prefectures like Miyagi, Fukushima, Iwate, Aomori, Yamagata, and Akita.



林野所有別 (昭和十年三月末現在)

Table showing forest ownership by county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田) and total national figures. Columns include ownership type (官有, 公有, 社寺, 私有) and area in hectares.

國有水源涵養林 (昭和十年三月末現在)

Table showing national water source afforestation by county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田) and total national figures.

保安林面積 (昭和九年農林省)

Table showing security forest areas by county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田) and total national figures, categorized by type (土砂防止, 水害防止, etc.).

年の木炭産額は内地、北海道を合して五億八千六百二十一萬三千三百九十一貫で、この二割二分六厘(一億三千二百八十六萬七千四百二十五貫)は東北地方から生産されてゐる、昭和十年は更に製炭數量を増し一億五千三十九萬三千九百三十七貫の木炭をつくつて市場に供給した。私有林が片つ端から製炭材として伐採されたので、最近はやむを得ず原木を國有林に仰いでゐる、昭和十年には東北地方で七百二十三萬一千七百十六石の製炭材が國有林から供給された。

東北地方は木炭界に重要な位置を占めてゐるが、縣別に見ると、岩手縣の製炭量が最も多く四千五百九十六萬一千六百九十八貫、福島縣三千六百八十五萬二千六百十貫、第三位は秋田縣の一千八百五十一萬九千六百三十八貫となつてゐる。なほ宮城縣の製炭量は一千七百七十七萬五千八百二十五貫、青森縣は一千五百五十一萬二千三百二十二貫、山形縣は一千五百七十七萬一千八百四十四貫である宮城、福島、岩手、青森は黒炭が多く、山形、秋田の二縣からは白炭が多く出る。

潤葉樹林には古くから漆樹と桐が混生してゐるが福島縣の會津塗、岩手縣の淨法寺塗、秋田縣の春慶塗などはこの漆樹が素材となつて工夫された工藝産物である。桐材では南部の紫桐が有名で自然林の中に育成したもののが喜ばれ、岩手縣下閉伊郡、九戸郡、稗貫郡がその本場である。北上山脈に沿ふ野生のものが

げの要望が起つてゐる、政府はこの眞剣な請願に動かされ、嚴重な森林經營方針も最近では大分緩和されたかに見えるが、拂下げの恩典に浴するものは、そのうちの最少限度に限られてゐる、國有林から秋田の杉林と青森のひば林を除けば岩手、宮城、福島、山形の森林はその面積の廣大な割合に比較的良材が少いのであるから、これらを整理し、不用地は開墾地、或は植林地として速かに拂下げ、東北振興に資すべきであるといふ輿論が高くなつたのである。

事實、東北地方には國有の林野があまりに廣大な面積を領有しすぎてゐる、山村は區劃面積の大きい割合に課税の對象がせまく、町村自治體は甚しい財源難に陥つてゐる。

美林より生れる良材

東北各縣の特産木材類

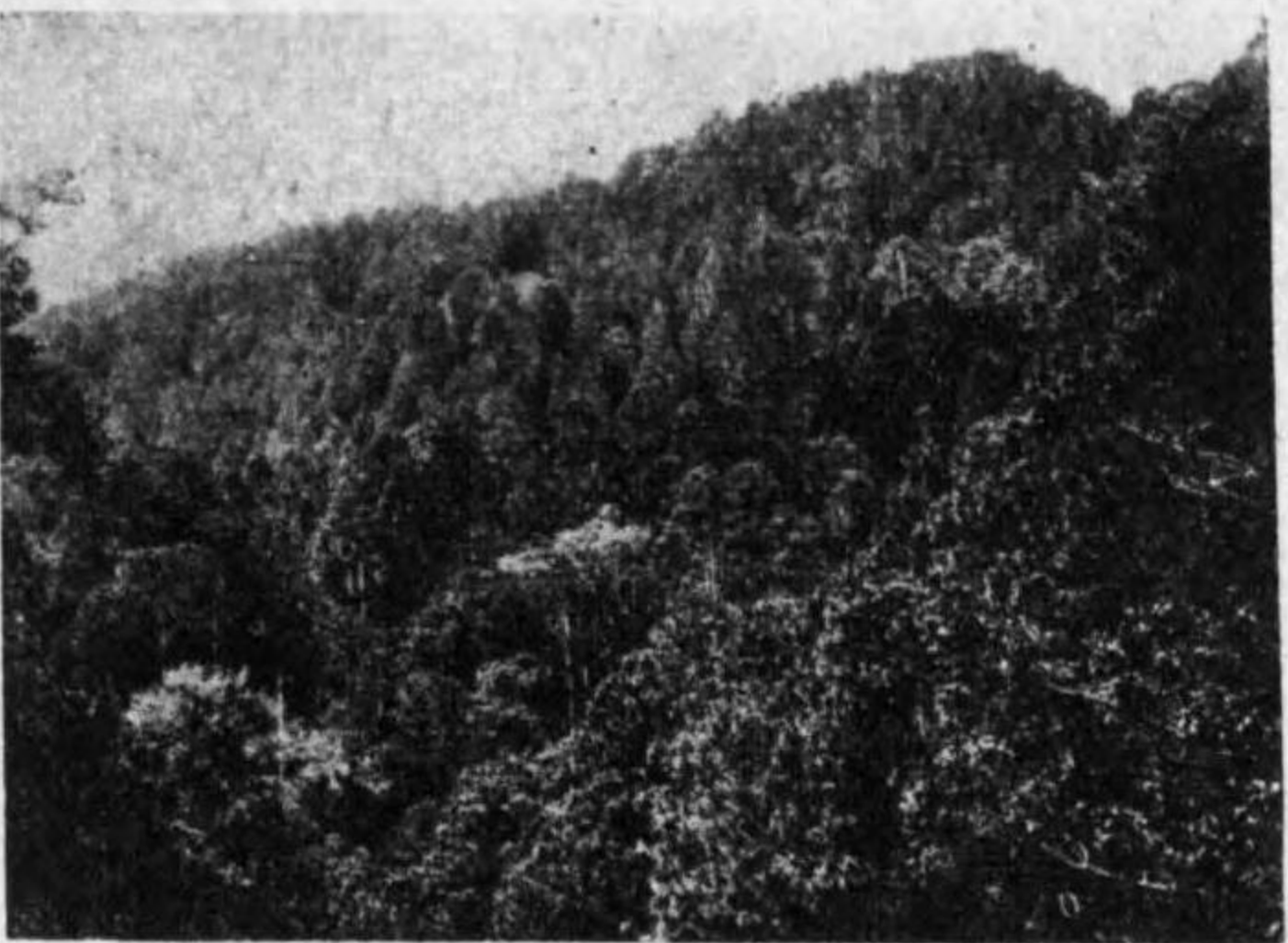
前に書いたやうに青森のひば、岩手の松、秋田の杉は東北の三大林として有名であるがこれは舊藩時代から林政が宜しかつたのと、氣候風土が森林育成に適してゐたからである。特に秋田縣の杉は全國に知られてゐる、

米代川の上流一帯廣大な面積に鬱蒼たる杉の美林が繁茂してゐる、この米代川流域の杉林は美林として代表的なもので、直径三尺から四尺に亘り高さ百尺を越す林木のみである。

Table showing forest ownership by county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田) and total national figures, categorized by ownership type (御料林, 國有林, 公有林, 社寺有林, 私有林, 東北計, 全國計).

良質であるが、殊に早池峰山麓から産出するものが最上品とされてゐる。東北の深山には千古斧鉞を入れぬ大森林が龐大な面積を占領し、一切の謎を秘めて眠つてゐる、この中には有用の樹種が殊に多い、しかし、この良材の多くは國有林となつてゐる、東北地方林野總面積の四割三分六厘(二百二十三萬七千六百六十五町歩)が國有林として國の管理經營に屬するのである。その他の民有林や公有林は亂伐の弊に陥り、無立木地が多い、植伐の平衡を失つた結果である、各縣では政府の指示にもとづいて復舊につとめてはゐるが、その舊態に復するには餘ほど年數を経なければならぬ、これが完全に經營されることになれば山村經濟は著しく緩和されよう。

青森縣津輕半島から秋田縣界に亘る一帯の地と、下北半島および岩手縣早池峯山の北麓五葉山などに圍地をつくつて繁茂し、青森、秋田、岩手の縣境には他の樹木と混合して生育してゐる、中でも津輕半島のひばは有名で



青森縣津輕半島から秋田縣界に亘る一帯の地と、下北半島および岩手縣早池峯山の北麓五葉山などに圍地をつくつて繁茂し、青森、秋田、岩手の縣境には他の樹木と混合して生育してゐる、中でも津輕半島のひばは有名で

ある。これは樹齡二百年以上を經過した大樹が單純林をなして密生してゐる、相馬大作家主役となつた檜山騷動はこのひば林を背景として演ぜられたものである、そこには直徑二三尺、樹高八、九十尺のひば林が天を摩して繁茂してゐる、林相の見事さはたうてい筆に

しがたい。ひばの天然林は日本にだけ見られる貴重な存在で日本でも青森縣以外は木曾の山中と秋田岩手の局部及び北海道の南部に僅かばかりあるだけである、青森縣の分布は大體津輕半島、下北半島、大鰐、弘前、東嶽方面に限られてゐるが、この大部分は國有林である。ひば樹の自然林は二十萬町歩に亘る面積を有し、その蓄積は五千萬石を突破する龐大なものである。

青森縣は舊津輕藩の全部と南部藩の一部からなつてゐるので、舊藩時代における二様の林政が今日の美林を保存し得たのであらう、津輕藩も南部藩も古くから林政に意を用ひたが津輕藩の林業政策は殊に用意周到を極め森林の管理經營は頗る嚴重を極めた。

ひば材は耐久力が強く、腐朽し難い點が喜ばれ建造物の土臺、柱、床組、鐵道枕木、橋梁、電柱、浴槽、水槽、曲物、樽、桶などの材料になり用途は廣い。従つて需要は全國的で毎年丸太、角材、製板、枕木などにされて需要地に輸送されてゐる、この價額は百萬圓を超える。

杉

杉は、どこにもある樹であるが、見事な杉の林といつたら東北地方、殊に秋田縣の北部矢立峠附近、米代川の流域に見る杉林を第一とする。それは材質のいゝのと、數量が極め



秋田縣の森林地帶農村

材など有名であるが、秋田は杉の原産地として古くから知られ、秋田杉は杉材の標準とされてゐる。材色は鮮やかな淡紅色、それに光澤があり、高い香氣を有し濕氣を呼ばぬ特徴があるので酒桶、醬油樽などに多く利用され重寶がられてゐる、秋田銘酒の芳醇なのは

この杉材でつくられた酒桶、酒樽に負ふところが多いとされてゐる。なぜ秋田縣がかやうに有名になつたか、それは佐竹藩が代々林政に意を用ひ、遠く慶長の昔からしばしば林政改革を行ひ模範的林政を確立したのが今日の聲價を博するそも／＼の基礎となつたのである。

松

東北地方の森林はブナ林を中軸とするものが多い、中央山脈や北上山脈の深山には見事なブナの林立で、それは到るところに見られるのである。このブナ林が濫伐されて影を没した後に、栗、櫟、トチ、カツラ、楓、さくらなどの雑木林が生れ、更に雑木林が荒廢して松が繁茂する、この經路を辿つて森林層の第三期に現れて来るのが松である。松は陽樹で強い太陽の光線を喜ぶものであるが、松を伐採した後はもう秃山が残つてゐるだけで、松林は林層から見れば最後の所産である。松の分布は全國的で、松の中でも赤松が多い、これは全國的に濫伐の弊が現はれ、固有の森林が破壊されつゝある證左である。赤松亡國論が飛び出すゆゑもここに在る。

岩手縣はその赤松の産地で上質のものが多く、陸中松と稱して用材となつてゐるが、枝下が長く直立してゐるため特に重用されてゐる。岩手縣の赤松と南部馬は密接な關係があ

る、古來南部の國は産馬事業に熱心で放牧採草地をつくるためにわざわざ山林に火を入れて焼き拂ふ習慣がある、固有の森林が人為的に焼き拂はれ、第二期森林の形態である雑木林が生れたが、これも間もなく焼かれたり、伐られたりして牧野と化し、そこに赤松が繁殖した、つまり南部馬が赤松の林をつくつたといふことになるのである。森林構成上から見れば、岩手の山林は最後の危険にさらされてゐる、もつとも見事な赤松林の大部分は國有林なので、營林當局は山林の第四期(秃山)に轉落しつゝある危険を防止するために、赤松林の間に混生林をつくり山肌を保護することに努めてゐる。

岩手の赤松は岩手郡を中心として到るところから伐採されてゐるが、その材積は七百九十一萬六千石餘、年々十萬石前後を輪伐し關東市場や關西市場に送り出されてゐる。宮古港は赤松材の積出港となつてゐる、ここから海上遠く大阪方面まで輸送される、土木建築用や、鑛山の坑木には最も多く利用され、鑛山方面の需要は頗る旺盛で、鐵道各驛から積出されるものも莫大な數字に上る。殊に最近では鐵道枕木としての効用を認められ、材積の豊富な點が喜ばれ、鐵道への納入も夥しい量に上つてゐる。

治山・治水計畫

文化は森林の中に胚胎した、文明を培ふ幾

多の傳説は森林の中から生れてゐる、その文化が次第に成長し、隆盛となるに従ひ森林はやうやく破壊された、樹木の用途が文明の進歩に正比例して開拓され、濫伐の弊に陥つた結果である。樹木を失つた深山は武裝を解除されたと同様で、山の尊嚴を毀け、もはや水源涵養の効用を失ひ、雨水をとどめる用意さへ失つたものである。もし一朝大雨に會へば、山は洗ひ流され、肌あらはに砂礫は崩壊して骨を露出す、かうなつたなら秃山に一滴の雨も止めない、雨水は流れに委すよりほかはない、慈雨、忽ち怒を發して洪水となり川床を洗ひ堤を破り、橋梁を流し、道路を潰潰し、家屋も耕地とともに水中に没する。河川流域の住民たちは一雨毎にその生命財產に不安を感じねばならない。更に雨季を過ぎ乾燥の時期に入つたならばどうなるか、水源は枯涸し、溪流は乾いてこゝにまた慘澹たる旱魃の災をかもすのである。

往昔、東北の各藩は林政に力を注ぎ、よく固有の森林を維持經營して來たが、廢藩後は林政が一般に弛緩し、いたるところの森林が濫伐され、山林から樹木を失つて了つた、こゝに民有林の荒廢は著しい、治水は焦眉の急務であり、治山は洪水の防備、水源涵養の根本である。わが國の治水事業は明治四十三年全國的大洪水が動機となつて計畫されたものであるが、河川改修に重點が置かれ山林關係の事業は閑却されてゐたかたむきがある。

全國山林會聯合會が森林治水事業全國期成同盟會をつくつて國策治山問題を提呈し、政府にその實現を迫つてゐるのはこのためである。

治水事業

Table with columns for Prefecture (縣別), Survey (調査監督費), Land Reclamation (荒廢地復活費補助), Public Forest (公有林野造林費補助), Forest Management (森林組合設立費補助), and Total (合計). Rows include various prefectures like 宮城, 青森, 秋田, etc.

政府は明治四十四年第一期森野治水計畫を樹て少額ではあるが、各府縣に助成金を交付して保安林の編入整備、森林の開墾禁止制限、公有林野の整理開發、公有林野官行造林、公

東北の林野産物 (昭和九年)

Table showing forest products (造林用種子, 樹皮, 柴草, 樹實) and their prices (木炭, 炭價) across various prefectures (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田, 東北計, 全國計).

白煙立つ・炭燒小屋

炭燒人夫の生活斷面

山林面積の多い東北地方に、製炭事業が古くから行はれたのは當然であらう。その生産高も需要と同時に膨脹し、今日では北海道に次で木炭王國となつた、無盡の寶庫、山林が手ぢかなところにあつて材料を絶えず提供したからである。一億五千三十九萬餘貫の木炭を生産する東北地方では、國有林から供給される原木は極めて少く、昭和十年中には七百二十三萬一千七百六十六石の供給を受けたに過ぎない、これで生産した木炭は僅か五千九百六十八萬九千四百三貫だけである。殘餘の木炭、九千七十餘萬貫は實に公、私有林から原木の供給を受けたものである。金額にして二千萬圓に上るこの夥しい木炭は、縣外に運ばれる。東北は全國に對して重要な木炭の供給者となつてゐるが、實は自分の身體を切賣りしてゐるのである、それはかういふわけである、量の豊富なのに、器量のいいのに有頂天となつてできるだけ手を擴げ、借氣もなく斧を入れ材料林を伐出した、もしこのやうな状態が續いていつたら森林の前途は一體どうなるか、原料林について當然湧くべき不安が湧

いて來た、數年來農産物の値下りは林産物をも抱き込み、木炭相場もぢりぢり下つて底を突き、生産費を割るやうな慘澹たる状態に置かれた、従つてそこには必然収入減を量で補ふ結果となり、原料林の伐採面積は急激に擴大して來た。國有林の管理經營は頗る儼然と構へてゐるので、自然伐採面積は公、私有林を食んでいかなければならなかつた、手ぢかな潤葉樹林は大方、木炭と化して了つた。そして製炭業者は原料林を求めては次第に深山幽谷にまで追つた、都會からすこしでも木炭生産の職場が遠ざかることは、産業道路や林道の開鑿に俟たなければならぬ、しかしそれでは運搬費が嵩む、築築費や、なにやかやで生産費が騰勢を辿るのは否まれない事實である。

それを木炭を搬出する産業道路、林道が逆に都會の文化を移す通路ともなり、文化の波が滔々として奥山の炭燒小屋に流れ、原始的な平和な生活は攪亂されつゝある。深い森林の一角から靜かに白煙を吐いてゐる炭竈の野趣を慕うて、山の探求者が集りこの平和境



炭燒の實況 宮城縣田七郎村

割を縣外に移出し、約五百萬圓の収入をあげてゐるが、その民有林の伐採状況はかういふ具合になつてゐる。

岩手縣は山林面積がもつとも多く、民有林野の中に私有林野が七十一萬九千四百歩を占めてゐる。最近過去五ヶ年の平均によれば一ヶ年間の伐採面積は用材林三千五百二十七町一反五畝、石敷にして六十六萬四千八百九十二石、薪炭林七千九百二十五町五反(三百九十四萬五千五百五十二石)合計一萬一千四百五十二町六反五畝、四百六十萬五千三百七十四石である、これに對して造林面積は人工造林一千二十町六反三畝、天然造林七千八百四十五町四反三畝、合計八千八百六十六町六畝にとどまり、毎年二千五百八十六町五反九畝の裸山が出来る計算である。かくして私有林はますます粗悪となり、林層は破壊されて行く、治水および國土保安上、眞に寒心に堪へない。

状態である。このことは東北各縣に共通する事象であり、同時に共通の悩みでもある。各縣では植伐の均衡を失つた民有林の復舊對策として無立木地の造林を促進し、粗悪林の改善を圖るとともに、秩序ある林野の利用と林力の増進に努力しつゝあるのである。

木炭生産數量並同價額 (昭和十年)

Table with columns for county (宮城, 福島, 岩手, 青森, 山形, 秋田), production quantity, and price. Includes a total row for '全國'.

製炭者の借金

大半は高利貸から

東北地方の國有林を管理する各營林局では山村部落の救済策として製炭業の奨励につとめてゐる、秋田營林局は昭和十一年度から五ヶ年計畫をもつて管内山村部落の木炭増産を圖る方針で、この參考資料として製炭地方の資金調達状況を調査したところ、製炭業者の大半は高利貸から金を借りてゐるので、利拂ひに追はれ手も足らない苦境にあることが判明した。昭和十一年六月末現在における管内製炭業者の負債額は秋田縣十萬四千八百九十一圓(九千六百九十三人)、合計二十二萬五千九百三十九圓(一萬七千二百五十四人)に上つてゐる、このうちで高利に苦しんでゐるのは、秋田縣七千四百六十八圓(三百七十八人)山形縣九千九百一圓(四百八十七人)木炭商人や仲買人から融通を受けてゐるのは秋田縣二萬二千七百一十一圓(一千二百二十四人)山形縣三萬九千三百四十四圓(二千三十五人)である。

Table showing '優良炭窯構築助成' (Improvement of Excellent Charcoal Kilns) with columns for county and amount.

民間製炭に對する國有林の原料供給 (昭和十年)

Table showing '民間製炭數量' (Private Charcoal Production) with columns for county and quantity.

薪炭材伐採

會津の擇伐法

薪炭林の造成と、その保護は、木炭生産の壽命を永劫の未來に引延し、製炭事業の將來を確保する基礎工作である。國有林においてこれを正確に實行し、農林省は各府縣の事業を助成し、私有林の新植奨励につとめてゐるのはこのためである、薪炭材は天然生育林と人工植栽林の二つに大別される、農林省の調査によれば、薪炭材あるひは用材として昭和九年に伐採された森林面積は東北地方だけ

Table showing '林野新植面積' (New Planting Area of Forests) with columns for county and area.

山村

種類	面積	伐採面積	採面積	薪炭材
國有林	三、七〇四	八、九〇四	六、四〇二	四、四八六
公有林	一、五三〇・八	六、六〇八	二、〇六二	七、四四二
社寺林	六〇	三、九〇二	七・五	五八・九
私有林	一、五七二・一	二、一三三・七	九、九〇〇	七、四三三
計	三、四三三・三	三、六三九・一	四、二九三・三	三〇、七三六

森林伐採面積 (昭和九年)

縣別	總面積	針葉樹	混溶林	薪炭材
宮城	七、〇九八・五	四、八四一・一	八八〇	五、〇六六
青森	一、八七五・六	一、〇六四・七	五九三・四	八、六五五
岩手	一、六九八・三	一、六九四・六	五九七	七、五九六
山形	一、〇六三・八	一、〇五三・四	一、四四一	一、六三三
秋田	八、〇一八・〇	六、九七六	三三三	三、四八七
全計	三〇、四三三・六	二二、〇七六	一、〇〇六	二九、三六六

所有別林野伐採面積 (昭和九年)

所有別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	計
國有林	一、三〇三・七	一、〇四・九	一、〇六九・九	二、八三三	三、七七一・四	六、四三七・六	一、三九三・〇
公有林	一、五八五・七	六、八八七・七	六、八四四・四	八、〇八六・六	三、七七一・四	六、四三七・六	三、五六一・四
社寺林	七七・四	三、七三三・五	一、一三三・九	七、八七	一、二五〇・〇	九、〇五七・二	三七〇
私有林	四、一三三・七	七、九〇九・二	八、五五〇・一	二、一七二・一	三、三三三・二	二、七五七・七	七、五九三・〇
計	七、〇九八・五	一八、一五五・六	一六、九八八・三	二一、〇三三・八	一八、〇八〇・〇	二〇、四四四・四	七、七三三・六

萬一千七百三十三町歩に達した、このうち薪炭材は二萬九千二百二十八町歩を占めてゐる。伐採面積は國有林が最も多く三萬二千六百六十六町歩に上り、近頃の不況で國有林の

拂下請願運動が山村方面から猛烈に起されたので、農林省が窮乏山村救済の意味で國有林の拂下を多く許したからである。次いで私有林の伐採面積が多く二萬八千六百町歩に互

り、で七公私有林九千五百七十七町歩御料林一千二百九十三町歩、社寺有林二百七十七町歩を伐採してゐる。

これに對し昭和九年の林野新植面積は東北六縣を合して二萬七百二十八町歩に過ぎず甚しく植伐の均衡が破れてゐる、昭和九年には差引四萬四千七百五町歩の裸山が東北地方に出現した譯である。國有林では年々下刈、墓切り、枝打、除伐など成林撫育のために莫大な經費と勞力を注入してゐるが、これが山村地方農民にとつては現金収入の機会ともなるのである。今日、東北地方の實情から見ても、國有林の撫育は最も必要である、和歌山縣の南部地方は有名な備長木炭の産地であるが、その原料林はツバメ樫の幼齡林である、昔から自然生の原木を收穫することに馴れ、造成方面を考慮しなかつたため濫伐され、原料林は粗悪となり、備長木炭の命脈も盡きやうとする危険にさらされたので、最近和歌山縣山林關係當局は集約的擇伐法を採用し、林力の維持につとめてゐる。

福島縣會津地方は會津木炭の生産地として知られてゐるが、冬季積雪が多く、雪崩の被害も多い、この地方で薪炭林を皆伐したならば、きつと林地を荒し、また林相を破壊する結果を招来するので、森林の撫育と雪崩防止をかねた擇伐法を實施し、薪炭林の維持につとめて會津木炭の命脈を保存してゐる。

# 木炭はどこへ行く

## 新用途の打開こそ急務

山村地方の重要産業である木炭が、最近消費市場で代用燃料の側面を受けて進出を阻まれてゐる、製炭業者にとつてこれ以上大きな問題はない。木炭と薪はもはや家庭燃料の全部ではなくなつた。文化生活が進んでゆき、家庭構造が變化して電氣、瓦斯、煉炭、石炭コークス、石油の類が登場して來たからである、木炭は紀元千五百五十二年宇多天皇の寛文四年頃既に商品として取引されてゐた、家庭燃料としての木炭の壽命は一千年以上も續いたのである。この一千年の間に生産面の研究、改良は存分に行はれ、明治以後は新知識に啓發されて一段と製炭事業は進歩した。東北各縣當局でも農林省の意圖を汲み、山村の生業を保護するため、社會政策的意味を含め産業振興のために助成の勞をとつて來た、木炭の大部分が都會の集團消費地に移出されるので、より一層商品價値を高めるために品質を吟味し、規格を統一し嚴重な移出検査を行ひ市場の人氣を繋いで來た、現に今も眞剣にこの努力は續けられてゐる。

山村地方の重要産業である木炭が、最近消費市場で代用燃料の側面を受けて進出を阻まれてゐる、製炭業者にとつてこれ以上大きな問題はない。木炭と薪はもはや家庭燃料の全部ではなくなつた。文化生活が進んでゆき、家庭構造が變化して電氣、瓦斯、煉炭、石炭コークス、石油の類が登場して來たからである、木炭は紀元千五百五十二年宇多天皇の寛文四年頃既に商品として取引されてゐた、家庭燃料としての木炭の壽命は一千年以上も續いたのである。この一千年の間に生産面の研究、改良は存分に行はれ、明治以後は新知識に啓發されて一段と製炭事業は進歩した。東北各縣當局でも農林省の意圖を汲み、山村の生業を保護するため、社會政策的意味を含め産業振興のために助成の勞をとつて來た、木炭の大部分が都會の集團消費地に移出されるので、より一層商品價値を高めるために品質を吟味し、規格を統一し嚴重な移出検査を行ひ市場の人氣を繋いで來た、現に今も眞剣にこの努力は續けられてゐる。

用燃料使用に轉向した、薪炭需要は著しく減少する、大口の消費市場がかやうな傾向になつて來ては、木炭の新用途を別な方面に開拓しなければならぬ、東北地方のやうに大きな木炭生産地では、この情勢をジツとみつめてばかりはゐられないのである、電氣が發達普及し、照明の全部が石油から電氣に代つた當初、われわれはもう瓦斯や石油の命脈が盡きたのではないかと憂へたが、その後瓦斯や石油は、きれいに轉身した、瓦斯、石油特有の機能を發揮し、燈火用時代の殼居を夢に從前にまさる重要品となつた。

木炭もさういふのではないか、新用途開拓の餘地が充分にある、いま二つの方向からこれを研究中である、その一つはタール、醋酸ホルマリンなどの製造と、他の一つは木炭の化學的利用とである。木炭からタールや醋酸をとることは歐洲大戰當時すでに試験研究済みとなつた、たゞ如何にして生産經濟をとるかといふ問題だけが残されてゐるのである、木炭の化學的利用として今日盛んに研究されてゐるのは、木炭瓦斯發生と活性炭としての



途には明るく開けた一面が期待されるのである。

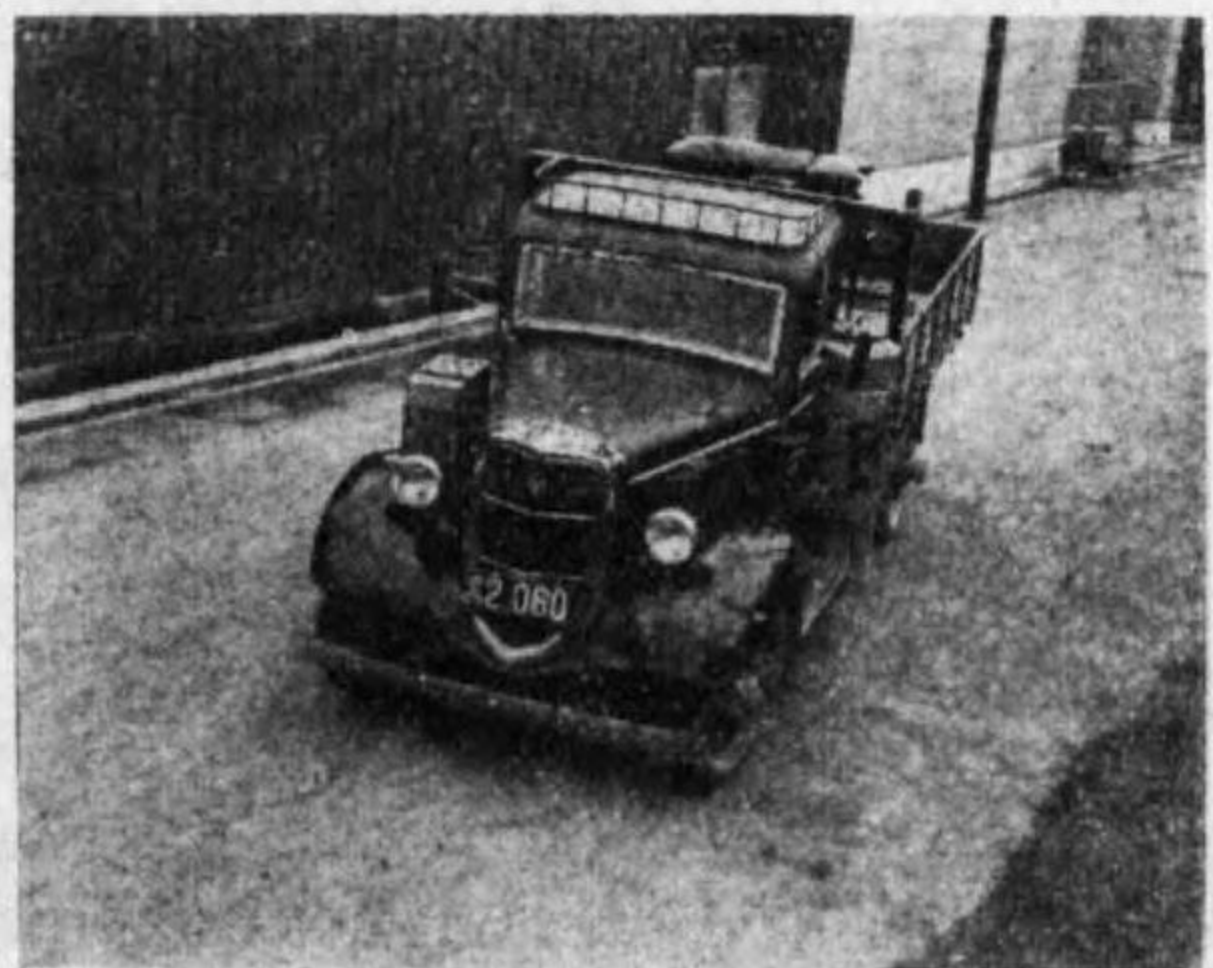
この素晴らしい機運に乗って東北地方の製炭事業は老大な原料林をバツクとして未来永劫に榮えるであらう。

森林は伐採して十年、二十年も経てば再び伐採することができる、薪炭林としての使命を周期的に提供するのである。埋蔵料が確然と固定し、採掘すればそれだけ減少して行く、石炭、石油その他の礦物とは出發點においてすでに相違してゐる。

木炭の生産と販賣に従事するあらゆる關係者は木炭のもつ光輝ある歴史に慣れ、木炭の新局面に對する研究を忘れ、向上心を失つて了つたこと、生産者も販賣業者も自己的で團結力乏しく、無統制が需要激減の重大な原因とならなければならぬ。先づ木炭の現在、家庭燃料としての立場について改善し、これと併行して新用途の研究を進めていかなければならない。その第一の方策としては

品質を改良して燃焼力を高めること。  
生産費を軽減して他の燃料と市場で競争が出来る餘力を與へること。  
燃焼器具を改善し、熱量の無駄を防ぎ、消費量を節約し、他の燃料と比較して利用價値を大きくするやう消費者の立場についても親切な思ひやりがあること。  
一俵の内容量目がある程度に低減し、消費者に購買上の便宜を與へること。

木炭の眞價をもつと宣傳し、消費者の認識を充分にすること。



第二の方策として生産者と販賣者を間は木炭に關係あるものは擧つて一致協力して木炭に忠實であること以外にないのである。

### 木炭瓦斯發生機を

#### 取付けたトラック

木炭瓦斯發生機はバスのやうに停車區間の多いものは停車してから發車するまで木炭瓦斯發生機に要する時間が、るので不向であるが貨物自動車やうに停車回数が少く、目的地に到着するまで停車する必要がないものにこそは頗る經濟的である。仙臺市内の運送業者はこの瓦斯發生機を取付けたトラックを使用し盛んに効果をあげてゐる。  
(写真参照)

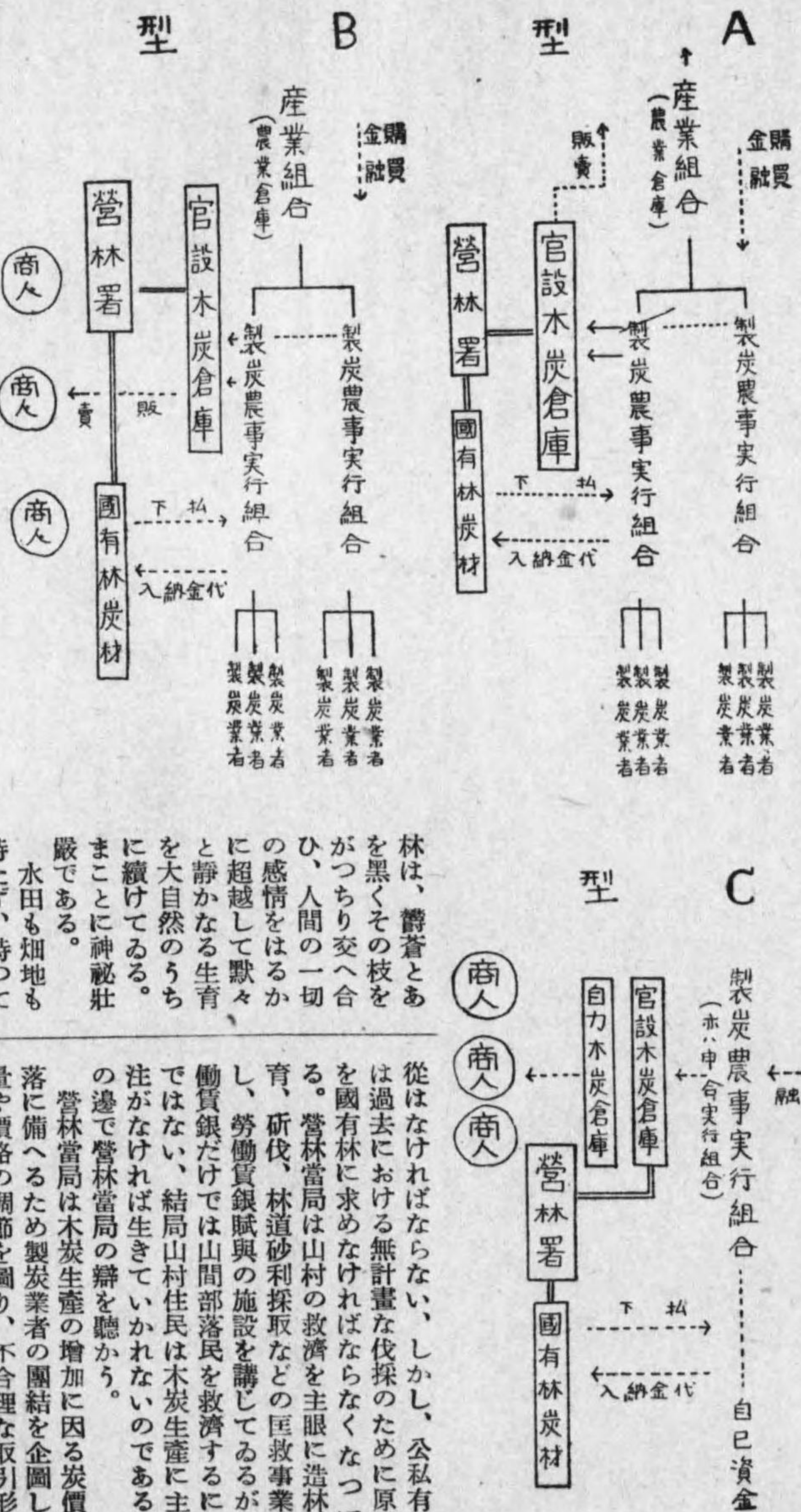
## 製炭に主力を注ぐ

### 木炭販賣統制組合組織

民間が手をつけてならない、つまり自由伐採を許されない國有林野が東北地方に老大な

面積を占めてゐる、これが農山村を不況のどん底に落したともいへるのである、この重壓

營林當局が勸奨しつゝある木炭販賣統制團體圖解



を解除するためには、國有林を開放するに  
ある、開放すべしといふ叫びは熾烈に燃上つ  
てゐるが、この要求の目標とされてゐる國有

も幾度か冷害にたゞきのめされ、最後の頼み  
の綱とした藁蓋にも芽が出なかつたら、山村  
住民はどうしても生活のために木炭の製造に

林は、鬱蒼とあ  
を黒くその枝を  
がつちり交へ合  
ひ、人間の一切  
の感情をはるか  
に超越して黙々  
と静かなる生育  
を大自然のうちに  
に續けてゐる。  
まことに神祕壯  
嚴である。  
水田も畑地も  
持たず、持つて

従はなければならぬ、しかし、公私有林野  
は過去における無計畫な伐採のために原料林  
を國有林に求めなければならなくなつてゐ  
る。營林當局は山村の救済を主眼に造林、撫  
育、斫伐、林道砂利採取などの巨救事業を起  
し、労働賃銀賦與の施設を講じてゐるが、勞  
働賃銀だけでは山間部落民を救済するに充分  
ではない、結局山村住民は木炭生産に主力を  
注がなければ生きていかなないのである。こ  
の邊で營林當局の辯を聴かう。  
營林當局は木炭生産の増加に因る炭價の暴  
落に備へるため製炭業者の團結を企圖し、數  
量や價格の調節を圖り、不合理な取引形態を  
是正するため木炭の販賣統制を積極的に勸奨  
してゐる。商工省の調査によると、製炭業者  
は農閑期を利用する副業的生産者、獨立の専

業的小生産者、移出業者に從屬しない專業的小生産者、移出業者に雇傭されてゐる製炭夫(燒夫ともいふ)の四種に大別される、東北地方には冬期農閑期を利用して製炭に従事するものが最も多い、木炭の生産は規模が極めて小さいので、生産者が直接消費地の商人と取引することは望まれない、産地商人によつて或は仲買人によつて買ひ集められ、消費地の大商人に賣渡されるのが普通の経路である、營林當局は木炭の隷屬的取引形態を除き、中間で搾取される利潤を直接生産者の手に歸屬せしめようと木炭販賣の統制に乗り出し、各地に木炭倉庫を設置し、經濟團體の集散地にある大倉庫と有機的、相關的關係をもたせ倉庫の機能を發揮せしめつゝある、更に産業組合運動の發展に鑑み、これと協調する方針の下に、その合理的金融機關を利用し、これによつて従來山村地方に跳梁してゐた不合理な高利貸資本を驅逐する方針である、關係營林當局は次の如く聲明してゐる。

一、國有林野所在町村において既に産業組合の設立されてあるもの、木炭の金融および販賣統制をなすつゝあるものに對しては營林署は極力これを擴充を援助し、國有林の炭材拂下によつて生産に當つてゐる製炭業者を加へさせ、貧乏で個人加入の出来ない者に對しては部落區域の農事實行組合の設立を勸説してこれによつて加入させるの方策をとり、製炭に要する低利資金を融通し販賣の合理化を圖る

り製炭業者の自主的救済につとめる。

二、地元町村に産業組合の設置あつても木炭の取引に經驗のないものに對しては營林署で極力援助を與へ、木炭の販賣統制をその事業の一部とし、傍ら製炭業者を産業組合へ個人加入させ、或は農事實行組合の設立によつて法人として加入させることに盡力し金融と販賣の合理化を圖ること。

産業組合において木炭販賣統制が不可能である場合には、金融についてだけ産業組合を利用させ販賣方面については營林署で適宜斡旋の勞をとること、但資金の返済については可及的監督をなすこと。

三、産業組合の設置がなくても郡區域の産業組合經營の農業倉庫の設立された地方では製炭業者の農事實行組合の設立によつて、これに加入させ、金融と販賣の統制を圖り、營林署はこれについて斡旋の勞をとること。

四、以上の何れにも依り難い場合は營林署は止むを得ず可及的製炭業者の大同團結を圖り申合せによる木炭販賣統制組合をつくり、金融については

イ、低利資金借入のため森林保護組合は各種貯蓄組合の資金を運用するやうにする。

ロ、貯金の獎勵その他による自己資金の造成なごの方法を講ずること。

販賣方面については適宜競争入札或は指名入札その他豫定價格の作成、木炭市況の通報、附近諸官衙、鐵山その他の大量消費機關に直接納入の斡旋をとり、販賣の合理化を圖る事。

山村

### 營林局署勸奨に依る木炭販賣統制團體進捗状況

自昭和十年十月至昭和十一年九月

種別	種目	組合数	人員	生産概數	内	
					内	外
縣別	宮城	2	13	7,000	7,000	0
	岩手	2	13	7,000	7,000	0
計	未登記	2	13	7,000	7,000	0
	計	2	13	7,000	7,000	0
縣別	青森	2	13	7,000	7,000	0
	秋田	2	13	7,000	7,000	0
計	未登記	2	13	7,000	7,000	0
	計	2	13	7,000	7,000	0
縣別	山形	2	13	7,000	7,000	0
	形	2	13	7,000	7,000	0
計	未登記	2	13	7,000	7,000	0
	計	2	13	7,000	7,000	0

## 製炭業者の經濟

### 四部落の姿體を見る

二千萬圓といふ豪勢な數字を示してゐる東北地方の木炭年産額は一體どんな状態の下につくられてゐるか。

東北には農閑期を利用する副業的生産者が多い、秋の取入れがすんでから霜が降り、そろ／＼雪が降出す十二月頃までが木炭生産の

種別	種目	組合数	人員	生産概數
縣別	宮城	2	13	7,000
	福島	2	13	7,000
計	未登記	2	13	7,000
	計	2	13	7,000
縣別	岩手	2	13	7,000
	青森	2	13	7,000
計	未登記	2	13	7,000
	計	2	13	7,000
縣別	山形	2	13	7,000
	秋田	2	13	7,000
計	未登記	2	13	7,000
	計	2	13	7,000

最盛期になつてゐる。市場では十一月頃から翌年の三月頃までが需要の最盛期となつてゐるので季節からいつて需給關係は頗るいゝ。副業として木炭製造に従事することのできる山村民は、もちろん山添地方だけに限定される。けれども山村部落民の大半は、一般農民と同様米作農業を中心に生活してゐるので、現金収入も大部分は米その他の主要農産物を賣つたのが所得となるのが通例である。製炭労働による収益や、その賃銀、または薪炭材を賣却したり、山菜、菌茸、樹の實などの林野産物を賣つたり、狩獵や賣薬製造(主として熊の胃)等山村特有の収入のみで生活の全部を支へてゐるものは全然ないといへぬが、それは極めて少ない。東北地方の山間部はしばしば述べたやうに耕地面積が狭い上に、氣候の變化が極めて敏感で、農業經營には頗る至難である。主業の農業が不安定な地盤でなされてゐるため、冷害年、凶作年には眞ッ先に被害を蒙り一たまりもなく壊滅の慘害に遭ふ。近頃問題となつて來た耐寒性水稻品種の研究は、この山間部農業の安定を圖らうとするのが目的である。山添地方住民はこれまでしばしば襲來した冷害と凶作に、農業だけに頼つてゐることの危険性を意識した、主業を農業以外のものに乘替へなければならぬと考へ出したのである。

一般的でない、結局林業に就くのが早道である。林業は國營が獨り旺んでゐるが、國有林の維持經營に要する人夫賃は東北地方だけで年々一十萬圓を突破し、地元の山間部落を潤してゐる。しかしこれだけで山間部落民全部を充分に満足せしめない、國有林に依存し生活する部落民救済施設として時局巨救事業や、冷水害、凶作救済の事業を起し、木炭の販賣統制、林野副産物の加工販賣、菌茸類の栽培、農村工業、毛皮獸の養殖奨励指導など多面的に所得の途を與へるべきだとした關係營林局は力癩を入れてゐる。

一六〇  
厘の利益だけである。燒夫一日の製炭能力は精糖二、三俵のところであるから一日三俵を製炭しても燒夫の日收は岩手縣で四十四錢四厘宮城縣で十八錢三厘にしかならないのである。白炭の産地秋田縣の調査した生産費に至つては一俵九十一錢、賣却代が九十二錢であるから差引純益はたつた一錢、一家の生計を維持するには一日百も燒かなければならぬ状態である。これは平均額で見た生産費で實際は檜炭一俵につき十六錢内外の利益があり、雜では販賣値段が生産費を割つてゐるといふ有様である。

その一

赤字に悩む

岩手豊澤部落

岩手縣稗貫郡湯口村字豊澤部落(昭和九年調査)は鉛温泉から一里の奥にある四十一戸から成る部落である。部落民は國有林に依存しやうやく生活してゐる。水田は小作二反七畝二十五歩、自作十三町八反三畝十四歩計十四町一反一畝歩、一戸平均にすると三反四畝十二歩、これから得た米收穫は百六石六斗三升、反當收量は僅かに七斗五升に過ぎない。畑は小作五反七畝七歩、自作三十町九反六畝、計三十一町四反四畝で一戸平均七反六畝二十歩を所有しこれに粟、稗、大豆、小豆、野菜などをつくり、この總収入は四百六十七圓三十九錢である。一反歩當の收穫高にすれば一圓四十八錢六厘にしかならない。農産物の全部を直に自家消費にあてゝも、飯米費の半數にも達しないのである。従つて部落民は國有林を拂下げて木炭をつくり、山林副業として杓子などをつくり市場に賣つては大部分を飯米費とし、残りの一部をもつて農林業や副業の資本に充てゝゐる、四十一戸のうち約十一戸は收支の均衡がとれず赤字に悩んでゐる。また林業と副業の收入關係について見るに

山村

薪材は全部を自家消費とし、木炭は自家消費(九百三十四俵)を差引二萬六千七百七十九俵を賣却して九千六百六十二圓五十錢を得、副業収入では木炭俵作製一萬八千三百俵、四百五十七圓十錢、繩製作代二十五圓八十錢、ワサビ栽培三圓七十錢、山菜販賣高九百四十五圓十錢、杓子約三萬個九百圓、計二千三百三十一圓七十錢となつてゐる。このほかに部落民は國有林事業の労働や、出稼労働或は木工業などに従事し、勞銀二千七百六十六圓七十錢を得てゐるから、部落民の總収入一切で一萬七千三百九十四圓四錢、一戸當の平均収入四百二十四圓二十四錢となつてゐる。これに對する支出勘定は

その二  
負債が大きい  
青森縣畑部落  
上し、冠婚、葬祭の費用も計上されてゐないから、實生活における收支勘定は恐らく収入減となつてゐるものと見なければならぬ、なほこの部落には二千八百四十圓(一戸當七十一圓七十錢七厘)の貯金がある、しかし負債額は更に大きく二萬二千四百三十五圓、一戸當にして五百四十七圓十九錢五厘の借金がある。負債の主なるものは飯米購入費で五〇%を占め次が無盡の前借金で三〇%、信用借や低利資金の借入は二〇%となつてゐる。

豊澤部落の住民は三百二十九人で男百六十二人、女百六十七人であるが、十歳以下の幼児が八十九人あり、二十一歳から五十歳までの労働能力者は男女合計百六人で、この百六人が部落の生活を支へてゐるのである。

青森縣下北郡川内村大字川内字畑(昭和十年調査)ここは四十戸からなる山村部落で、水田十町五反八畝、畑十八町八反五畝、山林原野十四町四反五畝を農業地盤として男女二百七十一名が生活してゐる、この部落には馬四頭、豚二十三頭、兎九羽、鶏十羽が飼育されてゐる。耕地面が少ないので國有林に依存する程度が大きい、収入を細別して見ると

米一千四百四十六圓七十一錢、麥八圓、大豆四百九十二圓四十錢、小豆四十二圓八十九錢、粟五十一圓七十一錢、稗八圓、ソバ百六十五圓七十六錢、馬鈴薯六百一十一圓、計二千五百二十六圓四十七錢が耕地から得た収入金である。山林にたより或は出稼労働によつて得た収入金は一萬六千九百九十八圓二角八錢で、収入金の八割四分六厘は實に山林副業或は出稼労働によつて得たものである。収入金の合計は一萬八千六百六十六圓七十五錢で、一戸當平均は四百六十五圓四十三錢七厘五毛となる。これに對し支出面は

米、味噌代六千六百八十二圓八錢、魚類その他の副食費一千五百六十六圓、器具、肥料代四百六十一圓九十一錢、石油薪炭費一千六十二圓八十錢、酒、煙草代五百八圓四十二錢、祭典、盆、正月の費用四百二十三圓、衣服費一千五百九十九圓七十七圓、醫藥、藥料二千九百九十一圓、税金七百二十七圓九角九錢、その他五百七十圓二十三錢合計一萬八千三百九十三圓四錢で、一戸當平均支出は四百五十九圓八十二錢六厘、差引五圓六十一錢一厘五毛の収入超過となつてゐる。しかし負債額は九千七百五十八圓八十七錢と集計されてゐるから一戸當二百二十六圓八十九錢六厘の借金を背負つてをり、負債の利子やその他を計上すれば部落の經濟は完全な赤字となる。負債の大部分は畑地の購入費で、畑購買組合から七千四百

二十五圓八十七錢を借入れてゐる、なほ部落民の貯金額は郵便貯金三百三十四圓(一戸平均八圓三十五錢)を有するだけで、生命保険契約高は六千七百圓である。

### 不思議な生活 前借を行く經濟

宮城縣加美郡小野田村漆澤部落(昭和十年調査)はその全面積の九割四分までが山林である、山林面積が七十二反七畝もあるに反し水田は八町四反歩、畑地は六町五反歩、これを生活地盤として四十四戸、二百八十一人の部落民が生活してゐる。耕地面積は一戸平均にして水田一反九畝強、畑一反四畝強といふ心細いものである。毎年十一月十日前後には降雪があり、翌年の五月までは雪に閉ざれ耕作の春がめぐつて来ない、従つて部落民は製炭事業で生活の大部分を支へるよりほかはないのであるが、公有林には立木なく、私有林は既に伐り盡され、原木の供給を國有林に求め、營林署の後援を唯一の頼みとして辛うじて生活してゐる。農産物を米、大豆、ソバ、馬鈴薯などであるが、自家消費の半分も得られない有様である。宮城縣山林課が調査した結果によれば、部落一戸當の収入、支出は次のやうになつてゐる。

### 奥山ぐらし 貯金額は寥寥

収入金、米百四十圓、雜穀三十圓、木炭五百圓、繭二圓、産馬十圓、山林労働収入三十圓合計七百二十二圓となつてゐるが、これに對して支出面は  
主食物四百圓、肥料代十五圓、公租および諸負擔金十五圓、保険料二十圓、馬料五十圓、負債利子八十圓、家屋および農具修理費二百圓、醫藥費三十圓、製炭材料六十圓、酒代十五圓、副食物費三圓、冠婚葬祭四十圓、電燈料十二圓、學費三圓、衣服および修理費二十七圓、その他十圓といふ盛り澤山な費目に上り、この合計九百八十圓、差引一戸平均二百六十八圓といふ莫大な赤字である。これでどうして生活が出来るか不思議である。  
部落の主産物は木炭である、部落民は大部分が木炭商人から米や味噌代を前借してゐるので、木炭の販賣に際しては不利益を蒙る點が多い、部落の負債は四萬圓に達し、一戸平均にして九百九圓餘となる、農銀から土地擔保で借入れたものが大部分で、次は個人から借入れたものである、低利資金の借入金は極めて少ない。

秋田縣仙北郡田澤村、玉川部落(昭和十年調査)は奥羽脊梁山脈の中にある部落で西南に傾斜する山嶽地帯である。四面が山で盆地をつくり南、西、北の三方に交通路がある、隣村までは二里乃至九里もあり、村役場までは四里ある。三方とも峻嶮な峠を越さなければ里に出られない、交通不便さが想像できよう、部落の總面積は一萬一千七百町歩を超えてゐるが、農耕地は三十三町歩餘、殆ど林野面積で國有林は總面積の九三%に當つてゐる、こゝに三十三戸、二百二十二人の部落民が生活してゐるのである。耕地面積が少ないので農産物は自給出来ない、養蠶業は約十年前までは相當に行はれてゐたが、技術が拙いのと産繭の季節がおくれるので製絲して販賣する必要があり、不便なため今は全く廢絶してつた、

畜産業は主として馬産で一時は盛んに飼育されてゐたが、今日では衰退し二歳馬の販賣は年に二、三頭にとゞまつてゐる。山林の面積が大きい關係上、民有林も豊富であつたが、濫伐のため今日では見る影もなくなつた、國有林は面積も廣く、蓄積も多いが交通不便で搬出が困難のため利用價值少く、僅かに自家用薪材や、公用その他の用薪を供給してゐるに過ぎない、營林局では生保内驛を起點とする森林軌道三五八号の完成を急いでゐるから、近い將來には充分に利用開發されることであらう。しかし部落民の生活は現在國有林に負ふところが甚大で製炭、菌蕈、山二十四圓、蕨根花などの副業と、林野産物四千七百圓を得て生活してゐるのである、部落の收支決算を見れば、支出面は五千三百三十五圓の

種別	宮城	福島	岩手	青森	山形	秋田	平均
收入	700	850	850	660	700	920	793
支出	700	850	850	660	700	920	793
差引	0	0	0	0	0	0	0
純益	0	0	0	0	0	0	0